



J.A.C.O.

Japanese Association of Certified Orthoptists

視能訓練士 実態調査報告書

2025年



はじめに

「視能訓練士実態調査報告書」は、視能訓練士の現状と課題を把握し、その対策および将来に向けた指針などを検討するために発行する刊行物です。1995年から5年ごとに実施されており、今回の2025年版で7刊目となります。

前回調査から5年間の大きな出来事としては、2020年からのCOVID-19の感染拡大、2023年の「視能訓練士学校養成所指定規則」一部改定における養成教育の一部見直し、そして2024年4月の医師の時間外労働の上限規制に向けた医師の働き方改革に伴う「タスク/シフト・シェアリング」の推進などが挙げられます。本格的な人口減少社会に向かう中で、視能訓練士を取り巻く状況は刻々と変化しており、大きな変化に乗り遅れないために日本視能訓練士協会は何を目途として進めていくのか、舵取りの難しい、重要な局面を迎えた5年間でした。

今回の調査では、養成所指定規則の一部改定、医師の働き方改革におけるタスクシフト・シェアリングの推進をうけて、新たな設問項目として「養成教育」「臨地実習」「医師からのタスク・シフトに関する業務について」等を加えました。

超高齢化社会および本格的な人口減少社会に備えるべく、医療・介護・福祉に関して、国における医療政策などの見直し目標が2040年に再設定され、これからも様々な変革が予想されます。2040年には団塊ジュニア世代が65歳以上となり日本の高齢者数がピークに達します。一方で現役世代が急減し、さまざまな課題に直面すると言われていています。今後も加齢に伴う眼の疾患は増加の一途をたどることが予想され、視覚の質（Quality Of Vision:QOV）をできる限り向上させ、QOLを維持することが極めて重要になってきます。QOVが低下し日常生活に支障をきたす方々を支援するために、チーム医療の中で視能訓練士の果たすべき役割は増大し、求められる専門的知識や技術は確実に高度化していきます。

視能訓練士は眼科臨床において単に検査を行うだけの医療職にとどまらず、新しい領域を開拓しなければなりません。国民の眼の健康を守る視能のスペシャリストとして、より専門性を維持し高める努力はもちろんのこと、今までの慣例にこだわらず専門性を活かすことができる職域の拡大、働く若い世代が減少する将来を見据えた人材の確保についてなど、並行して推し進めなければなりません。変革を糧とし対応するためには、卒前教育と卒後教育を充実させ「視能訓練士の質を担保すること」が必須です。

本調査により明らかになった視能訓練士の現状と課題をしっかりと把握し、課題解決の方向性を見出すための一助となり、質の高い視能訓練士の人材確保と育成に寄与することを期待してやみません。

最後に、本調査にご協力いただきました会員の皆様、また、調査項目の検討をはじめ結果の集計、分析など報告書の作成に関わった白書委員会の米田 剛委員長をはじめと多くの方々に心より感謝申し上げます。

2026年2月
公益社団法人 日本視能訓練士協会
会長 南雲 幹

目次

2025年度調査結果

2025年度実態調査の概要	1
1. 本調査の目的	
2. 調査対象	
3. 調査方法	
4. 調査実施の手続き	
5. 調査期間	
6. 回収率	
7. 回答の偏り	
I. 一般的事項	3
1. 男女比	
2. 年齢構成	
3. 勤務年数	
4. 勤務している地域	
5. 資格の取得課程	
6. 資格取得後の進学	
7. 視能訓練士以外の保有資格	
II. 勤務体制	10
1. 勤務形態	
2. 非正規職員の勤務形態	
3. 年間所得	
4. 時間給	
5. 施設の運営主体	
6. 採用形態	
7. 施設内の視能訓練士の人数	
8. 視能訓練士の増員や常勤化についての相談	
9. 勤務日数と有給休暇	
10. 育児休業および介護休業制度	
11. 離職・休職	
12. 転職	
III. 勤務状況	33
1. 業務概要	
2. 業務内容	
3. 医療事故	

- 4. 他の医療関連職種とのトラブル
- 5. ハラスメント

IV. 視能訓練士の養成	41
1. 修業機関	
2. 修業年数	
3. 修業内容の評価	
4. 充実が必要とする科目	
5. 臨地実習の期間	
6. 臨地実習の受け入れ経験	
7. 今後の臨地実習の受け入れ	
8. 臨地実習の方法・内容	
9. 将来的な実習生受入れ要件	
V. 卒後教育	56
1. 業務上の疑問点の解決方法	
2. 相談先	
3. 利用する雑誌	
4. 職場内の勉強会	
5. 職場外の勉強会	
6. 卒後教育で希望する項目	
VI. 将来展望	65
1. 職場現状の評価	
2. 仕事のやりがい	
3. 現状に対する満足度	
4. 現在の職場の継続	
5. 視能訓練士の将来性	
6. 視能訓練士としての継続	
7. 視能訓練士業務のタスク・シフト/シェア	
8. タスク・シフト/シェアの業務内容	
VII. その他	80
1. アンケートの回答方法.....	80
2. 協会への意見.....	81
資料1 アンケート調査票.....	83
資料2 アンケート集計結果.....	92

2025年度実態調査の概要

1. 本調査の目的

視能訓練士の実態を把握し、視能訓練士がおかれている現況や将来のあり方の指針とすることを目的とする。

2. 調査対象

(公社) 日本視能訓練士協会の正会員 (2024年7月7日時点)

3. 調査方法

Webによるアンケート調査

4. 調査実施の手続き

(公社) 日本視能訓練士協会、白書委員会にて設問の作成

(株) WOW WORLDにWebアンケートフォームの作成を委託

(株) 山菊にWebアンケートのログインIDおよびパスワードが書かれたはがきの印刷、発送を委託

(株) WOW WORLDにアンケートのデータの集計とグラフ化を委託

5. 調査期間

2024年8月1日～2024年9月20日

6. 回収率

発送数：6,760通

回答数：2,108通 (回収率 31.2%)

7. 回答の偏り

協会マイページに登録している会員情報と回答者について年齢、性別の割合が概ね同様の傾向を示した。性別による偏りはみられなかったが、年齢別では会員数と比較すると50代では回答率が高く30代で回答率が低い傾向であった(図1, 2)。

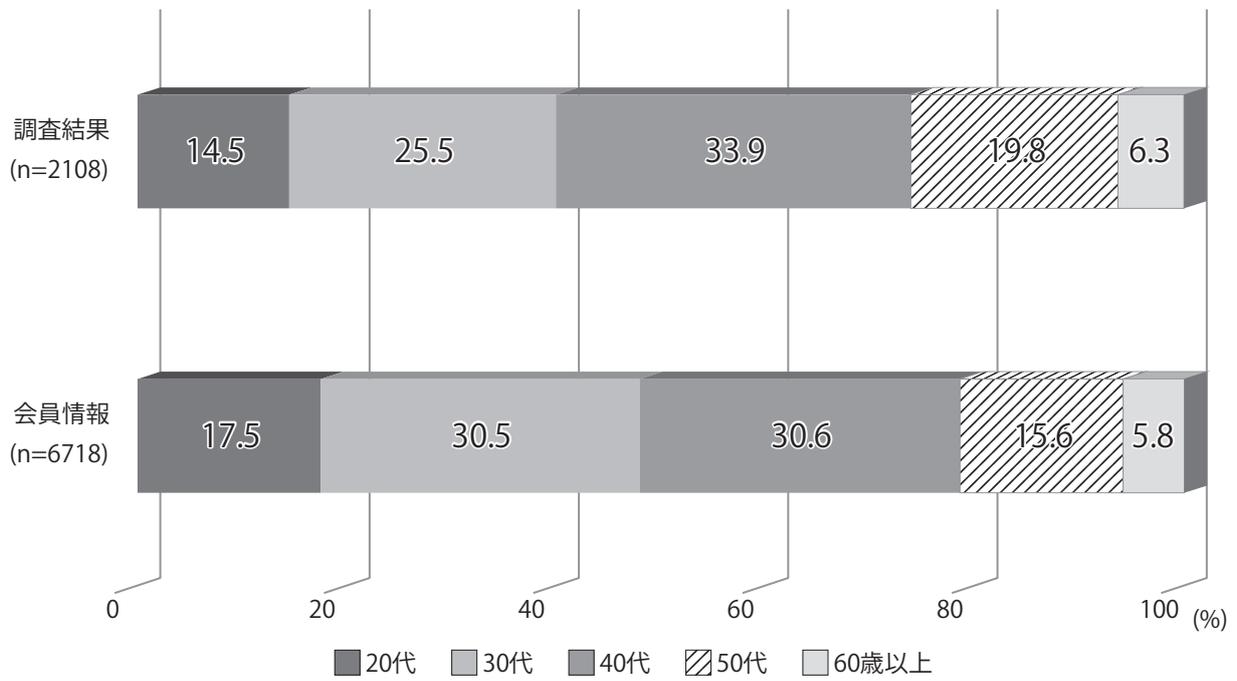


図1 年齢

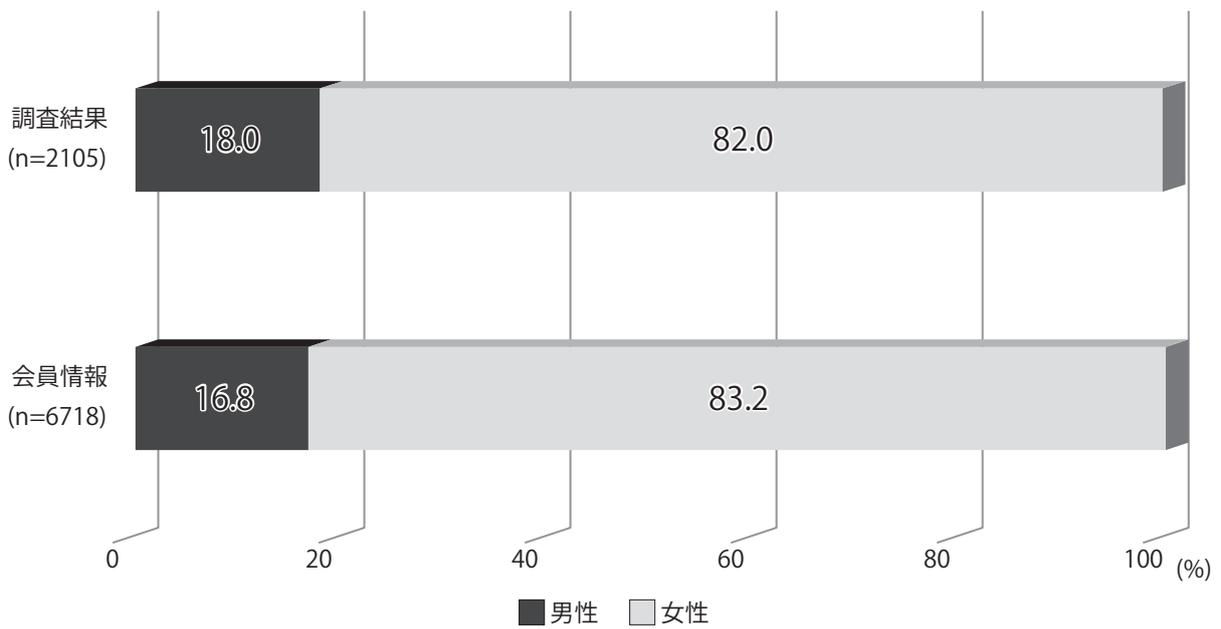


図2 性別

I. 一般的事項

1. 男女比

男性は18.0%、女性は81.9%であった。男性の割合は2000年以降、10年ごとに約4ポイントずつ増加し、今回調査では全体の2割近くまで増加していた。年代別では、30代および40代で他の年代に比べて男性の割合が多い傾向であった（図I-1-1, 2）。

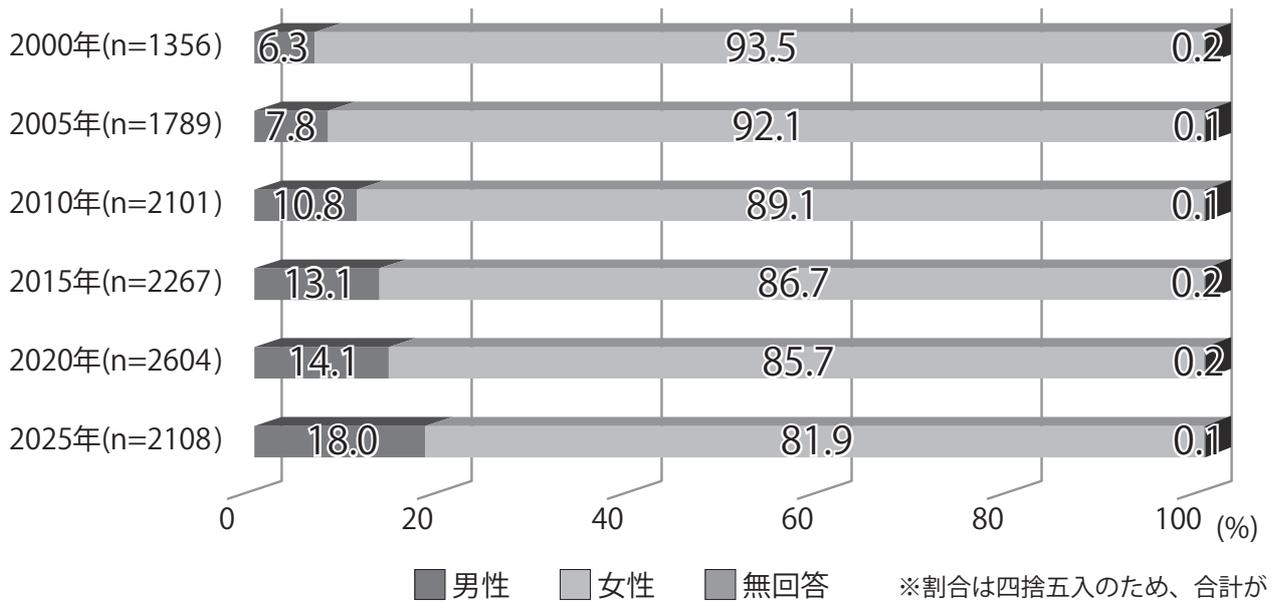


図 I - 1 - 1 年度別の男女比

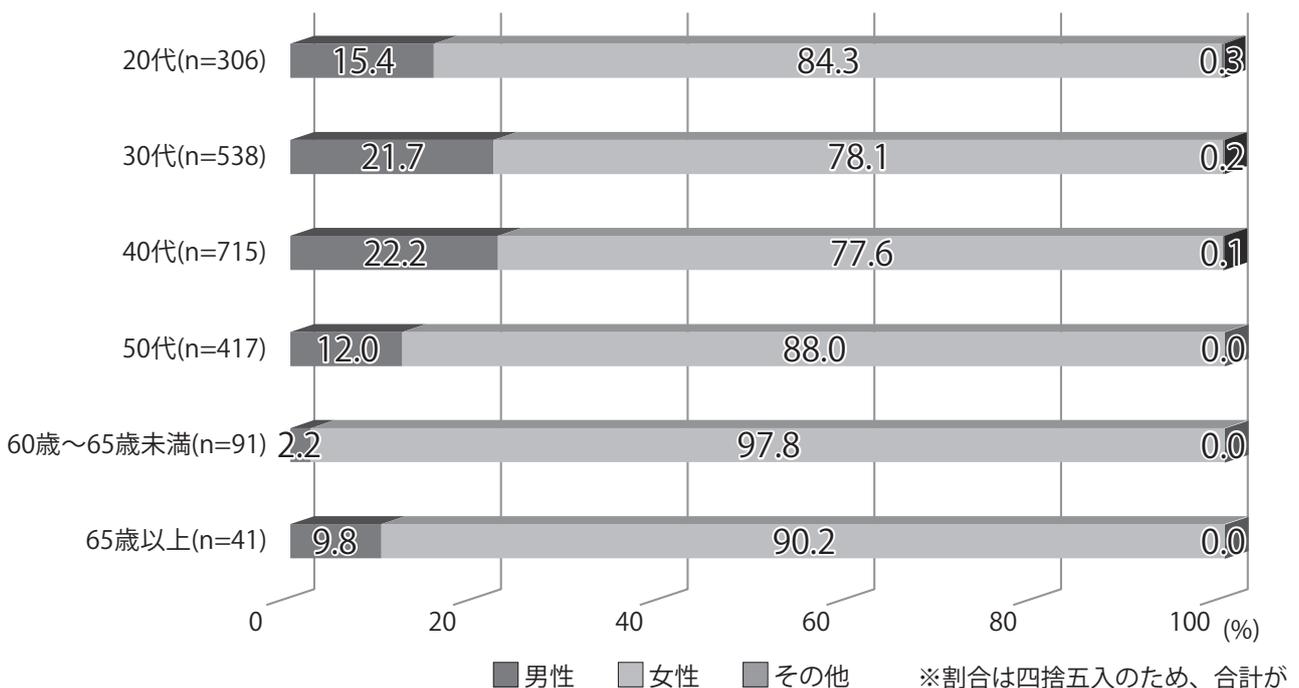
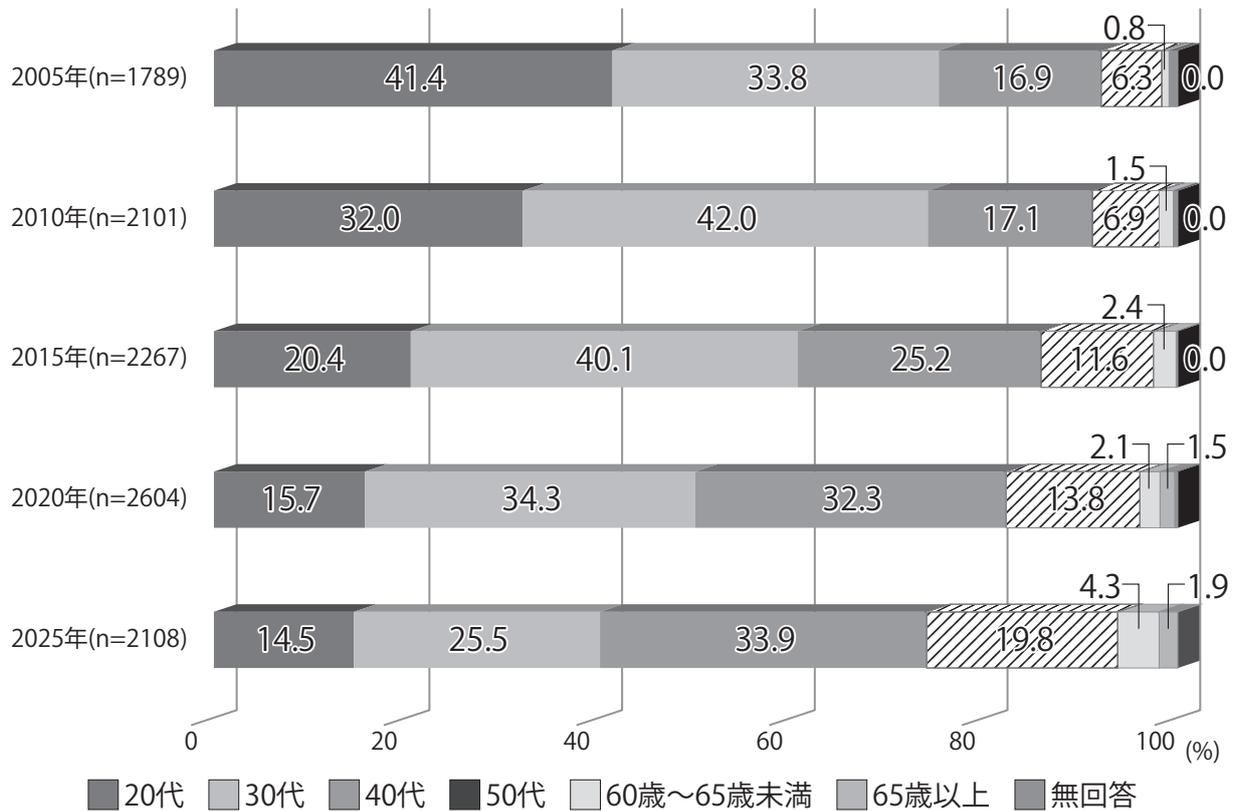


図 I - 1 - 2 年代別の男女比

2. 年齢構成

20代・30代の人数は2010年以降減少傾向にあり、とくに20代は2005年には全体の約半数を占めていたが、2025年には14.5%まで減少した。30代も2005年と比べて8ポイント減少していた。一方で、40代と50代は増加傾向にあり、40代は2005年から2025年にかけて17ポイント増加、50代も13ポイント増加した（図I-2）。

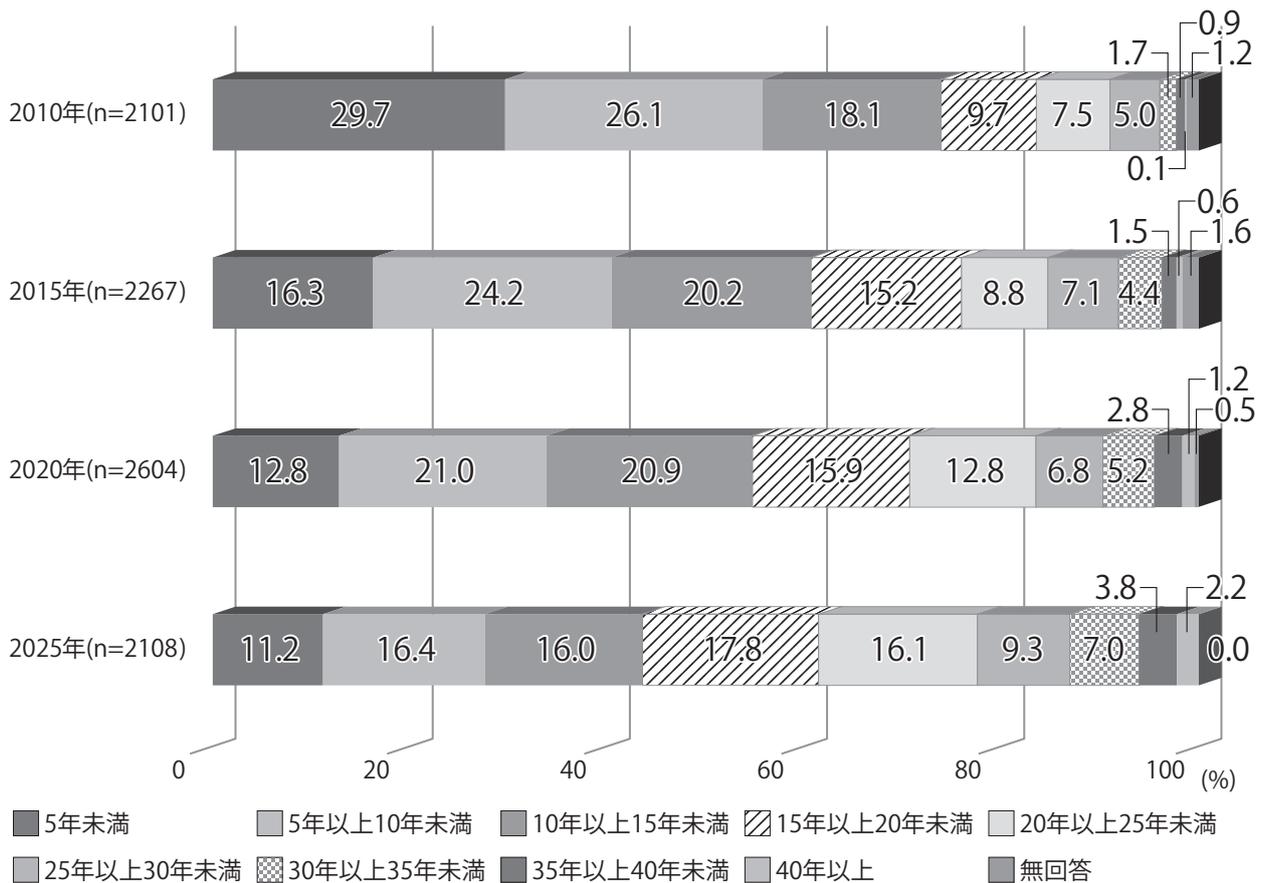


※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図 I - 2 年度別の年齢構成

3. 勤務年数

通算の勤務年数の分布をみると、2010年には「5年未満」が29.7%で最も多かったが、2015年には16%へと大きく減少し、2020年では12.8%、2025年度は11.2%と年齢構成の変化と同様に減少傾向を示した。「5年以上10年未満」も2010年と比べて2025年度には約10ポイントの減少した。「10年以上15年未満」は2020年度から2025年にかけて約5ポイントの減少であった。一方で、「15年以上」の勤務年数を有する方の割合は増加傾向にあった（図I-3）。

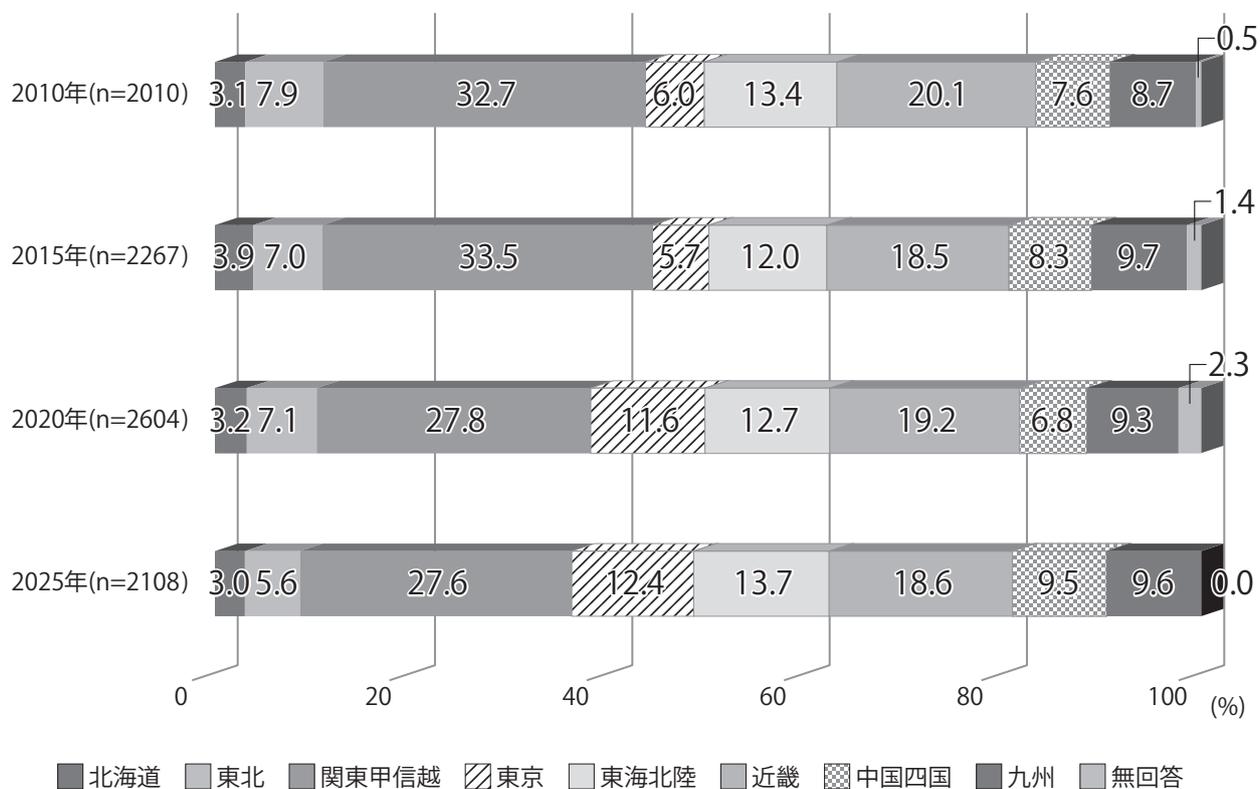


※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図 I - 3 年度別の勤務年数

4. 勤務している地域

「東京」は2020年に5ポイント増加したが、2025年の調査では2020年からの変化はみられなかった。「東北」は1.5ポイント減少し、「中国・四国」は3ポイント増加していた（図I-4）。



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図 I - 4 年度別の勤務ブロック

5. 資格の取得課程

視能訓練士免許の取得課程としては、「3年課程の専門学校」が最も多く37.8%を占めていた（図 I-5-1）。2000年の調査では「1年課程の専門学校」が約半数を占めていたが、その後、養成校の減少に伴い徐々に減少している傾向であった。また、「3年課程の専門学校」についても2010年以降は減少傾向であった。一方で「大学」は増加傾向にあり、2000年と比較するとおよそ7倍程度にまで増加していた（図 I-5-2）。

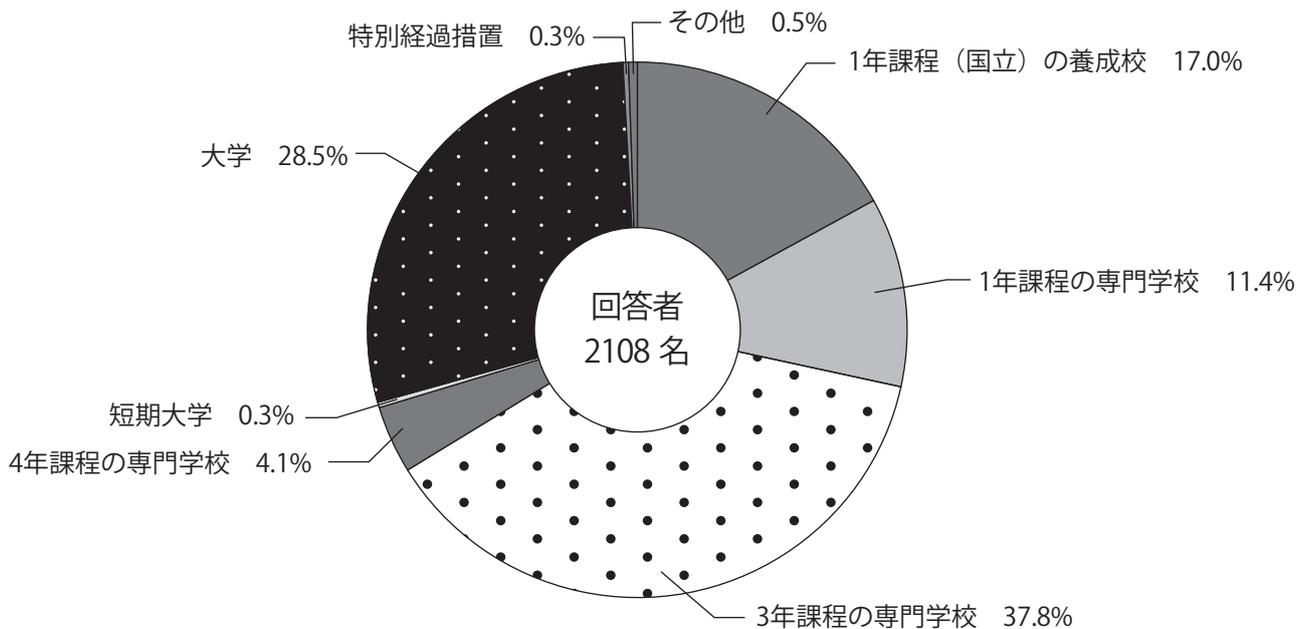
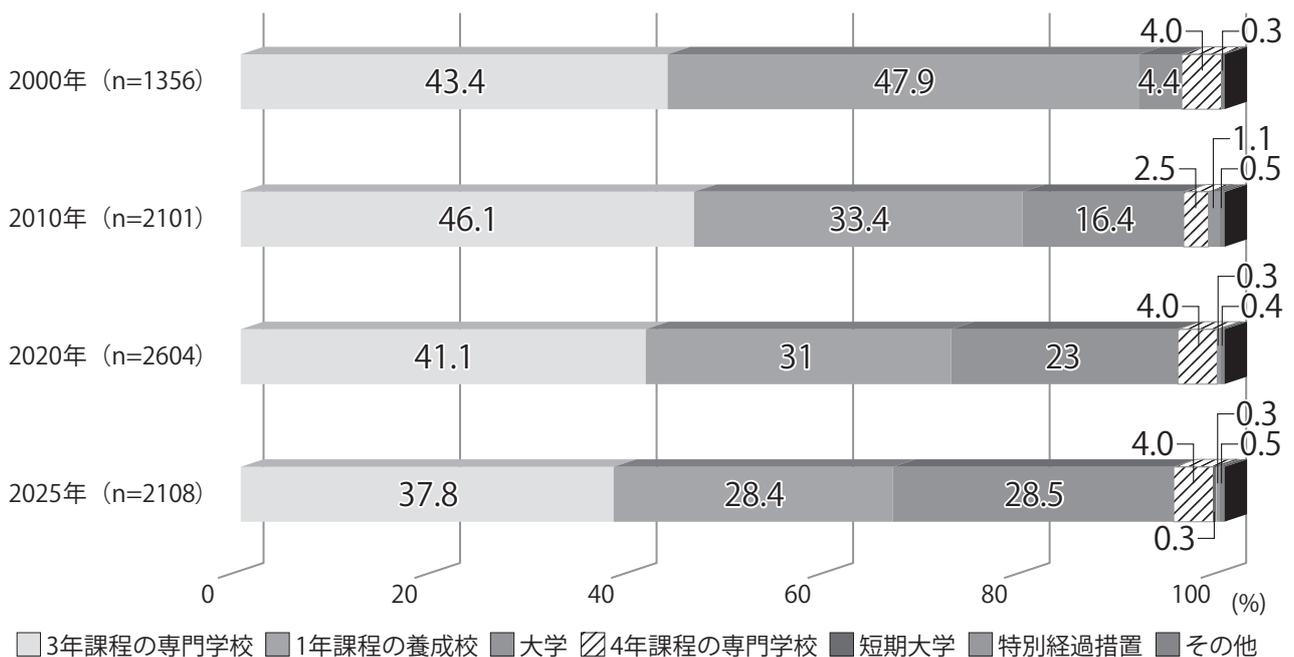


図 I-5-1 教育を受けた視能訓練士養成所



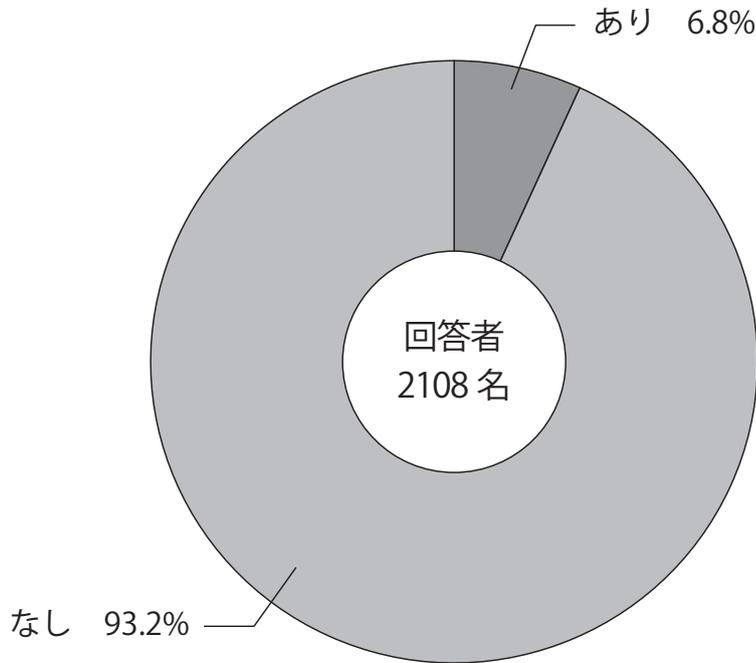
※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図 I-5-2 年度別の資格の取得課程

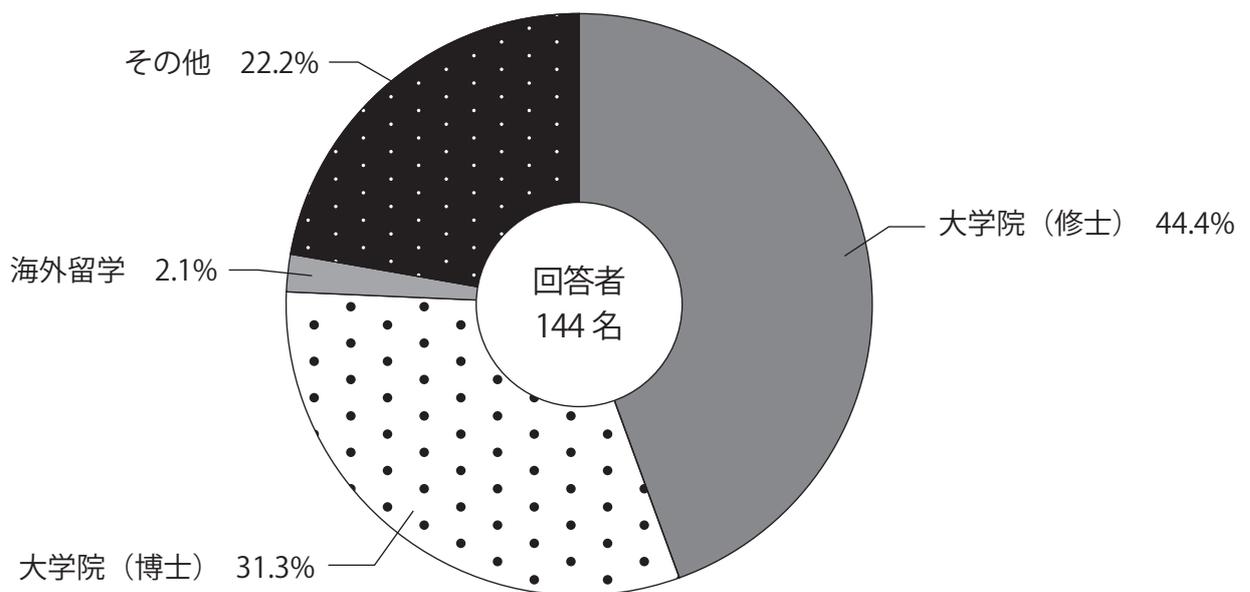
6. 資格取得後の進学

資格取得後の進学では、「なし」が最も多く93.2%であった（図I-6-1）。「あり」と回答した方の進学先は、「大学院（修士）」が44.4%と最も多く、次いで「大学院（博士）」が31.3%であった（図I-6-2）。その他については、「大学・放送大学」「看護学校」などが多くあった。

「海外留学」と回答された方の期間は最長で2年であった。



図I-6-1 免許取得後の進学



図I-6-2 資格取得後の進学の内訳

7. 視能訓練士以外の保有資格

視能訓練士以外の資格を保有している人は20.7%であった（図 I-7-1）。その内訳は、「その他」を除くと「教員（小・中・高等）」が最も多く、次いで「同行援護従業者」、「保育士」、「看護師・保健師」、「幼稚園教諭」、「介護支援専門員（ケアマネージャー等）」の順であった。「その他」で多かったのは「医療事務」、「栄養士」であった。また、「眼鏡作製技能士」は、5.3%であった（図 I-7-2）。

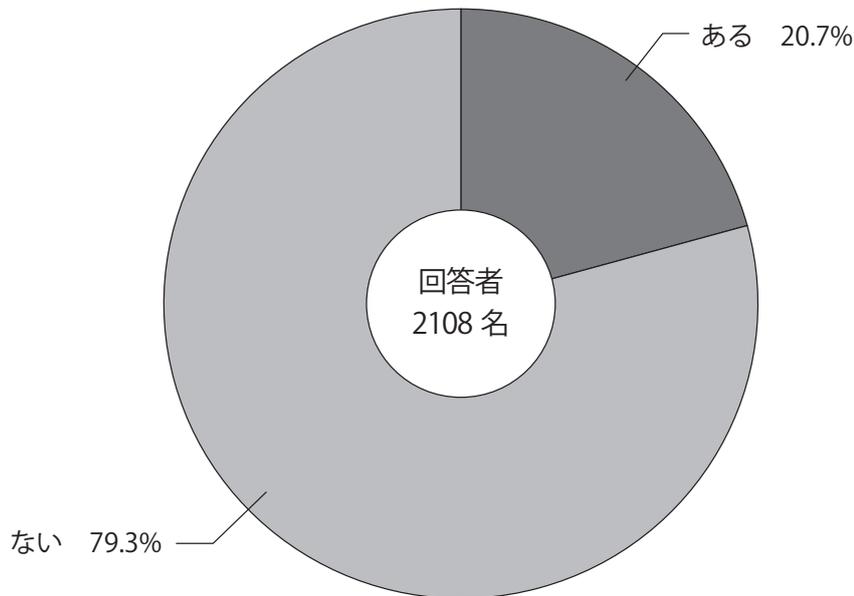


図 I-7-1 視能訓練士以外の保有資格

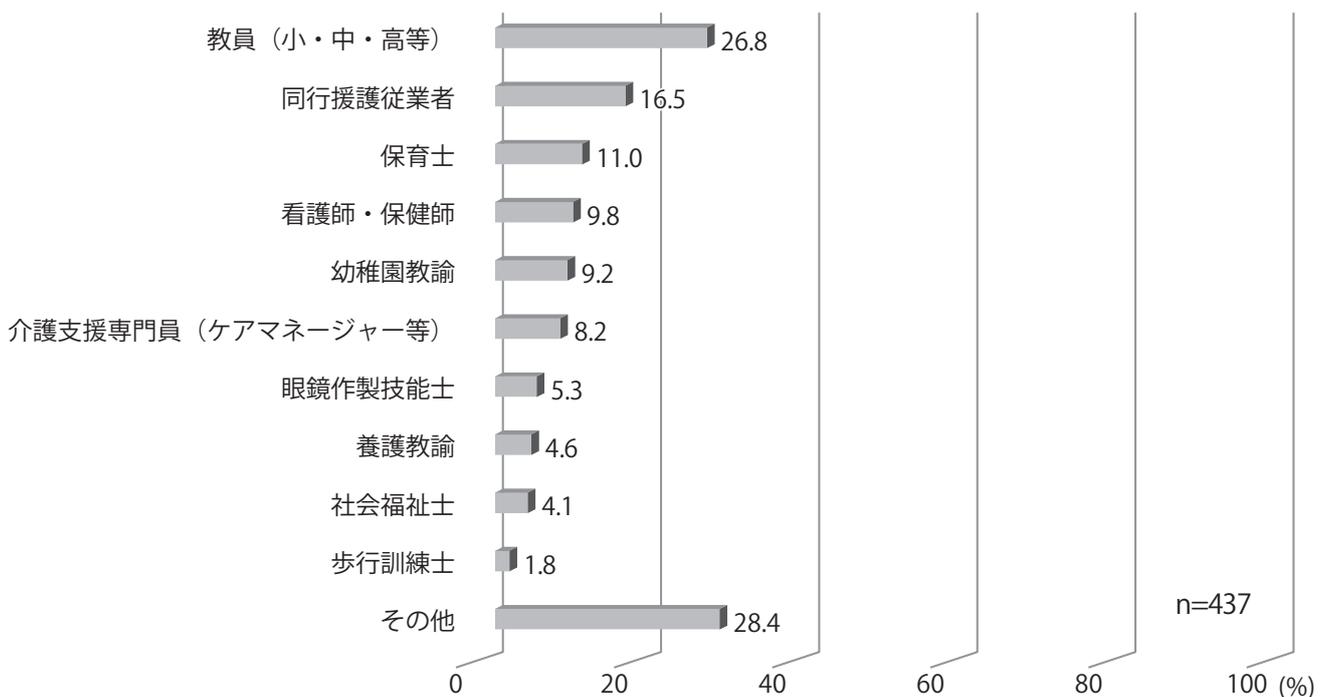
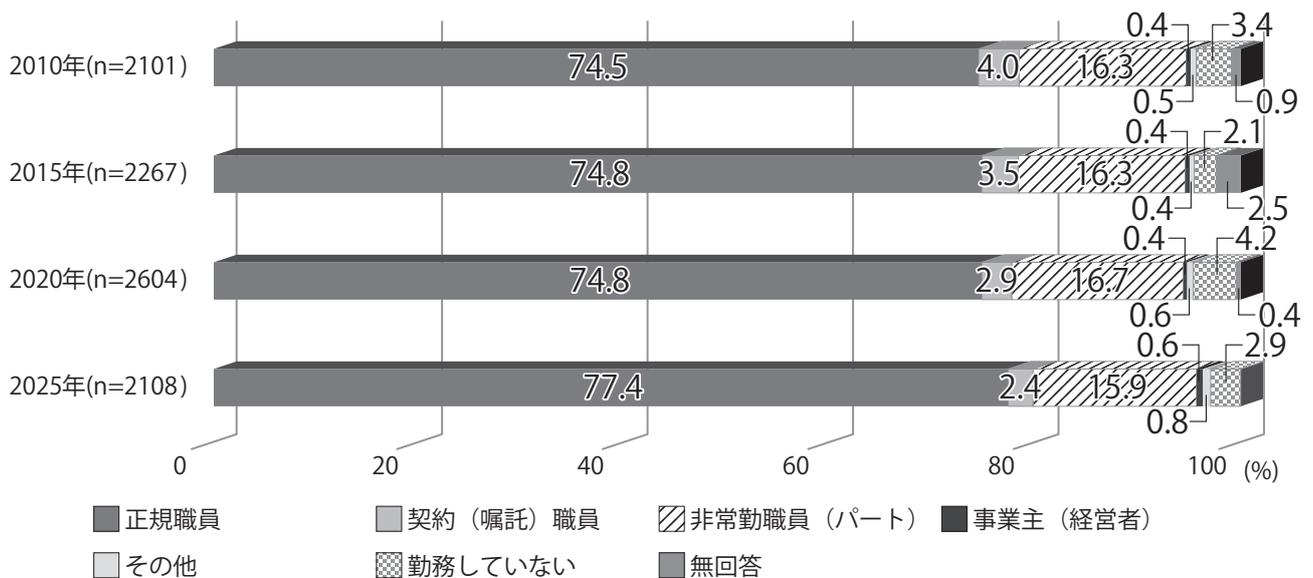


図 I-7-2 視能訓練士以外の保有資格（複数回答）

Ⅱ. 勤務体制

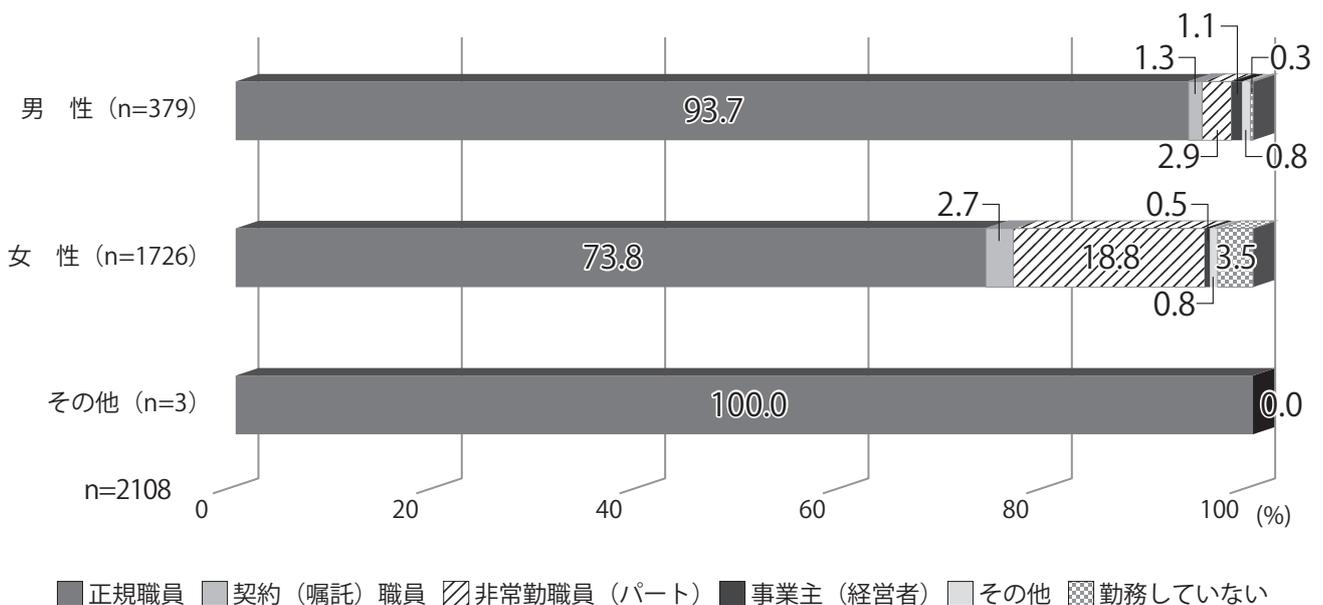
1. 勤務形態

「正規職員」は77.4%、「非常勤職員（パート）」は15.9%で2020年から比べると「正規職員」が2ポイント増加した（図Ⅱ-1-1）。男女別にみると「正規職員」は男性が93.7%、女性が73.8%、「非常勤職員（パート）」は男性が2.9%、女性が18.8%であった（図Ⅱ-1-2）。



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図Ⅱ-1-1 年度別の勤務形態

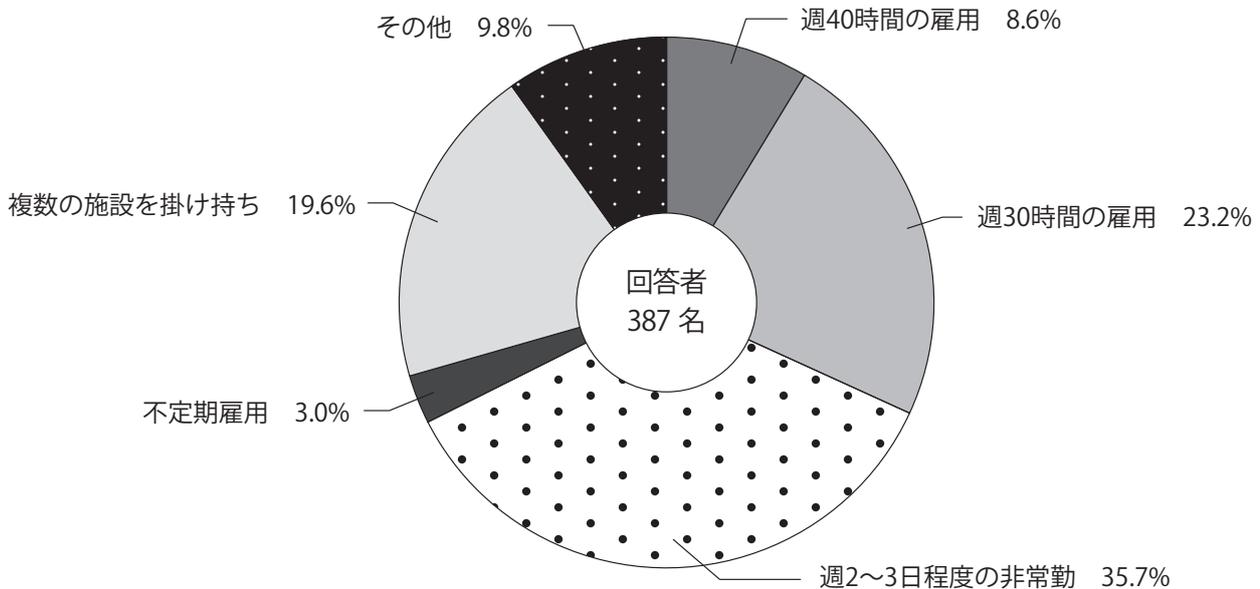


※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

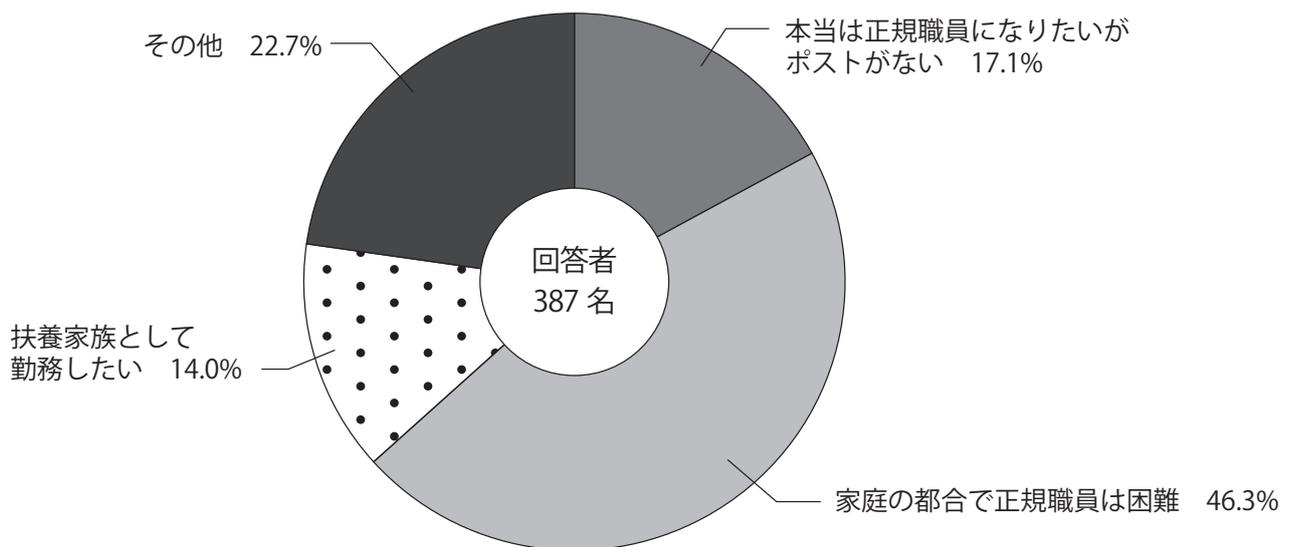
図Ⅱ-1-2 性別ごとの現在の勤務形態

2. 非正規職員の勤務形態

非正規職員（パート）・契約職員の勤務形態は、「週2～3日程度の非常勤」が35.7%と最も多く、次いで「週30時間の雇用」23.2%、「複数の施設を掛け持ち」19.6%、「週40時間の雇用」8.6%であった（図Ⅱ-2-1）。また非正規職員を選ぶ理由は「家庭の都合で正規職員は困難」が46.3%、「本当は常勤になりたいがポストがない」が17.1%、「扶養家族として勤務したい」が14%であった（図Ⅱ-2-2）。



図Ⅱ-2-1 非常勤職員（パート）・契約職員の勤務形態



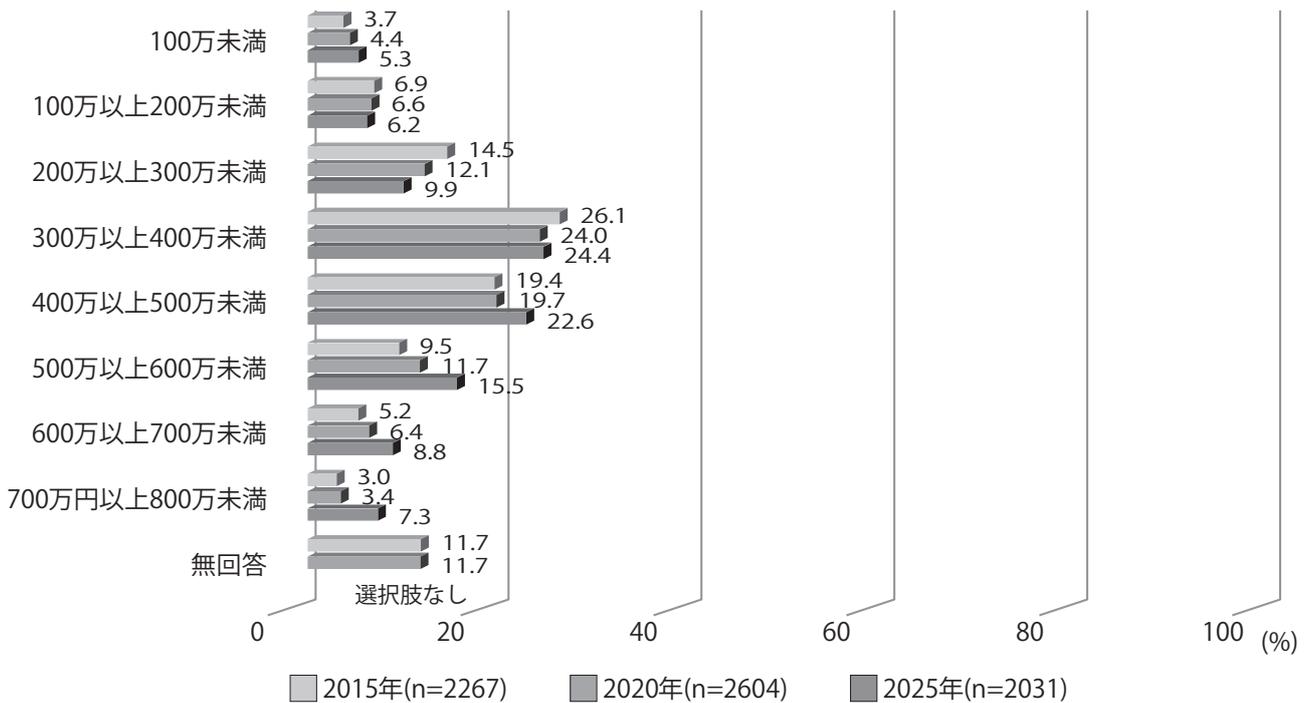
図Ⅱ-2-2 採用形態の理由

※非常勤職員：常勤よりも勤務日数・時間が少ない職員。

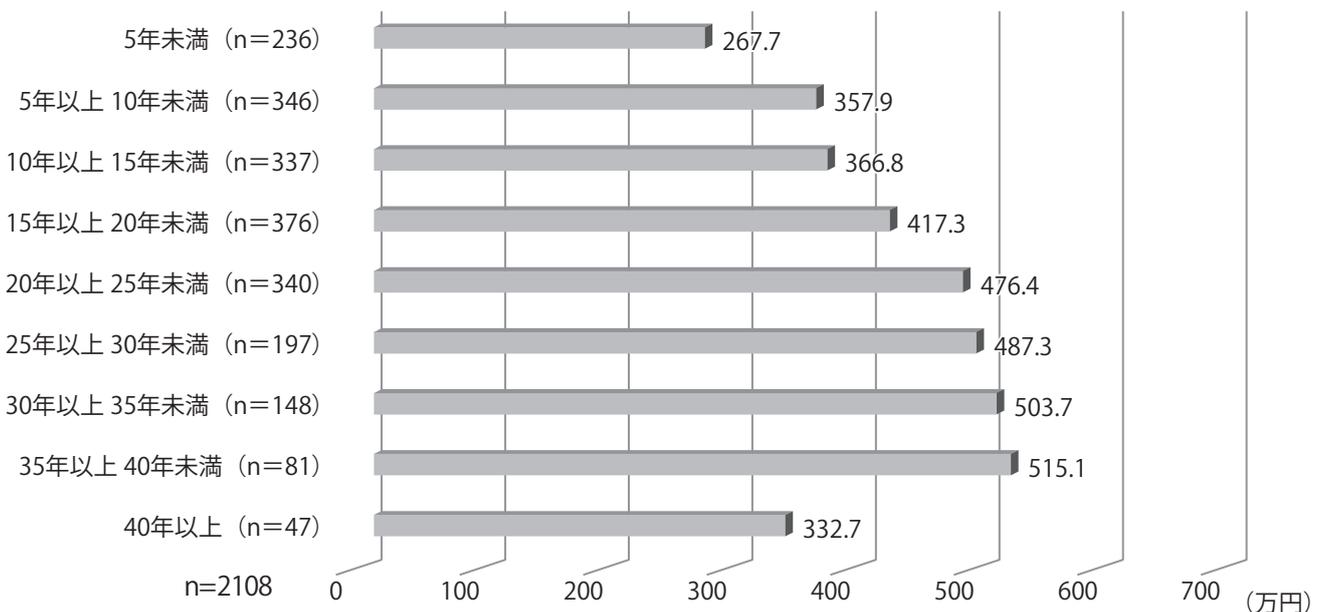
契約（嘱託）職員：雇用期間に定めのある労働契約を結んで働く職員。

3. 年間所得（2023年度の年間所得（税込み）について源泉徴収票などを参考に回答）

勤務形態別にみた年間所得帯では、「300万円以上400万円未満」が24.4%と最も多かった（図Ⅱ-3-1）。平均年間所得は年次ごとに増加傾向を示し、2010年は352.9万円、2020年は378.5万円、2025年には417.3万円となった。勤務年数別の年間所得平均値も、年数の増加に伴い上昇し、「35年以上40年未満」で最も高く515.1万円であったが、「40年以上」では332.7万円に減少していた（図Ⅱ-3-2）。

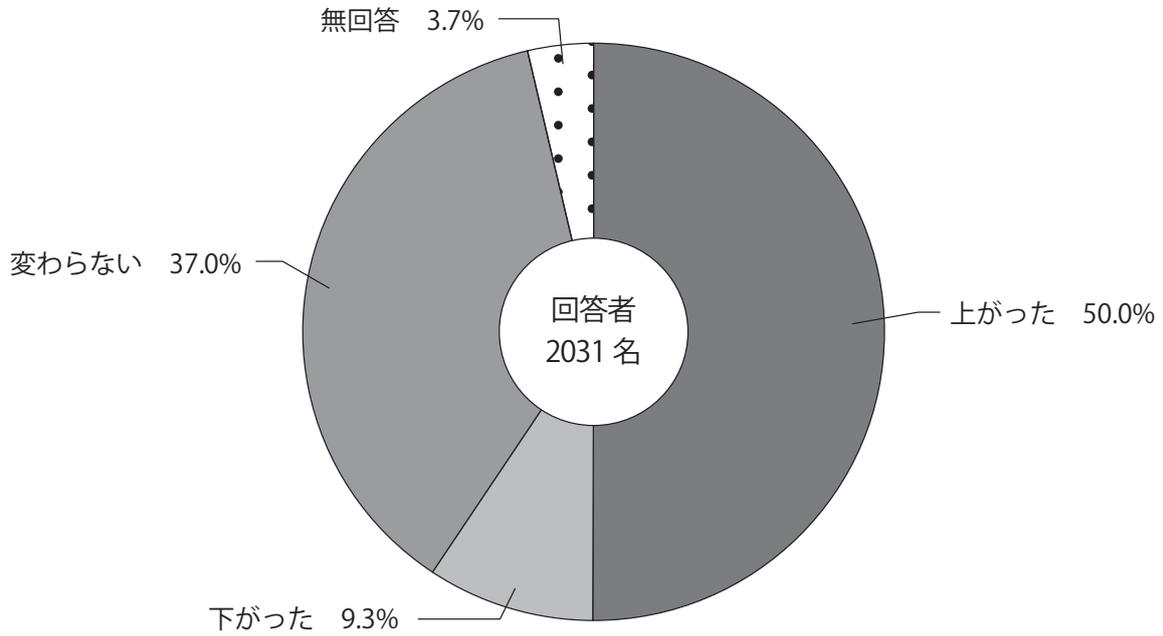


図Ⅱ-3-1 年間所得

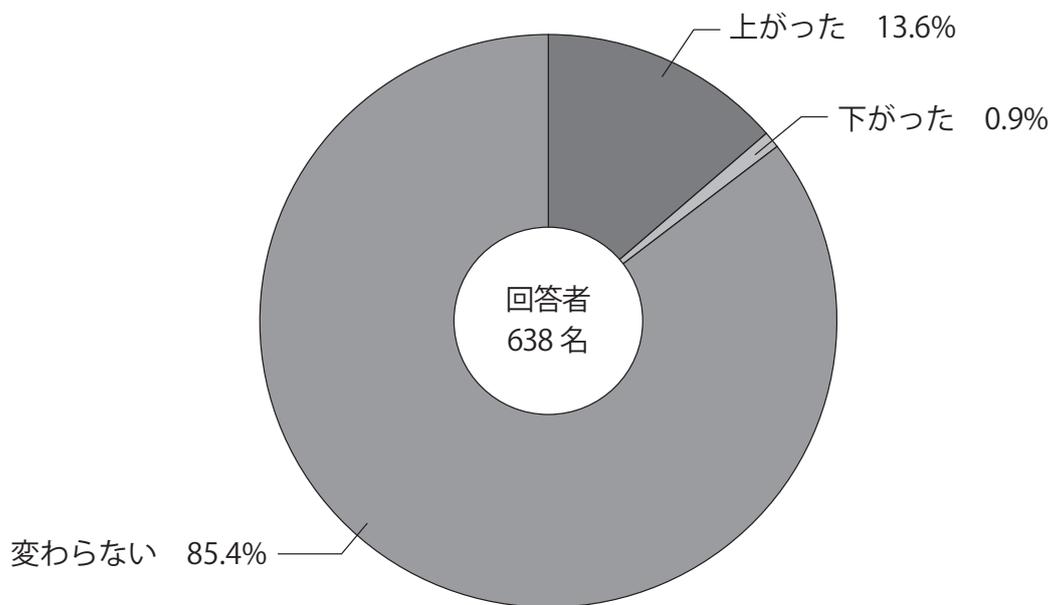


図Ⅱ-3-2 勤務年数別の年間所得の平均値

一昨年度との比較では、年間所得が「上がった」と回答した者が約5割、「変わらない」が約4割であった（図Ⅱ-3-3）。また、認定視能訓練士取得後の給与変化については、「変わらない」が85%と最も多く、「上がった」が14%、「下がった」が1%であった（図Ⅱ-3-4）。

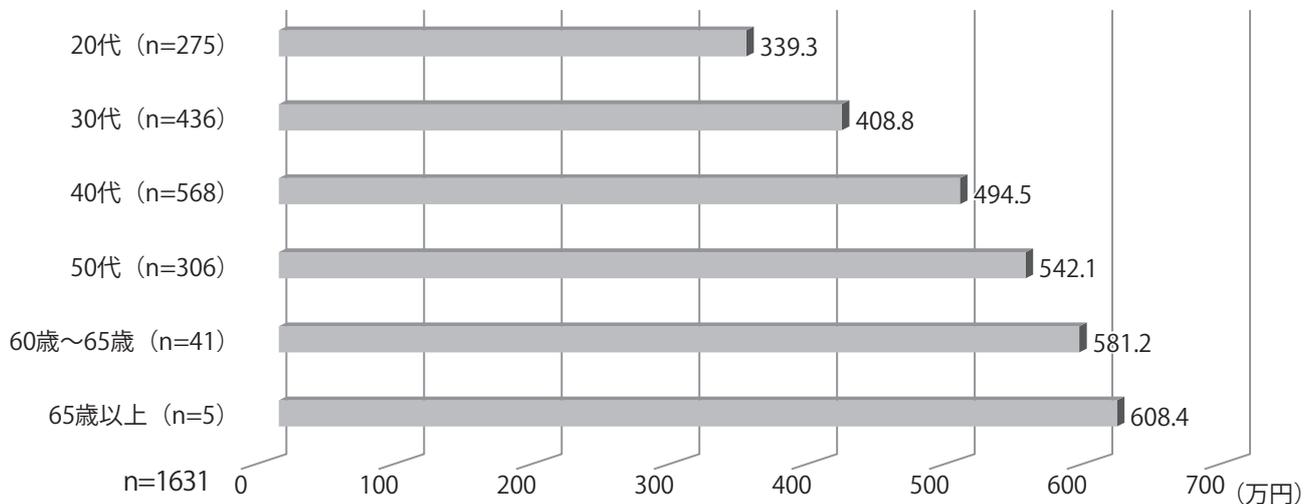


図Ⅱ-3-3 年間所得の一昨年度との比較

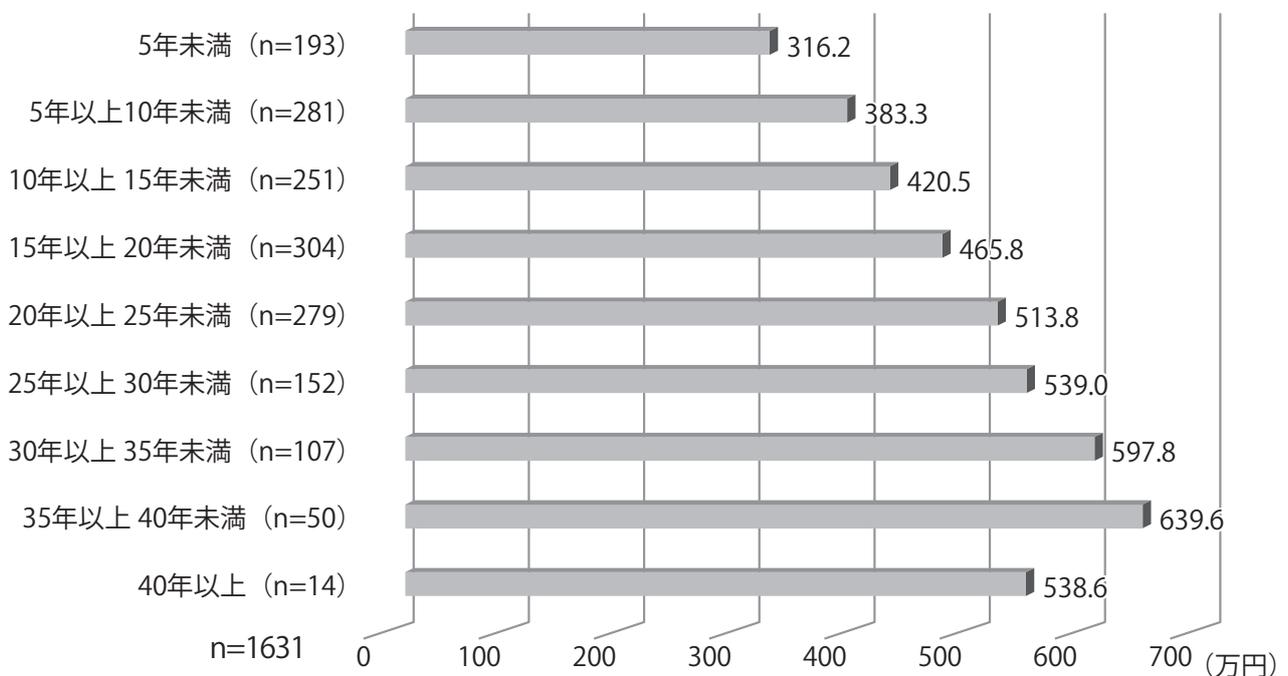


図Ⅱ-3-4 認定視能訓練士を取得後の給与変化

「正規職員」に限定してみると、平均年間所得は458.3万円であった。年代別にみると、「20代」の339.3万円から「65歳以上」の608.4万円まで、年齢の上昇に伴い増加していた（図Ⅱ-3-5）。勤続年数別でも同様の傾向がみられ、「35年以上40年未満」で639.6万円と最も高かったが、「40年以上」では538.6万円に減少した（図Ⅱ-3-6）。

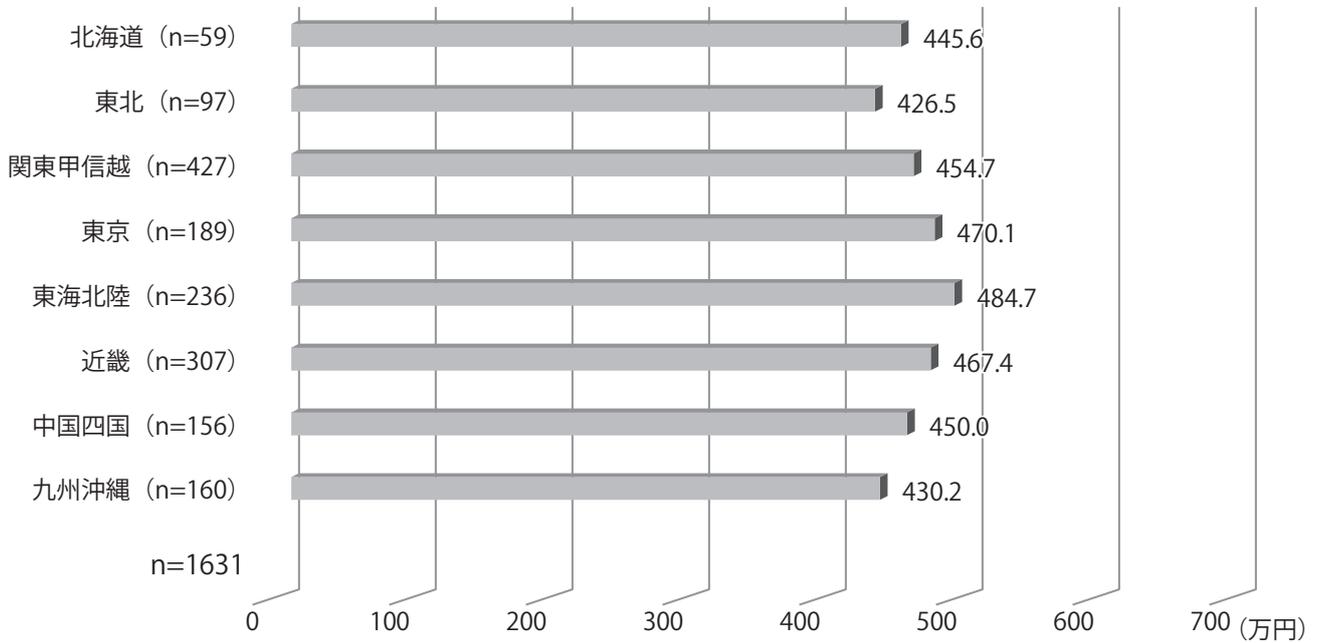


図Ⅱ-3-5 年代別の正規職員の年収平均値

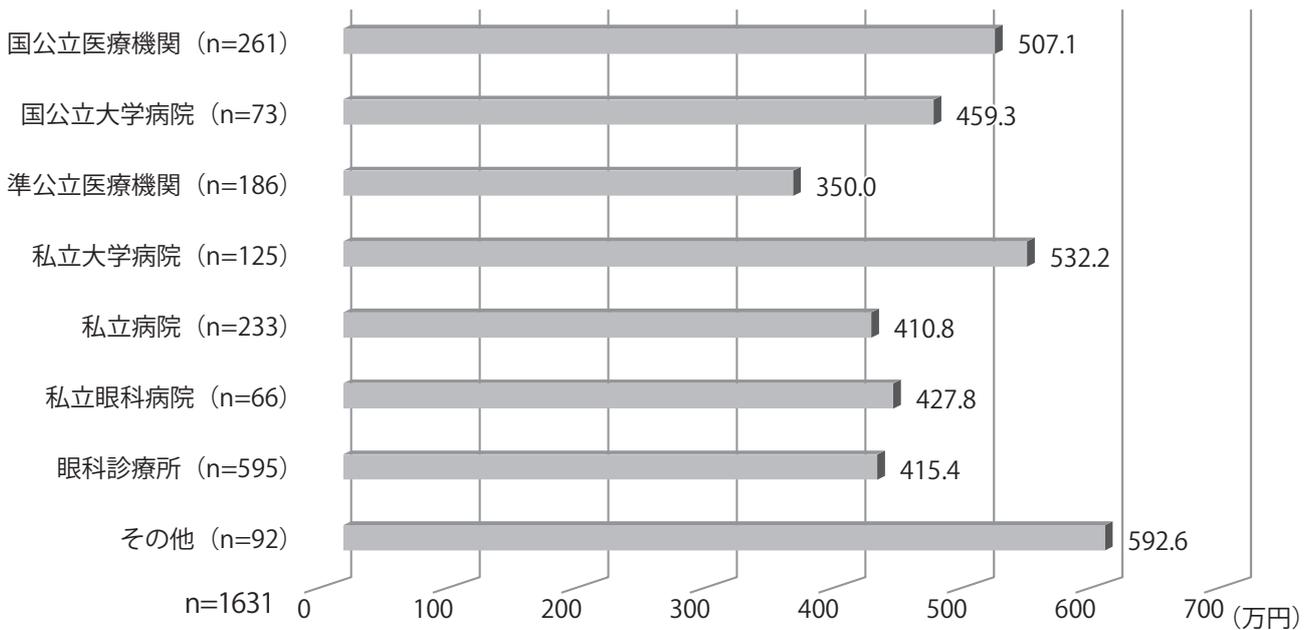


図Ⅱ-3-6 勤務年数ごとの正規職員の年収平均値

勤務地別では、「東海北陸」が484.7万円と最も高く、「東北」が426.5万円と最も低く、両者の差は約60万円であった（図Ⅱ-3-7）。勤務施設別では、「その他」を除くと「私立大学病院」が532.2万円と最も高く、次いで「国公立医療機関」507.1万円、「国公立大学病院」459.3万円の順であった（図Ⅱ-3-8）。



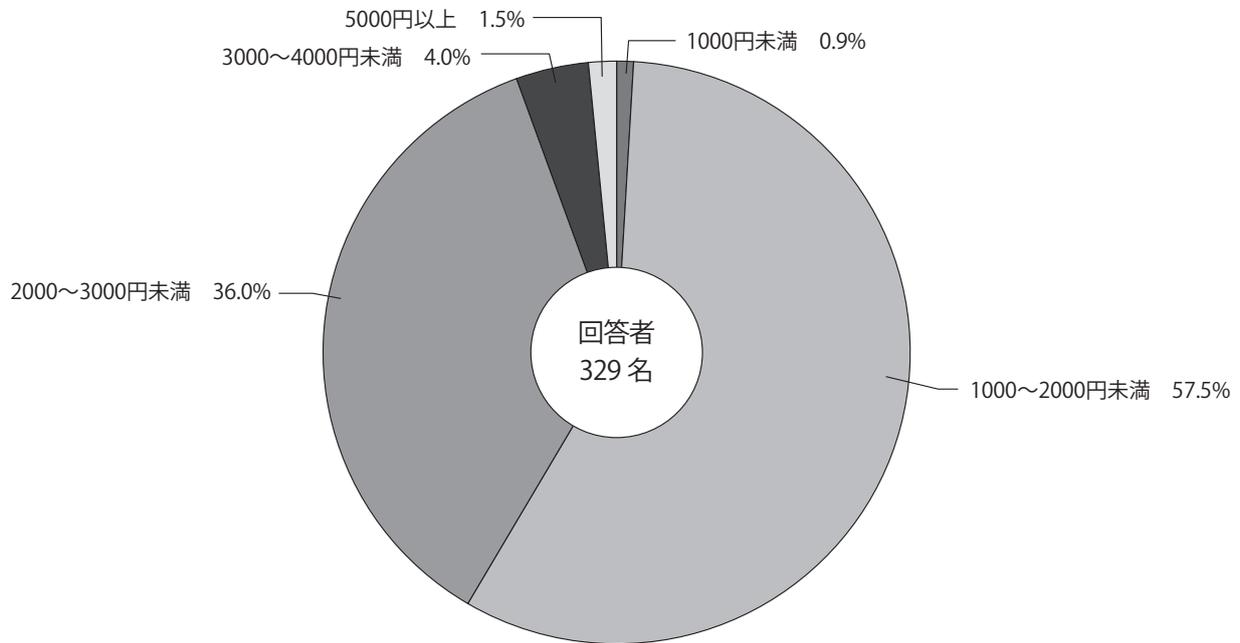
図Ⅱ-3-7 勤務地別の正規職員の年間所得



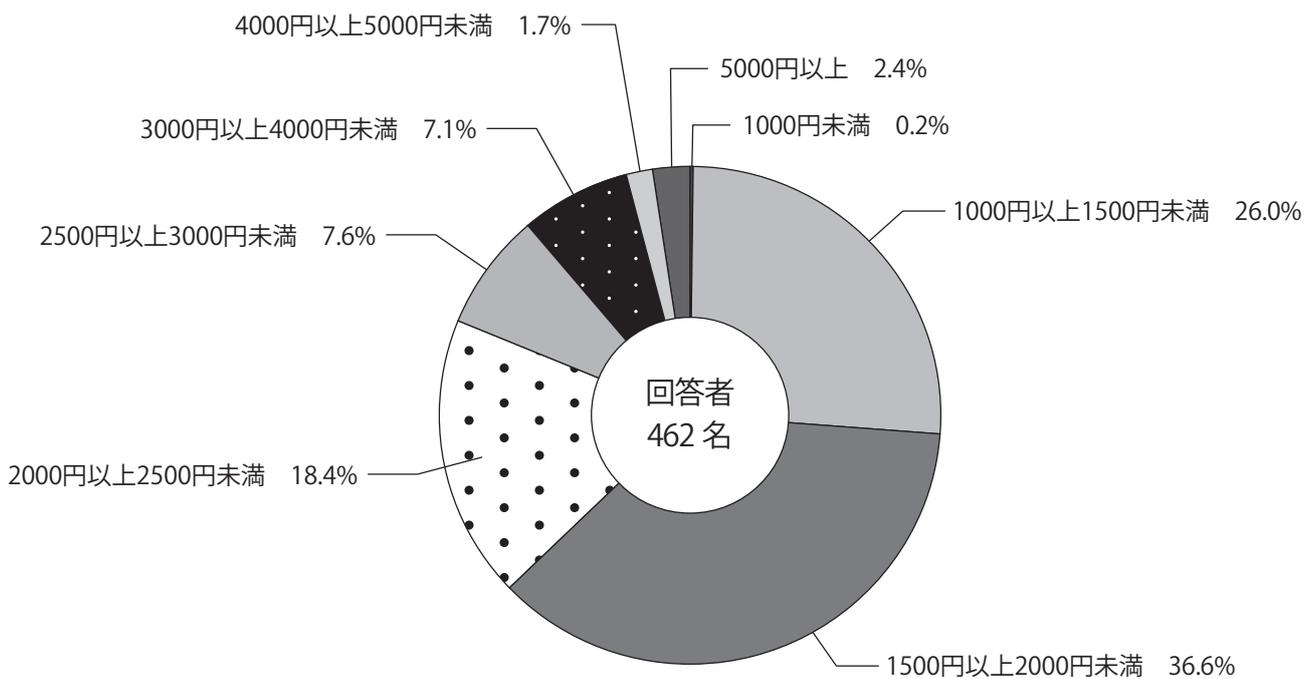
図Ⅱ-3-8 勤務施設別の正規職員の年間所得

4. 時間給

時間給は「1000円以上2000円未満」が57.5%で最も多く、平均は1972.4円であった(図Ⅱ-4-1)。前回調査と比較して「2000円以上～3000円未満」が10ポイント増加していた(図Ⅱ-4-2)



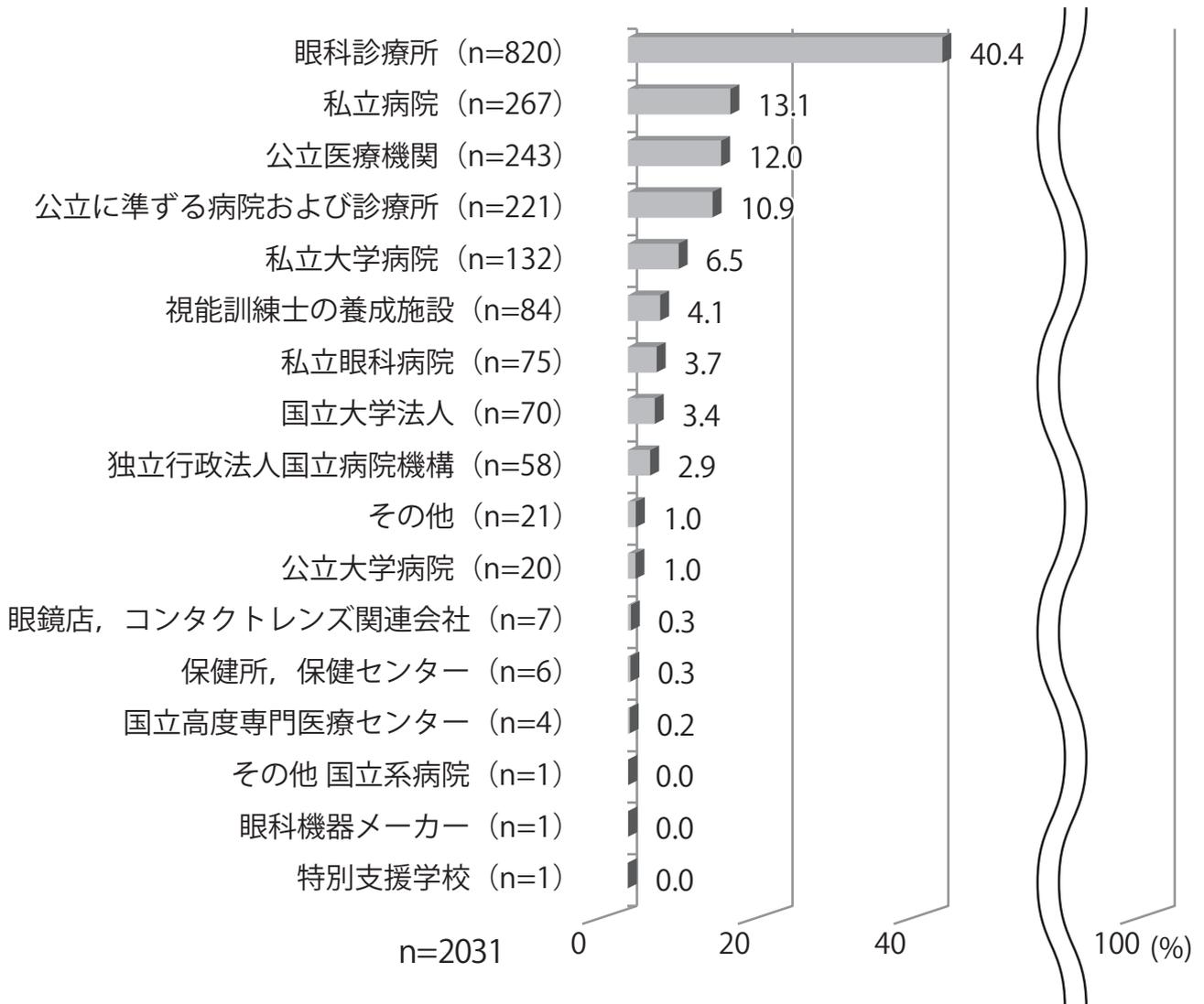
図Ⅱ-4-1 時間給



図Ⅱ-4-2 2020年度調査の時間給

5. 施設の運営主体

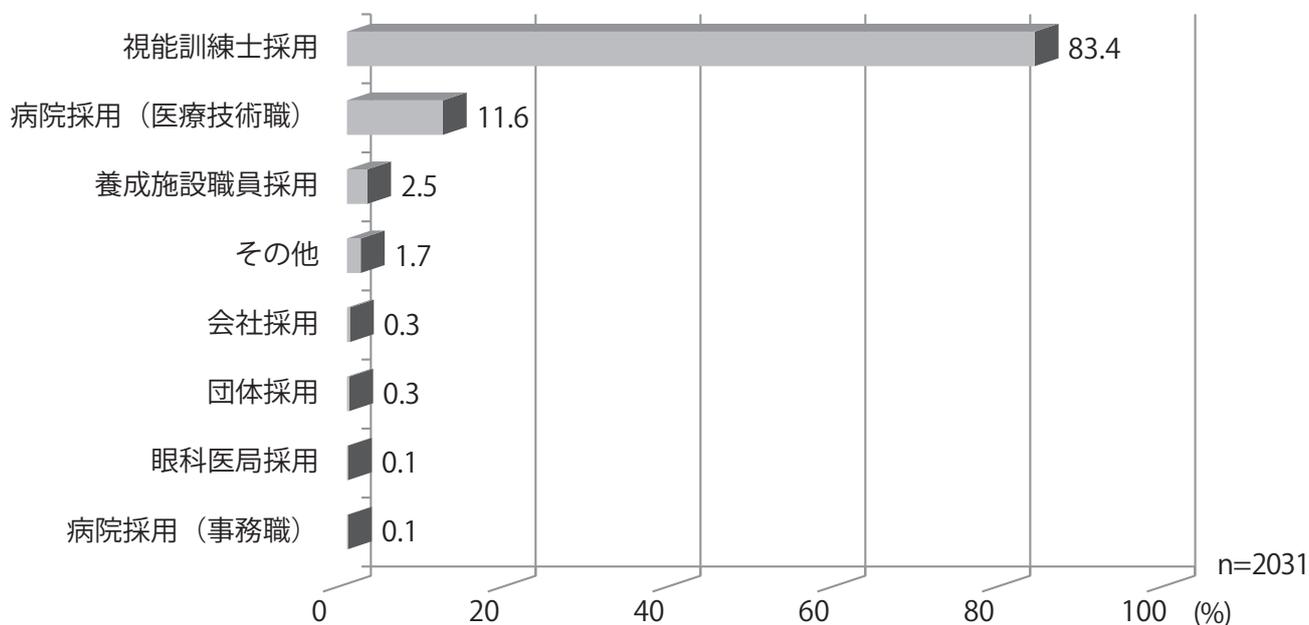
現在、主に勤務している施設は、「眼科診療所（医療法人および個人）」の割合が40.4%と最も多かった。次いで、「私立病院」、「公立医療機関」、「準公立病院・診療所」の順であった（図Ⅱ-5）。



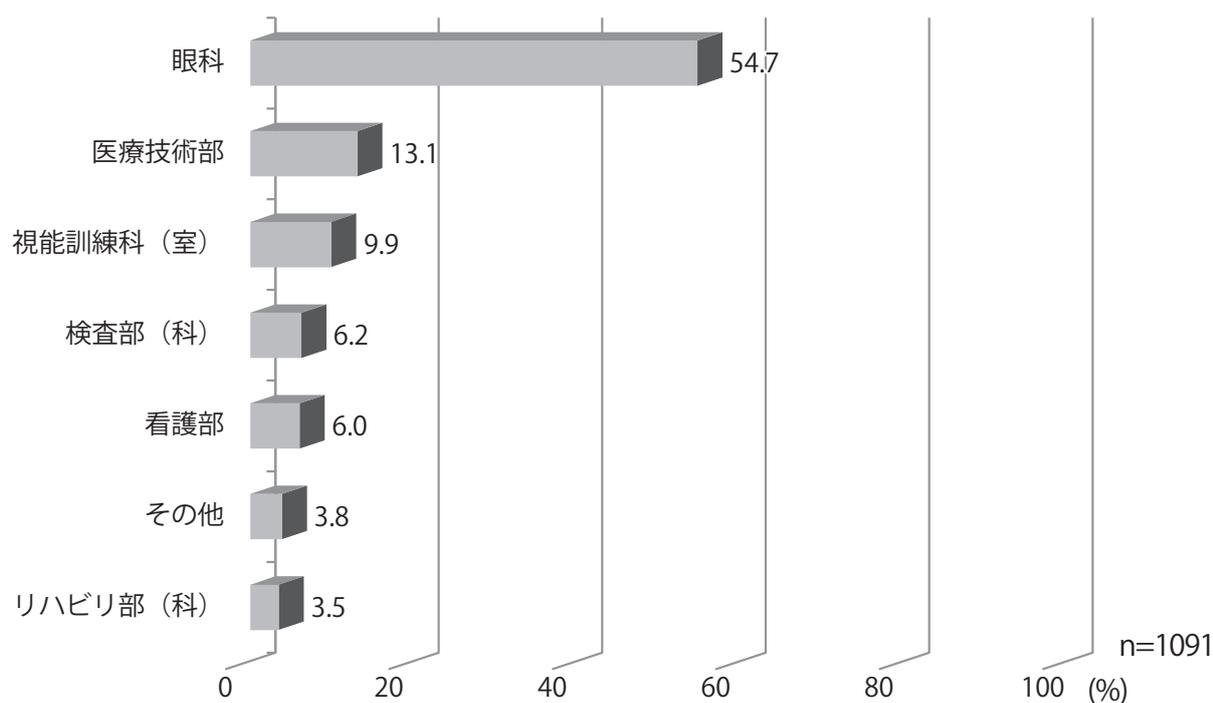
図Ⅱ-5 勤務施設

6. 採用形態

採用形態は、「視能訓練士採用」が83.4%と最も多かった。次いで「病院採用（医療技術職）」が11.6%であった（図Ⅱ-6-1）。また、病院勤務の視能訓練士の所属は、「眼科」が54.7%と最も多く、「医療技術部」13.1%、「視能訓練科（室）」9.9%、「検査部（科）」6.2%の順であった（図Ⅱ-6-2）。



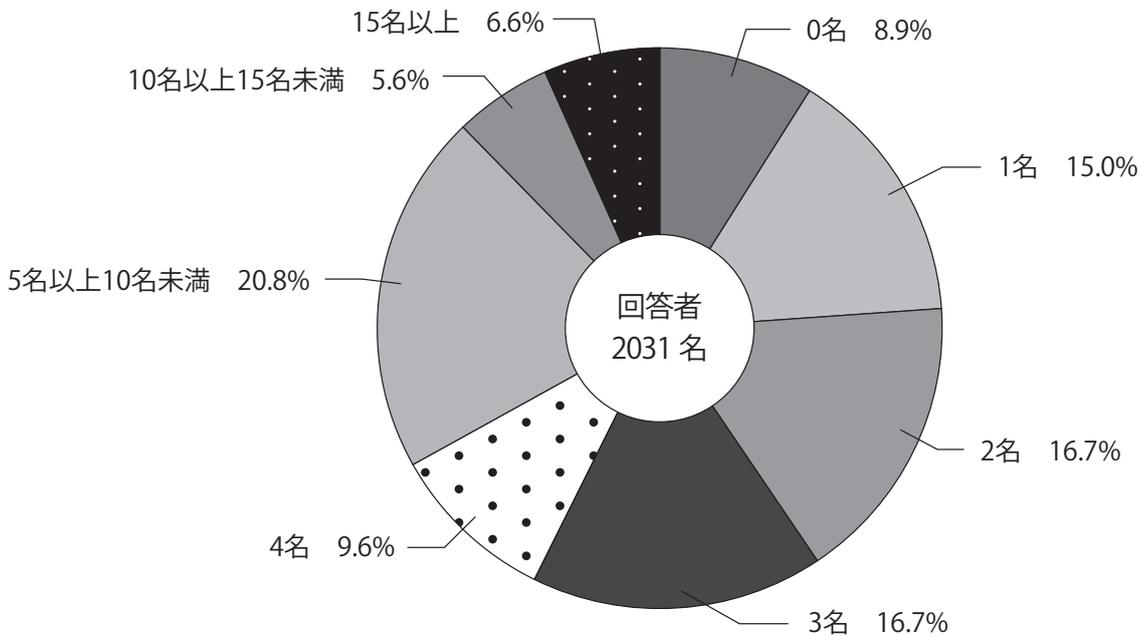
図Ⅱ-6-1 採用形態



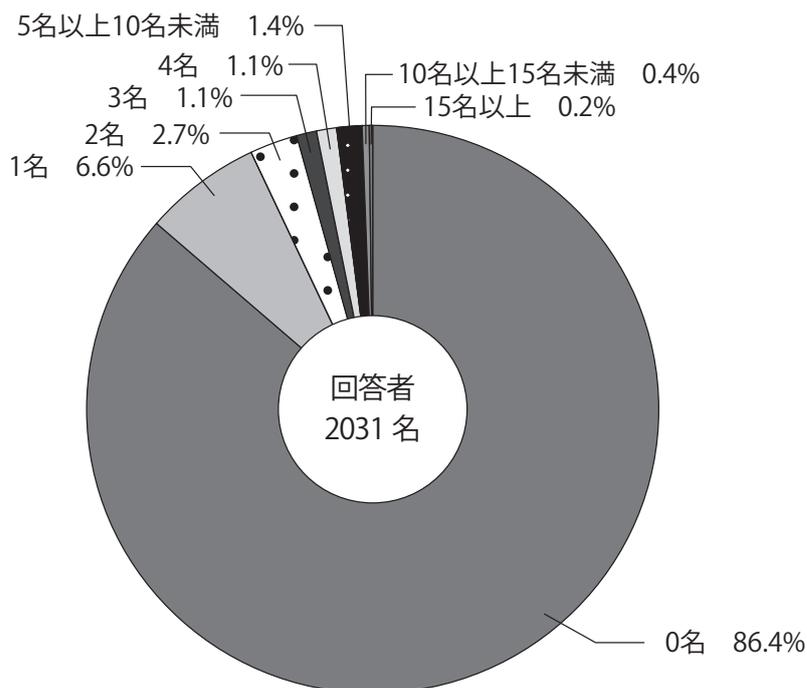
図Ⅱ-6-2 所属（病院勤務）

7. 施設内の視能訓練士の人数

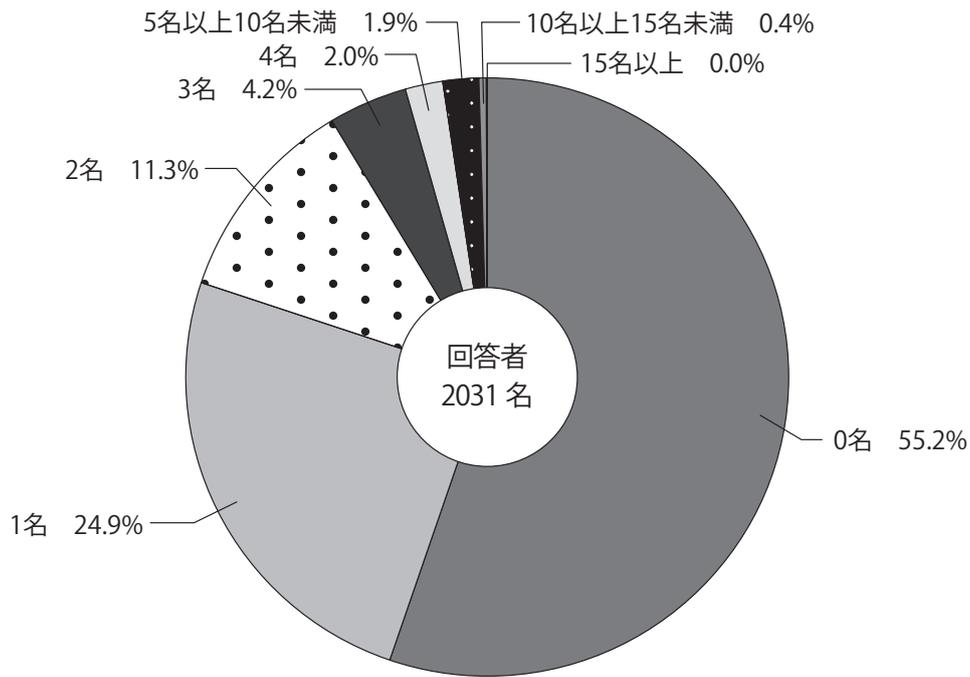
同じ職場に勤務する視能訓練士の「正規職員」の人数は「5名以上10名未満」が20.8%で最も多かった（図Ⅱ-7-1）。一方、「契約職員」「非常勤職員」は0名が最も多く、それぞれ86.4%（図Ⅱ-7-2）、55.2%（図Ⅱ-7-3）であった。勤務している視能訓練士の人数については「ちょうどよい」と感じているのは57.8%、「足りていない」は39.8%であった（図Ⅱ-7-4）。



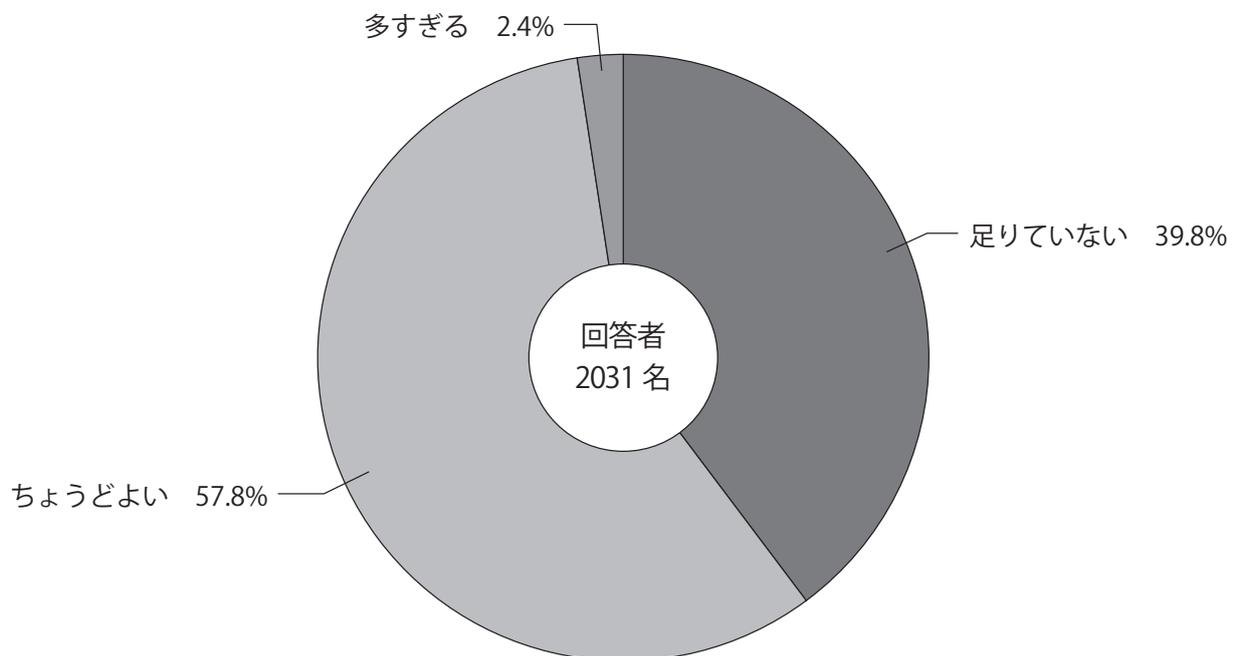
図Ⅱ-7-1 同じ職場に勤務する視能訓練士（正規職員）



図Ⅱ-7-2 同じ職場に勤務する視能訓練士（契約職員）

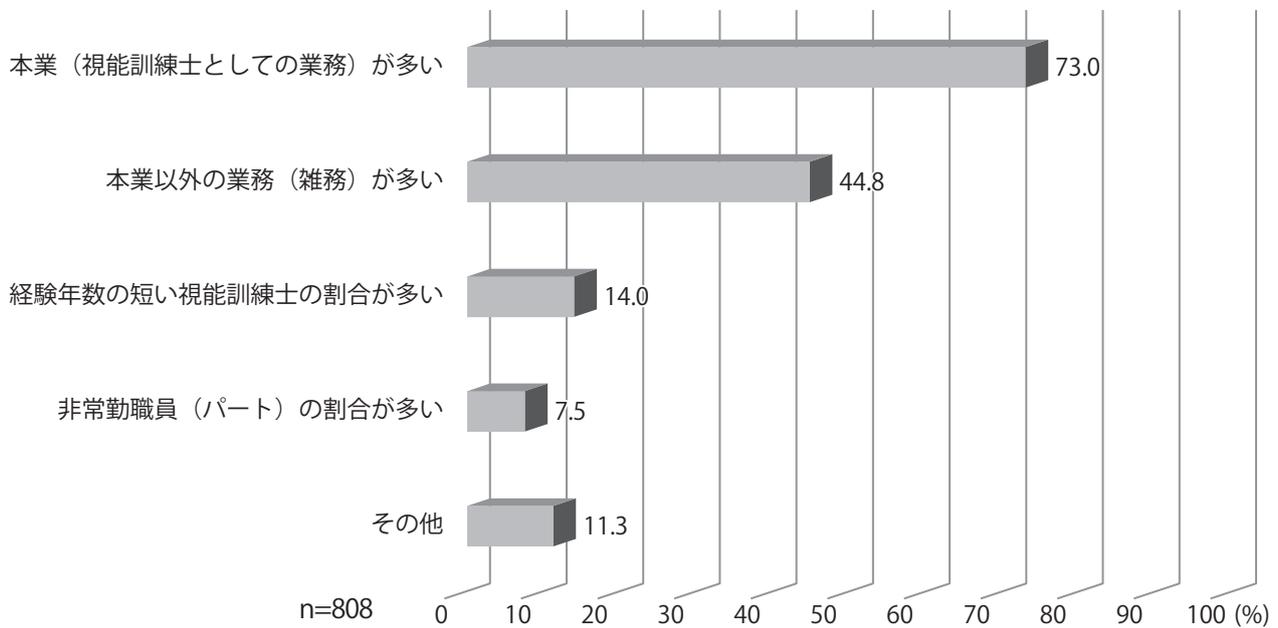


図Ⅱ-7-3 同じ職場に勤務する視能訓練士（非常勤職員）

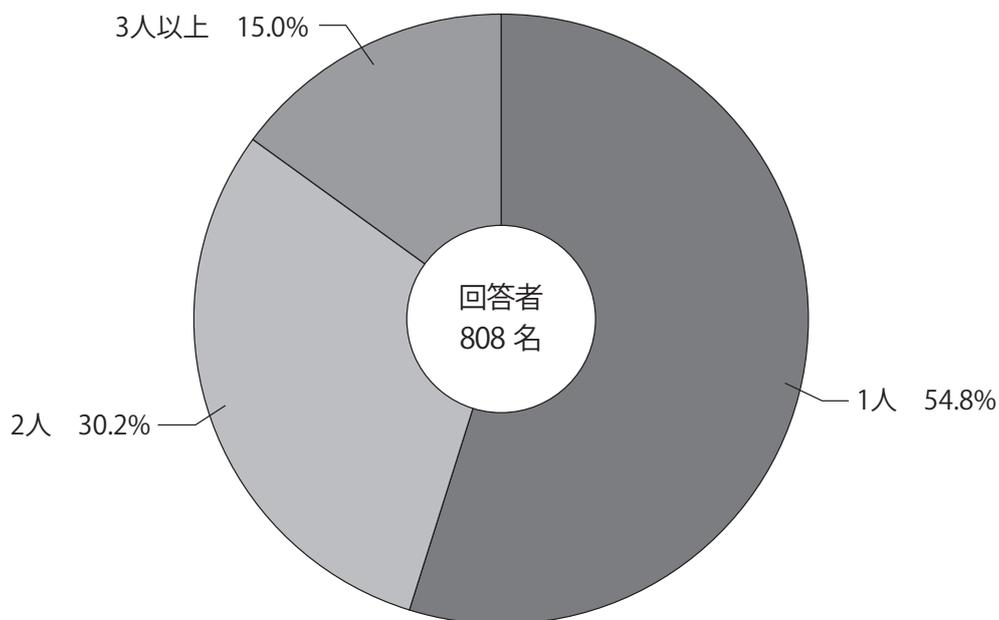


図Ⅱ-7-4 勤務施設における視能訓練士の人数

「足りていない」と感じる理由では「本業（視能訓練士としての業務）が多い」が73.0%と最も多く、次いで「本業以外の業務（雑務）が多い」が44.8%であった（図Ⅱ-7-5）。増員希望については、「1人または2人」が85%を占めた（図Ⅱ-7-6）。また、「足りていない」と回答した施設における適正な増員数は、「1名」が55%と最も多く、次いで「2名」が30%であった。



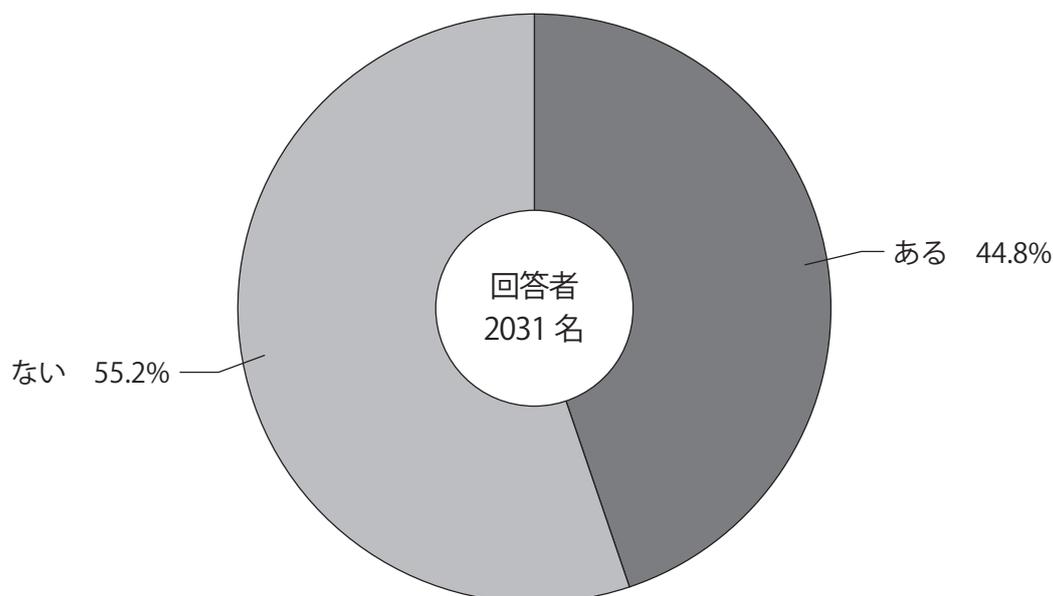
図Ⅱ-7-5 視能訓練士が足りていない理由（複数回答）



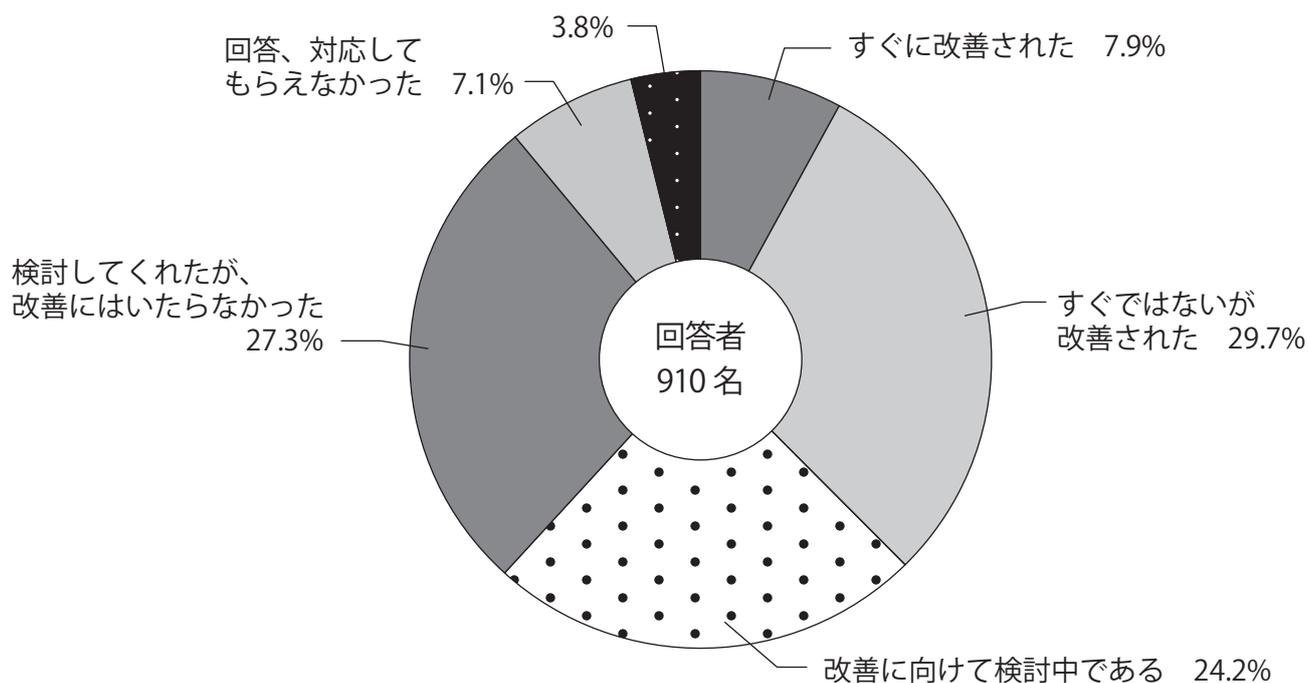
図Ⅱ-7-6 適正にするための増員数

8. 視能訓練士の増員や常勤化についての相談

視能訓練士の増員や常勤化について、病院や医師に相談したことが「ある」は44.8%、「ない」は55.2%であった（図Ⅱ-8-1）。相談した際の回答や対応としては「すぐに改善された」が7.9%、「すぐではないが改善された」が29.7%で、約4割が何らかの形で改善されていた。「検討してくれたが、改善にはいたらなかった」は27.3%、「改善に向けて検討中である」は24.2%であった（図Ⅱ-8-2）。



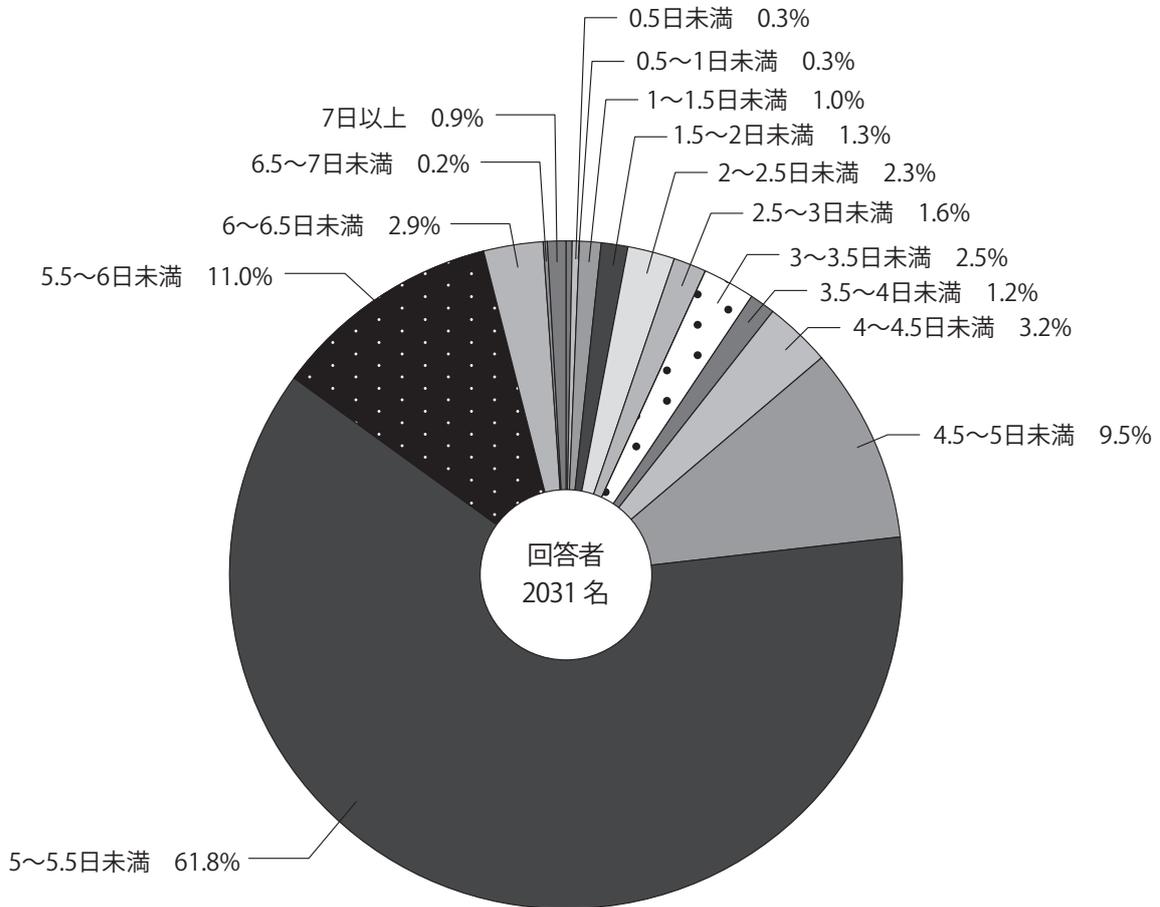
図Ⅱ-8-1 視能訓練士の増員や常勤化について病院や医師への相談



図Ⅱ-8-2 相談した際の回答や対応

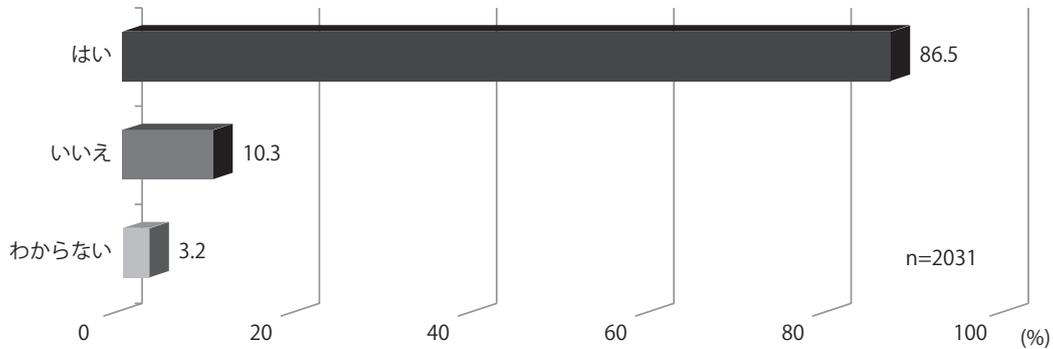
9. 勤務日数と有給休暇

一週間の平均勤務日数は「5～5.5日未満」が61.8%と最も多く、次いで「5.5～6日未満」が11.0%であった（図Ⅱ-9-1）。

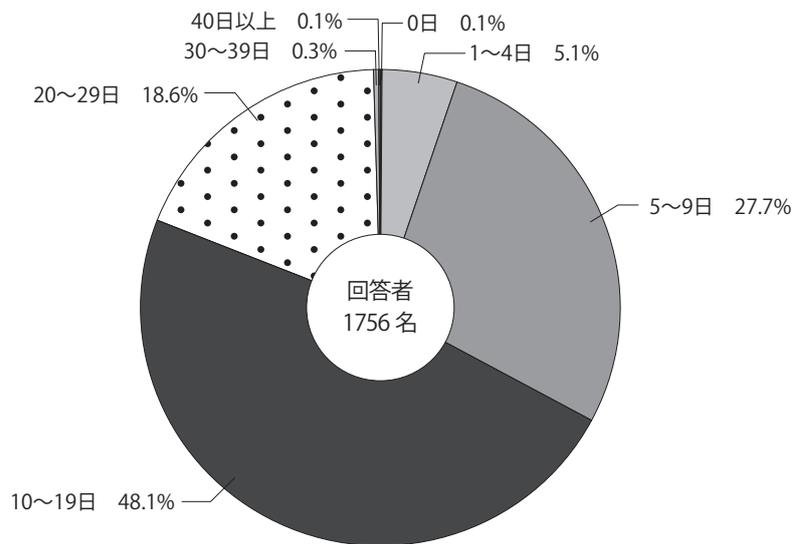


図Ⅱ-9-1 1週間の平均勤務日数

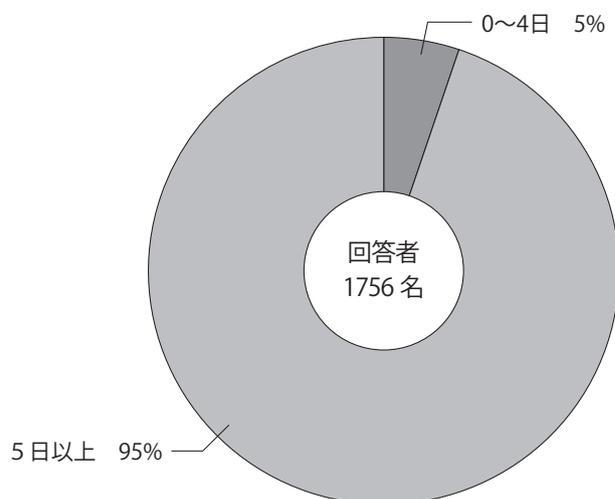
年次有給休暇を利用している割合は86.5%，利用していない割合は10.3%であった（図Ⅱ-9-2）。年次有給休暇の利用日数は、「10～19日／年」が48.1%と最も多く、次いで「5～9日／年」が27.7%であった。10日以上利用している割合は67.1%であった（図Ⅱ-9-3）。有給休暇の取得義務である「5日以上」の取得率は95%であった（図Ⅱ-9-4）。



図Ⅱ-9-2 年次有給休暇利用

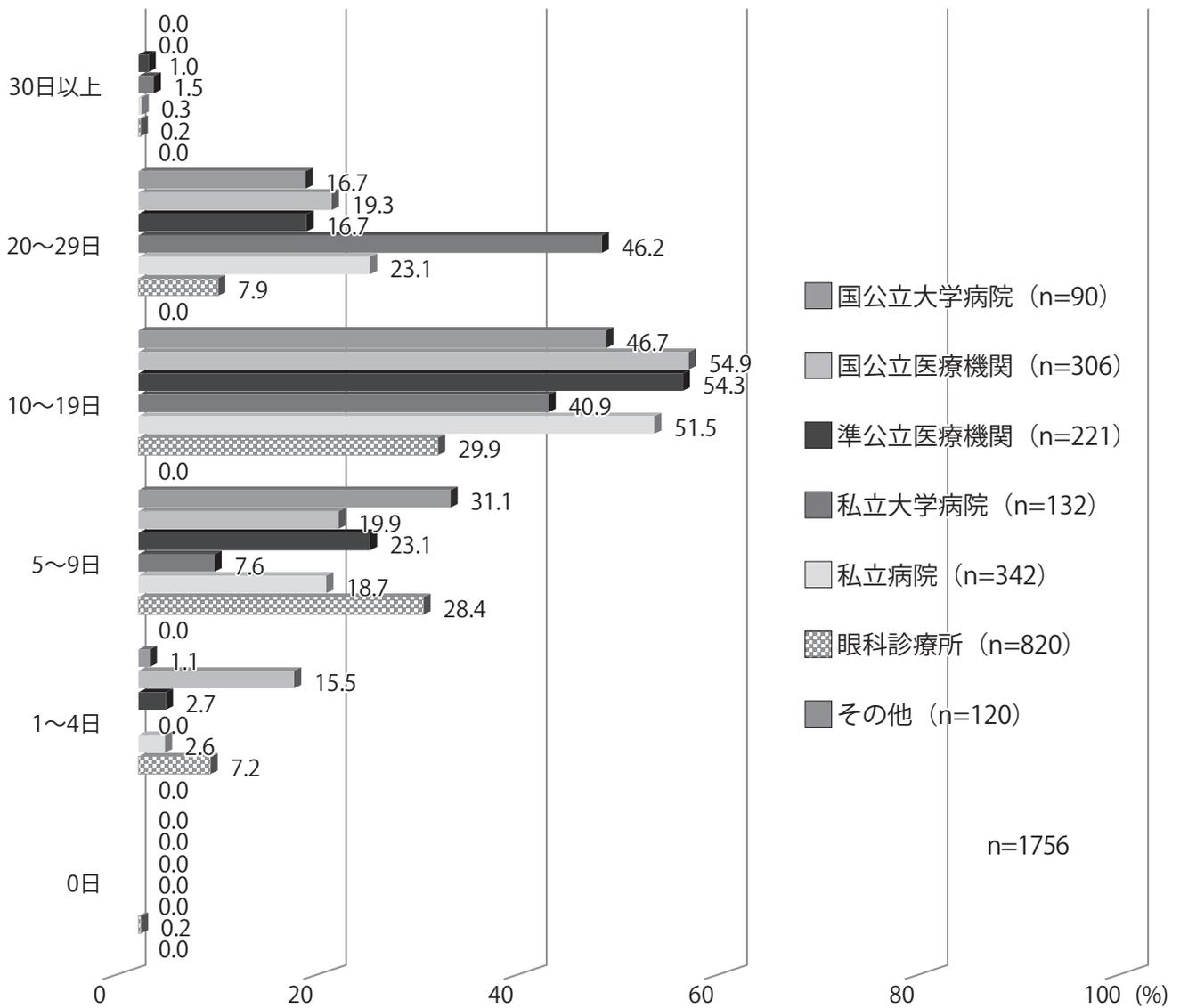


図Ⅱ-9-3 1年間の平均年次有給休暇利用日数



図Ⅱ-9-4 有給休暇の取得義務である5日以上の取得率

勤務施設別にみた年間有給休暇の利用日数では、多くの施設で「年間10～19日」が最も多かった。私立大学病院は「年間20～29日」が46.2%と最も多かった（図Ⅱ-9-5）。

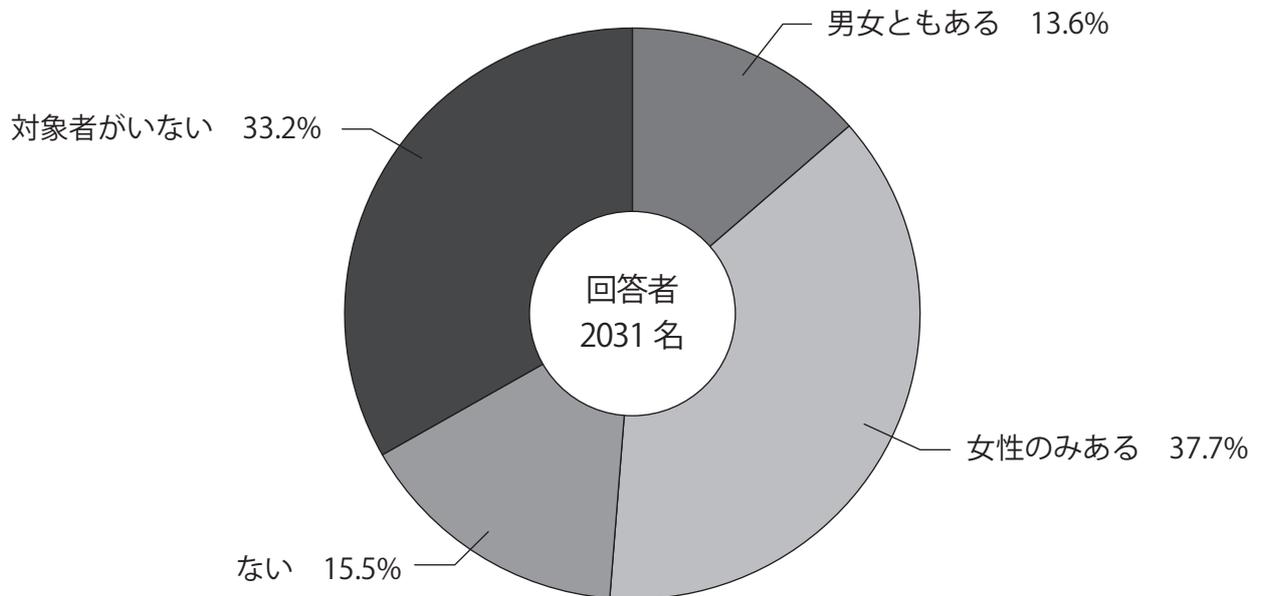


図Ⅱ-9-5 勤務施設別の1年間の年次有給休暇の利用日数

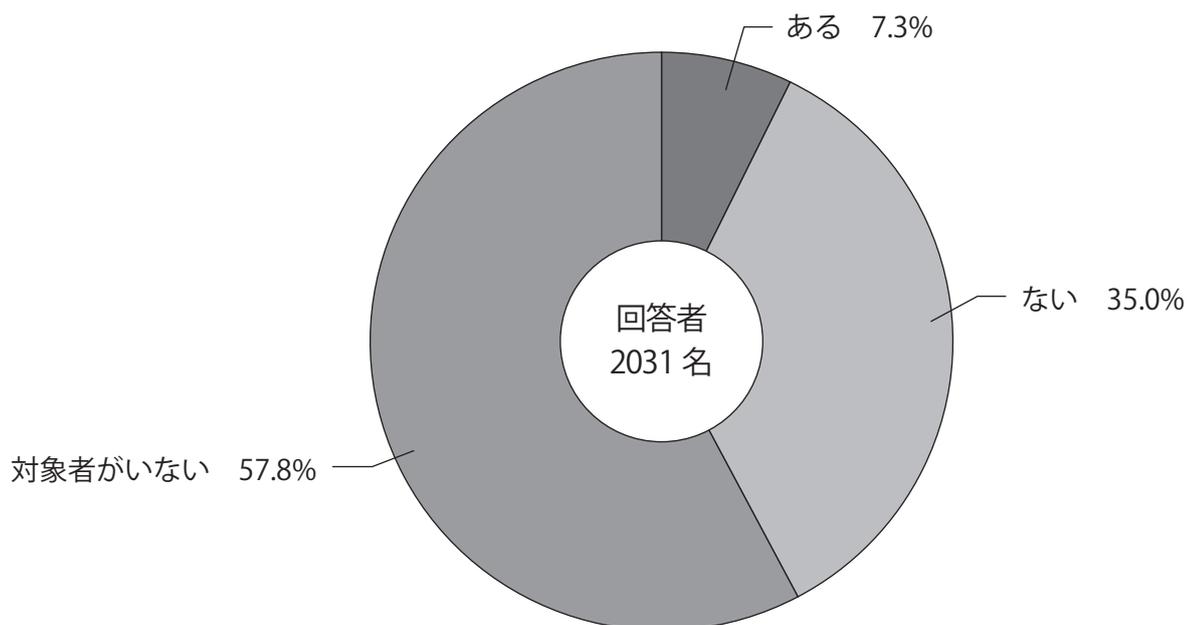
10. 育児休業および介護休業制度

育児休業制度について、現在勤務している職場における視能訓練士の過去5年間の利用実績は、「男女ともある」が13.6%、「女性のみある」が37.7%、「ない」が15.5%であった（図Ⅱ-10-1）。

また、平成21年の法改正にて介護休業制度が新たに創設されたが、視能訓練士の過去5年間の利用実績は、「ある」が7.3%、「ない」が35%であった。「対象者がいない」が57.8%であった（図Ⅱ-10-2）。



図Ⅱ-10-1 過去5年間の育児休業制度利用実績

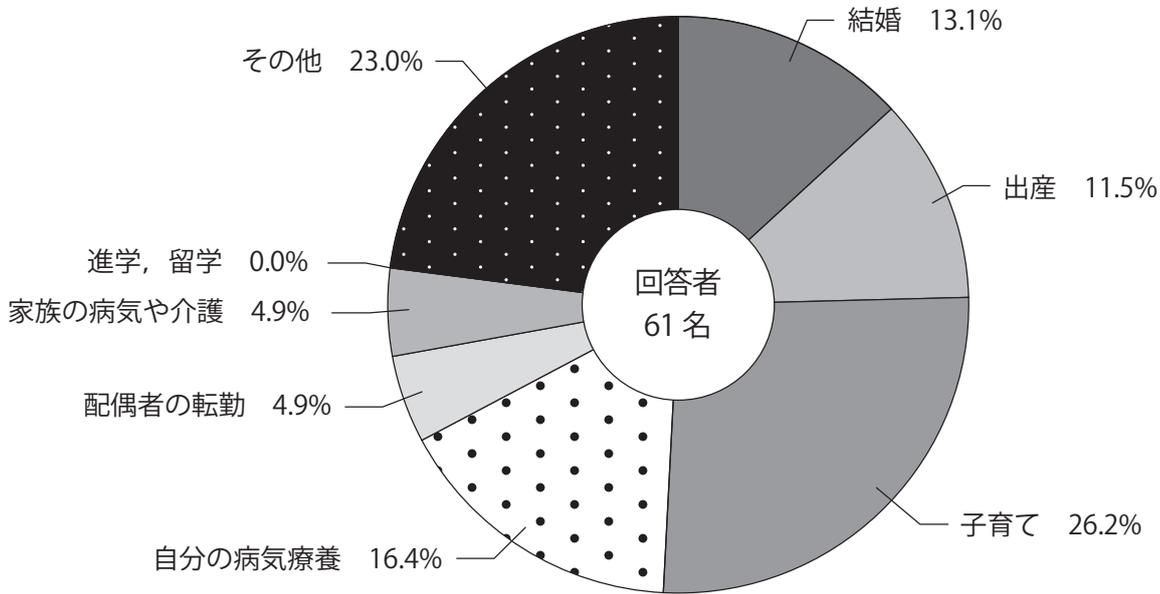


図Ⅱ-10-2 過去5年間の介護休業制度利用実績

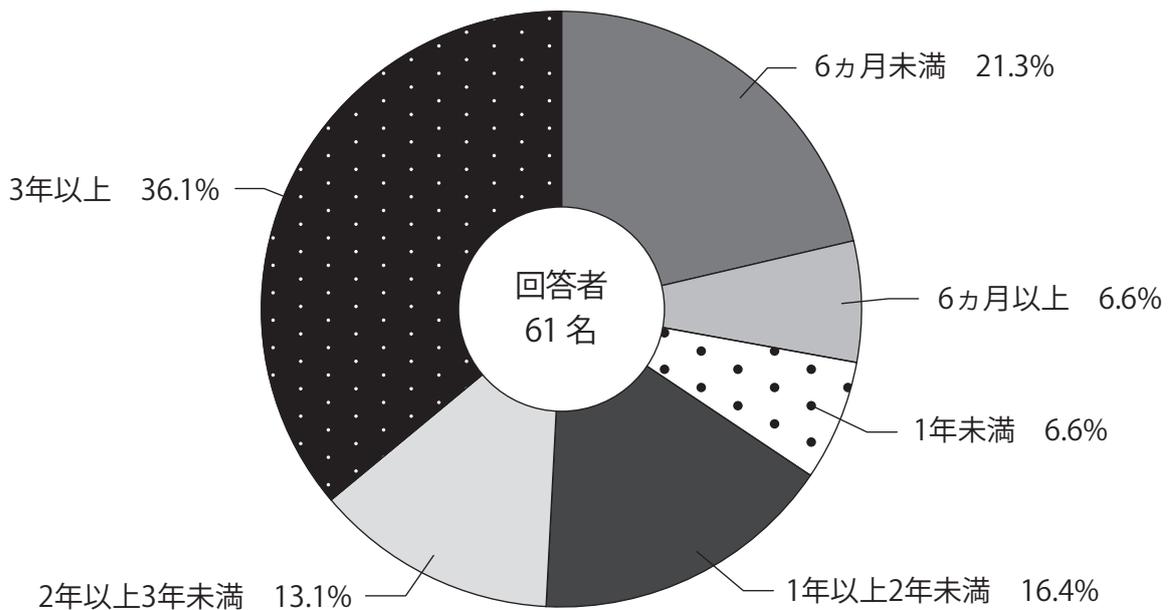
11. 離職・休職

離職・休職では新たに項目を設けた。離職・休職した理由で最も多かったのは「子育て」で26.2%、次いで「自分の病気療養」が16.4%、「結婚」が13.1%の順であった（図Ⅱ-11-1）。

離職・休職の期間は「3年以上」が36.1%で最も多かった（図Ⅱ-11-2）。

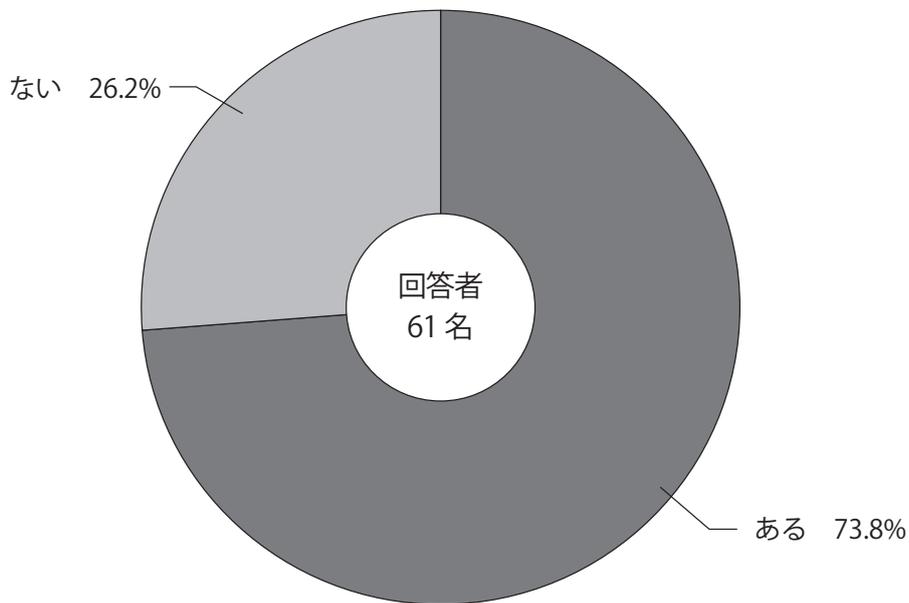


図Ⅱ-11-1 離職・休職した理由

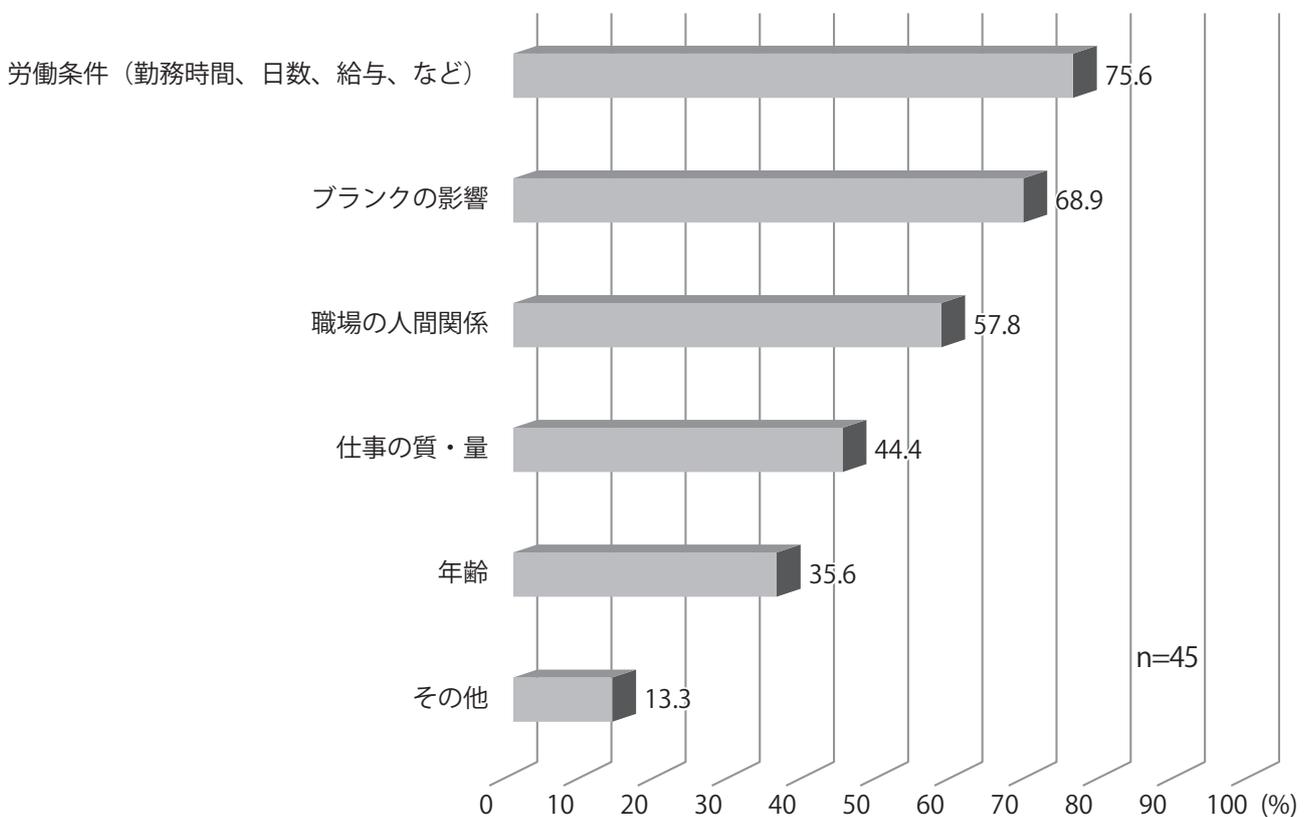


図Ⅱ-11-2 離職・休職している期間

再就職・復職の意思は73.8%が「ある」と回答したが（図Ⅱ-11-3）、その半数以上が「労働条件」、
「ブランクの影響」、 「職場の人間関係」に不安を抱いていた（図Ⅱ-11-4）。



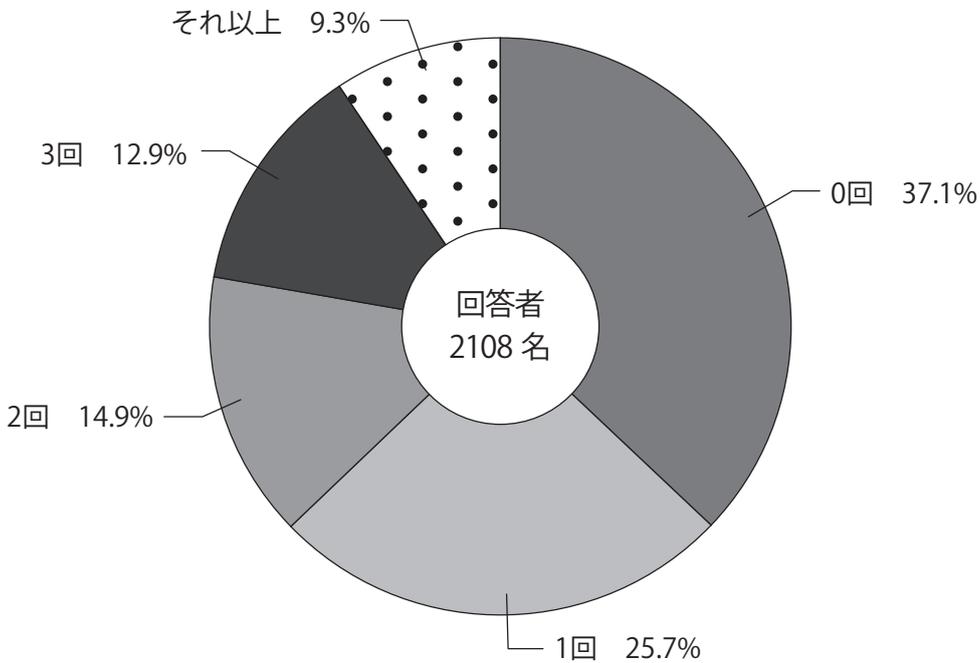
図Ⅱ-11-3 再就職・復職の意思



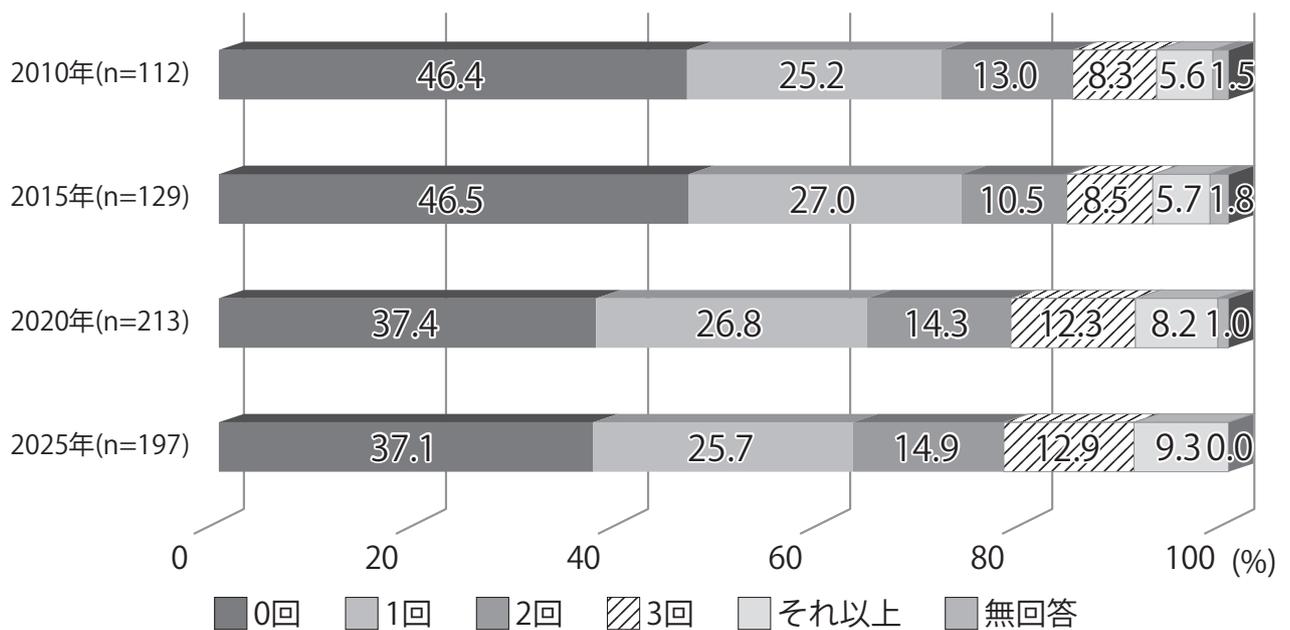
図Ⅱ-11-4 再就職・復職に対して不安なこと（複数回答）

12. 転職

視能訓練士になってから職場を変えた回数は「1回」が25.7%、「2回」が14.9%、「3回」が12.9%、「それ以上」が9.3%であり、約6割が一度は転職していた。2020年の調査結果と比べ大きな変化はなかった（図Ⅱ-12-1、図Ⅱ-12-2）。



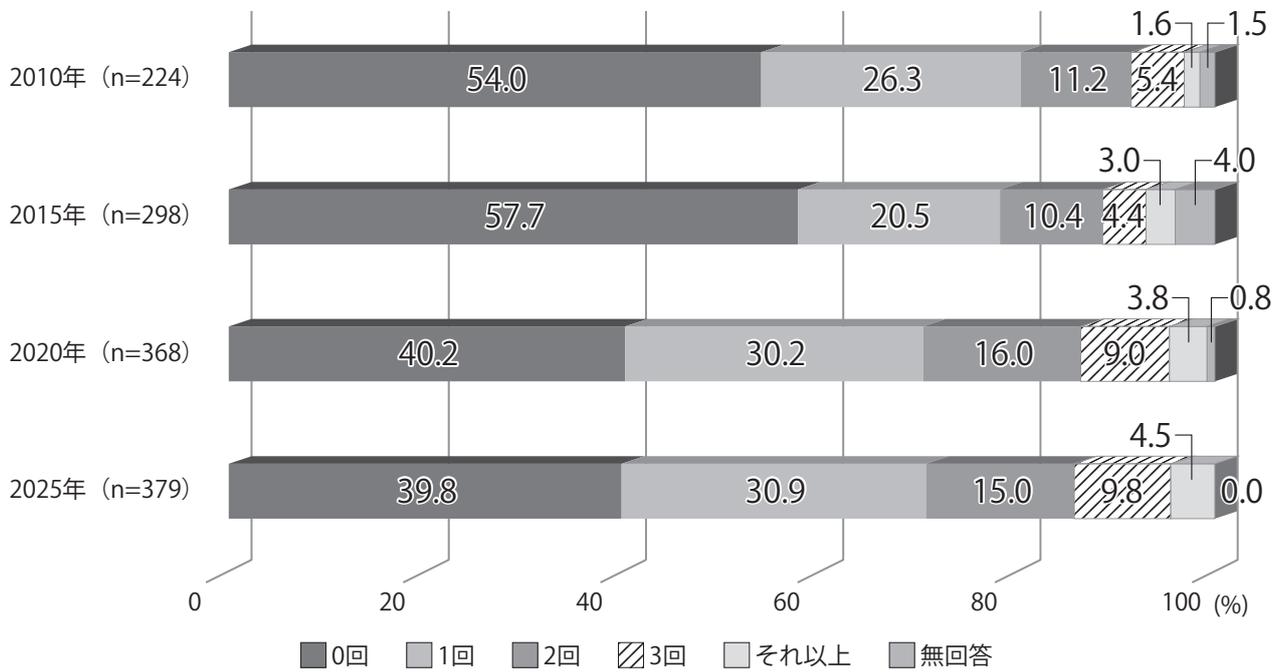
図Ⅱ-12-1 転職回数



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

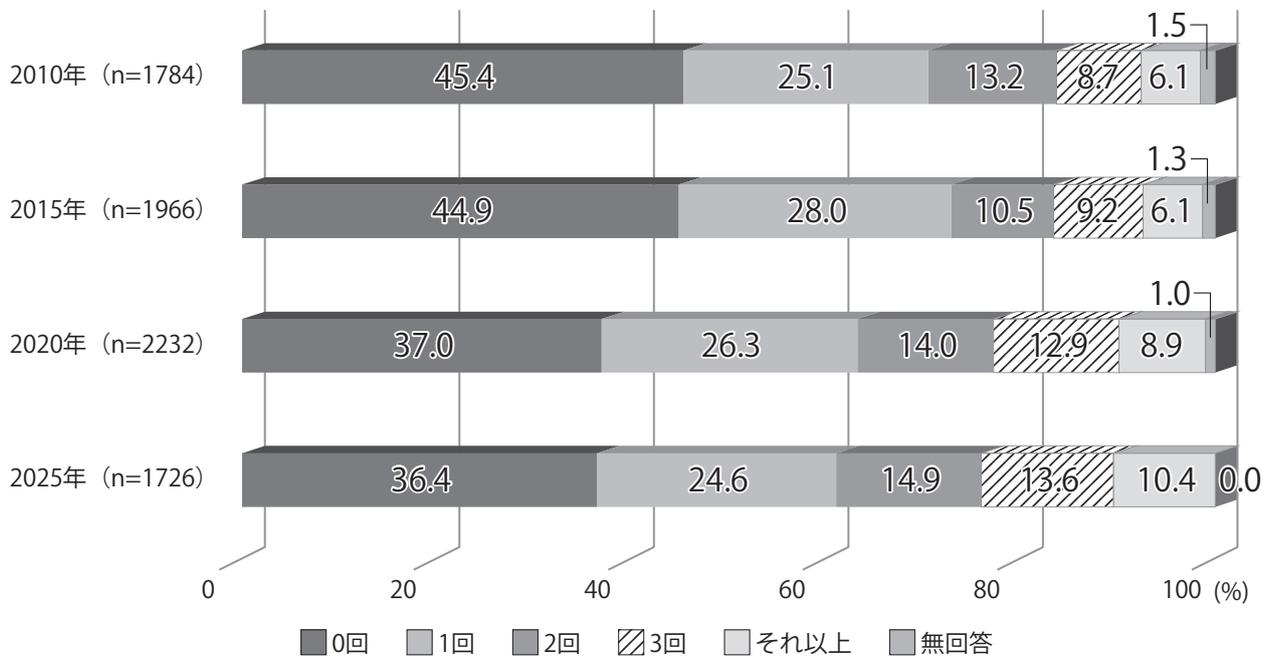
図Ⅱ-12-2 年度別の転職回数

性別でみると「1回」の転職は男性が女性に比べ6ポイント多く、「3回」の転職は女性の方が約4ポイント多かった。「それ以上」の転職も女性が6ポイント多かった。(図Ⅱ-12-3, 図Ⅱ-12-4)。



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図Ⅱ-12-3 男性の転職回数

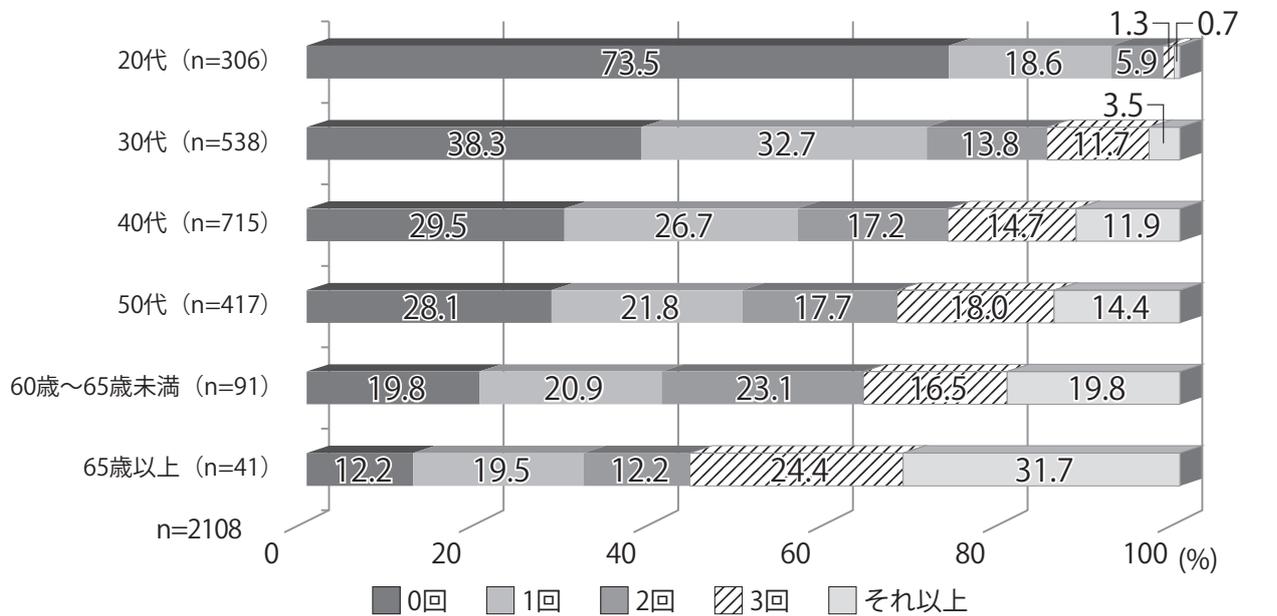


※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図Ⅱ-12-4 女性の転職回数

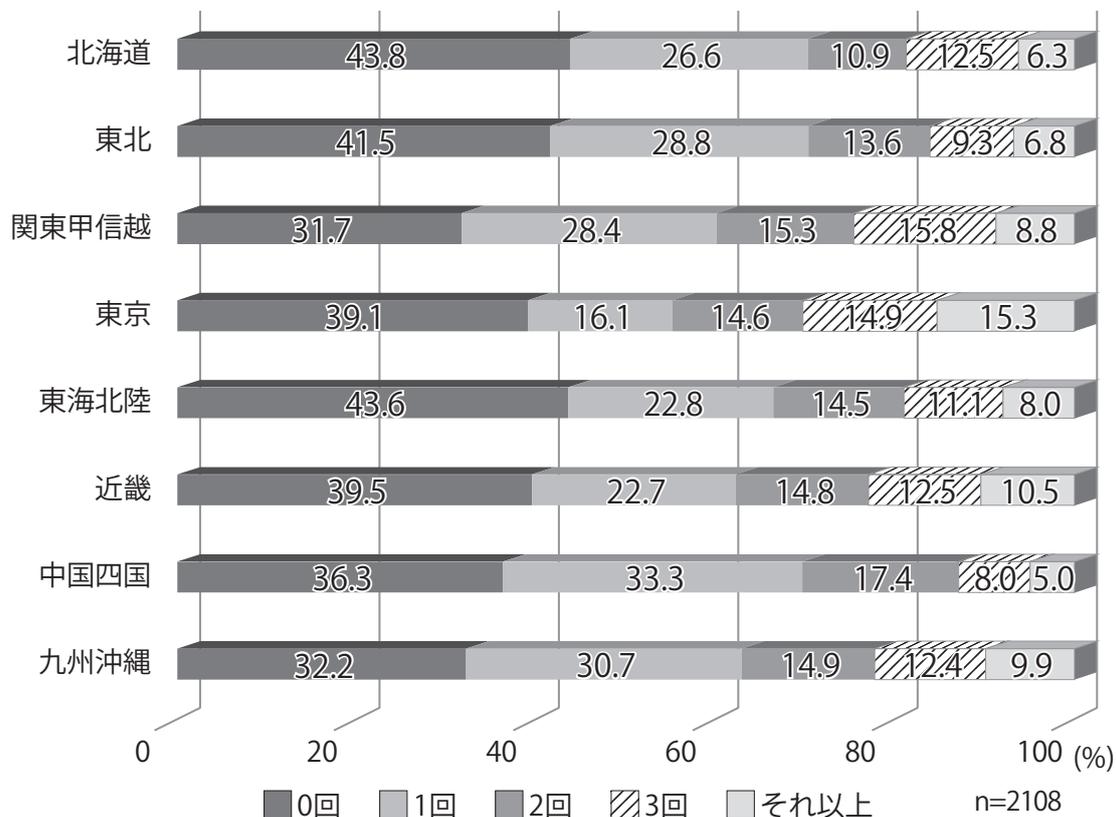
年代別では、年齢が上がるにつれて転職回数も増える傾向がみられ、30代以上では約半数が1回以上の転職を経験していた。65歳以上では「0回」が12.2%と少なく、「3回以上」が半数を超えていた（図Ⅱ-12-5）。

地域別にみると、「北海道」「東北」「東海北陸」では「0回」の割合が40%を超えていた。「1回」以上の転職が多いのは、「関東甲信越」「九州沖縄」「中四国」の順であった（図Ⅱ-12-6）。



図Ⅱ-12-5 年代別の転職回数

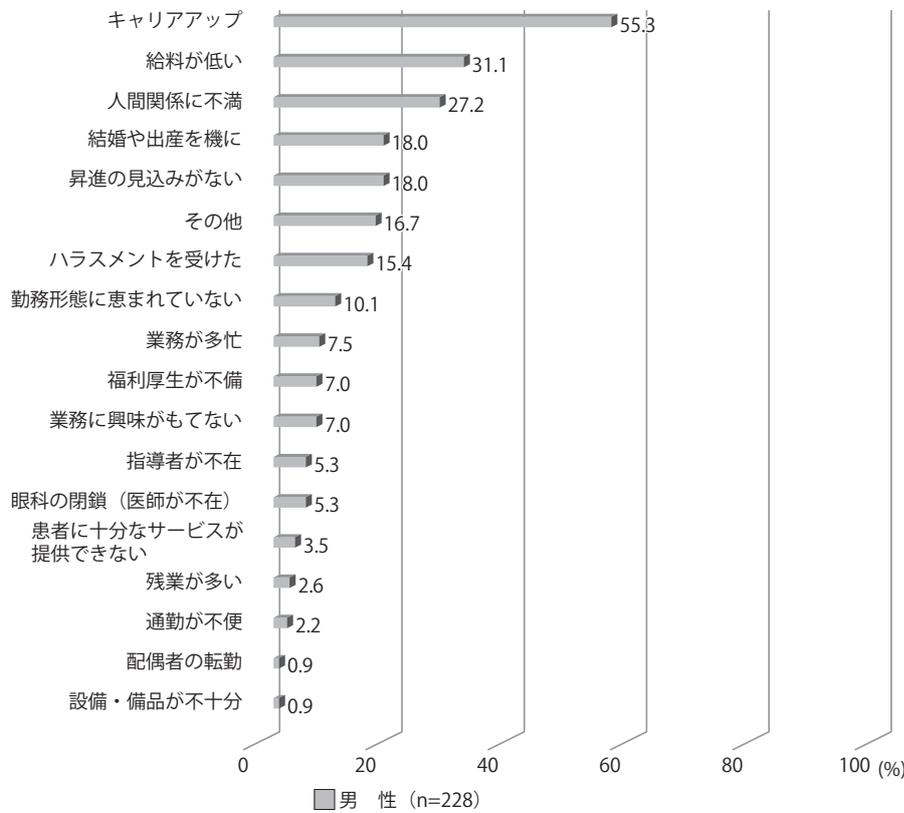
※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。



図Ⅱ-12-6 勤務地別の転職回数

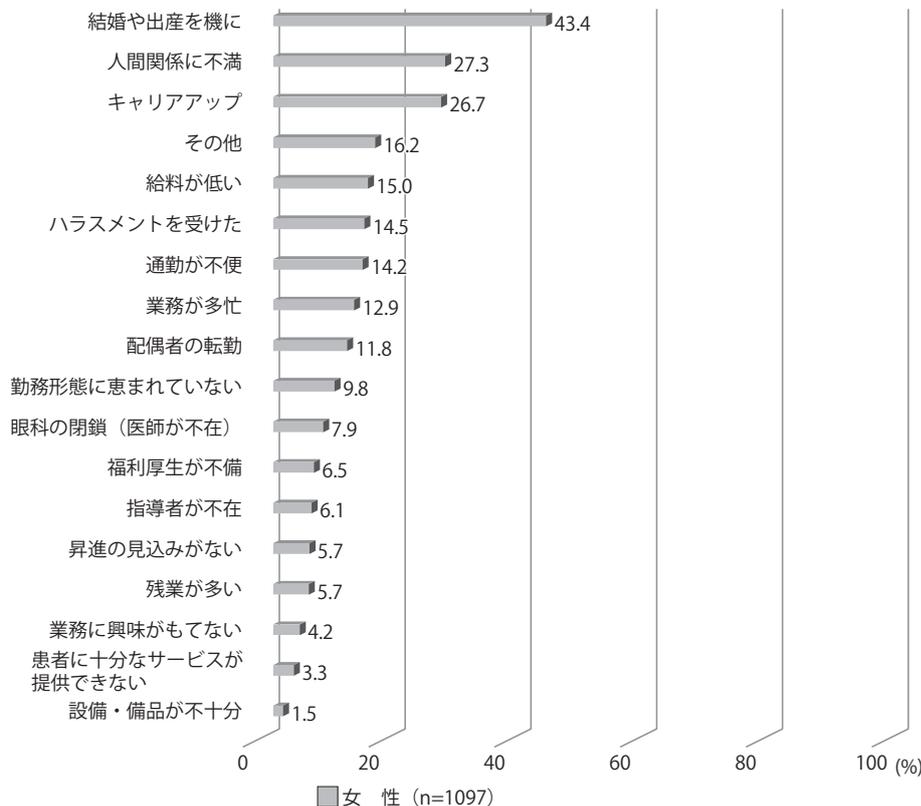
※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

転職理由については、男性では「キャリアアップ」が55.3%と最も多く、次いで「給料が低い」が31.1%、「人間関係に不満」27.2%とあった（図Ⅱ-12-7）。女性では「結婚や出産を機に」が43.4%で最も多く、次いで「人間関係に不満」27.3%、「キャリアアップ」26.7%であった（図Ⅱ-12-8）。



図Ⅱ-12-7 男性の転職理由（複数回答）

※「その他」の方の理由
 「人間関係に不満」
 「業務が忙しい」
 「残業が多い」
 「ハラスメントを受けた」
 「給料が低い」
 「昇進の見込みがない」
 「勤務形態に恵まれない」



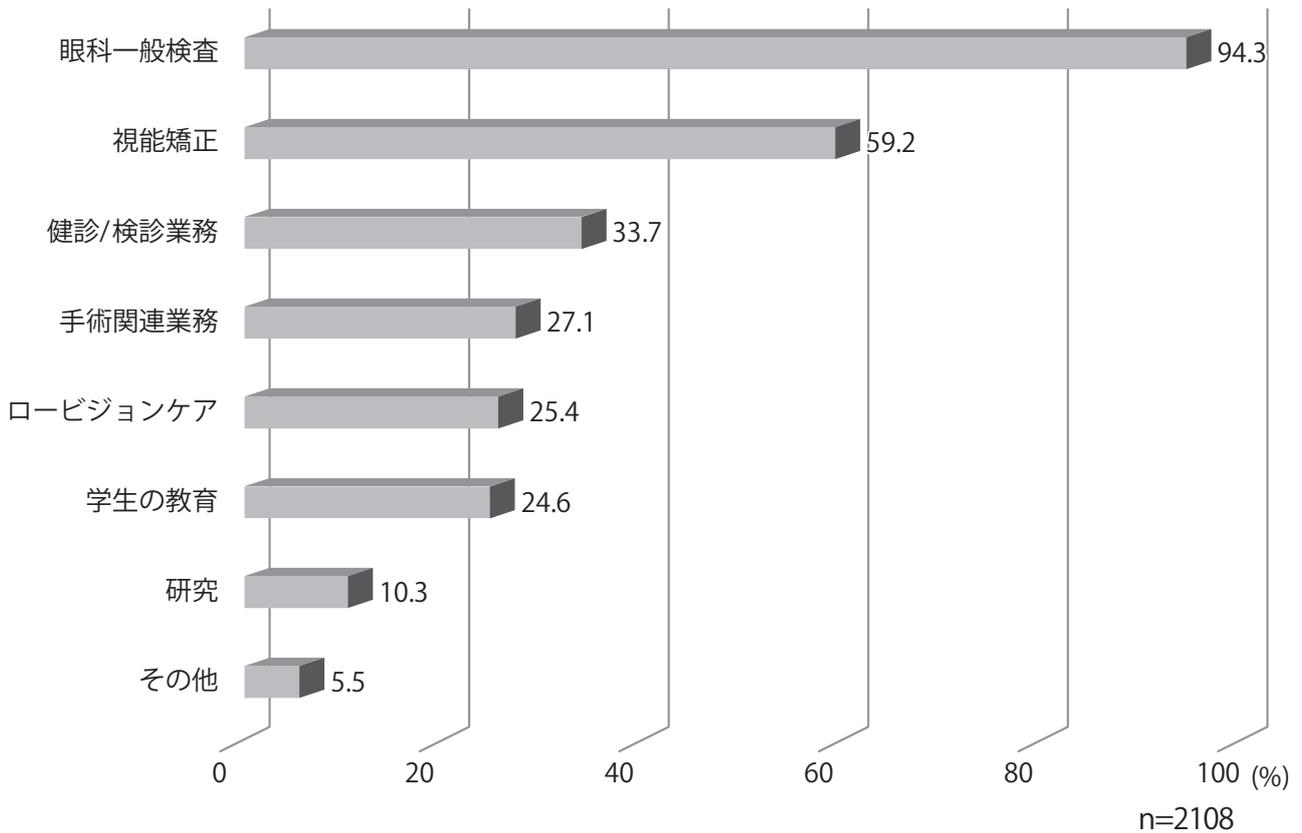
図Ⅱ-12-8 女性の転職理由（複数回答）

Ⅲ. 勤務状況

1. 業務概要

従事している主な業務は「眼科一般検査」が94.3%と最も多かった。次いで「視能矯正」59.2%、「検診業務」33.7%、「ロービジョンケア」25.4%、「学生の教育」24.6%であった。

今回の調査で新たに追加した、「手術関連業務」は27.1%で、「ロービジョンケア」よりも従事している割合が多かった。また、「研究」は約10.3%あった（図Ⅲ-1）。



図Ⅲ-1 従事している主な業務（複数回答）

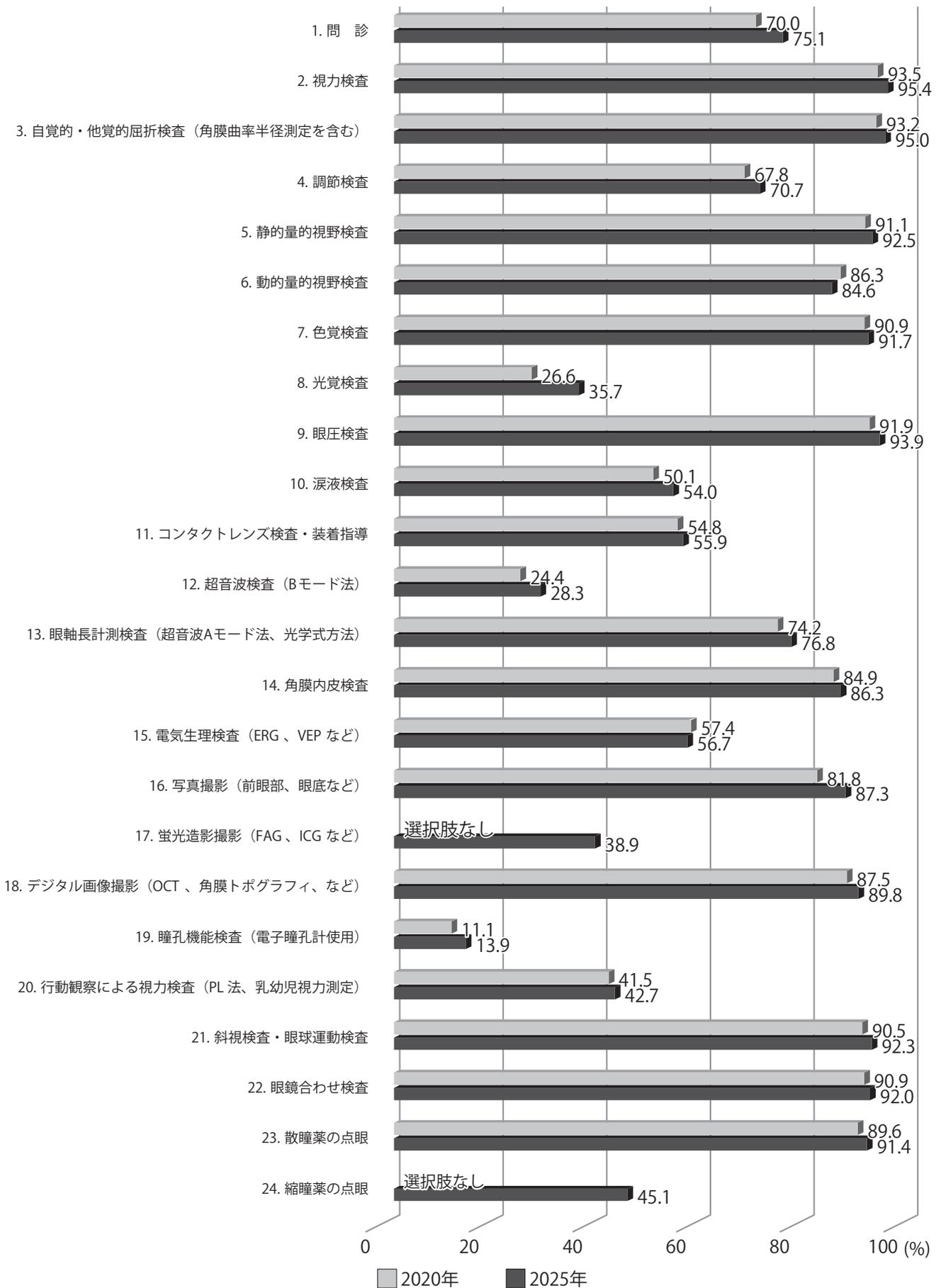
2. 業務内容

2020年の調査と比較して、5ポイント以上の増加がみられた項目は以下の通りである。

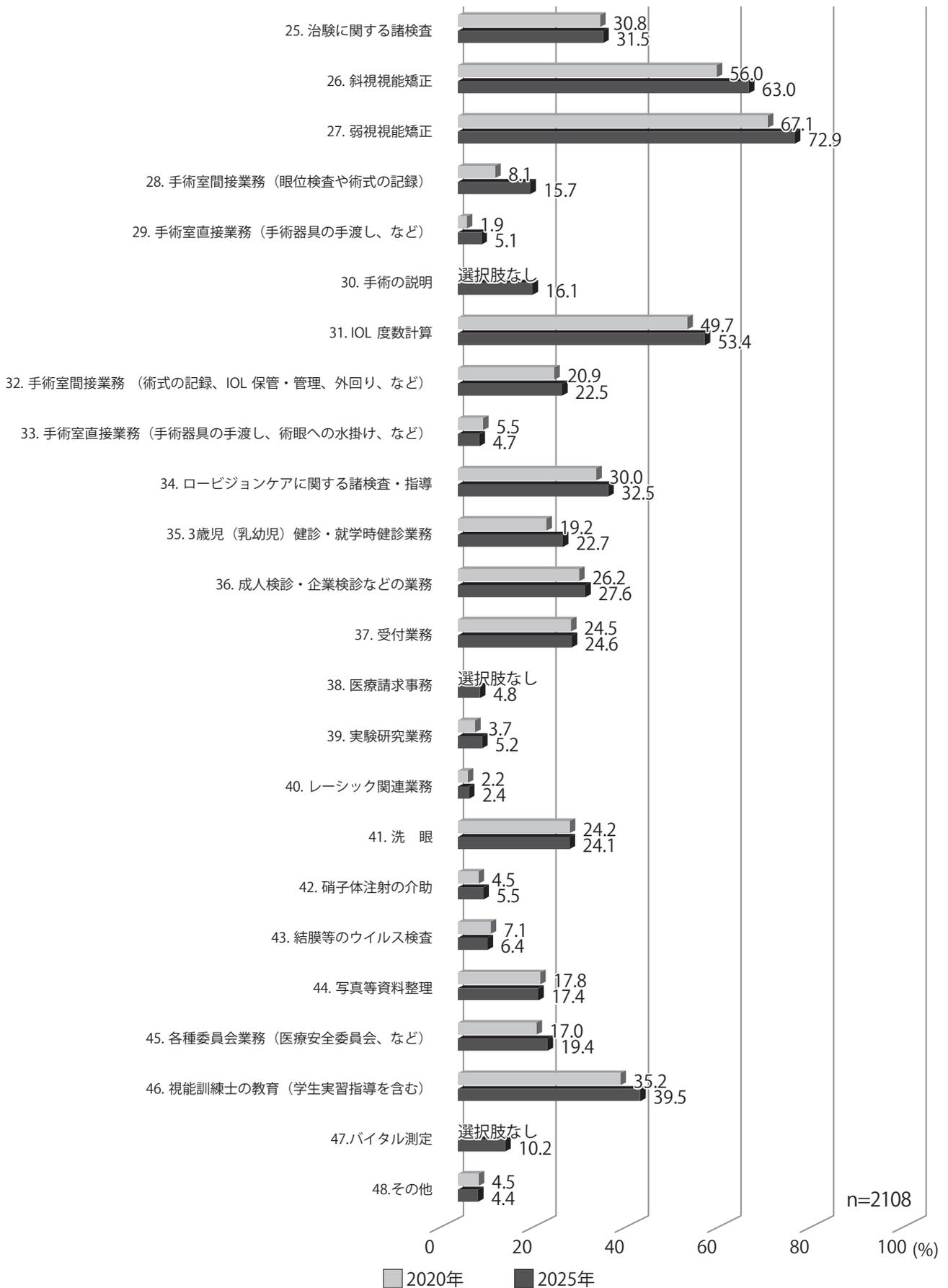
「問診」が約5ポイント、「光覚検査」が約10ポイント、「写真撮影（前眼部・眼底など）」が約5ポイント、「斜視視能矯正」が約7ポイント、「弱視視能矯正」が約5ポイント、斜視関連の「手術室間接業務（眼位検査や術式の記載）」が約7ポイントであった。全体的としては、47項目中41項目で増加がみられた。

今回の調査で新たに「蛍光造影撮影（FAG, ICGなど）」「縮瞳薬の点眼」、白内障関連の「手術の説明」、医療請求事務、「バイタル測定」を追加した。その結果、それぞれの実施割合は、蛍光造影撮影（FAG, ICGなど）が38.9%、「縮瞳薬の点眼」が45.1%、白内障手術関連の「手術の説明」が16.1%、「医療請求事務」が4.8%、「バイタル測定」が10.2%であった。

一方、前回調査から5ポイント以上減少した項目はなかった。最も減少幅が大きかったのは「動的量的視野検査」で1.7ポイントの減少であった（図Ⅲ-2）。



図Ⅲ-2 従事している業務内容 (複数回答)



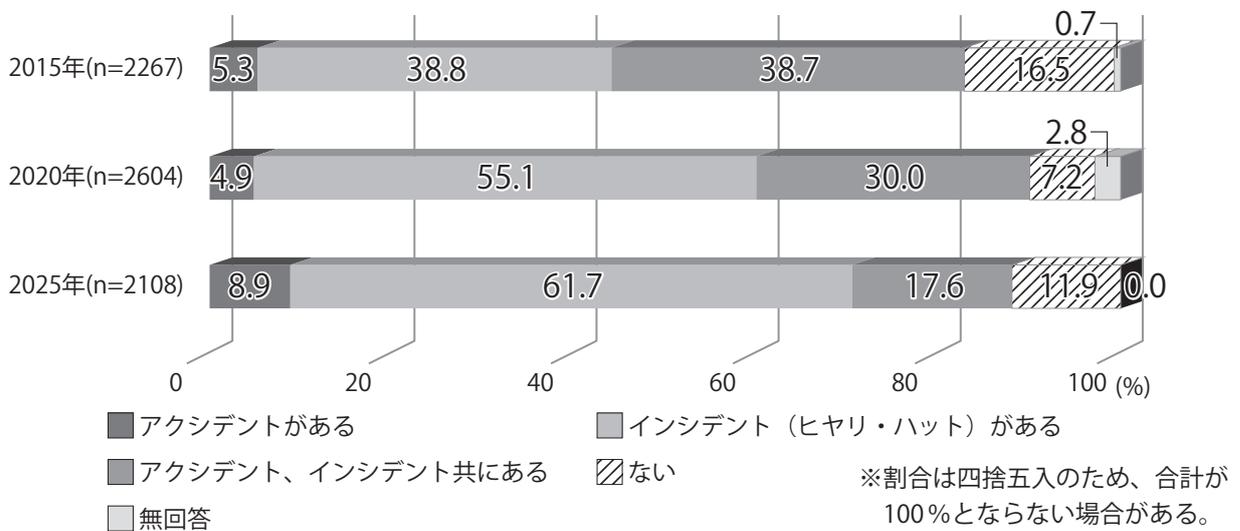
図Ⅲ-2 従事している業務内容 (複数回答)

※注意：本アンケートは視能訓練士の業務内容の実態を把握するために実施しております。業務の把握を目的としており、ここに掲げられた業務すべてが現在、適法と評価されるものではありません。

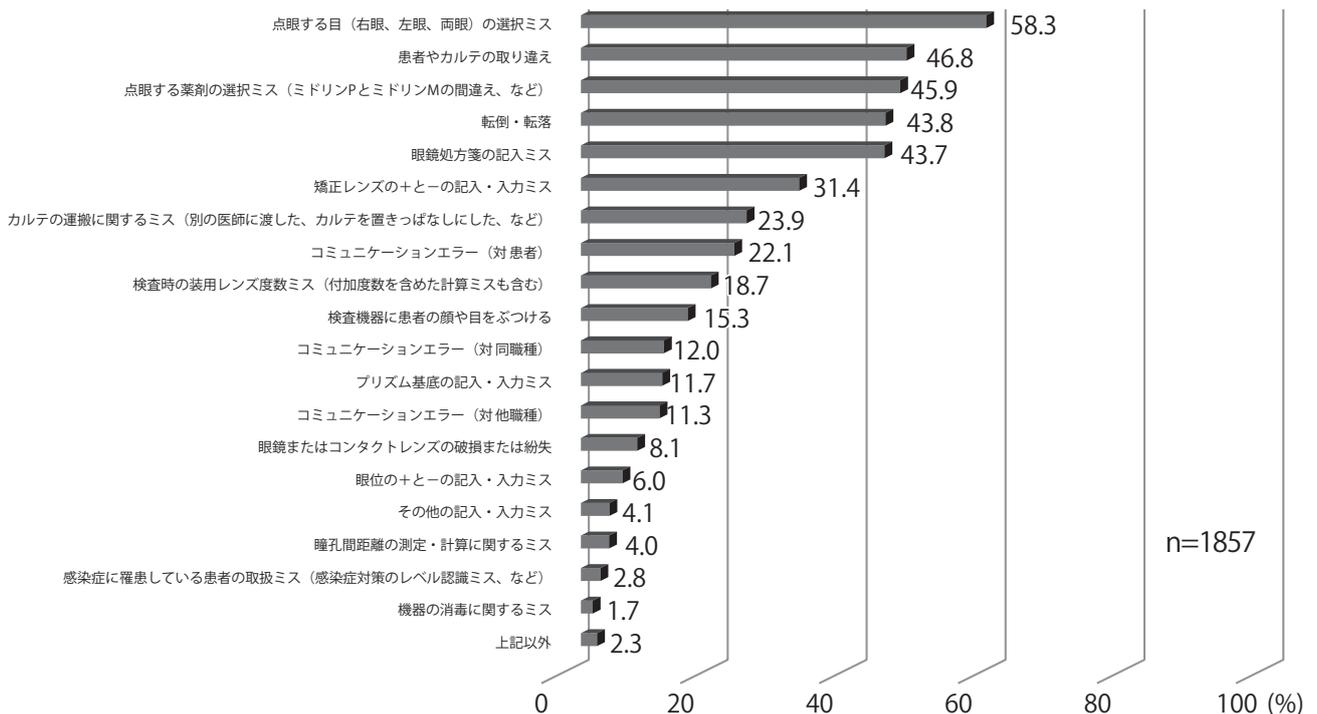
3. 医療事故

全体の9割がこれまでの業務において何らかのインシデントまたはアクシデントを経験したと回答した。その内訳は「インシデントがある」が最も多く61.7%、次いで「アクシデント、インシデント共にある」が17.6%、「アクシデントがある」が8.9%であった。2020年と比較すると、「インシデント単独」、「アクシデント単独」はいずれも増加傾向を示した。一方で、「アクシデント・インシデント共にある」は約半分に減少した（図Ⅲ-3-1）。

インシデントやアクシデントの内容として最も多かったのは、「点眼する眼の選択ミス」で58.3%、次いで「患者やカルテの取り違え」46.8%、「点眼する薬剤の選択ミス」45.9%、「転倒・転落」43.8%、「眼鏡処方箋の記入ミス」43.7%、「矯正レンズの+と-の記入・入力ミス」31.4%であった（図Ⅲ-3-2）。



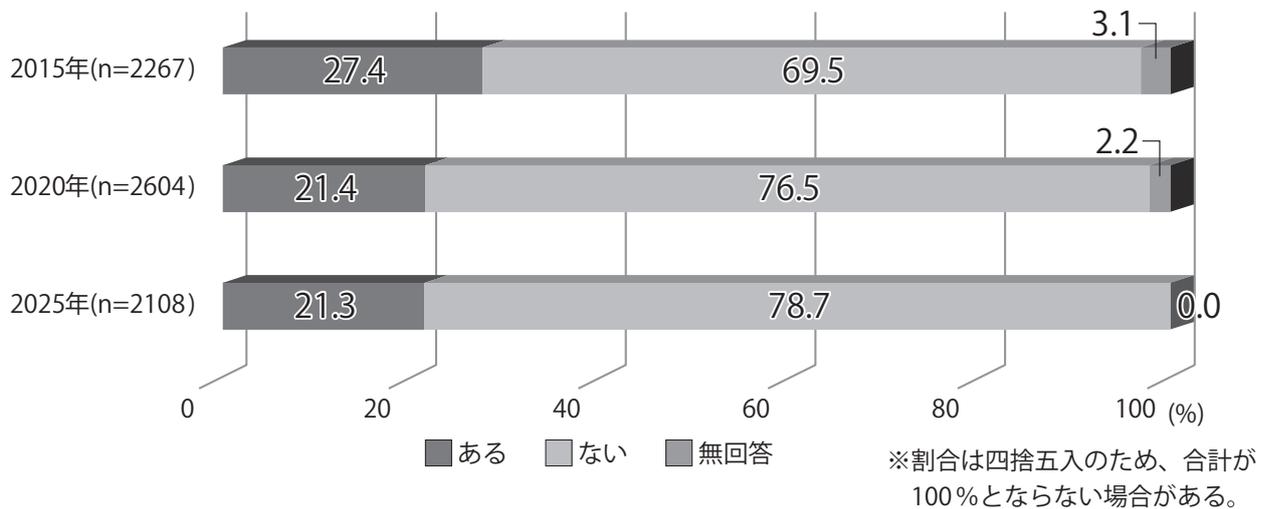
図Ⅲ-3-1 アクシデント、インシデント（ヒヤリ・ハット）の有無



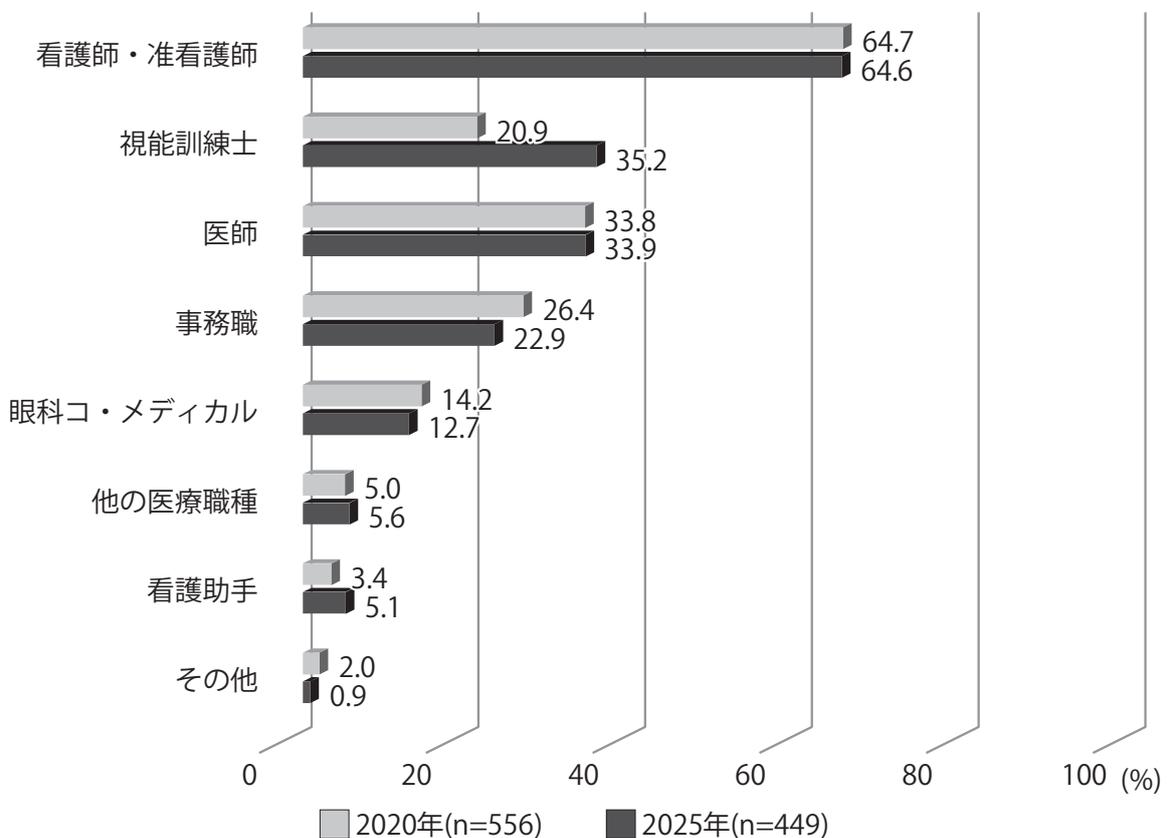
図Ⅲ-3-2 該当するインシデント・アクシデント（複数回答）

4. 他の医療関連職種とのトラブル

他の医療関連職種とのトラブルが「ある」と回答した割合は21.3%で、2020年から大きな変化はなかった（図Ⅲ-4-1）。トラブルの相手職種として挙げられたのは、「看護師・准看護師」64.6%、「視能訓練士」35.2%、「医師」33.9%、「事務職」22.9%であった。特に「視能訓練士」とのトラブルは、2020年と比べて約15ポイント増加していた（図Ⅲ-4-2）。



図Ⅲ-4-1 他の医療関連職種とのトラブル

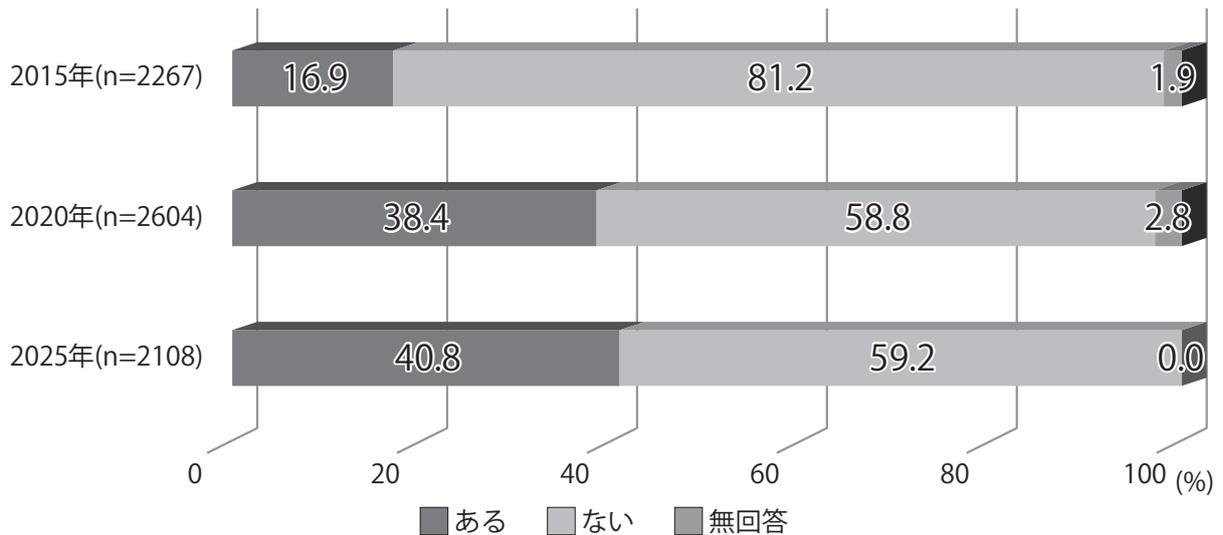


図Ⅲ-4-2 トラブルがあった医療関連職種（複数回答）

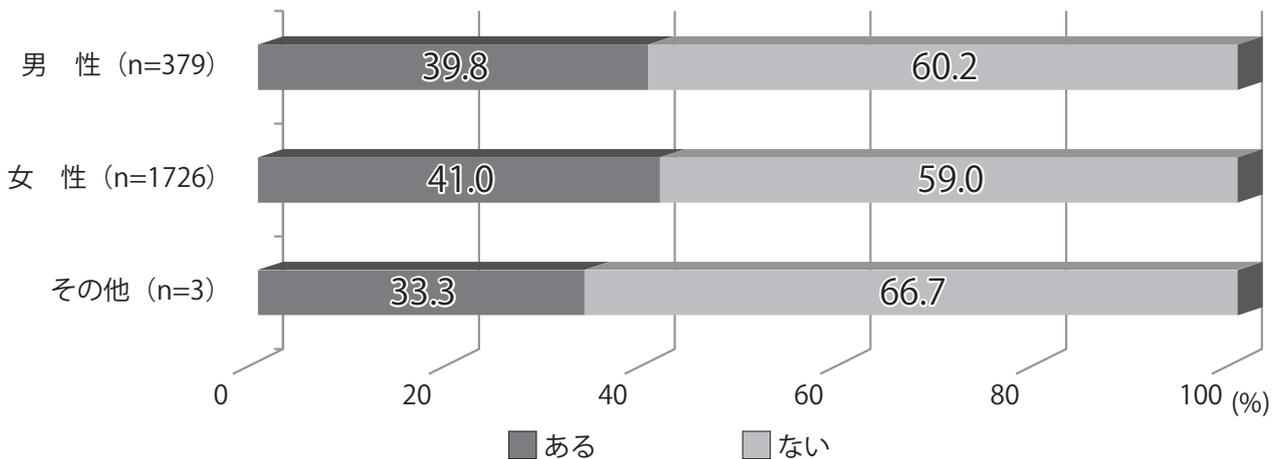
5. ハラスメント

今回の調査では、新たに「モラルハラスメント」と「ジェンダーハラスメント」を追加した。ハラスメントを受けた経験が「ある」と回答した方は40.8%で、2020年と同程度であった（図Ⅲ-5-1）。ハラスメント経験の有無に男女差はなかった（図Ⅲ-5-2）。

経験したハラスメントの内容としては、男女ともに最も多かったが「パワーハラスメント」で86.2%を占め、次いで新設項目の「モラルハラスメント」が28.4%であった。

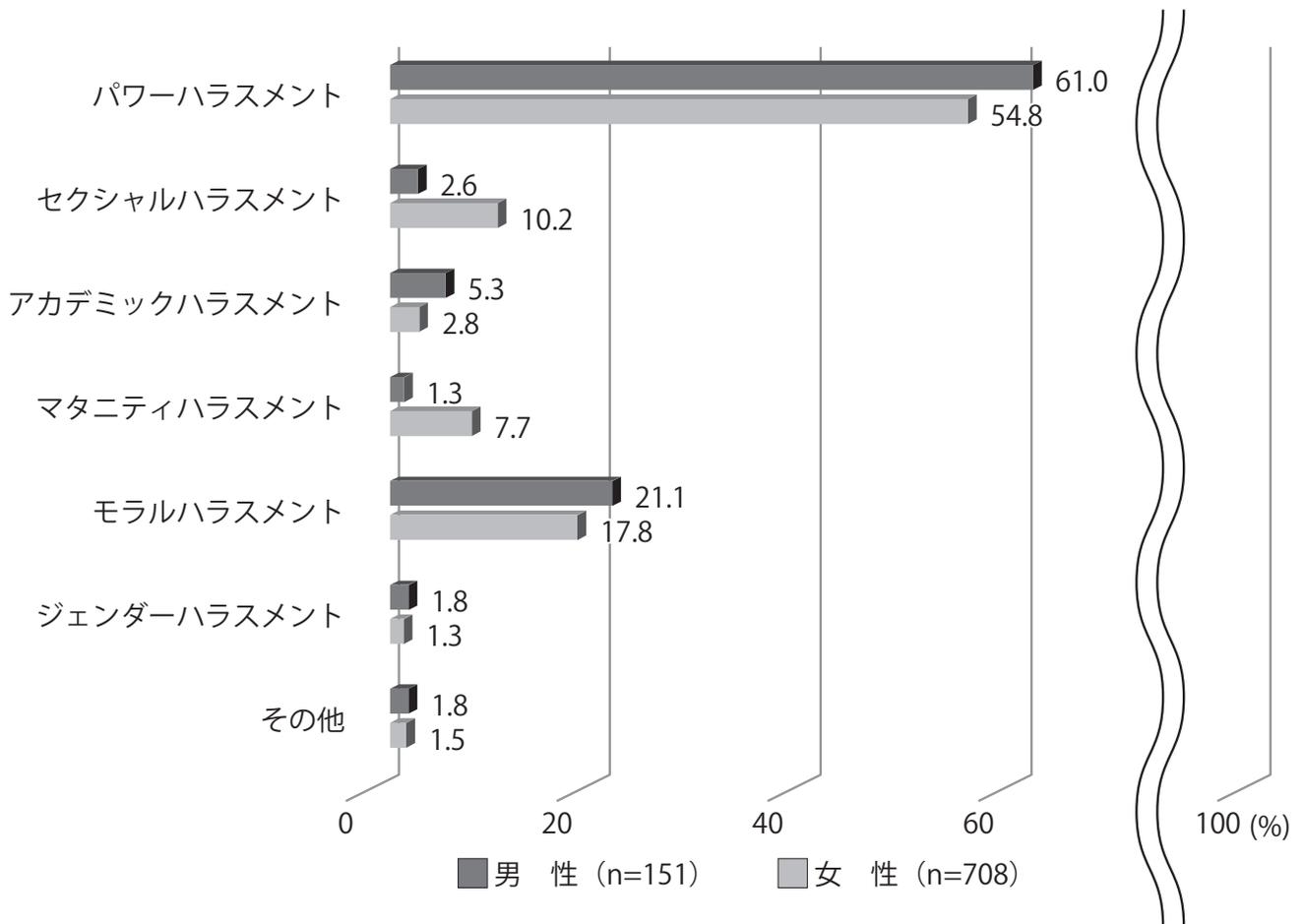


図Ⅲ-5-1 ハラスメントを受けた経験



図Ⅲ-5-2 性別ごとのハラスメントの経験

「セクシュアルハラスメント」については、女性の割合が男性よりも約8%多かった（図Ⅲ-5-3）。また、「その他」として多く挙げられたのは、患者からの暴言による「ペイシエントハラスメント」であった。

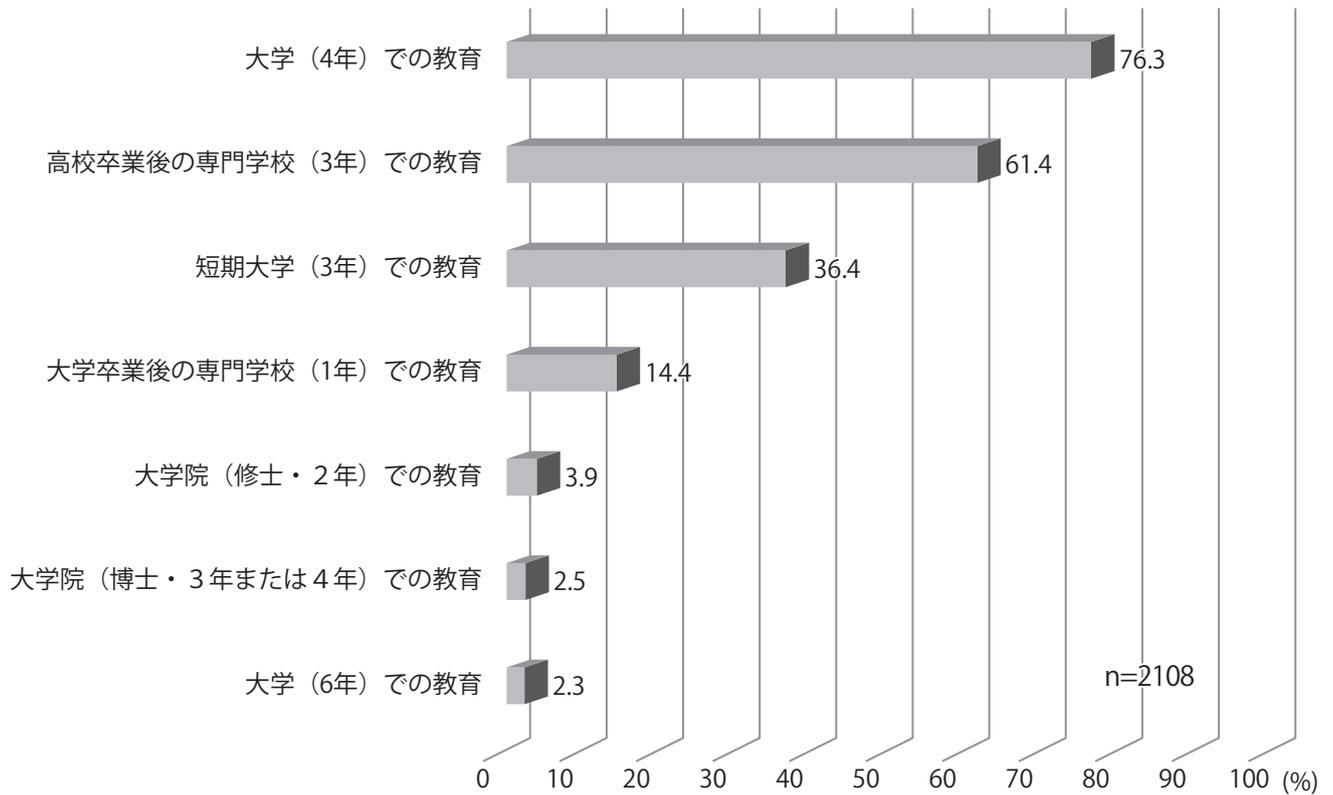


図Ⅲ-5-3 性別ごとのハラスメントの経験の種類（複数回答）

IV. 視能訓練士の養成

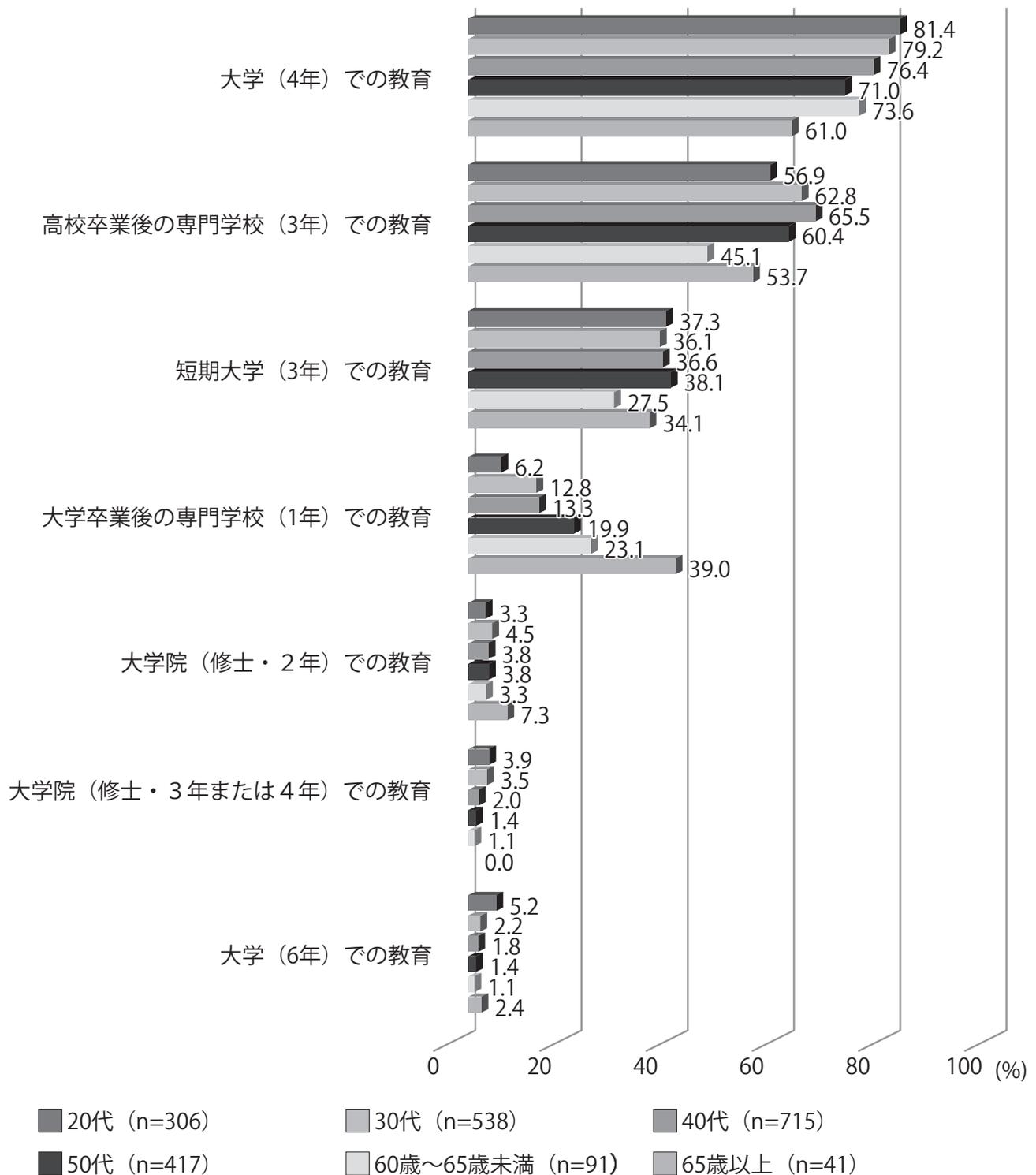
1. 修業機関

視能訓練士の養成に適した修業機関は、「大学（4年）での教育」が76.3%と最も多く、次いで「高校卒業後の専門学校（3年）での教育」が61.4%であった（図IV-1-1）。



図IV-1-1 養成に適した修業機関（複数回答）

年代別にみると、「大学（4年）での教育」が適していると考える割合は20代が最も高く、30代、40代と年齢が上がるにつれて減少する傾向を示した（図Ⅳ-1-2）。一方で、「大学卒業後の専門学校（1年）での教育」を適しているとする回答は、65歳以上で最も多く、年齢が下がるにつれて減少する傾向がみられた（図Ⅳ-1-2）。

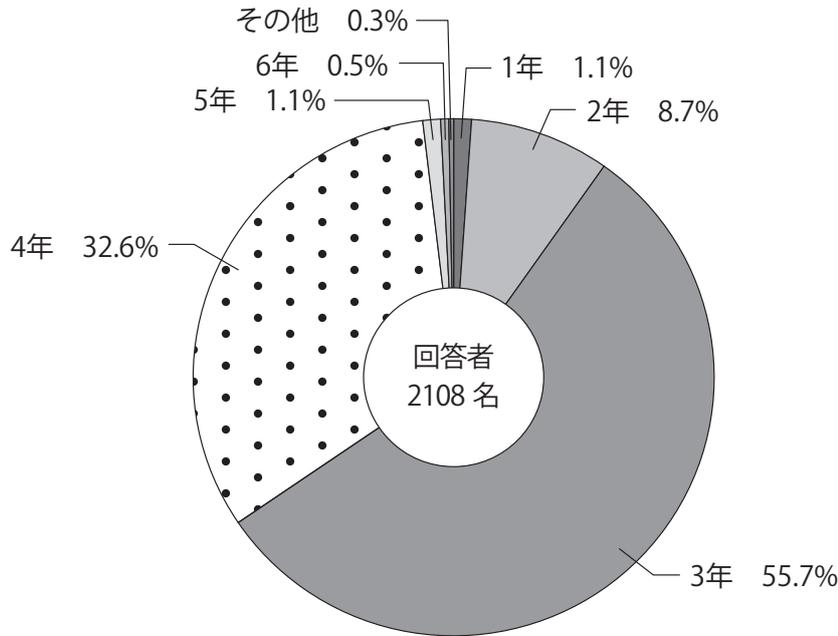


図Ⅳ-1-2 年代別の養成に適した修業機関（複数回答）

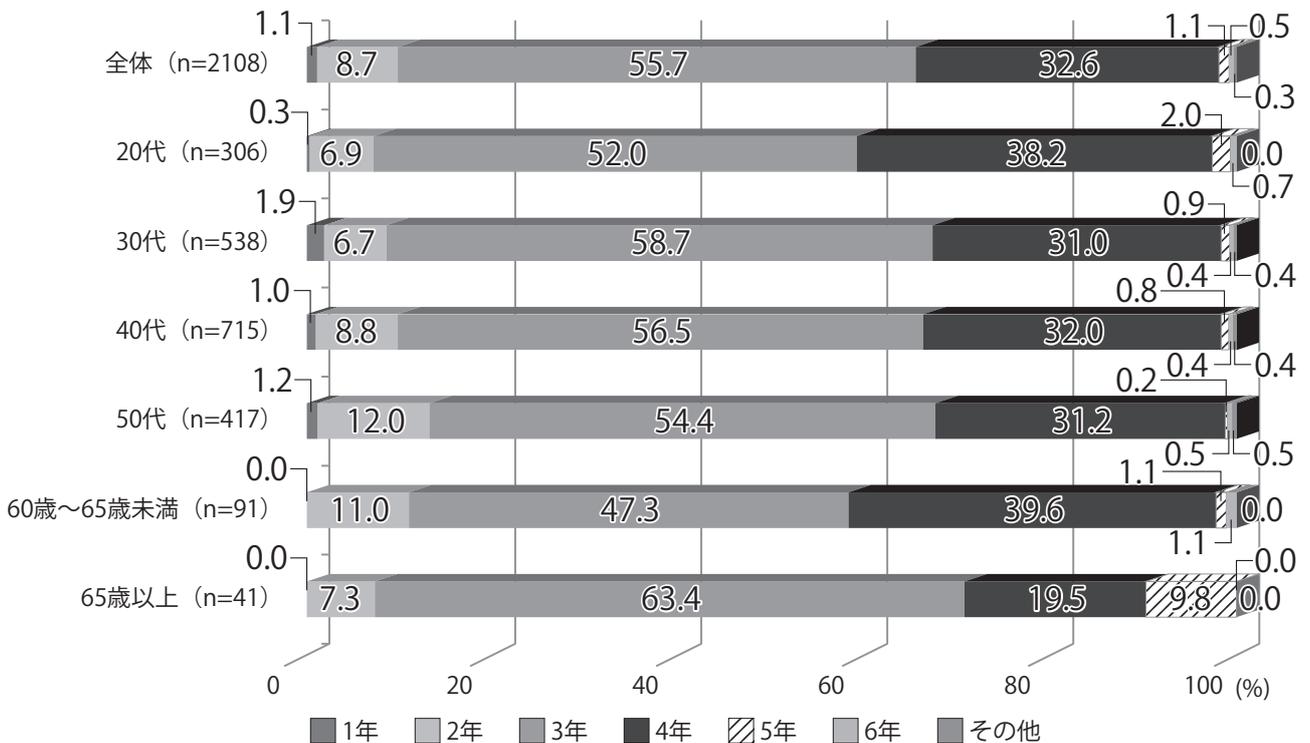
2. 修業年数

視能訓練士の養成に必要な修業年数は、基礎および専門を含めて「3年」と回答した割合が55.7%で最も多く、次いで「4年」が32.6%であった（図IV-2-1）。

また、養成に必要な修業年数を「4年」とする回答は、「20代」および「60～65歳未満」の年代に多い傾向がみられた（図IV-2-2）。



図IV-2-1 基礎および専門の修業年数の理想



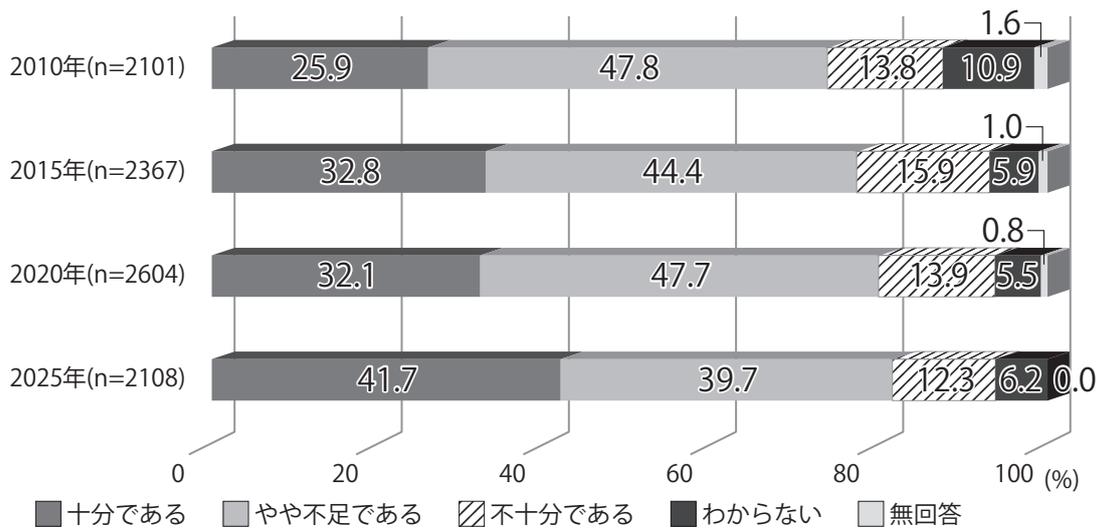
※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図IV-2-2 年代別の基礎および専門の修業年数の理想

3. 修業内容の評価

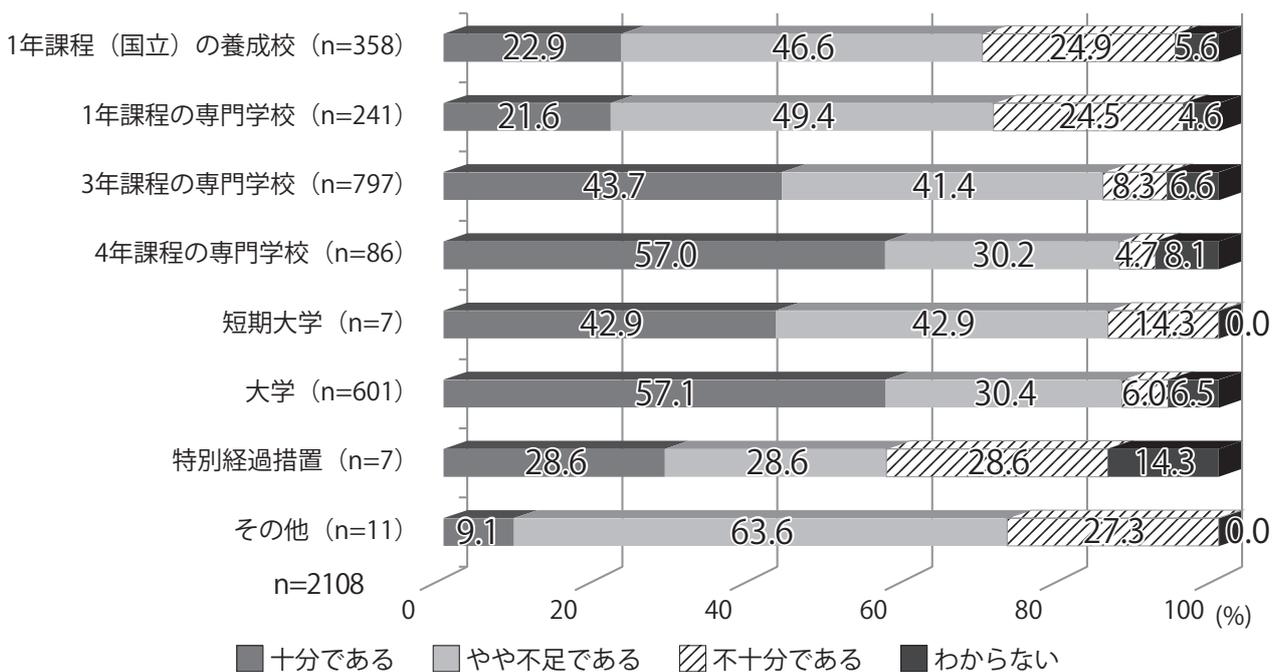
修業内容が「十分である」と回答した割合は調査年度ごとに増加し、今回の調査は41.7%であった。過去の調査では「やや不足である」および「不十分である」がいずれの調査年で6割を超えていたが、今回の調査では6割を下回り、「十分である」が約9ポイント増加した（図IV-3-1）。

また、教育を受けた養成校別にみると、修業年数が4年課程の専門学校および大学では5割以上が「十分である」と回答していた。一方、1年課程の養成校では「十分である」と感じる割合は2割にとどまった（図IV-3-2）。



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図IV-3-1 年度別の教育内容の充実度

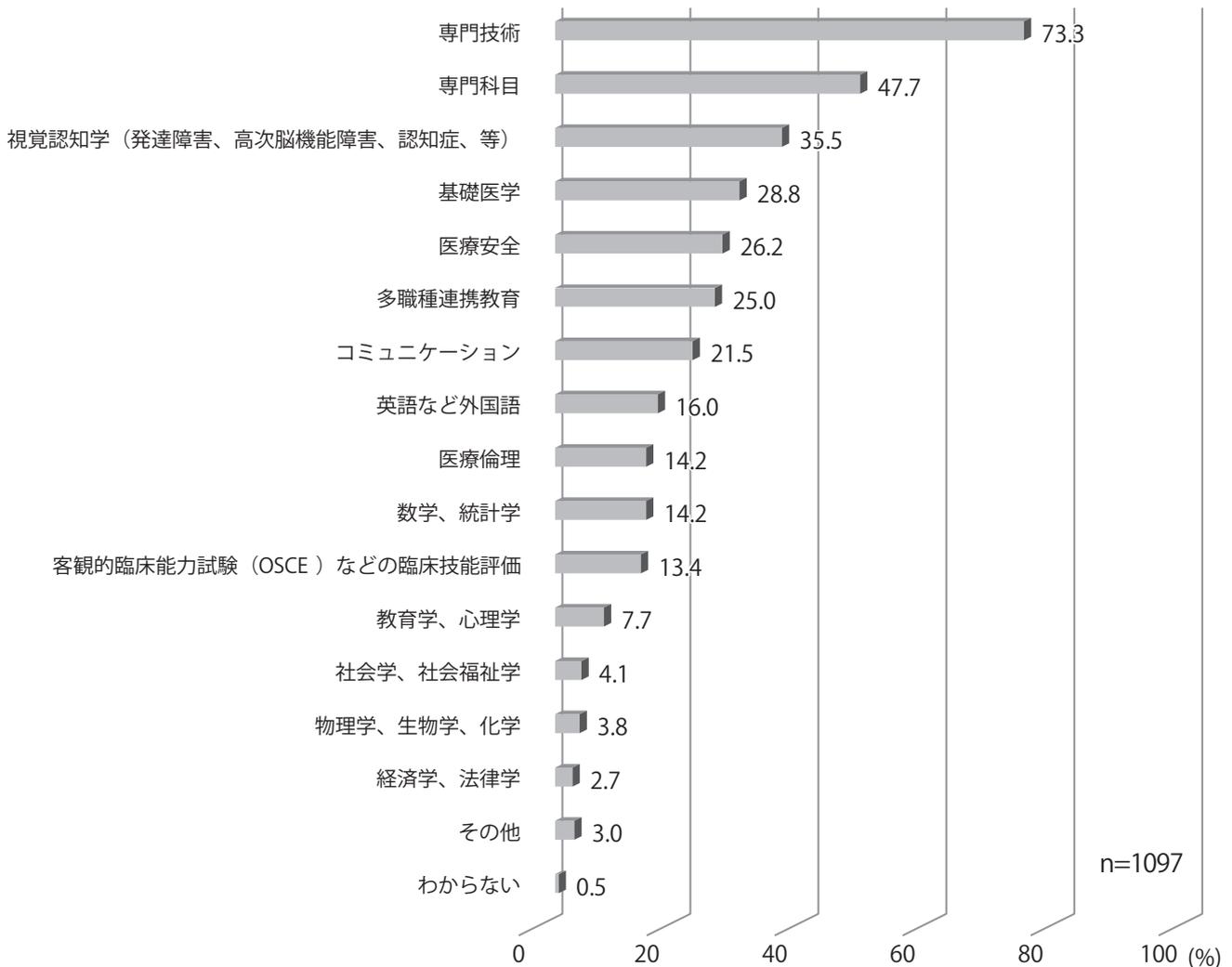


※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図IV-3-2 教育内容の充実度

4. 充実が必要とする科目

今回新たに「多職種連携教育」の項目を追加した。修業内容について「やや不足」または「不十分」と回答した方に、今後充実が必要と思う科目や内容を尋ねたところ、最も多かったのは「専門技術」で73.3%であった。次いで「専門科目」47.7%、「視覚認知学」35.5%、「基礎医学」28.8%、「医療安全」26.2%、新設項目である「多職種連携教育」25.0%、「コミュニケーション」21.5%と続き、いずれも20%以上を占めた（図IV-4）。

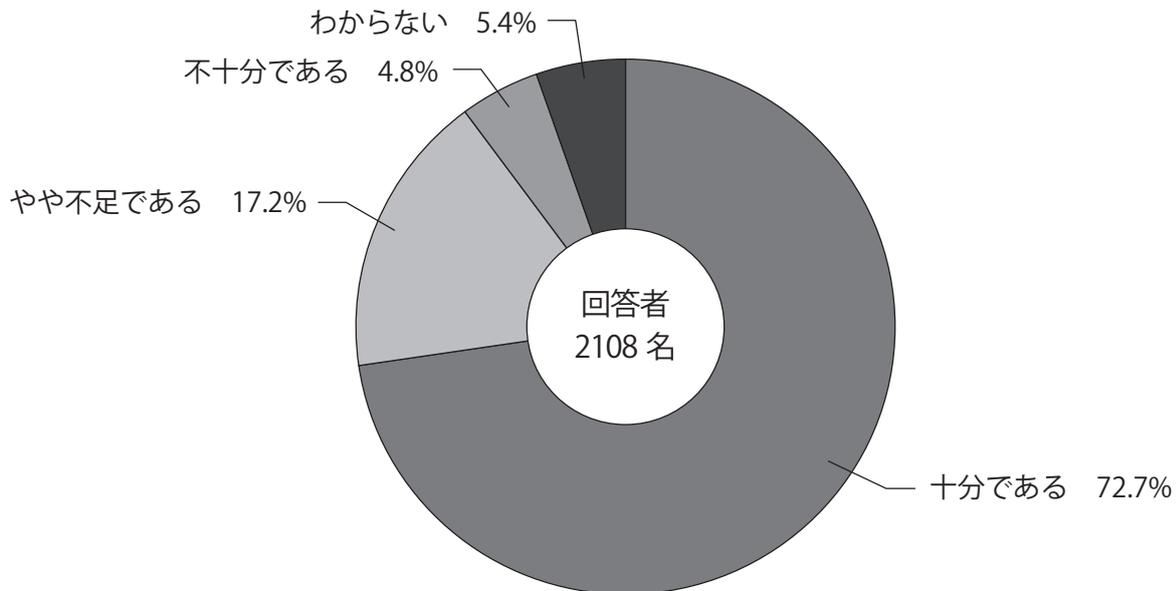


図IV-4 充実が必要と思う科目や内容（複数回答）

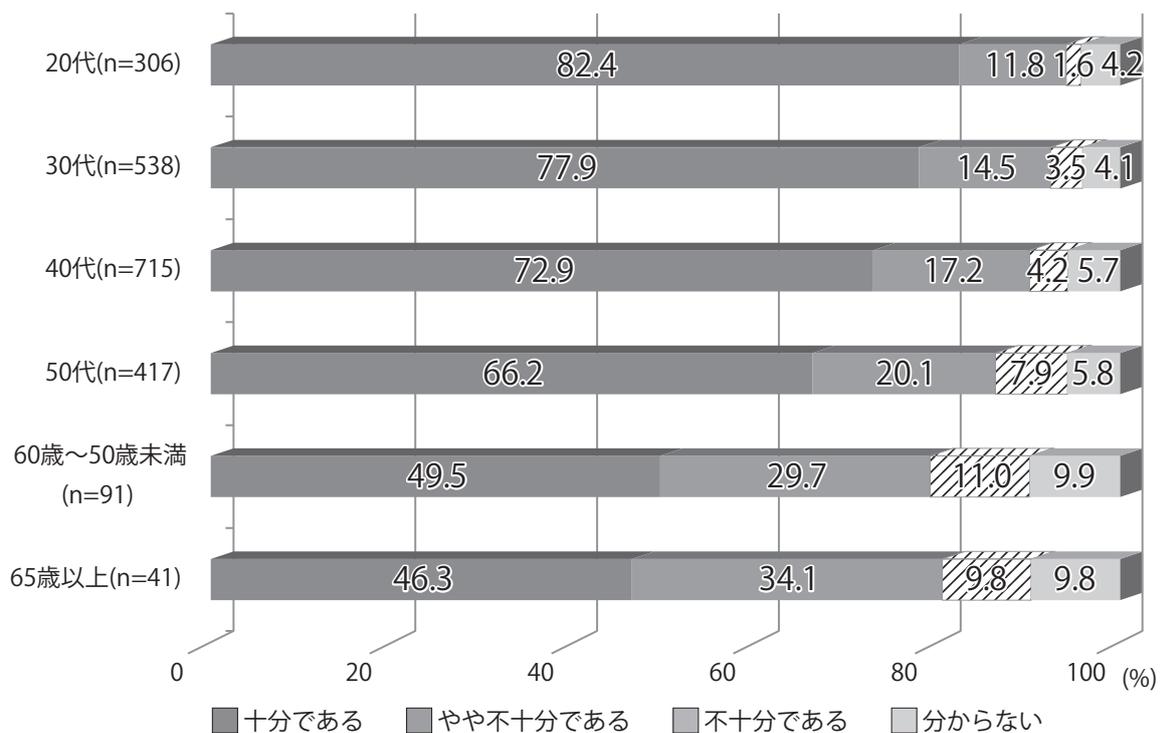
5. 臨地実習の期間

自分が養成所で受けた臨地実習の期間については、「十分である」と回答した方が72.7%で最も多く、次いで「やや不十分である」が17.2%、「不十分である」は4.8%であった（図Ⅳ-5-1）。

年代別にみると、「十分である」と回答した割合は20代が最も多く82.4%であった。一方、「不十分である」と回答した割合は60～65歳が最も多く11.0%であった（図Ⅳ-5-2）。



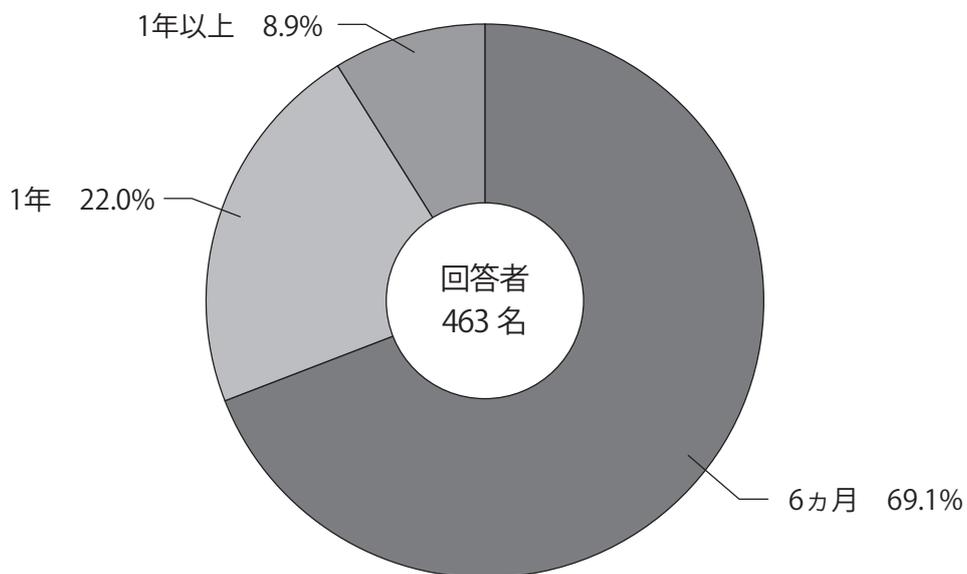
図Ⅳ-5-1 学生時代に受けた臨地実習の期間



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図Ⅳ-5-2 年代別の学生時代に受けた臨地実習の期間

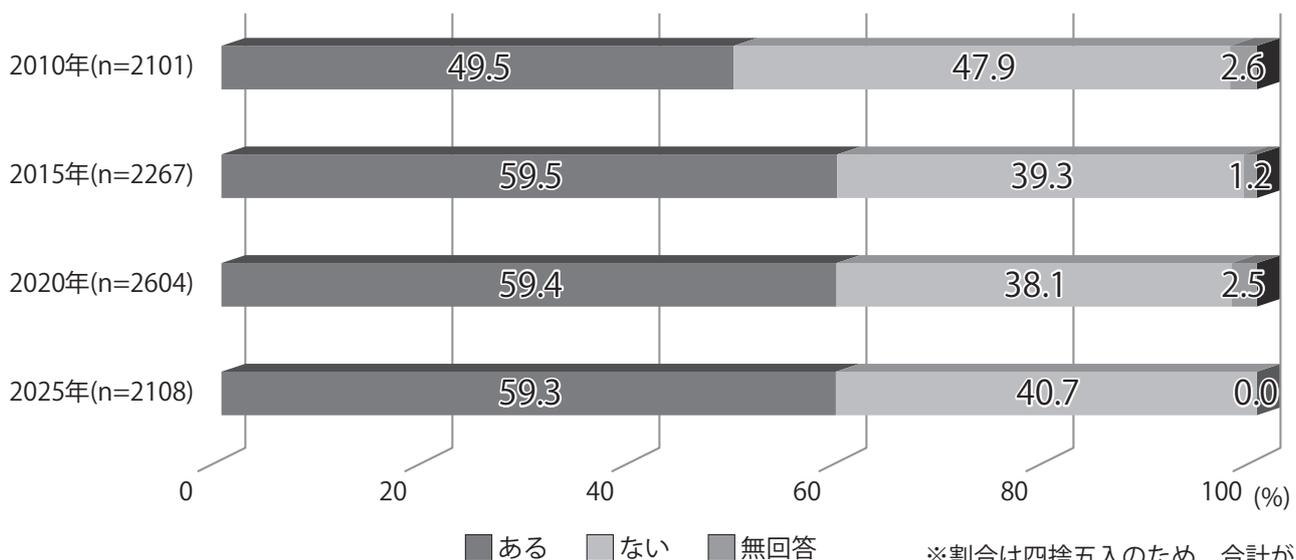
卒後に専門職として勤務するために必要と考える臨地実習の期間については「6ヵ月」とする回答が69.1%で最も多く、次いで「1年」が22.0%、「1年以上」が8.9%であった（図IV-5-3）。



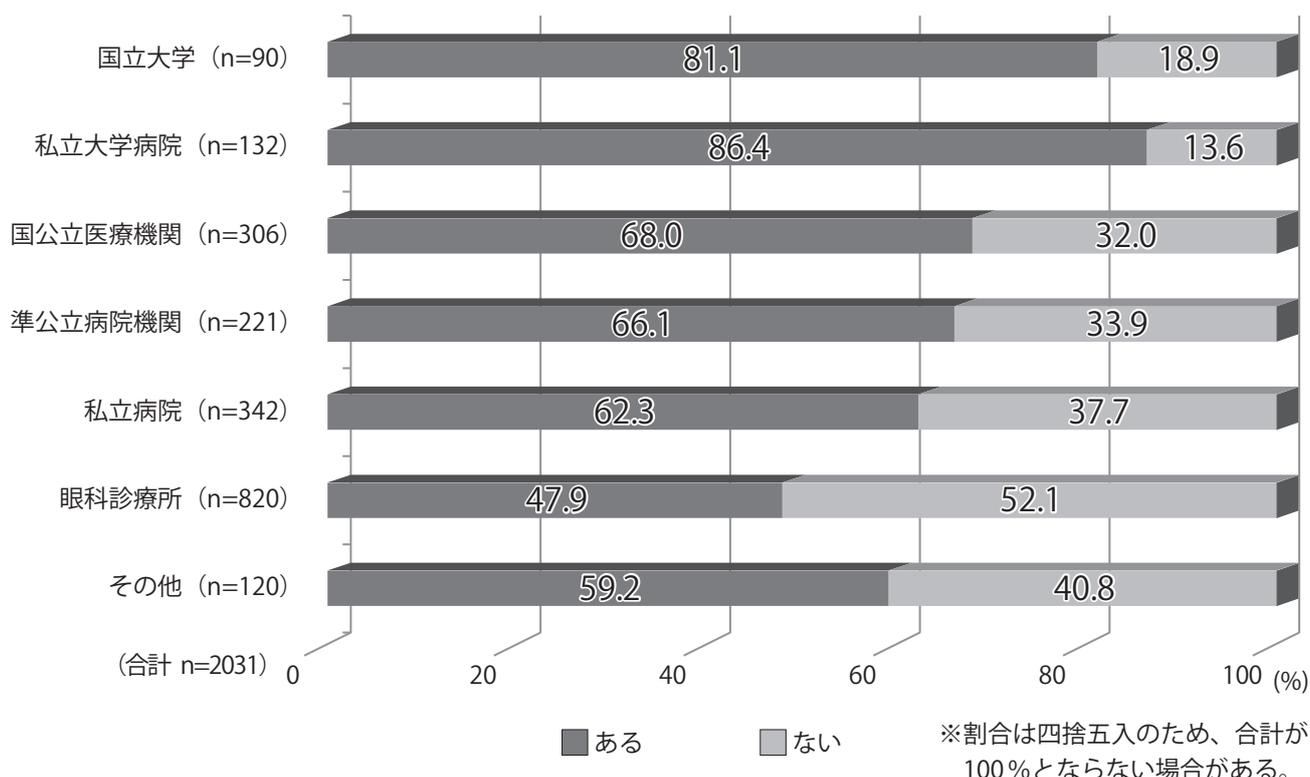
図IV-5-3 理想の臨地実習の期間

6. 臨地実習の受け入れ経験

臨地実習の受け入れ経験については、「ある」と回答した施設が59.3%であり、2020年の調査と変化はみられなかった（図IV-6-1）。受け入れ施設の内訳を見ると、「私立大学病院」が86.4%で最も多く、次いで「国公立大学」が81.1%、「国公立医療機関」が68%であった。「眼科診療所」は5割を下回っていた（図IV-6-2）。



図IV-6-1 臨地実習の受け入れ経験

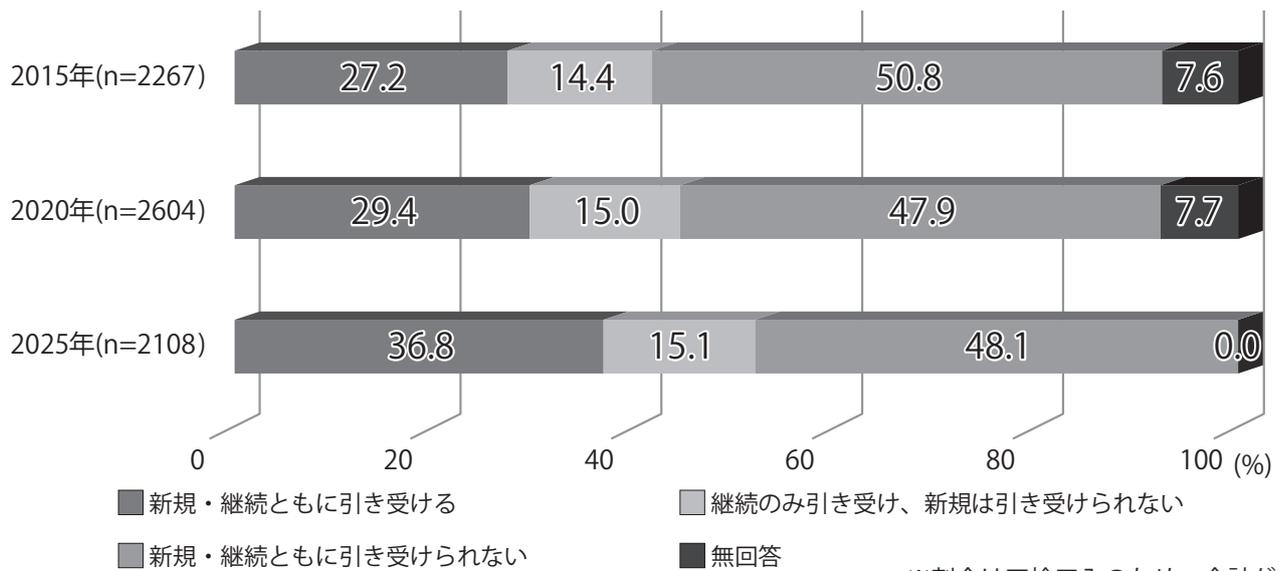


図IV-6-2 勤務施設別の臨地実習を引き受けた経験

7. 今後の臨地実習の受け入れ

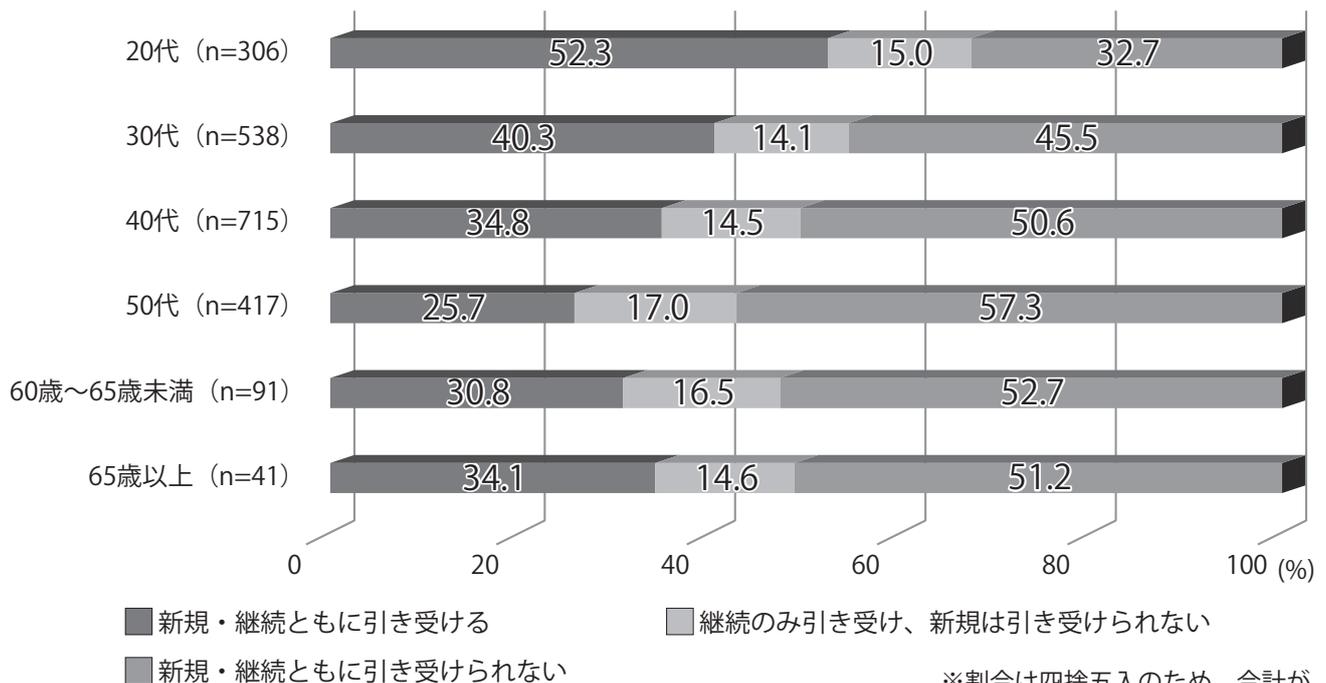
今後の臨地実習の受け入れについては、「新規・継続ともに引き受ける」が36.8%で最も多く、2020年度と比較し7ポイント増加していた。「継続のみ引き受け、新規は引き受けられない」は15.1%、「新規・継続ともに引き受けられない」は48.1%で変化はなかった（図IV-7-1）。

年代別では、「20代」のみ「新規・継続ともに引き受ける」の回答が半数を超えており、「30代」から「50代」にかけて徐々に減少傾向であった（図IV-7-2）。



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

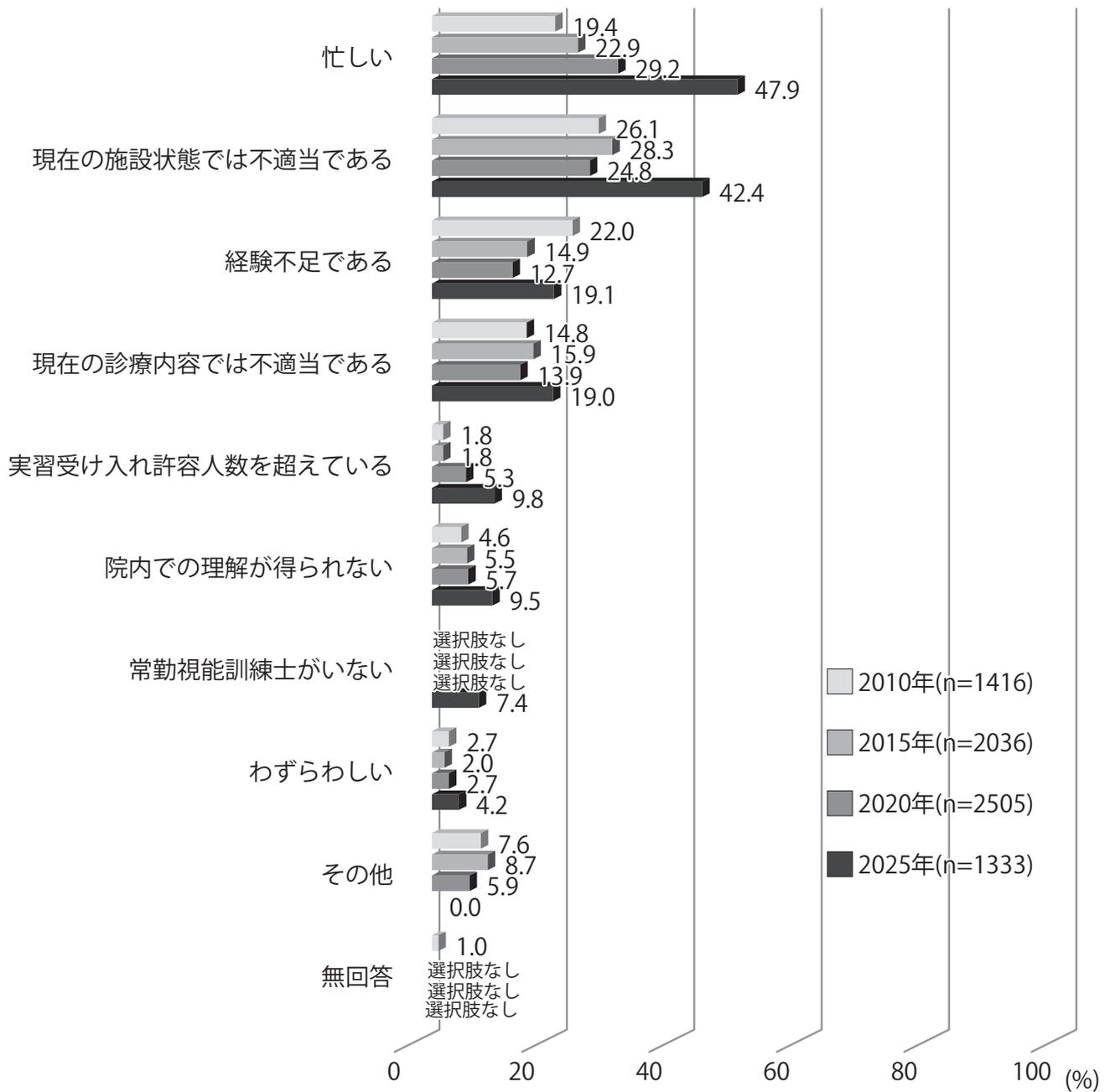
図IV-7-1 今後の臨地実習の受け入れ



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

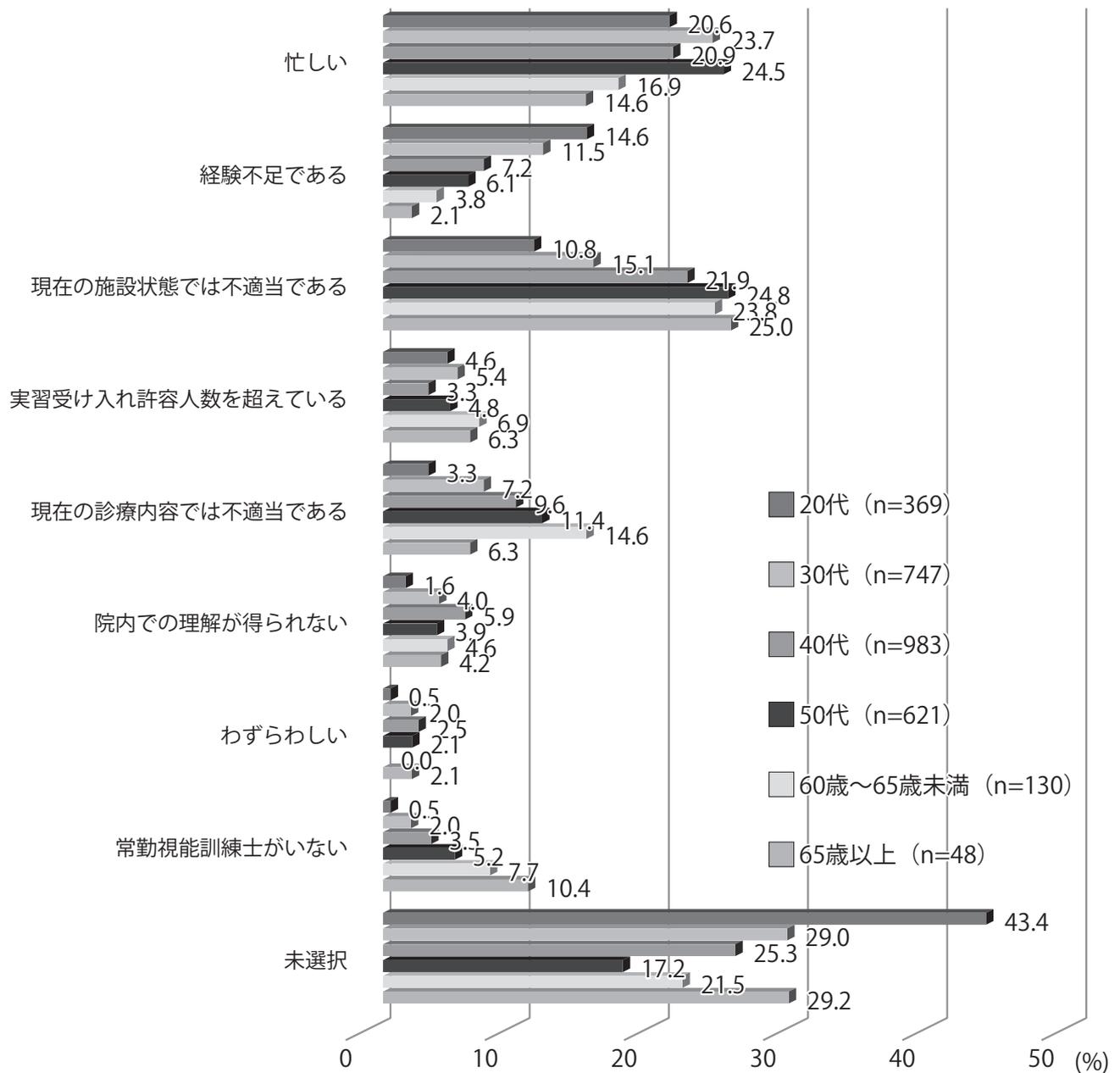
図IV-7-2 年代別の臨地実習の受け入れ

「引き受けられない」理由は、「忙しい」が47.9%、「現在の施設状態では不適當である」42.4%であった（図IV-7-3）。



図IV-7-3 受入れ困難の理由

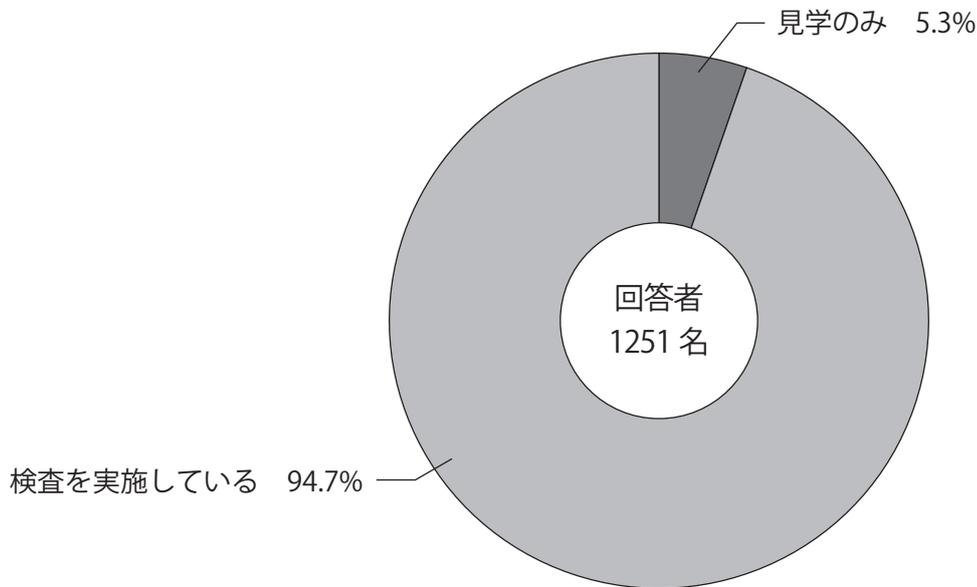
年代別では、「20代」「30代」は「忙しい」が最も多く、「40代」以降は「現在の施設状態では不適當である」との回答が多かった（図IV-7-4）。



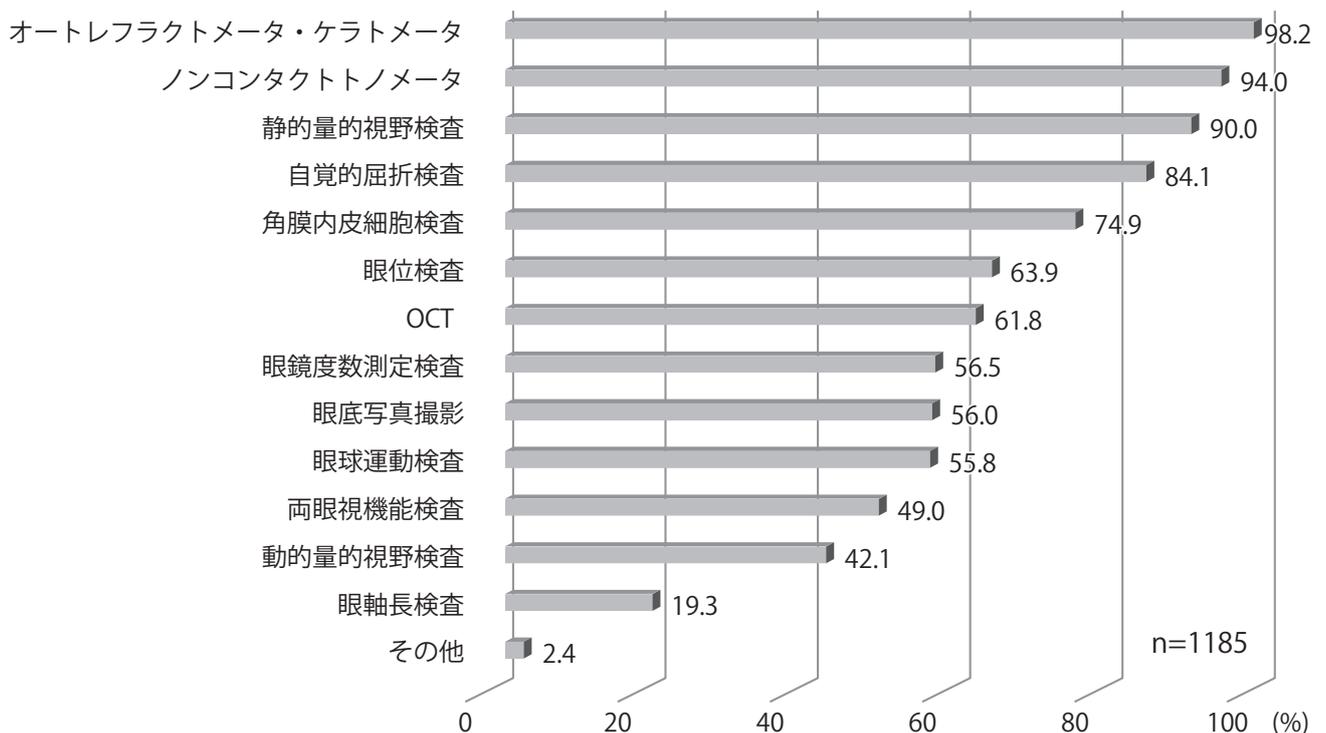
図IV-7-4 年代別の受入れ困難の理由（複数回答）

8. 臨地実習の方法・内容

臨地実習の受け入れ施設における実習方法についてみると、「検査を実施している」を回答した割合は94.7%であり、9割以上の施設が実習生に検査を実施させていた（図IV-8-1）。そのうち「オートレフラクトメータ・ケラトメータ」「ノンコンタクトトノメータ」「静的視野検査」「自覚的屈折検査」は、いずれも8割以上の施設で実習生に実施させていた（図IV-8-2）。

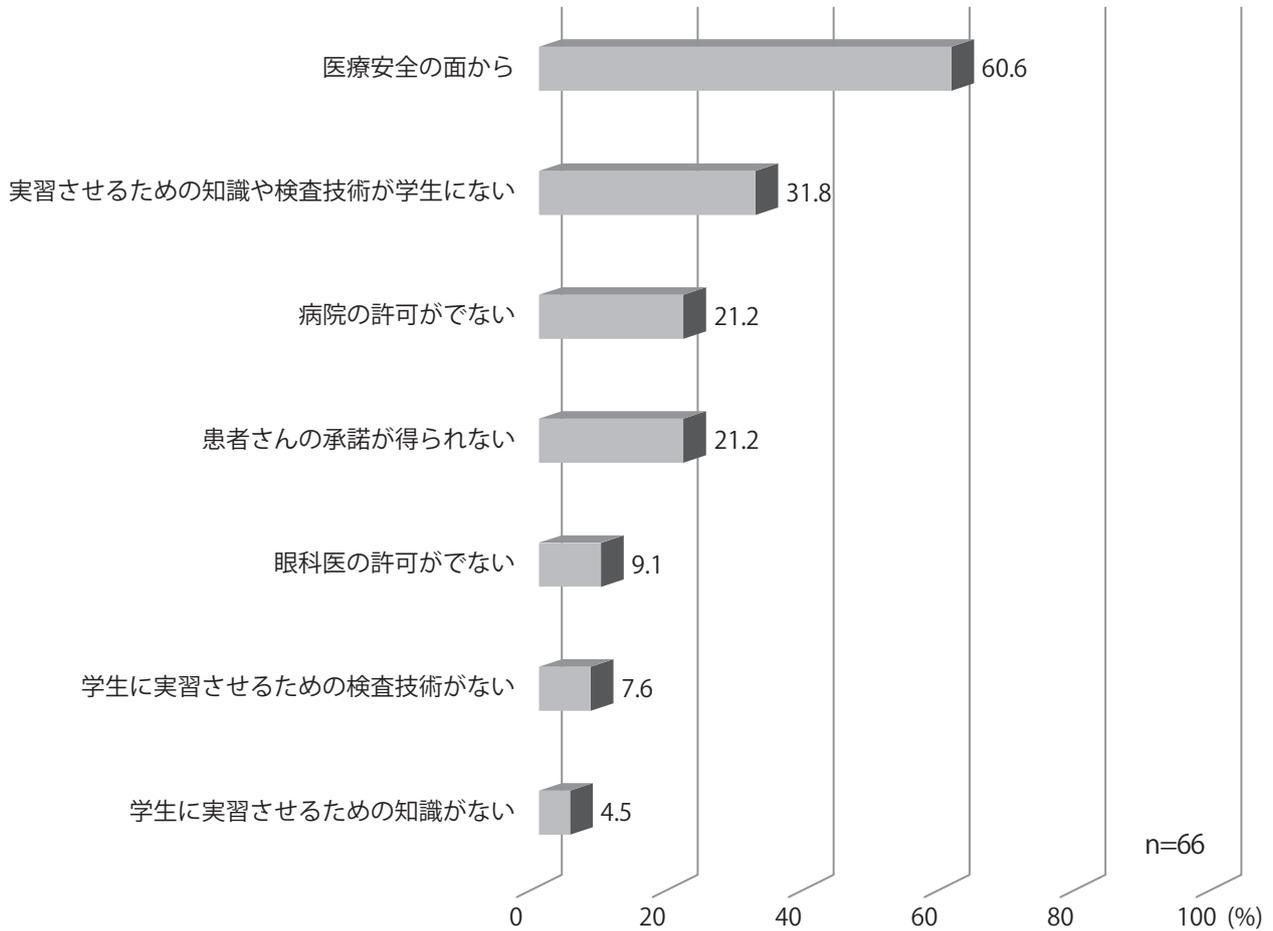


図IV-8-1 実習の方法



図IV-8-2 学生に実習させている検査（複数回答）

実習方法が「見学のみ」としていた割合は5.3%であり、その理由としては「医療安全の面から」が60.6%と最も多く、次いで「実習させるための知識や検査技術が学生にない」「病院の許可がでない」「患者さんの承諾が得られない」などが挙げられた（図IV-8-3）。



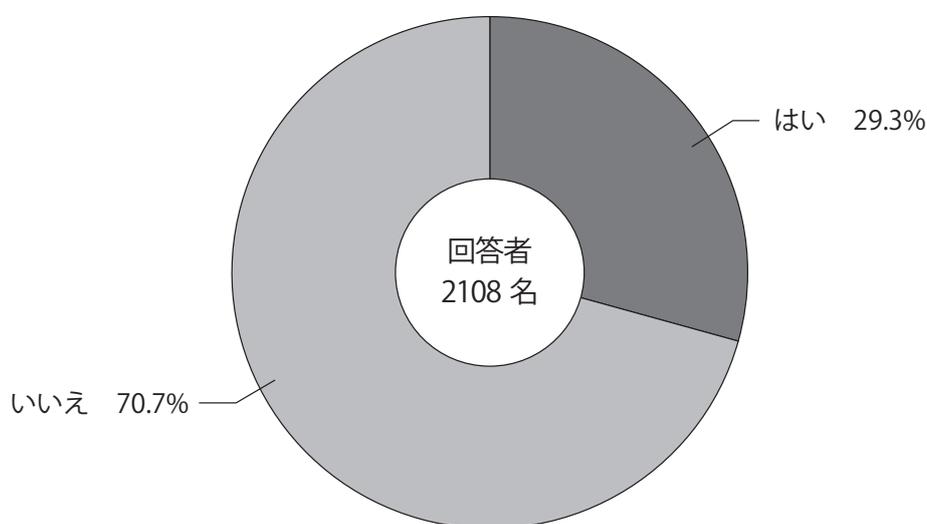
図IV-8-3 実習が見学だけの理由（複数回答）

9. 将来的な実習生受入れ要件

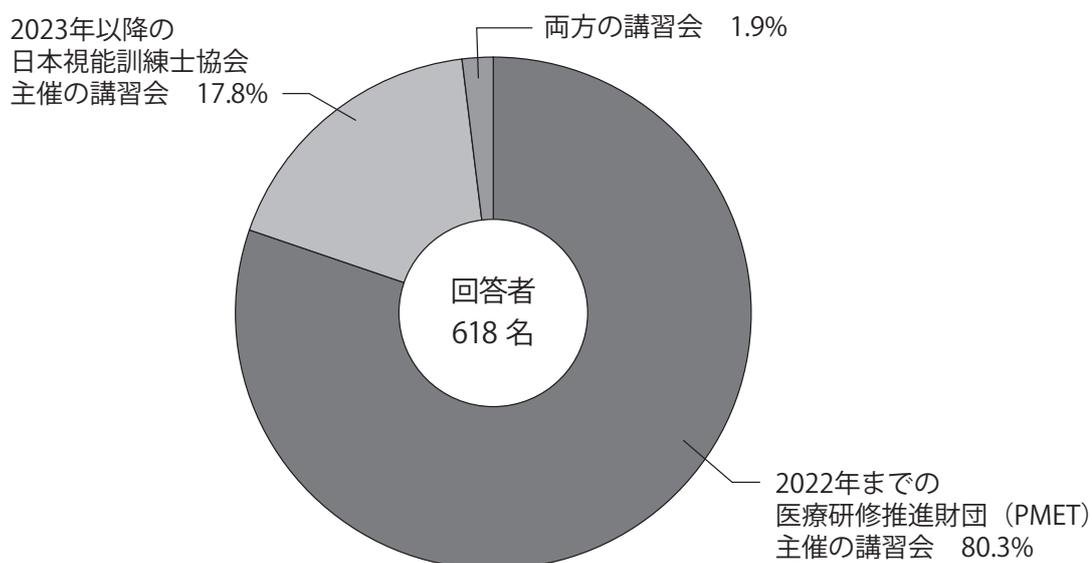
今回、新たに臨地実習指導者講習会の受講状況に関する項目を設けた。講習会を受講しているに「はい」と回答したのは29.3%であった（図Ⅳ-9-1）。その内訳をみると、2020年度までに実施された「医療研修推進財団（PMET）主催の講習会」を受講した方は80.3%を占めていた（図Ⅳ-9-2）。

一方で、未受講者に対し、今後の受講予定について尋ねたところ、「受講する予定である」と回答した方は25.7%にとどまり、「受講する予定はない」と回答した方は67.8%であった（図Ⅳ-9-3）。「受講する予定はない」と回答した理由として最も多かったのは「実習生を受け入れる予定がない」で45.7%、次いで「受講する時間の余裕がない」が39.2%であった（図Ⅳ-9-4）。

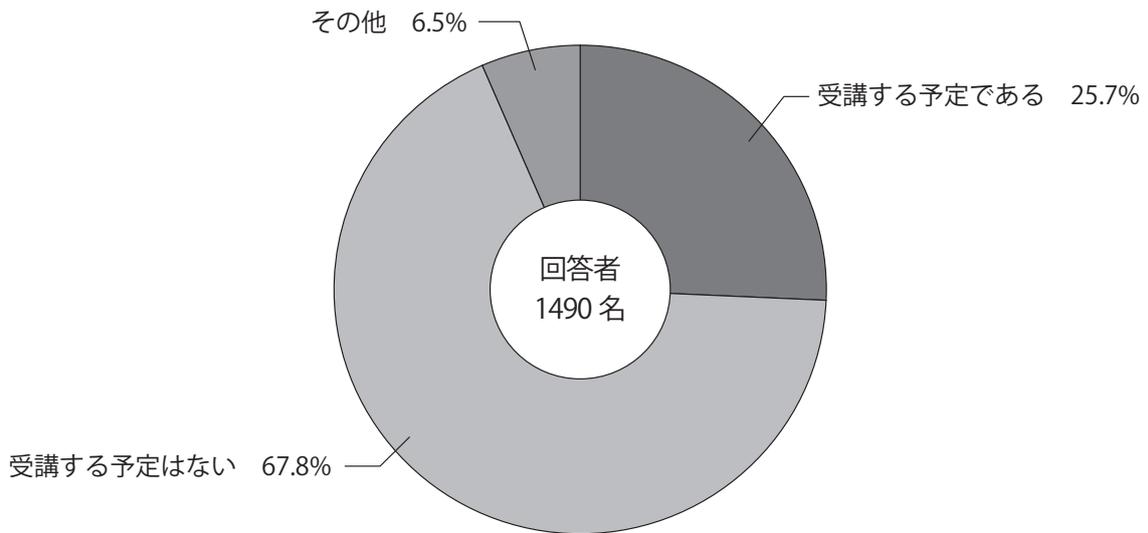
さらに、将来的に実習生を受け入れるには臨地実習指導者講習会を受講する必要があることを「知っている」と回答した方は84.7%であった（図Ⅳ-9-5）。



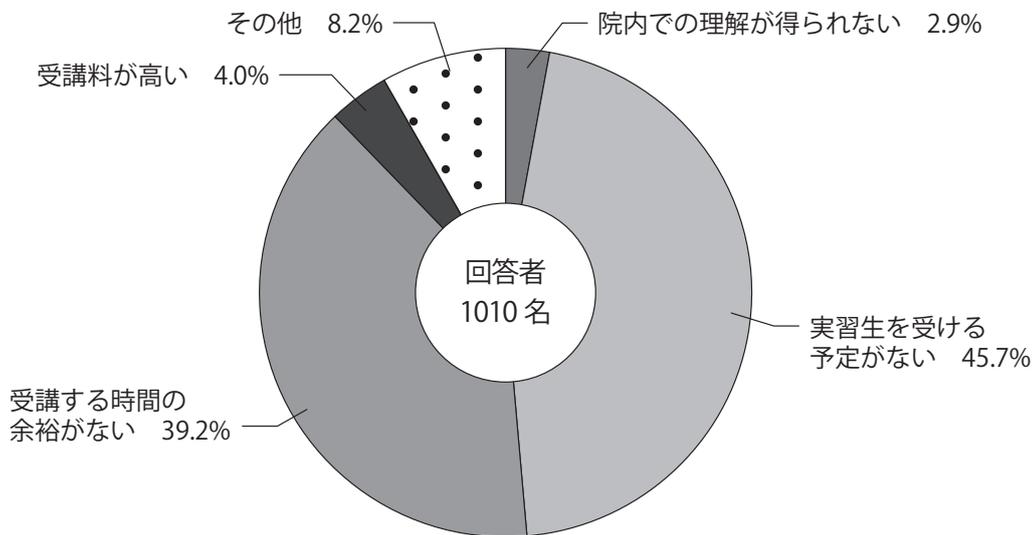
図Ⅳ-9-1 視能訓練士臨地実習指導者講習会受講の有無



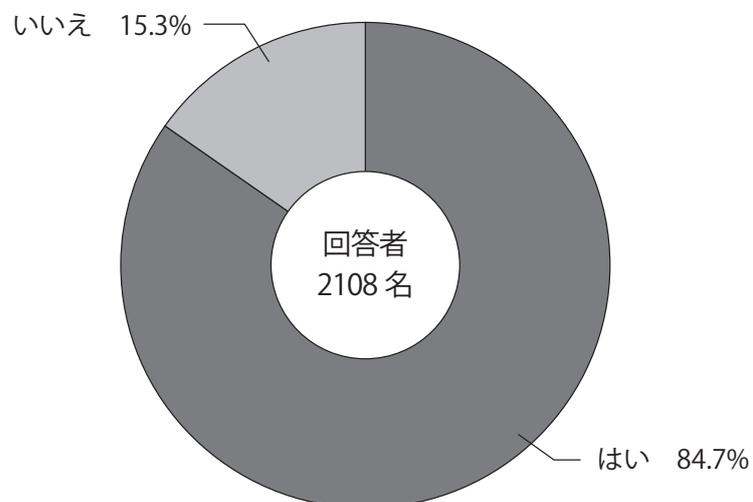
図Ⅳ-9-2 受講内容



図IV-9-3 今後の受講意向



図IV-9-4 受講しない予定の理由



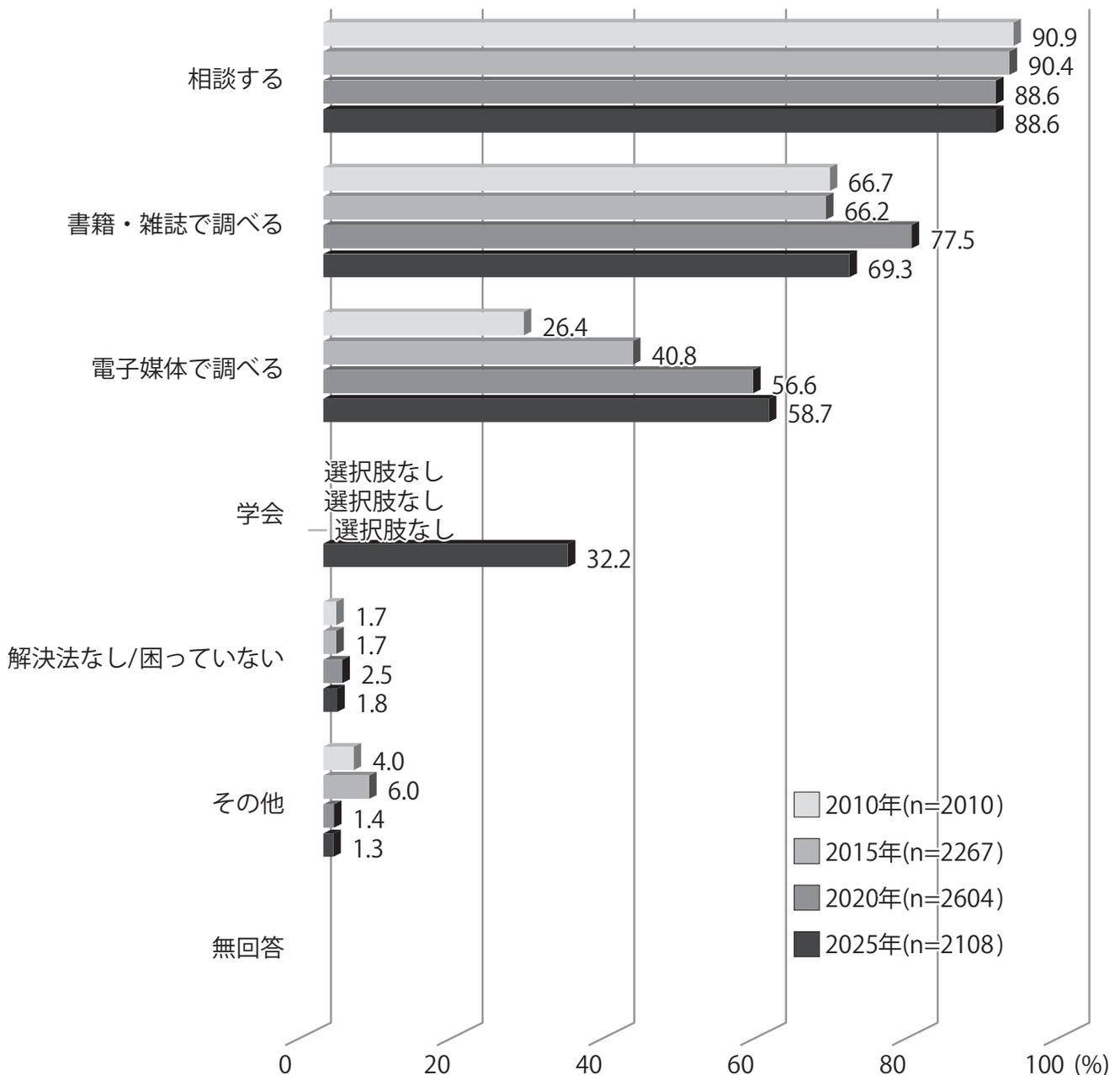
図IV-9-5 実習生を受け入れる場合、講習会の受講が必要であることを知っている

V. 卒後教育

1. 業務上の疑問点の解決方法

業務上の疑問点の解決方法として最も多かったのは「相談する」であり、88.6%であった。「書籍・雑誌で調べる」は2020年調査で一時的に増加していたが、今回の調査では減少傾向を示した。一方、「電子媒体で調べる」は2015年、2020年と約15ポイントずつ増加していたが、今回の調査では大きな変化はみられなかった。

また、今回新たに選択肢として追加した「学会」の割合は32.2%であった（図V-1）。

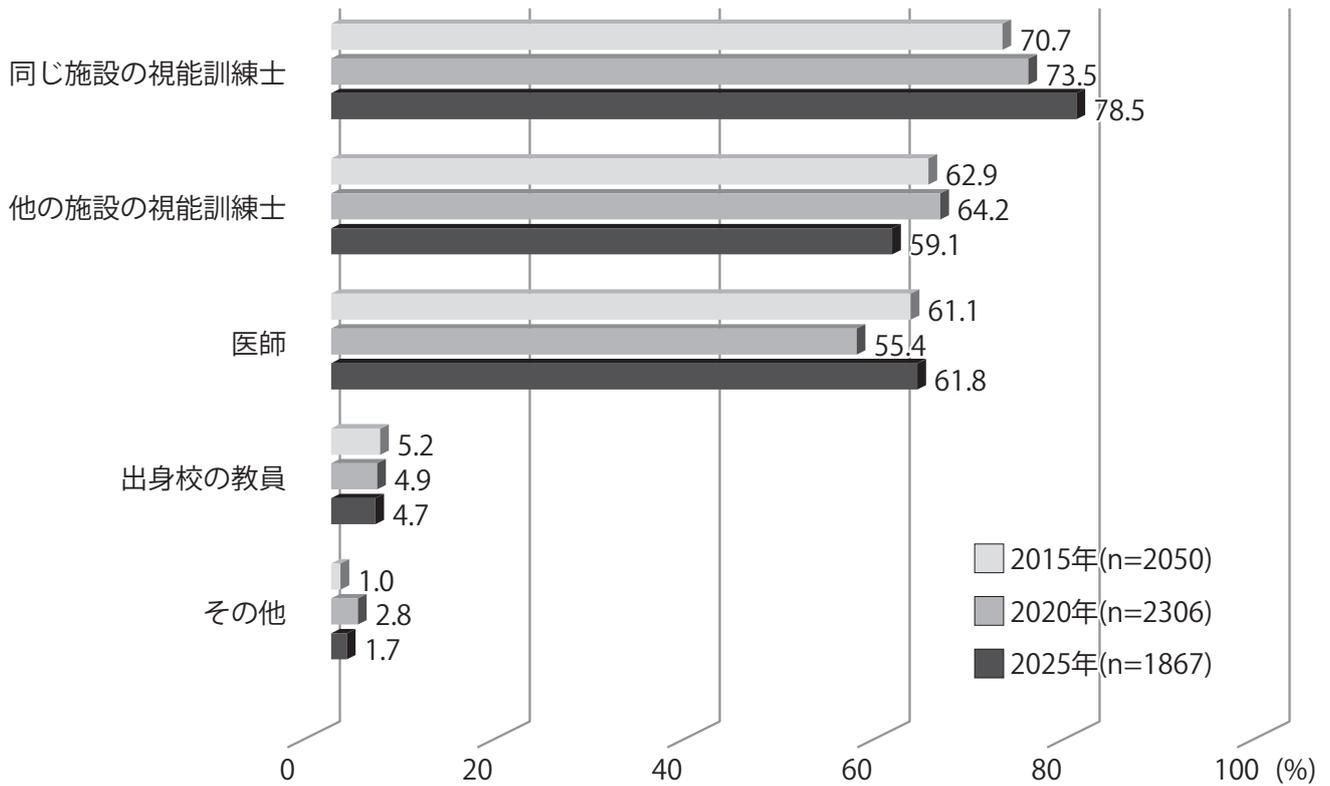


図V-1 業務上の疑問点の解決法（複数回答）

※今回調査から「学会」の項目を追加した。

2. 相談先

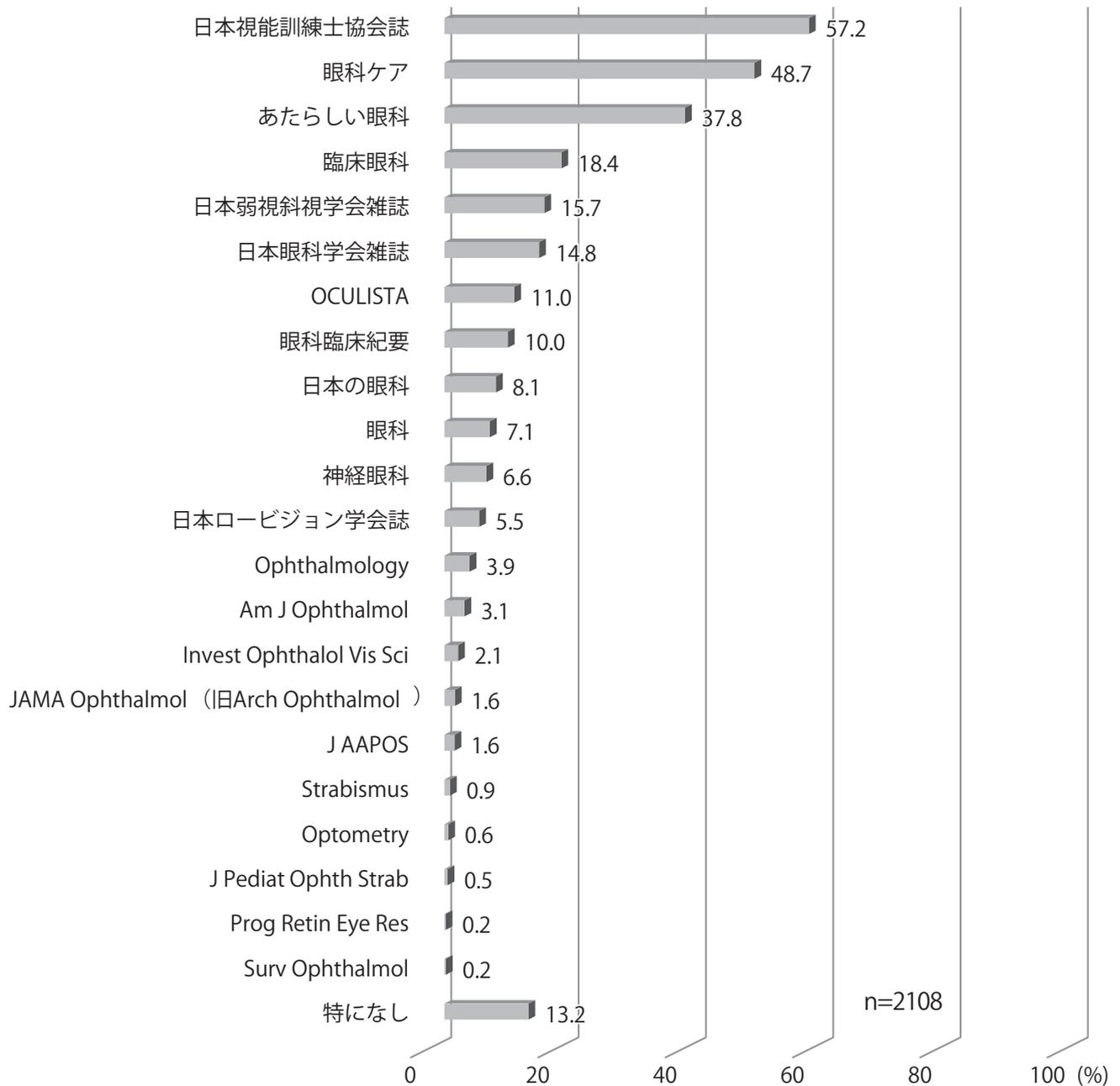
業務上の解決方法において「相談する」相手として最も多かったのは「同じ施設の視能訓練士」で78.5%であった。次いで「医師」が61.8%、「他の施設の視能訓練士」が59.1%であった。2020年と比較すると「他の施設の視能訓練士」への相談は減少した一方で、「同じ施設の視能訓練士」や「医師」への相談は増加していた（図V-2）。



図V-2 業務上の問題点相談先（複数回答）

3. 利用する雑誌

よく利用される雑誌は、「日本視能訓練士協会誌」が最も多く57.2%であった。次いで、「眼科ケア」「あたらしい眼科」の順であった。洋雑誌では「Ophthalmology」が最も多く、その後に「American Journal of Ophthalmology (Am J Ophthalmol)」、「Investigative Ophthalmology & Visual Science (Invest Ophthalmol Vis Sci)」が続いた (図V-3)。

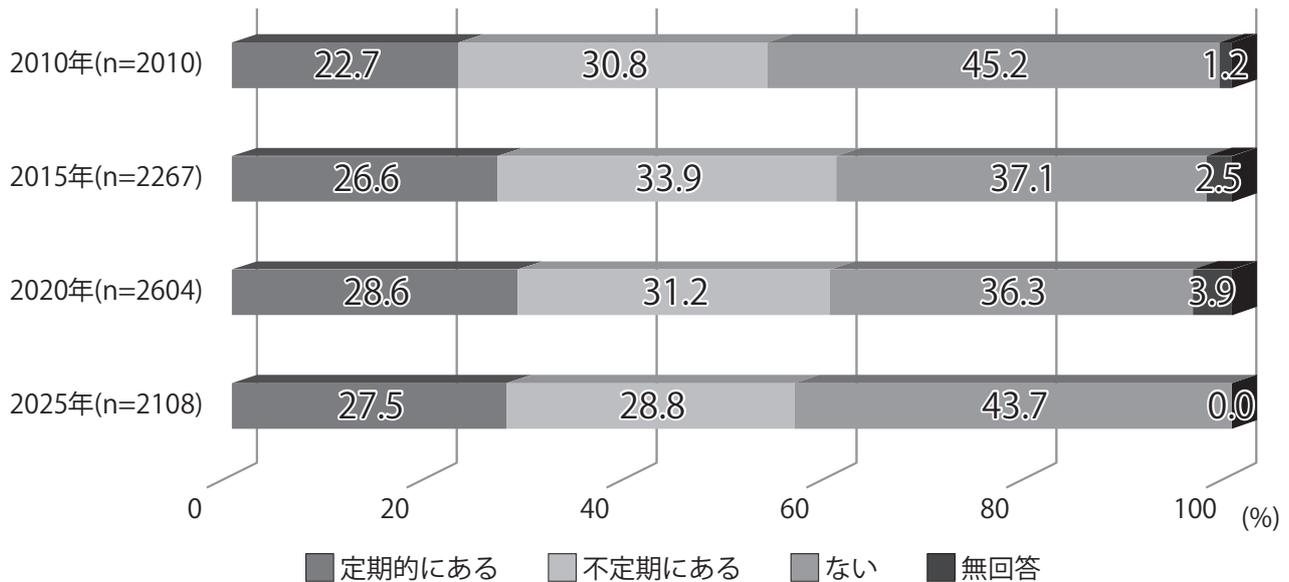


図V-3 利用する雑誌 (複数回答)

4. 職場内の勉強会

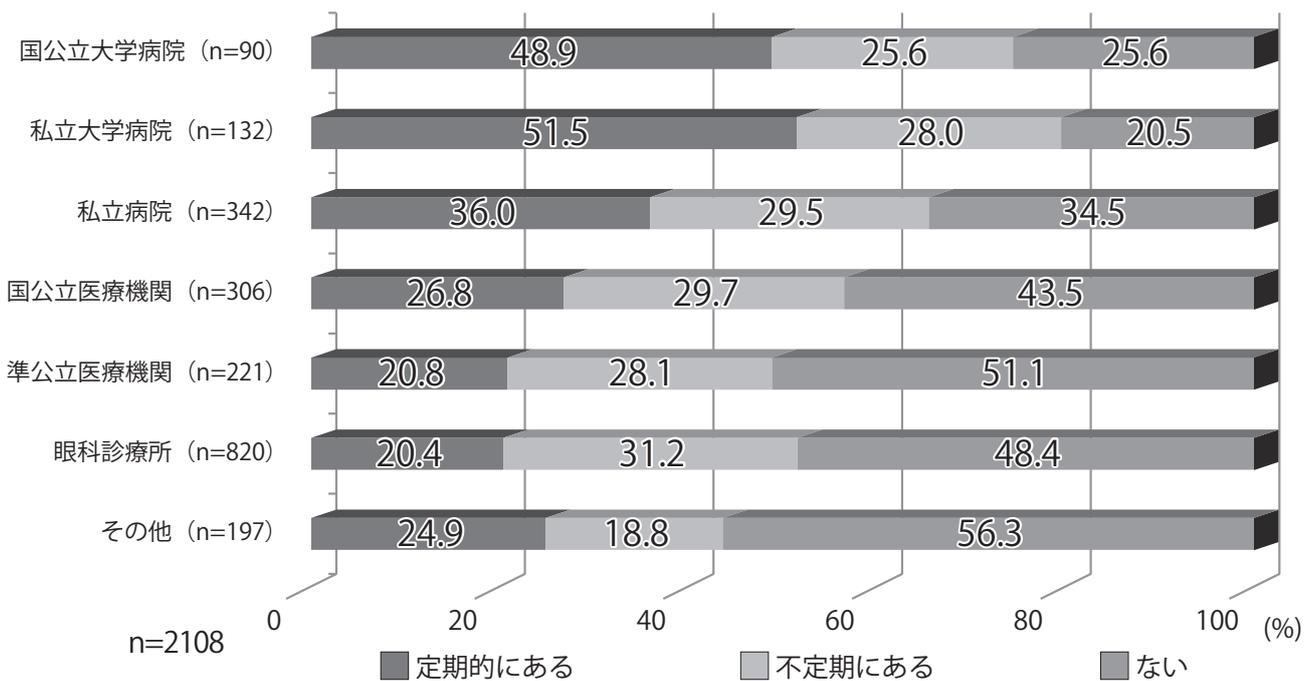
職場内で視能訓練士が参加できる勉強会について、「ない」の回答が43.7%で最も多かった。「定期的にある」は27.5%、「不定期にある」は28.8%であり、職場内での勉強会は2020年までは年々増加傾向にあったものの、今回は「定期的にある」「不定期にある」ともにやや減少を示した（図V-4-1）。

勤務施設別にみると、「私立大学病院」と「国公立大学病院」では約半数が定期的に勉強会を開催していた。次いで「私立病院」が36.0%であり、それ以外の施設では3割未満にとどまった（図V-4-2）。



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

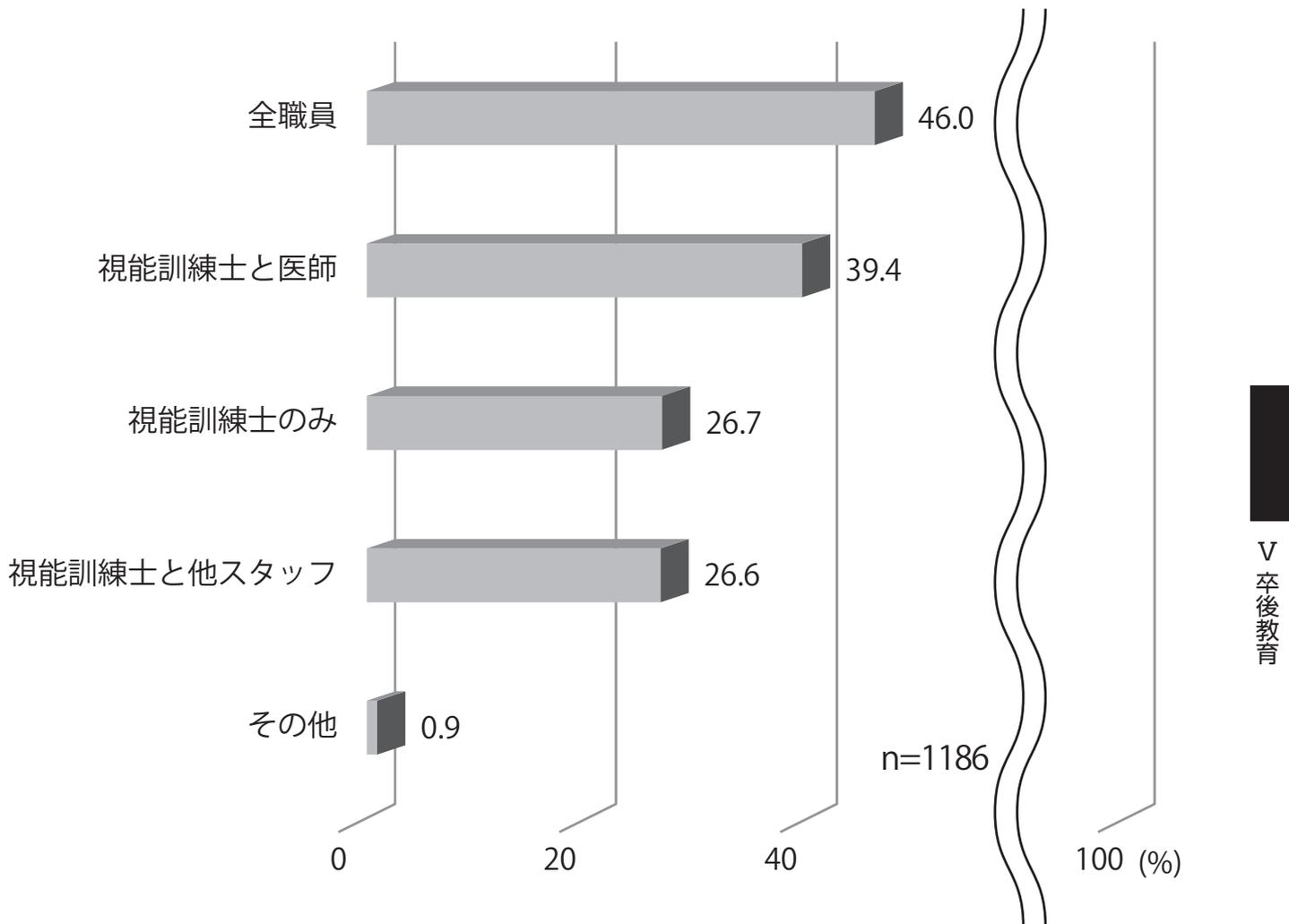
図V-4-1 職場内の勉強会



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図V-4-2 勤務施設別の職場内の勉強会

勉強会の参加者については、新たに追加した項目の「全職員」が46%と最も多く、次いで「視能訓練士と医師」が39.4%であった（図V-4-3）。

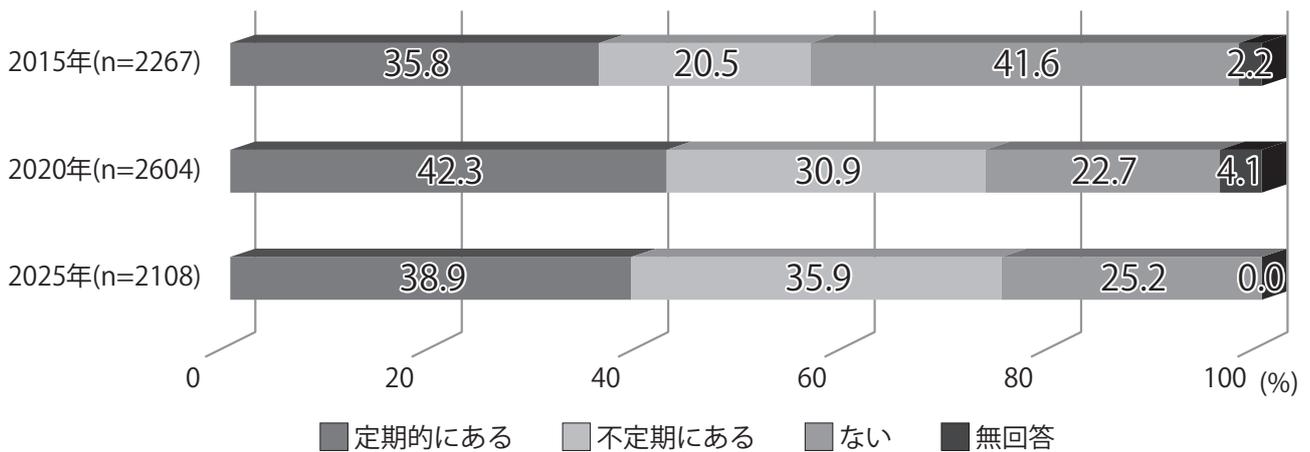


図V-4-3 職場内勉強会の参加者（複数回答）

5. 職場外の勉強会

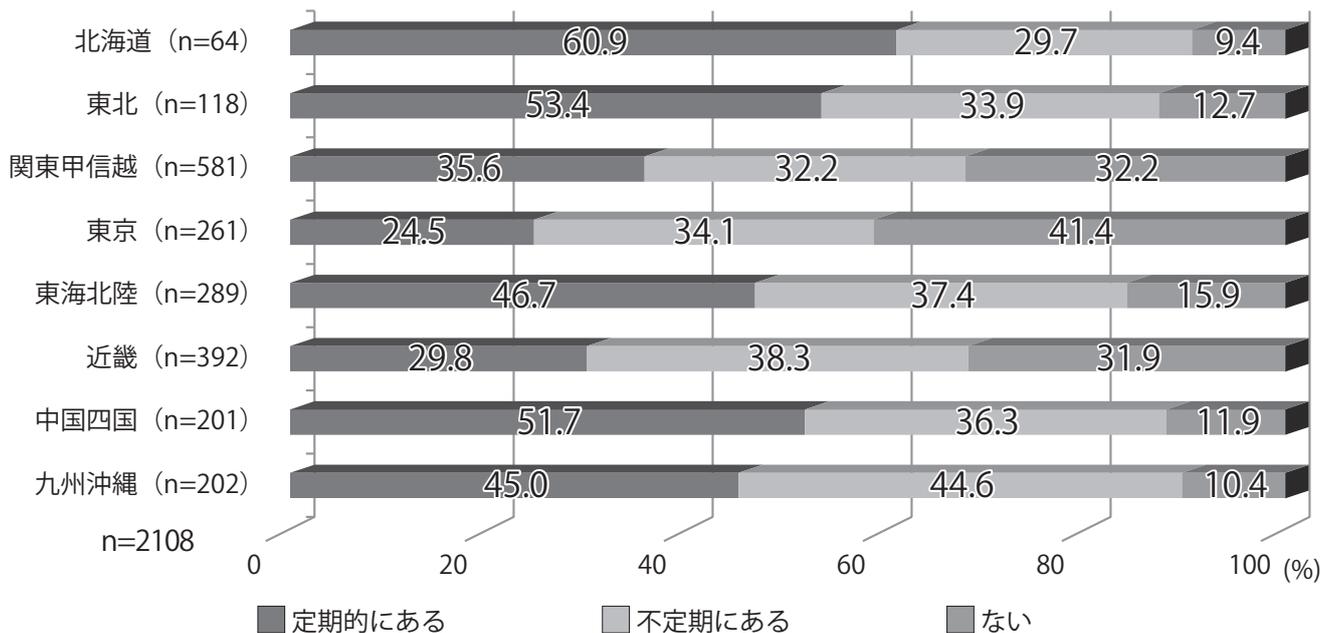
職場外で視能訓練士が参加できる勉強会については、「定期的にある」が38.9%、「不定期にある」が35.9%であった。2020年と比較すると、定期的な勉強会は減少し、不定期の勉強会が増加する傾向であった（図V-5-1）。

勤務地別にみると、「定期的にある」と回答した割合が最も高かったのは「北海道」で60.9%であり、次いで「東北」53.4%、「中国四国」51.7%であった。一方、最も低かったのは「東京」の24.5%であった。「不定期にある」と回答した割合が最も高かったのは「九州沖縄」で44.6%、次いで「近畿」38.3%、「東海北陸」37.4%であった（図V-5-2）。



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

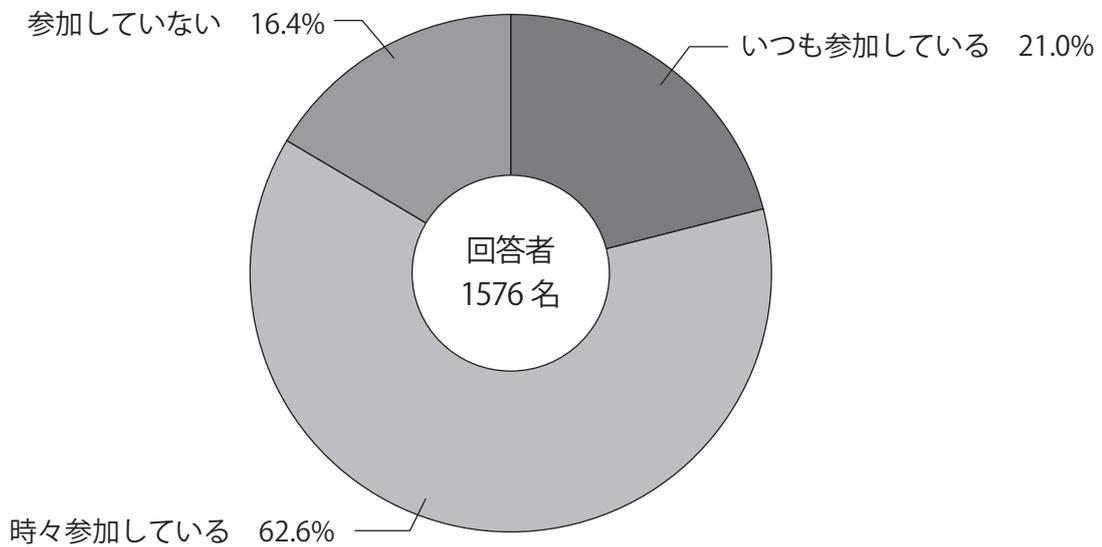
図V-5-1 年度別の職場外の勉強会



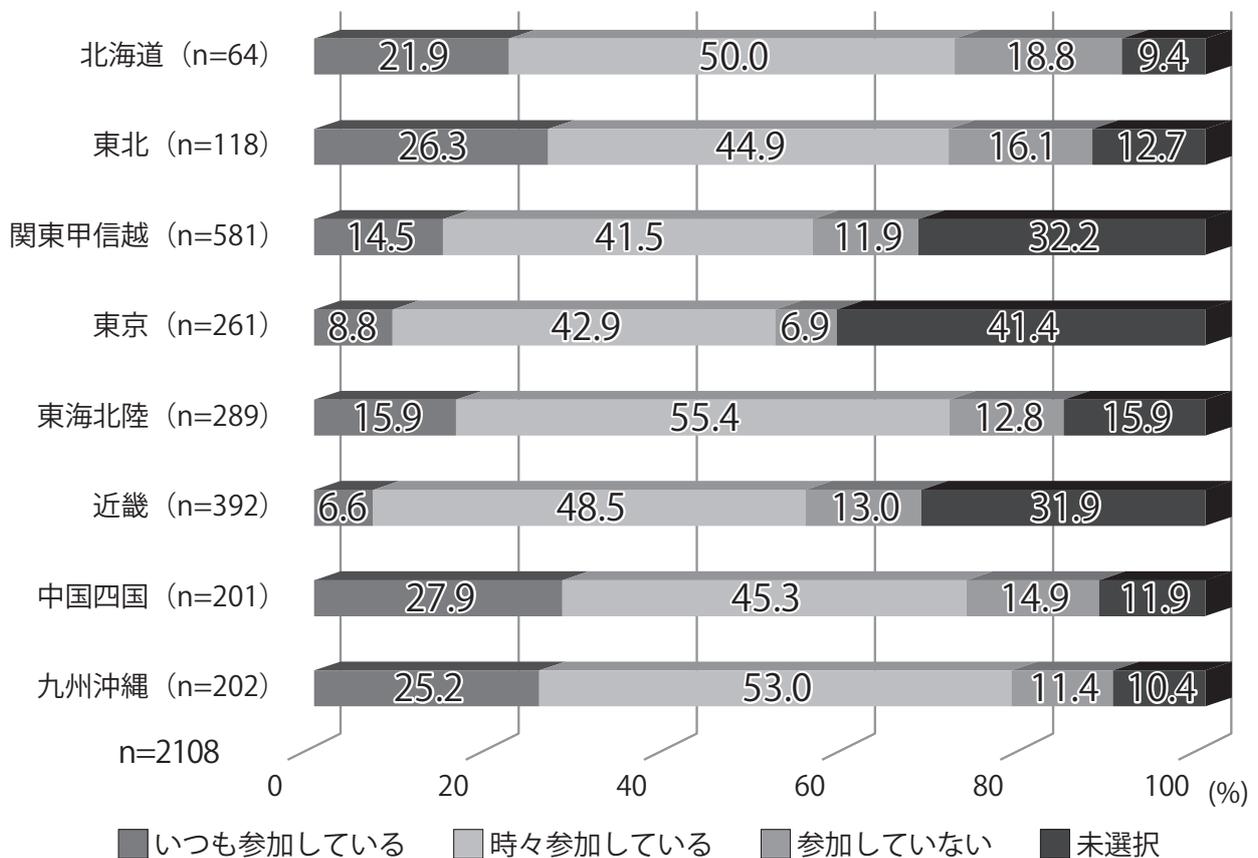
※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図V-5-2 勤務地別の職場外の勉強会

職場外の勉強会への参加状況は、「時々参加している」が62.6%と最も多く、「いつも参加している」は21.0%であった（図V-5-3）。地域別では、「いつも参加している」と「時々参加している」を合わせた割合が最も高かったのは「九州沖縄」で78.2%であり、最も低かったのは「東京」であった（図V-5-4）。



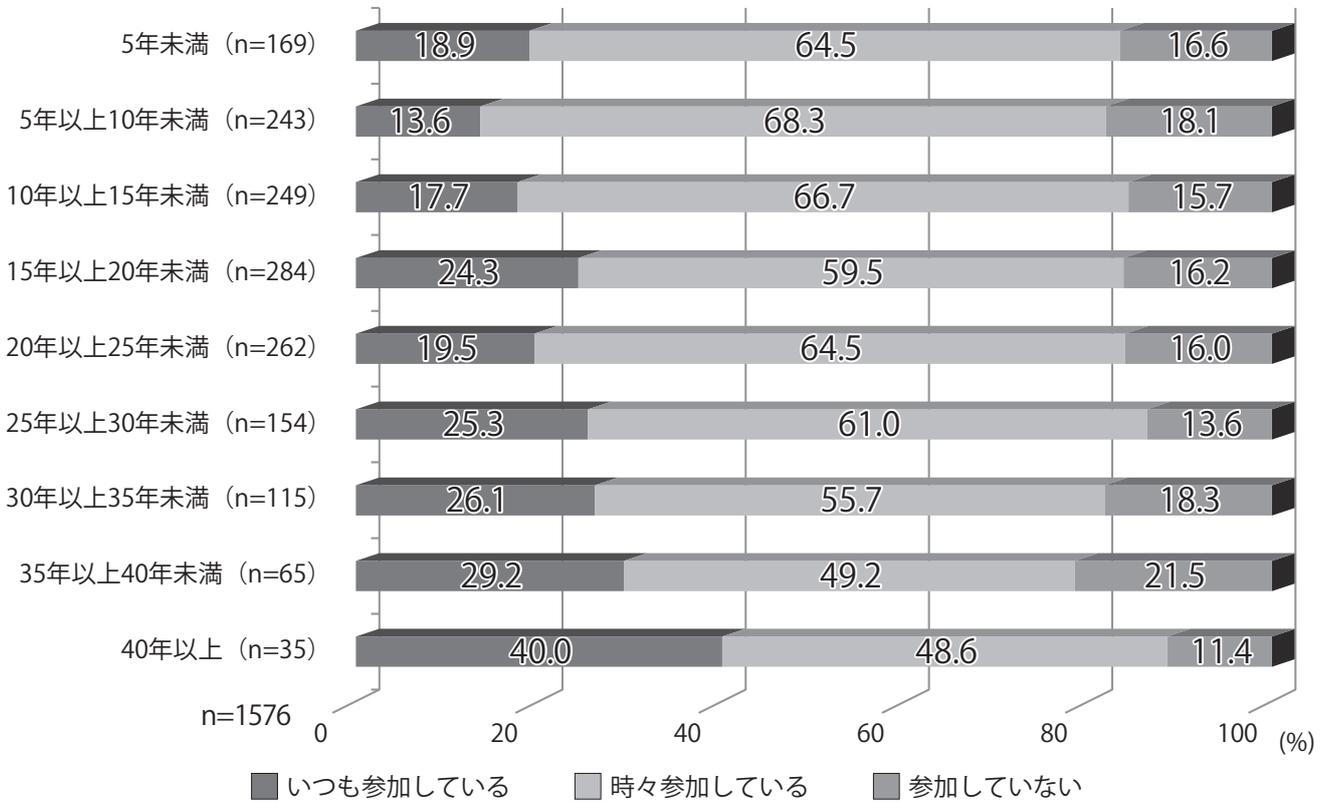
図V-5-3 職場外勉強会の参加状況



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図V-5-4 勤務地別の職場外の勉強会の参加状況

通算勤務年数別の参加状況を見ると、勤務年数が長いほど「いつも参加している」の割合が高い傾向がみられた。ただし、「5年未満」と「15年以上20年未満」では、前後の勤務年数よりも「いつも参加している」の回答が高い傾向を示した（図V-5-5）。



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図V-5-5 勤務年数別の職場外の勉強会の参加状況

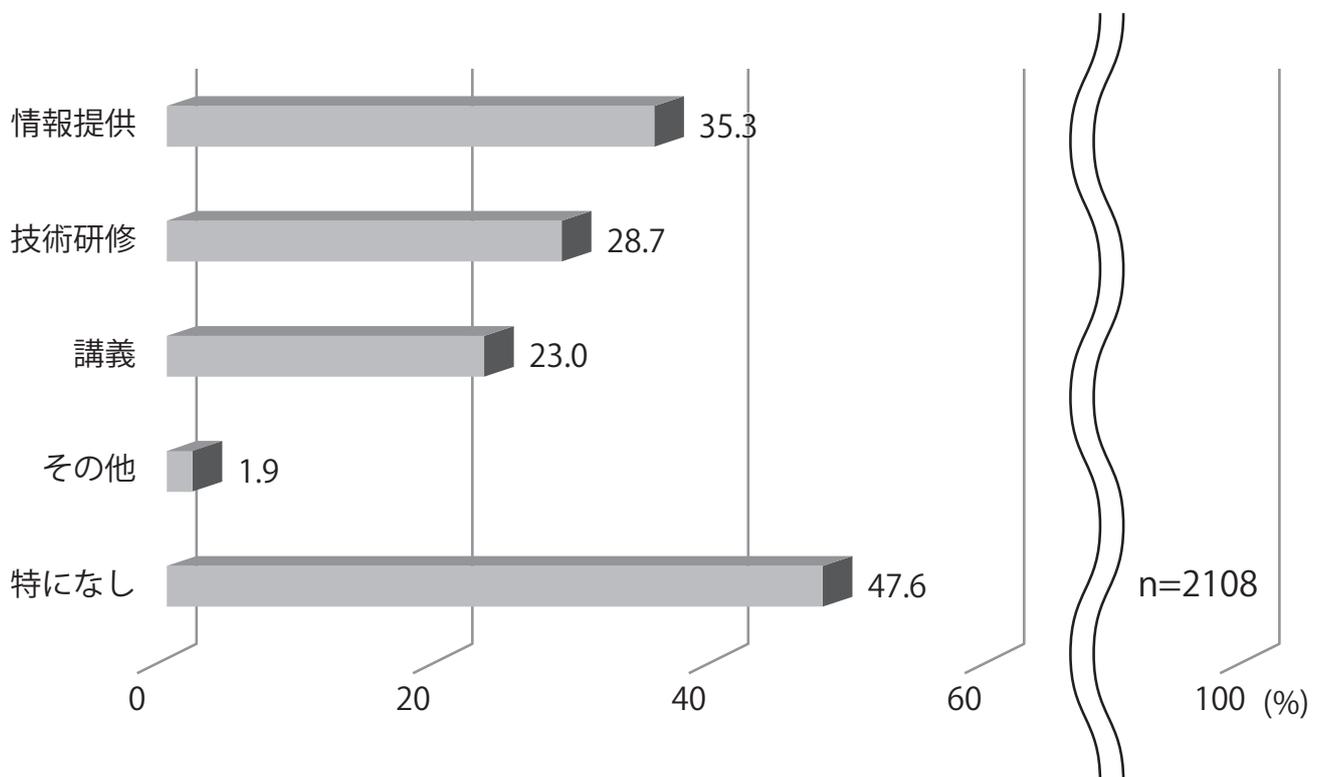
6. 卒後教育で希望する項目

協会に希望する卒後教育の項目としては、「情報提供」が35.3%と最も多く、その内容は新しい検査機器や治療、ロービジョンケア、弱視・斜視の検査訓練、症例検討、多施設での実態に関する要望が多く寄せられた。「技術研修」では、眼位検査やGPをはじめとする検査全般、新人教育プログラム、ロービジョンケアに関する研修の希望が多かった。

「講義」については、ロービジョンケア、眼鏡・コンタクト処方、視能訓練、弱視・斜視の検査、新しい検査や機器、新しい治療法や薬剤、さらには法改正の解説を望む意見があった（図V-6-1）。

これら3つから共通して挙げられたのは、弱視・斜視の検査や訓練、ロービジョンケア、最新の検査機器に関する強い要望であった。

また「その他」としては、他職種との情報共有、接遇・マナー、認定視能訓練士の見直し、さらに研究や発表方法に関する教育を求める意見もみられた。

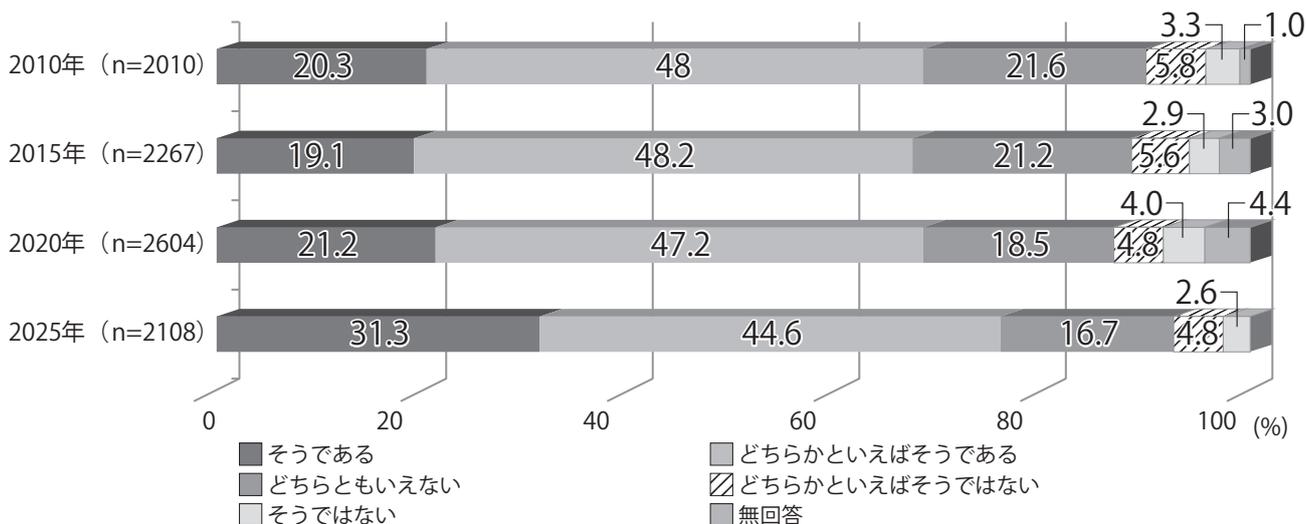


図V-6-1 卒後教育で協会に希望される項目（複数回答）

VI. 将来展望

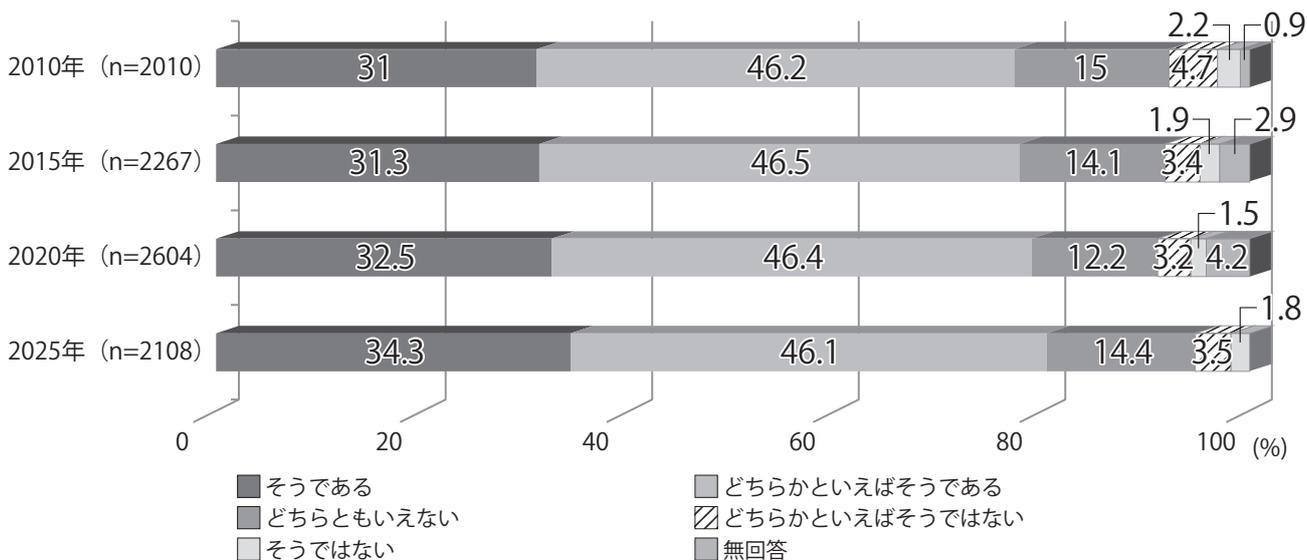
1. 職場現状の評価

現在の職場に関する満足度を5段階で評価したところ、肯定的な回答「そうである」「どちらかといえばそうである」の割合は、「仕事の中に自分の創意や工夫を活かすことができる」が75.9%（図VI-1-1）、「自分の責任で行える仕事が多い」が80.4%（図VI-1-2）であった。



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図VI-1-1 仕事の中に自分の創意や工夫を活かすことができる

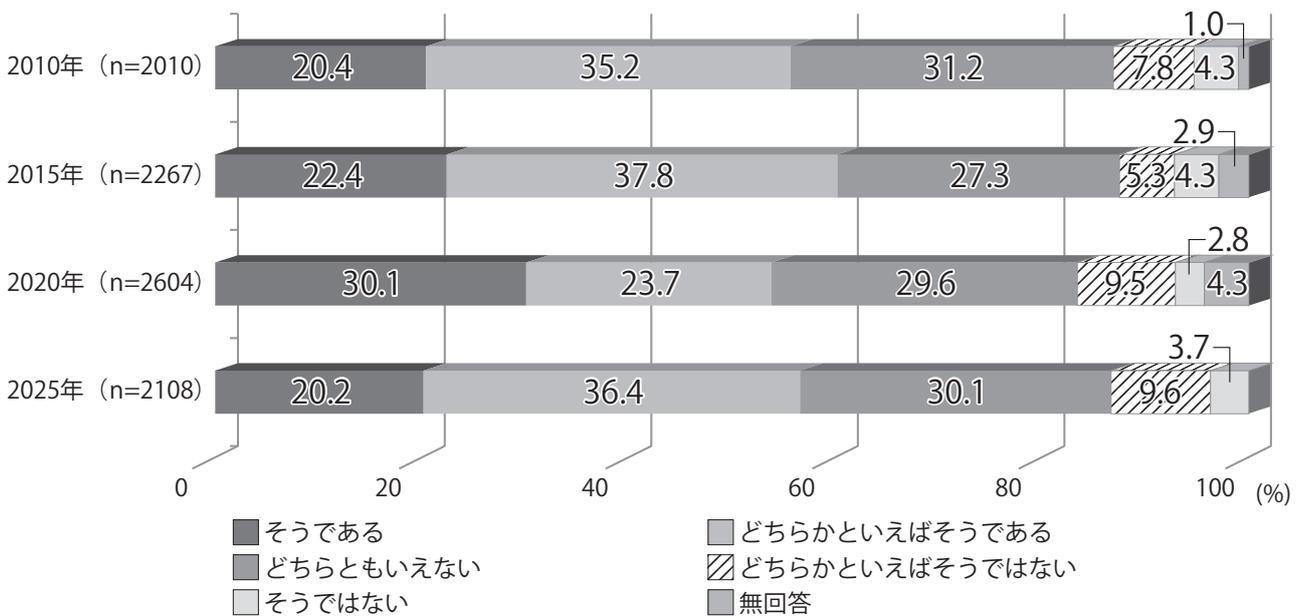


※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図VI-1-2 自分の責任で行える仕事が多い

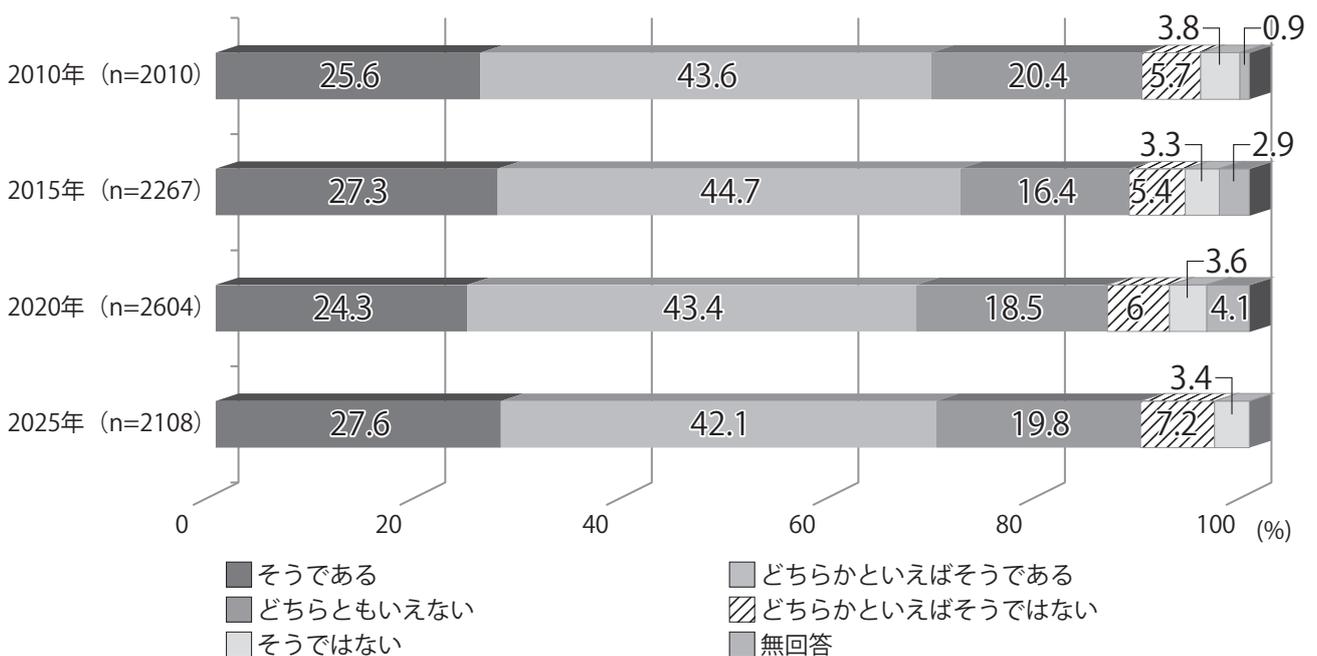
「自分たちの仕事は尊敬されている」が69.7%（図VI-1-4）,「自分の仕事の範囲がはっきりしている」が62.4%（図VI-1-5）であった。いずれも60%を超えており、肯定的な評価が多数を占めている。また、2020年度の調査と比較すると「仕事の中に自分の相違や工夫を活かすことができる」が7ポイントと大幅に増加していた。

一方、肯定的な回答で最も低かったのは「単純でつまらない仕事は少ない」で56.6%であった（図VI-1-3）。



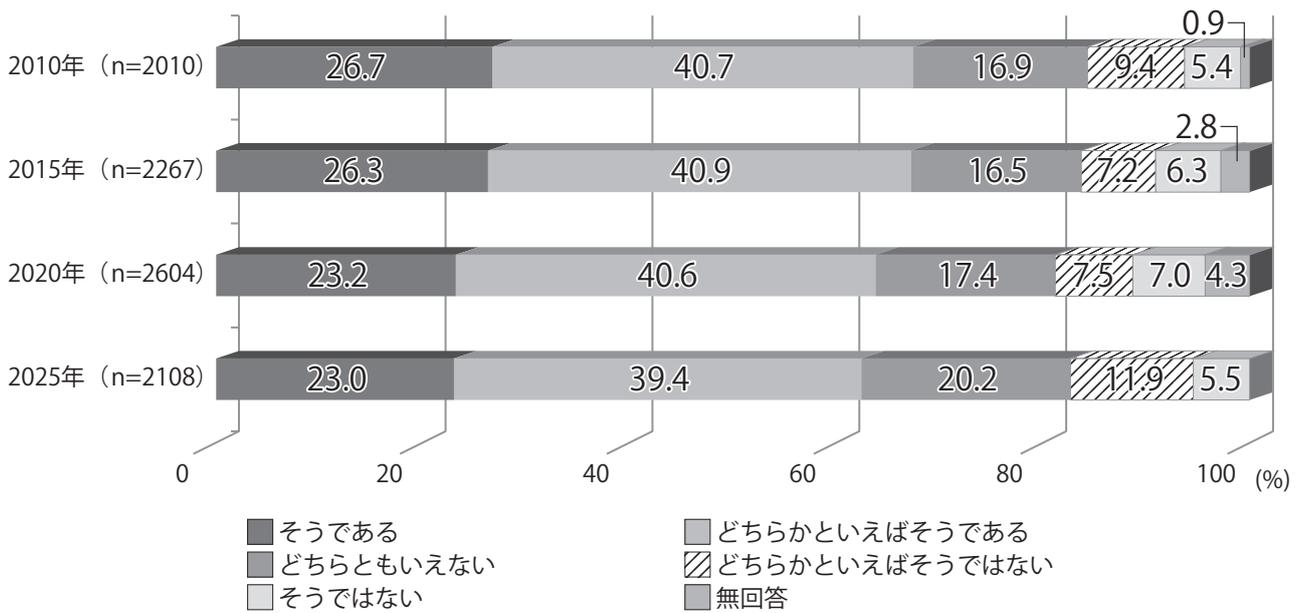
※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図VI-1-3 単純でつまらない仕事は少ない



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図VI-1-4 自分たちの仕事は尊重されている



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図VI-1-5 自分の仕事の範囲がはっきりしている

2. 仕事のやりがい

視能訓練士として「仕事のやりがいを感じるのはどのようなときか」という問いの記述で、最も多かった回答は「患者の満足や喜びにかかわる場面」であった。自身の視能検査や訓練が患者の生活の質向上に直結し、感謝の言葉や笑顔をいただいたとき、深い充実感を味わっていた。特に、患者やその家族からの「ありがとう」の一言や「見えるようになって生活が楽になった」といった報告を受けたときに、仕事の意義を強く実感していた。眼鏡やコンタクトレンズの処方による視力改善、弱視・斜視訓練で小児の視力が向上し、その成長を見守る過程で成果が表れた時には、大きな達成感を得ていた。

次に多かったのは、難しい検査や症例への対応を通じた専門性の発揮である難症例に適切な検査や処方を行い、診断や治療に貢献できたとき、専門知識と技術が役立ったことに大きなやりがいを感じていた。また、新しい検査方法や機器を習得し、実際の臨床で活かせたときにも、自己成長を実感していた。

さらに、患者との信頼関係の構築もやりがいの源となっていた。患者の訴えや不安に耳を傾け、分かりやすい説明を行うことで安心感を与え、「あなたに検査・訓練してもらえてよかった」と言われた瞬間に、仕事の意義を深く感じていた。

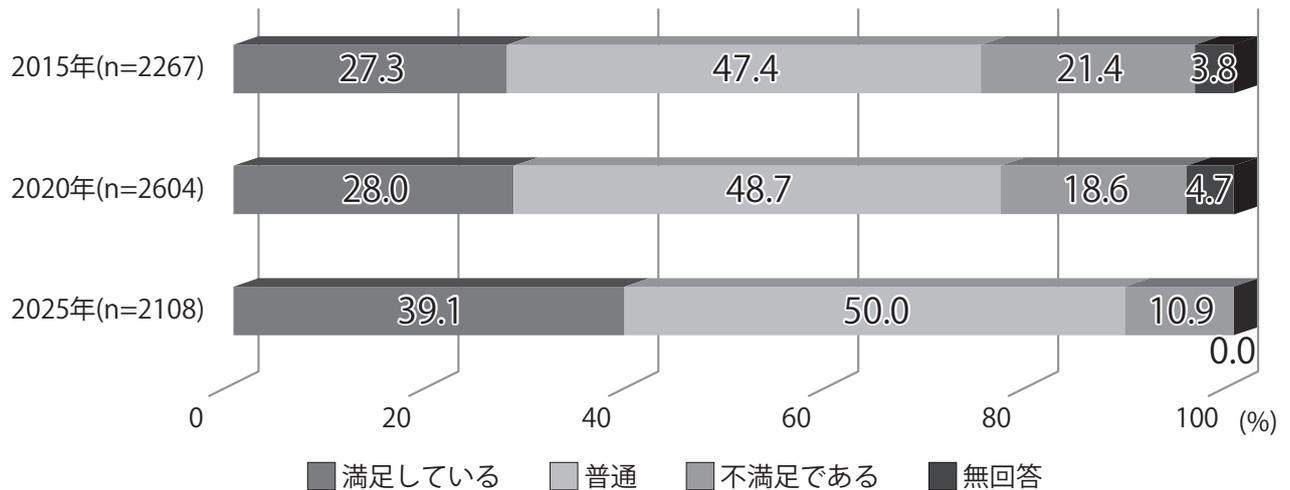
また、教育や後輩指導を通じた貢献も重要な要素であった。自身の知識や技術を学生や新入職員に伝え、それが実際の成長や活躍につながるとき、大きなやりがいを感じていた。後進が現場で力を発揮する姿を見ることは、自らの経験が次世代の育成に結びついていると実感する瞬間であった。

総じて、視能訓練士にとっての「仕事のやりがい」は、自身やチームによる患者への貢献に根ざしており、患者の生活の質の向上、専門性の発揮、信頼関係の構築、次世代の育成といった多様な場面において、自らの仕事が社会に役立っているという実感が、大きなやりがいと感じていた。

3. 現状に対する満足度

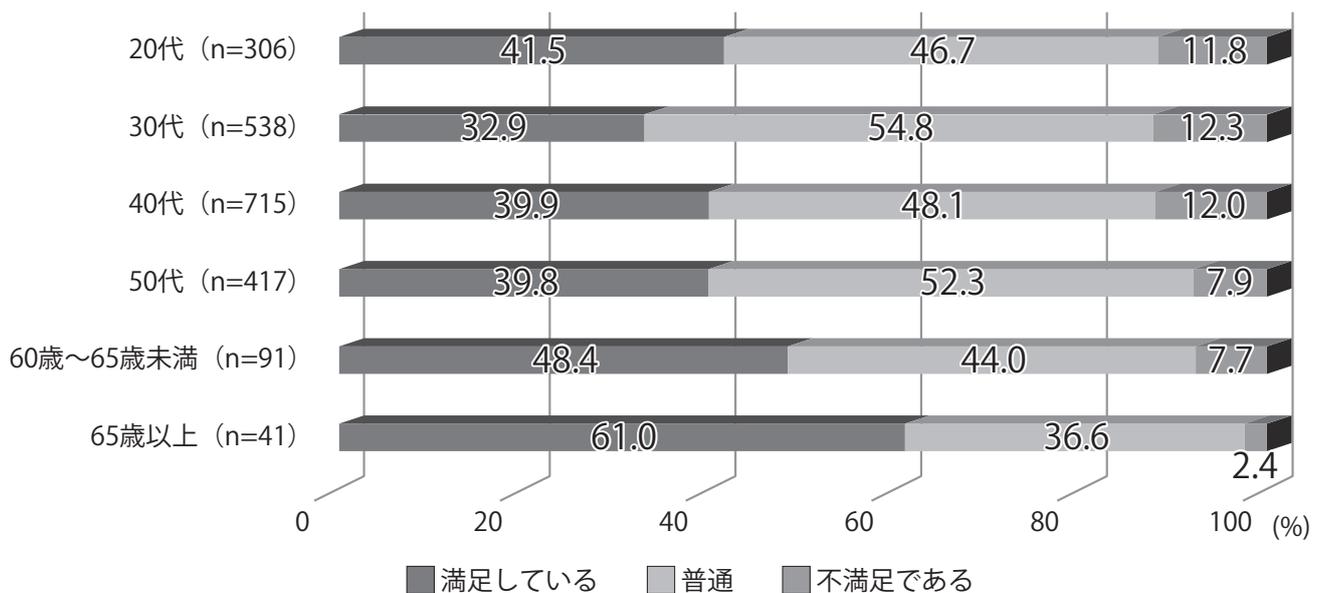
現在の職場での業務に「満足している」は39.1%で、2020年の調査より10ポイント増加していた。一方、「不満足である」と回答した割合は10.9%で、2020年より8ポイント減少していた（図VI-3-1）。

年代別にみると、60歳以上では「満足している」との回答が最も多かったのに対し、50歳代以下では「普通」と回答する割合が高かった。なお、60歳未満の年代で「満足している」との回答が最も多かったのは20代であった（図VI-3-2）。



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図VI-3-1 現在の職場での業務への満足度

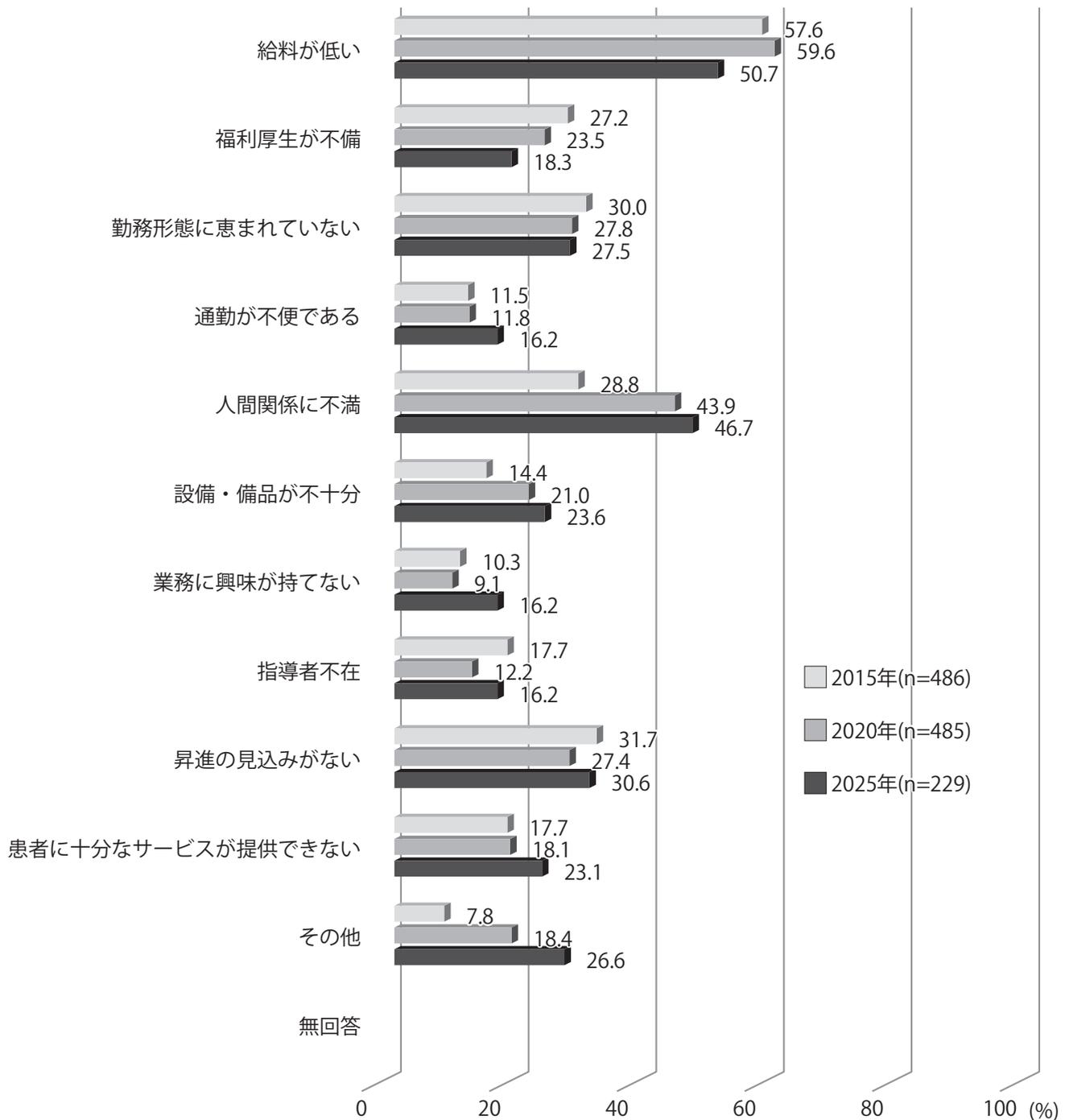


※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図VI-3-2 年代別の職場での業務への満足度

不満足とした理由の上位は「給料が低い」が50.7%で最多であったが、2020年と比較すると9ポイント減少していた。次いで多かったのは「人間関係に不満」46.7%、「昇進の見込みがない」30.6%、「勤務形態に恵まれていない」27.5%であった。2020年の調査と比べ最も増加していた項目は「業務に興味を持ってない」で、7ポイント増加していた。そのほか「人間関係に不満」「昇進の見込みがない」「設備・備品が不十分」「患者に十分なサービスが提供できない」といった項目も増加傾向を示していた（図VI-3-3）。

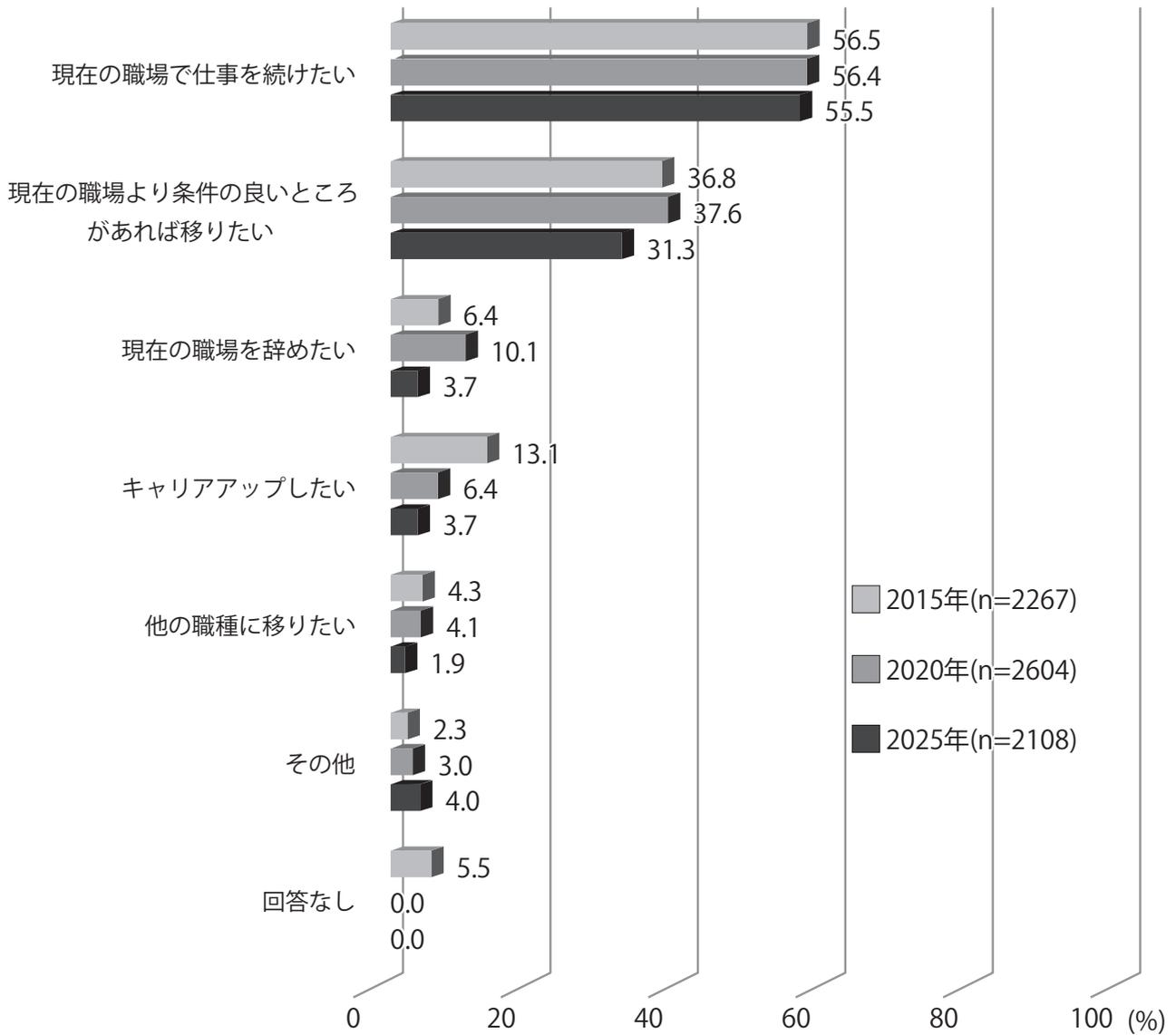
また、「その他」としては、視能訓練士本来の業務以外の雑務が多い、業務量の多さ、人員不足、医師や上司に対する不満が多く挙げられた。



図VI-3-3 現在の職場での業務への不満の理由（複数回答）

4. 現在の職場の継続

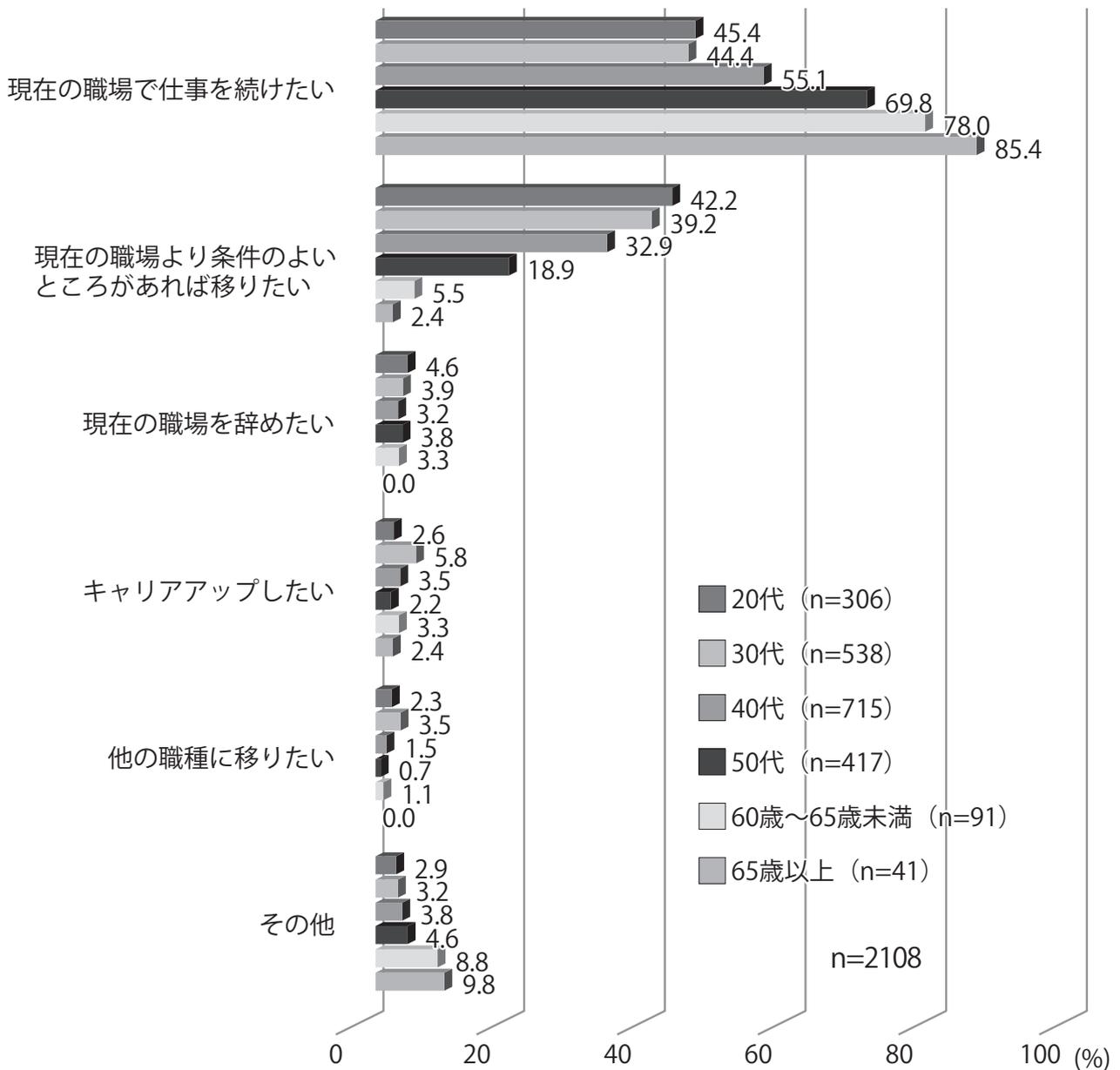
「現在の職場で仕事を続けたい」と回答した割合が最も高く55.5%であった。一方、「現在の職場より条件のよいところがあれば移りたい」は31.3%で、2020年の調査より6ポイント減少していた（図VI-4-1）。



図VI-4-1 現在の職場の継続（複数回答）

年代別にみると、年齢が上がるにつれて「現在の職場で仕事を続けたい」と考える割合が増加し、特に40代以降でその傾向が顕著であった。これに伴い「現在の職場より条件のよいところがあれば移りたい」とする割合は年代が上がるにつれて減少する傾向を示した（図VI-4-2）。

また、「その他」と回答した中には、「子育てや介護との両立が難しい」「女性がキャリアを継続することへの理解が得られない」といった家庭や職場環境に起因する理由が多くみられた。さらに、「常勤になれば続けたい」「給与が上がるのであれば続けたい」など、条件が改善されれば現職を続けたいとする意見も散見された。

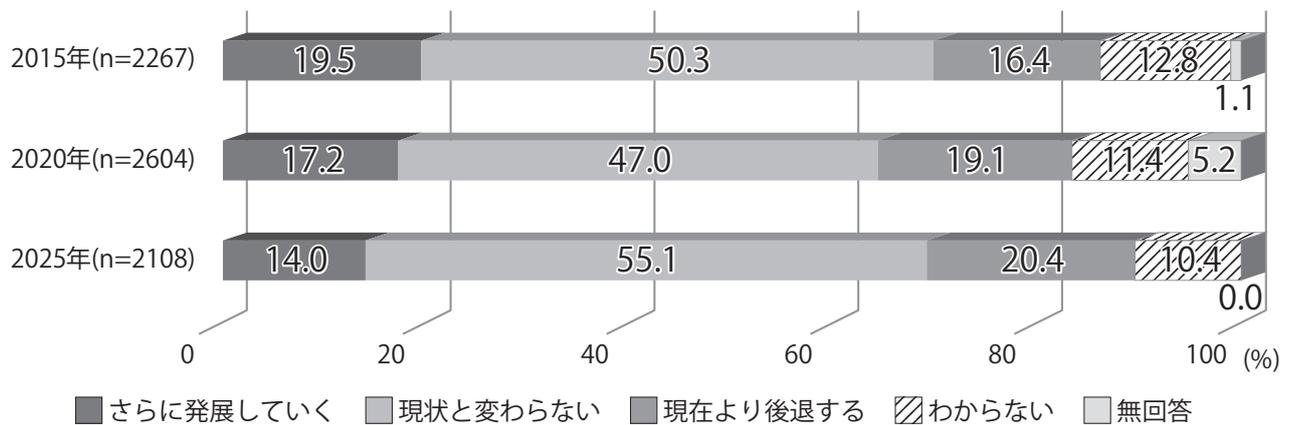


図VI-4-2 年代別の現在の職場の継続

5. 視能訓練士の将来性

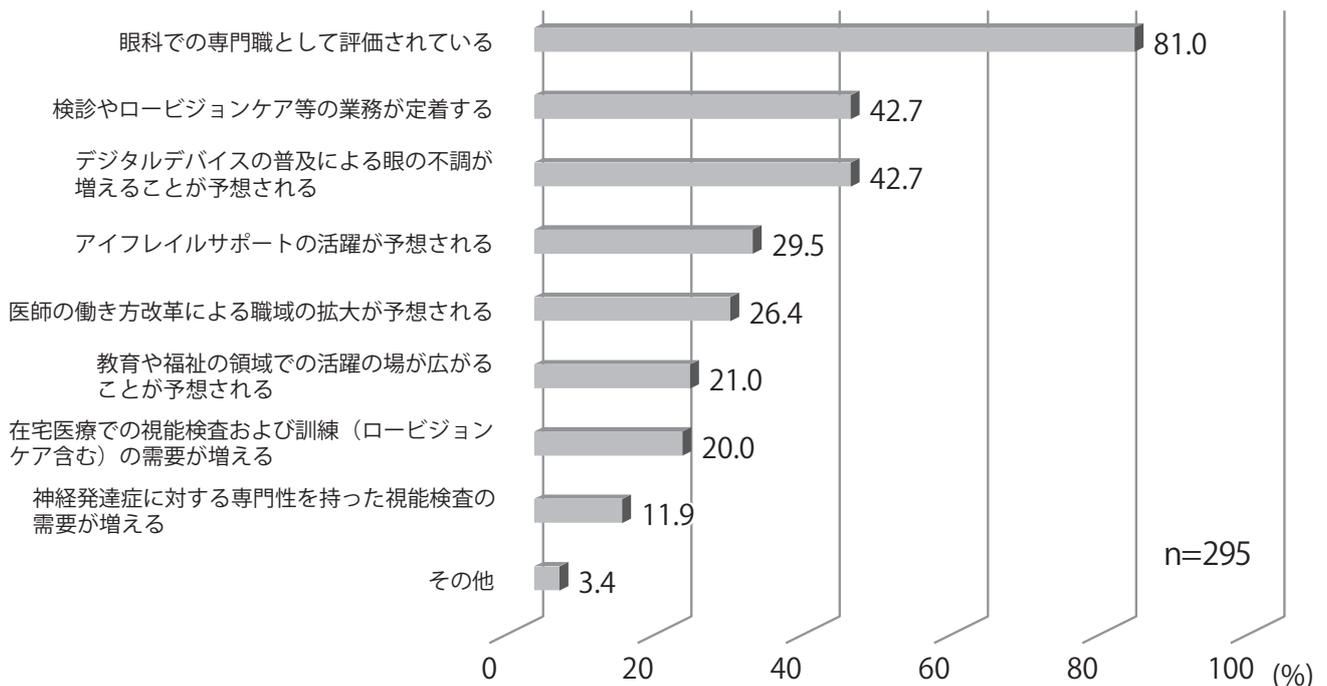
視能訓練士の将来性については、「さらに発展していく」と回答した割合は14.0%、「現状と変わらない」は55.1%、「現在より後退する」は20.4%であった。2020年の調査と比較すると「さらに発展していく」は3ポイント減少し、「現状と変わらない」は8ポイント増加していた（図VI-5-1）。

「さらに発展していく」と回答した理由は、「眼科での専門職として評価されている」が81.0%と最も多く、「検診やロービジョン等の業務が定着する」42.7%、「デジタルデバイスの普及による目の不調が増えることが予想される」42.7%、「アイフレイルサポートの活躍が予想される」29.5%、「医師の働き方改革による職域の拡大が予想される」26.4%であった（図VI-5-2）。



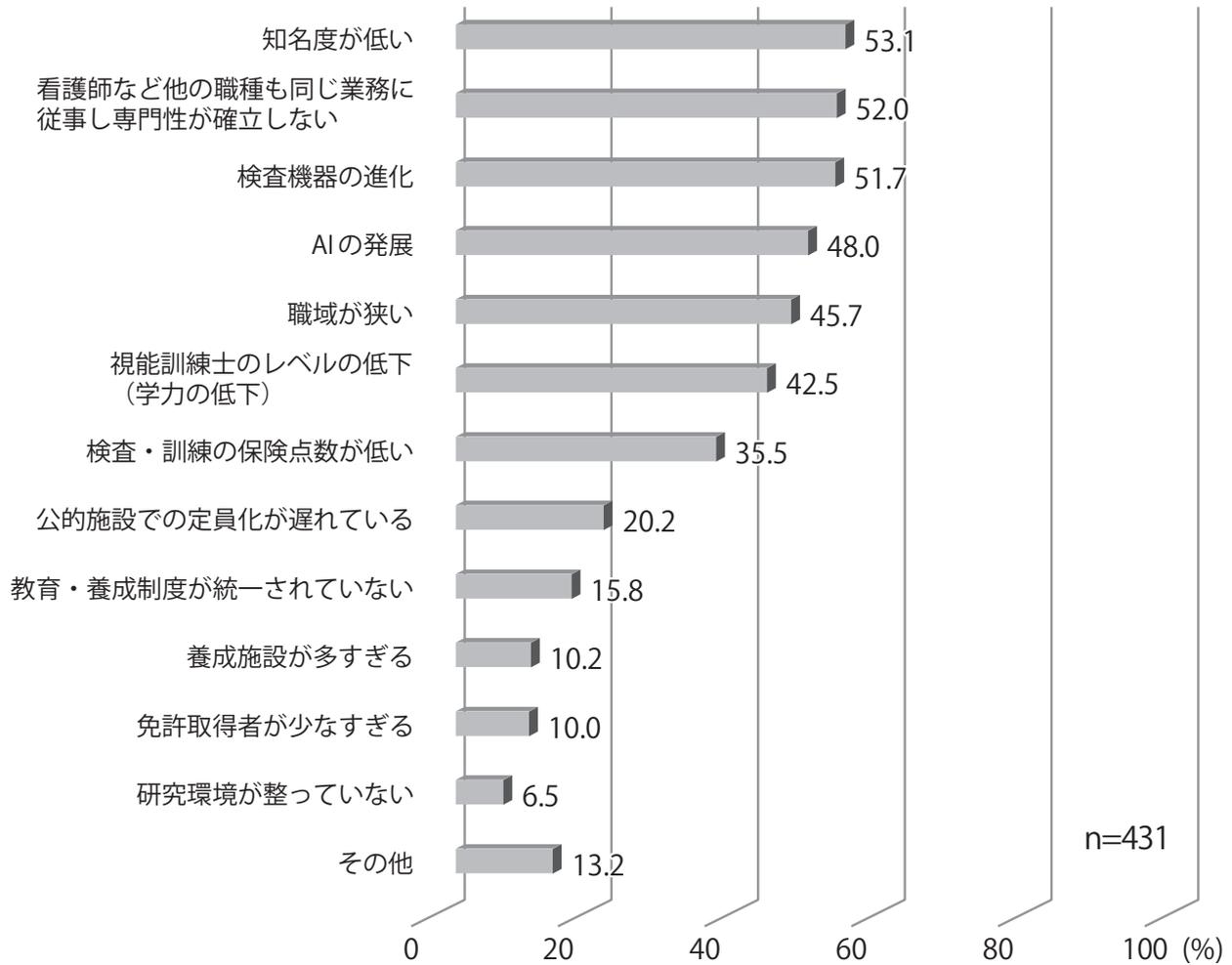
※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

図VI-5-1 視能訓練士の将来性



図VI-5-2 視能訓練士が「さらに発展していく」理由（複数回答）

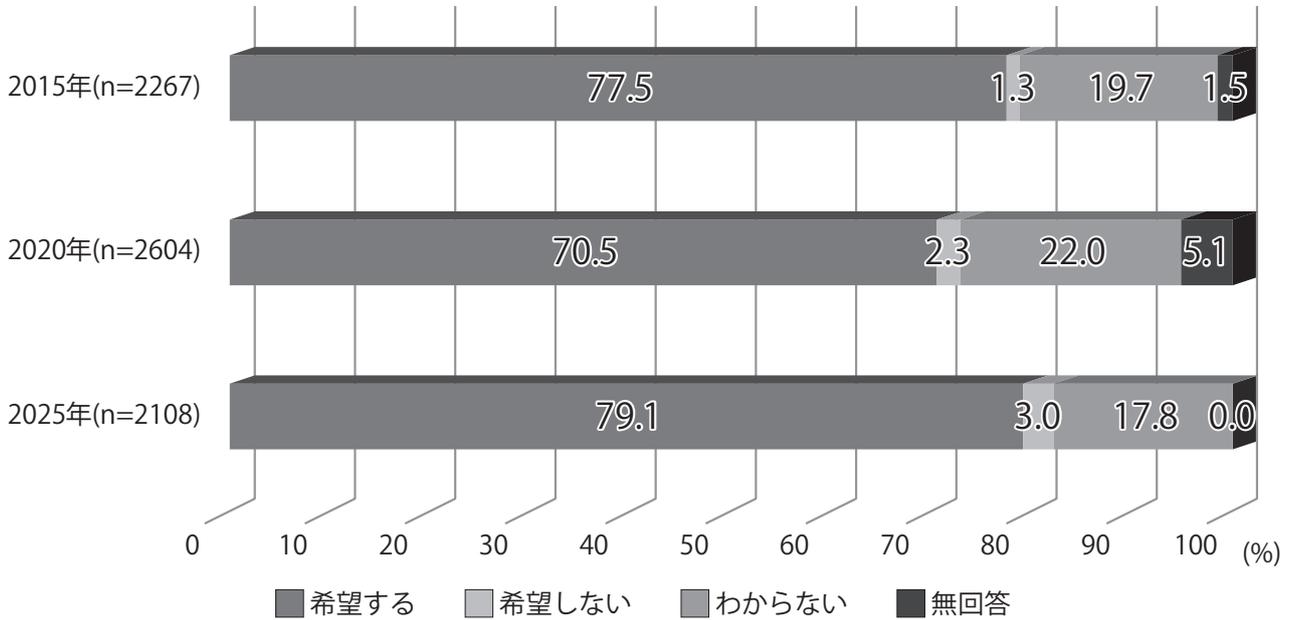
「現在より後退する」と回答した理由は、「知名度が低い」が53.1%、「看護師など他の職種も同じ業務に従事し専門性が確立しない」が52.0%であり、知名度の向上や職域の専門性が計測的な課題であることが示された。さらに、2025年から新たに加えた選択肢「検査機器の進化」および「AIの発展」に対しては、それぞれ51.7%、48.0%と高い割合が示された。また、「職域が狭い」との回答も45.7%に上り、今後はタスクシフトやタスクシェアによる職域の拡大が望まれる結果であった（図VI-5-3）。



図VI-5-3 視能訓練士が「現在より後退する」理由（複数回答）

6. 視能訓練士としての継続

将来も視能訓練士として働くことを「希望する」が79.1%で、前回調査より9ポイント増加した（図VI-6）。



※割合は四捨五入のため、合計が100%とならない場合がある。

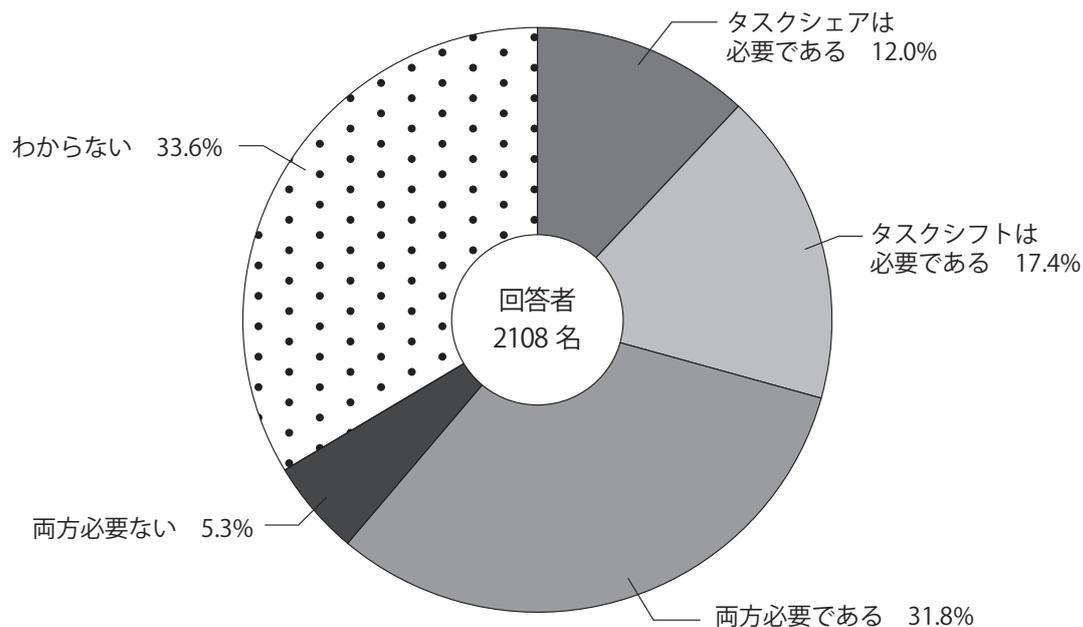
図VI-6 視能訓練士としての継続希望

7. 視能訓練士業務のタスク・シフト/シェア

本項目は視能訓練士の職域拡大を検討するために、今回の調査で新たに設けた。

今後の視能訓練士業務におけるタスク・シフト/シェアの必要性については、「わからない」と回答した割合が33.6%と最も多く、タスク・シフト/シェアに関する情報提供が必要であることが明らかになった。

また、必要である場合は、「両方必要である」が31.8%と最も多く、次いで「タスクシフトは必要である」が17.4%、「タスクシェアは必要である」が12.0%であった、タスクシェアよりもタスクシフトの必要性を感じている割合が高いことが示された（図VI-7）。



図VI-7 タスク・シフト/シェアは必要か

8. タスク・シフト／シェアの業務内容

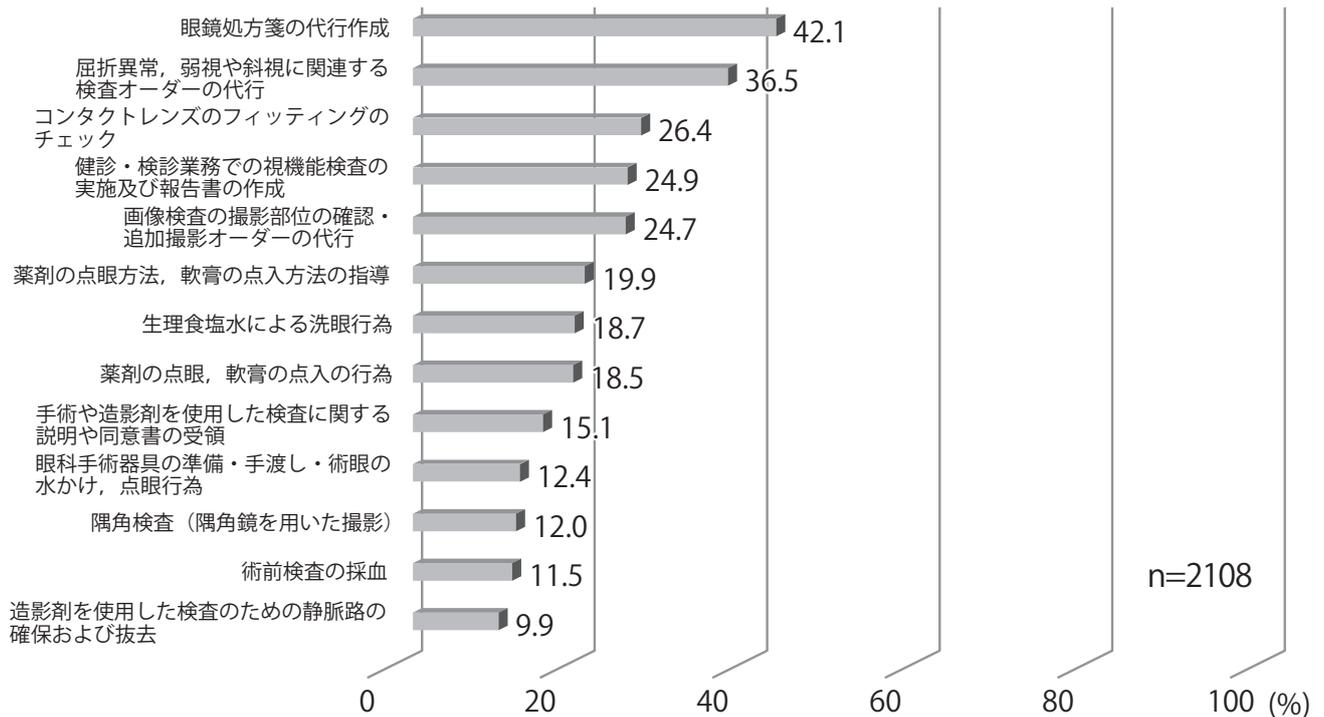
「タスクシフトに望ましい業務」として最も多かったのは「眼鏡処方箋の代行作成」で42.1%であった。次いで、「屈折異常，弱視や斜視に関する検査オーダーの代行」が36.5%，「コンタクトレンズのフィッティングのチェック」が26.4%，「健診・検診業務での視機能検査の実施及び報告書の作成」が24.9%，「画像検査の撮影部位の確認・追加撮影オーダーの代行」が24.7%と続いた。一方，下位の回答は、「隅角検査（隅角鏡を用いた撮影）」が12.0%，「術前検査の採血」が11.5%，「造影剤を使用した検査のための静脈路の確保および抜去」が9.9%であった（図VI-8-1）。

「タスクシェアに望ましい業務」では、「薬剤の点眼，軟膏の点入の行為」が最も多く30.6%であった。次いで「薬剤の点眼方法，軟膏の点入方法の指導」が29.5%，「生理食塩水による洗眼行為」が27.1%，「手術や造影剤を使用した検査に関する説明や同意書の受領」が23.0%「眼科手術器具の準備・手渡し・術眼の水かけ，点眼行為」が22.2%であった。下位には「造影剤を使用した検査のための静脈路の確保および抜去」が10.8%，「術前検査の採血」が10.2%，「隅角検査（隅角鏡を用いた撮影）」が10.2%であった（図VI-8-2）。

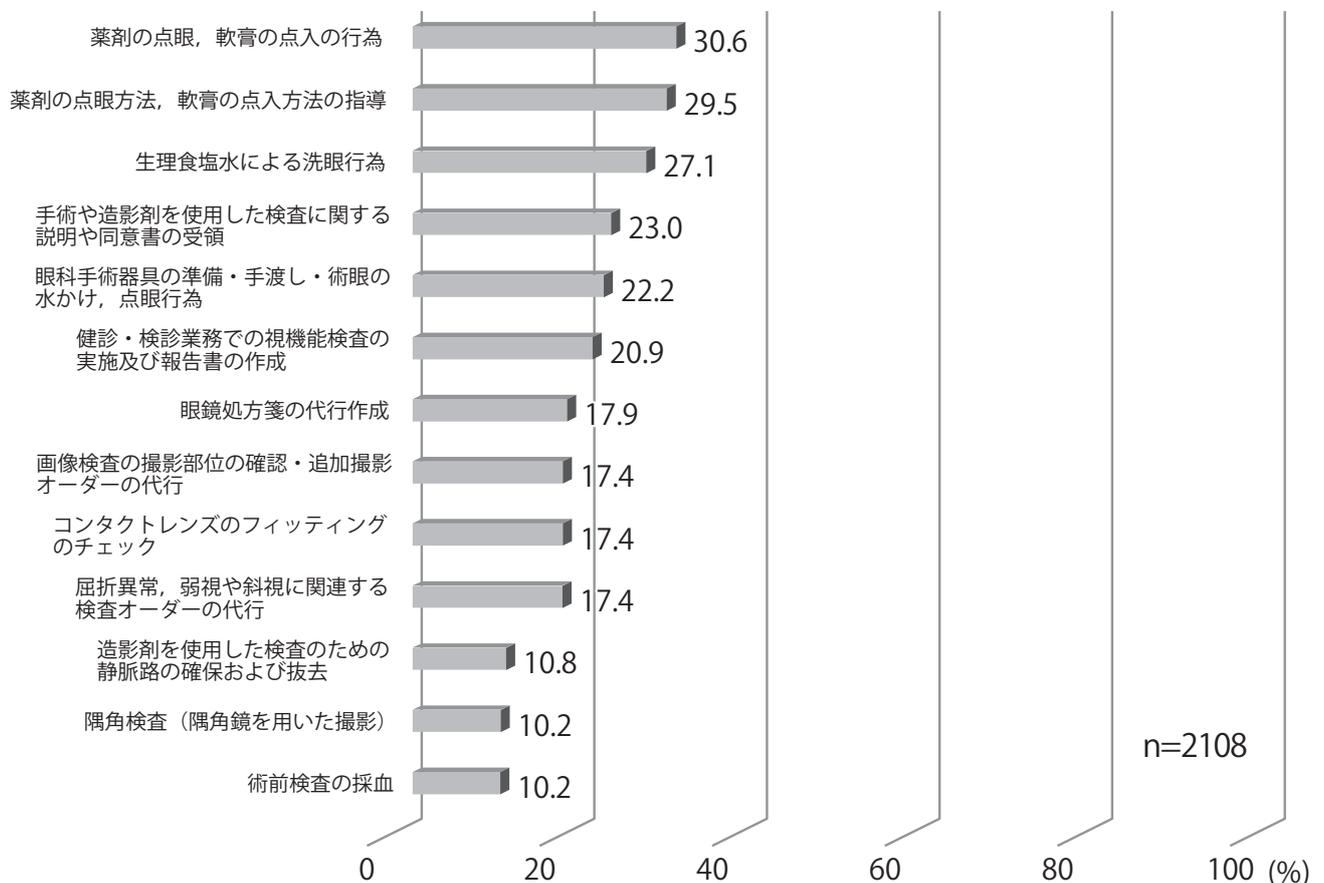
「タスク・シフト／シェア両方に望ましい業務」では、「薬剤の点眼，軟膏の点入の行為」が最も多く34.2%であった。次いで、「薬剤の点眼方法，軟膏の点入方法の指導」が32.8%，「生理食塩水による洗眼行為」が30.2%，「健診・検診業務での視機能検査の実施及び報告書の作成」が26.5%，「手術や造影剤を使用した検査に関する説明や同意書の受領」が26.4%，「眼鏡処方箋の代行作成」が25.3%，「屈折異常，弱視や斜視に関する検査オーダーの代行」が24.1%であった。下位は「隅角検査（隅角鏡を用いた撮影）」が10.5%，「造影剤を使用した検査のための静脈路の確保および抜去」が8.5%，「術前検査の採血」が7.7%であった（図VI-8-3）。

「タスク・シフト／シェアのいずれも該当しない業務」として最も多かったのは、「造影剤を使用した検査のための静脈路の確保および抜去」と「術前検査の採血」がいずれも70.7%であり、「隅角検査（隅角鏡を用いた撮影）」が67.3%で続いた。これらは，タスク・シフト／シェアで望ましいとされた業務の下位回答と同様の結果であった（図VI-8-4）。

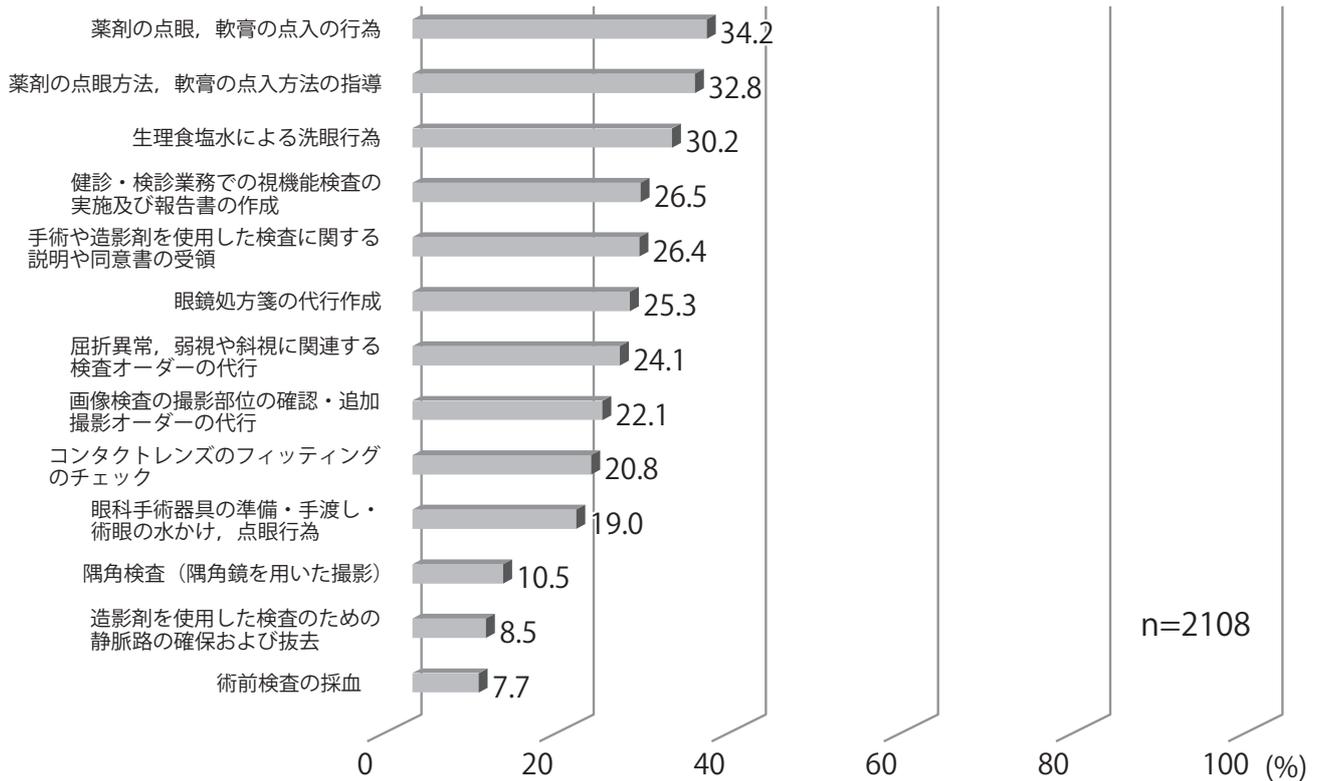
以上の結果から，視能訓練士がタスク・シフト／シェアにおいて望ましいと考える業務は，職域の拡大を通じて視能訓練士の知名度向上や専門性の強化に寄与し，医療チーム内での役割を一層高める可能性があるため，今後検討する必要がある。



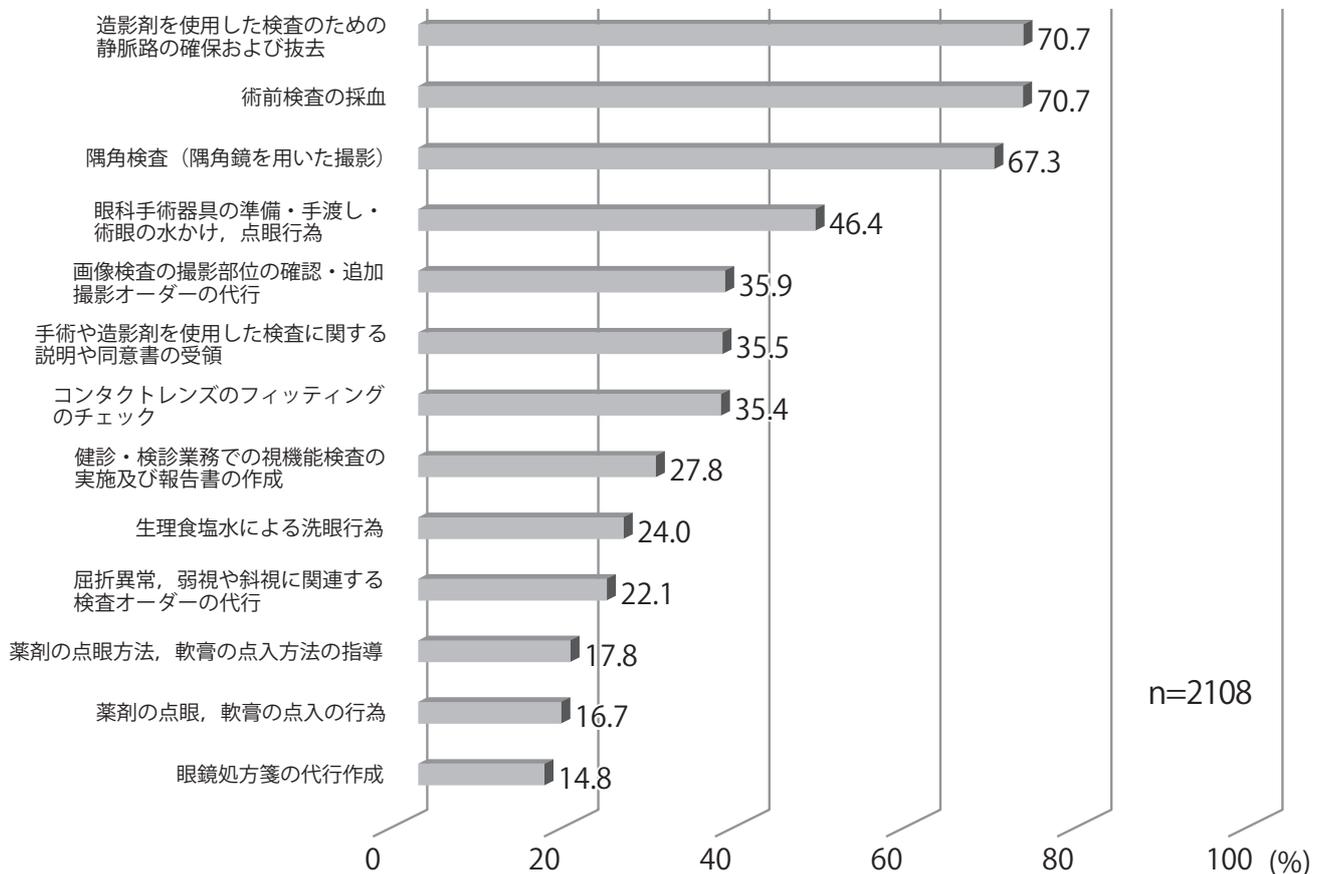
図VI-8-1 タスクシフトに望ましい業務 (複数回答)



図VI-8-2 タスクシェアに望ましい業務 (複数回答)



図VI-8-3 タスク・シフト/シェア両方に望ましい業務 (複数回答)

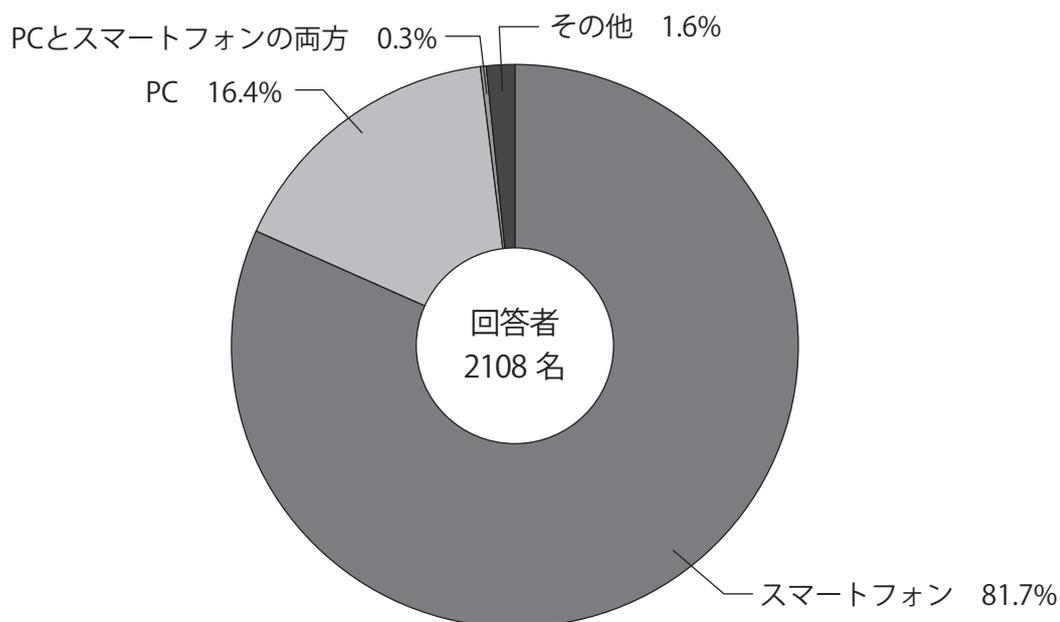


図VI-8-4 タスク・シフト/シェアいずれも該当しない業務 (複数回答)

VII. その他

1. アンケートの回答方法

2020年の実態調査では、調査方法について「インターネットを利用する」と回答した割合が「郵送する」を上回ったため、今回の調査はインターネット方式で実施した。なお、今回の調査の回答方法としては「スマートフォン」が最も多く、全体の81.7%を占めた。(図Ⅶ)。



図Ⅶ アンケート回答方法

2. 協会への意見

- 1) 視能訓練士の地位向上・給与や待遇改善
 - 業務範囲が拡大しているのに給料が上がらない
 - 他職種と比べると賃金や評価が低い
 - 認定や専門資格を取得しても給与に反映されない
- 2) 業務範囲やタスク・シフト/シェアに関する意見
 - 手術補助など看護師業務に近い仕事まで任されるが報酬や法的整備が不十分
 - 無資格者が検査を行うクリニックが多く、視能訓練士の専門性が軽視されている
 - オペ介助がグレーゾーン化している現状を明確にしてほしい
- 3) 協会への加入メリット・年会費の高さへの指摘
 - 年会費が高く、入会しているメリットがわかりにくい
 - 非会員に比べてどのような優位性があるのか示してほしい
 - 郵送物等にコストをかけるより、会費を下げしてほしい
- 4) 生涯教育制度・認定視能訓練士への要望・改善点
 - 講習費用が高額
 - オンラインやオンデマンド受講の拡充を
 - 更新要件（勤務日数や実技講習）を柔軟に見直してほしい
 - 認定の基準が甘く、実技レベルに差がありすぎる
- 5) 視能訓練士養成校・新人教育体制への不安や改善要望
 - 養成校が増えすぎて入学者のレベルや教育内容にばらつきがある
 - 国家試験に合格しても実践能力が伴わない新人が多い
 - 実習指導者不足や実習施設の確保が難しい
- 6) 視能訓練士の社会的認知度向上を求める意見
 - 一般への知名度が低い
 - 高校生や医療従事者への啓蒙不足で人材確保が難しい
 - 視能訓練士の存在意義が周知されていないため待遇に影響している
- 7) 郵送物の削減・デジタル化の推進要望
 - ハガキや紙媒体が多すぎる
 - メールやSNSでの案内で十分、その分会費を下げるべき
- 8) 出産・育児・介護等、ライフステージに応じたサポート強化
 - 産休・育休中やブランクからの復職支援体制を整えてほしい
 - 子育てしながら研修参加が難しいためオンライン受講をもっと拡充してほしい
- 9) 職場環境や他職種との連携・教育に関する意見
 - 医師や看護師、ほかのコ・メディカルとの連携が不十分
 - 開業医などで孤立しがちな環境を改善してほしい
 - 実習生や新人指導を敬遠する職場体質にも問題がある
- 10) その他、個別具体的な要望や指摘
 - 3歳児健診などの制度拡充
 - 学会・講習会の日程や単位制度の見直し
 - 紙会報の廃止や会員限定の情報配信充実
 - アンケート設計や問合せ対応の改善

最も多かった意見は、「視能訓練士の地位向上や給与・待遇の改善」を強く求めるものであった。手術補助をはじめとする業務範囲の拡大や専門性の向上にもかかわらず、昇給や報酬が十分に反映されていないことへの不満が多く寄せられている。

次いで多かったのは、業務範囲やタスクシェアに関する意見である。法的整備が不十分なまま手術補助や幅広い検査業務を担う現状に疑問を呈する声や、無資格スタッフによる検査実施によって専門性が損なわれることを懸念する意見があった。また、業務の拡大に伴う多忙感と給与・評価の不釣り合いも指摘されている。

さらに、協会への加入メリットや年会費の高さ、生涯教育・認定視能訓練士制度に関する改善要望も目立った。講習費用や更新要件の負担が大きい一方で、必ずしも職場での評価や待遇改善に直結しないことが、入会や認定資格取得の動機を低下させているとの指摘が多かった。

その他、視能訓練士養成校や新人教育の質のばらつき、職種の社会的知名度を高める広報活動の不足も課題として挙げられている。また、紙媒体の削減やデジタル化による会費コスト削減、子育て・介護との両立支援の強化を望む声も多く、今後の重要な検討課題といえる。

資料1 アンケート調査票

I. 一般的事項についてお伺いします

Q1. 性別

1. 男性 2. 女性 3. その他

Q2. 年齢

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代
5. 60歳～65歳未満 6. 65歳以上

Q3. 視能訓練士の免許を取得したのは、何年ですか

1. 1970～1974年 2. 1975～1979年
3. 1980～1984年 4. 1985～1989年
5. 1990～1994年 6. 1995～1999年
7. 2000～2004年 8. 2005～2009年
9. 2010～2014年 10. 2015～2020年
11. 2021～2024年

Q4. 視能訓練士としての勤務年数（通算）は、どれくらいですか

（特例の方は視能訓練士としての勤務内容の仕事の始めてから）

1. 5年未満 2. 5年以上10年未満
3. 10年以上15年未満 4. 15年以上20年未満
5. 20年以上25年未満 6. 25年以上30年未満
7. 30年以上35年未満 8. 35年以上40年未満
9. 40年以上

Q5. 現在、勤務している地域（ブロック）はどちらですか

1. 北海道 2. 東北 3. 関東甲信越 4. 東京
5. 東海北陸 6. 近畿 7. 中国四国
8. 九州沖縄

Q6. 教育を受けた視能訓練士養成所はどこですか

1. 1年課程（国立）の養成校 2. 1年課程の専門学校
3. 3年課程の専門学校 4. 4年課程の専門学校
5. 短期大学 6. 大学
7. 特別経過措置 8. その他（ ）

Q7. 免許取得後の進学について、該当するものにチェックをつけてください（海外での学歴も含む）

1. 大学院（修士） 2. 大学院（博士）
3. 海外留学（ 年間） 4. なし
5. その他（ ）

Q8. 視能訓練士以外の資格はありますか

1. ある 2. ない

Q8. で「ある」と答えた方

Q9. 下記の資格で持っているものを全て選んでください（複数回答可）

1. 看護師・保健師
2. 保育士
3. 幼稚園教諭
4. 教員（小・中・高等）
5. 養護教諭
6. 社会福祉士
7. 介護支援専門員（ケアマネージャー等）
8. 歩行訓練士
9. 眼鏡作製技能士
10. 同行援護従業者
11. その他（ ）

II. 勤務体制についてお伺いします

Q10. 現在の勤務形態はどれですか

1. 正規職員 2. 契約（嘱託）職員
3. 非常勤職員（パート） 4. 事業主（経営者）
5. 勤務していない ⇒ Q. 32へ移動
6. その他（ ）

Q10. で「正規職員」「契約（嘱託）職員」「3. 非常勤職員（パート）」と答えた方

Q11. あなたの勤務形態をさらに詳しく教えてください

あなたの勤務形態は、どれに当てはまりますか

1. 週40時間の雇用 2. 週30時間の雇用
3. 週2～3日程度の非常勤 4. 不定期雇用
5. 複数の施設を掛け持ち
6. その他（ ）

Q10. で「2. 契約（嘱託）職員」または「3. 非常勤職員（パート）」と答えた方

Q12. あなたの採用形態の理由は何ですか

1. 本当は正規職員になりたいがポストがない
2. 家庭の都合で正規職員は困難
3. 扶養家族として勤務したい 4. その他（ ）

Q13. 視能訓練士として得た昨年度の年間所得（税込み）はどれくらいですか（源泉徴収票などを参考に記入してください）
（ ）万円

Q14. 年間所得（税込み）は一昨年度と比較していかがですか

1. 上がった 2. 下がった 3. 変わらない

Q15. 給与は時間給ですか

1. はい 2. いいえ

Q15-1. 給与が時間給の人はその額も記入してください（複数力

所ある場合は平均値）

（ ）円／時間

Q16. 認定視能訓練士を取得して給与に変化はありましたか

1. 上がった 2. 下がった 3. 変わらない
4. 該当しない

Q17. 現在、主に勤務している施設はどこですか

1. 国立高度専門医療センター（ナショナルセンター）
2. 独立行政法人国立病院機構
3. 国立大学法人
4. その他 国立系病院
5. 公立医療機関（都道府県市町村立の病院および診療所）
6. 公立大学病院
7. 公立に準ずる病院および診療所（労災・日本赤十字・済生会・厚生連・社会事業協会・厚生年金・共済組合・社会保険関連団体、等）
8. 私立大学病院
9. 私立病院（他科もある病院の眼科）
10. 私立眼科病院
11. 眼科診療所（医療法人および個人）
12. レーシックセンター
13. 視能訓練士の養成施設（大学、専門学校）
14. 眼鏡店、コンタクトレンズ関連会社
15. 保健所、保健センター
16. 特別支援学校（盲学校など）
17. 製薬会社
18. 眼科機器メーカー
19. その他（ ）

Q18. あなたはどのような身分で採用されていますか

1. 視能訓練士採用 2. 病院採用（医療技術職）
3. 病院採用（事務職） 4. 眼科医局採用
5. 団体採用 6. 養成施設職員採用
7. 会社採用 8. 技官
9. その他（ ）

病院に勤務されている方（Q17で1～10を答えた方）

Q19. 所属はどこですか

1. 眼科
2. 視能訓練科（室）
3. 医療技術部
4. 検査部（科）
5. リハビリ部（科）
6. 看護部
7. 事務部
8. 眼科医局
9. その他（ ）

Q20. 同じ職場に勤務する視能訓練士はあなたを含め何人いますか

1. 正規職員（ ）人
2. 契約（嘱託）職員（ ）人
3. 非常勤職員（パート）（ ）人

眼科医療機関に勤務されている方（Q. 17で1～12を答えた方）

Q21. 現在あなたの勤務している施設で、視能訓練士は1診療（医師1名）に対して何人ですか

平日の通常外来の診療時（ ）人／1診療

Q22. 現在あなたの勤務している施設における視能訓練士の人数についてどのように思いますか

1. 足りていない 2. ちょうどよい 3. 多すぎる

Q22. で「足りていない」と答えた方

Q23. その理由は何ですか（複数回答可）

1. 本業（視能訓練士としての業務）が多い
2. 本業以外の業務（雑務）が多い
3. 経験年数の短い視能訓練士の割合が多い
4. 非常勤職員（パート）の割合が多い
5. その他（ ）

Q22. で「足りていない」と答えた方

Q24. 現状にあと何人 増員すれば適正な数になると思いますか

1. 1人 2. 2人 3. 3人以上

Q25. 視能訓練士の増員や常勤化について、病院や医師に相談したことはありますか

1. ある 2. ない

Q25. で「ある」と答えた方

Q26. 相談した際の、回答や対応はどうか

1. すぐに改善された 2. すぐではないが改善された
3. 改善に向けて検討中である
4. 検討してくれたが、改善にはいたらなかった
5. 回答、対応してもらえなかった
6. その他（ ）

Q27. 1週間に平均何日勤務していますか

例) 月曜と水曜: 1日勤務, 火曜: 半日勤務
 → 1.0 + 1.0 + 0.5 = 2.5 (日)
 平均 () 日

Q28. 1か月の残業時間(給与が出る)は平均何時間ですか

平均 () 時間

Q29. 年次有給休暇を利用していますか

1. はい 2. いいえ 3. わからない

Q29-1. 1年間に平均何日, 年次有給休暇を利用していますか

() 日

Q30. 現在, 勤務している施設で, 過去5年間に視能訓練士の育児休業制度利用の実績はありますか

1. 男女ともある 2. 女性のみある 3. ない
 4. 対象者がいない

Q31. 現在, あなたの勤務している施設で, 過去5年間に視能訓練士の介護休業制度利用の実績はありますか

1. ある 2. ない 3. 対象者がいない

Q10. で「勤務していない」と答えた方

Q32. 離職・休職した理由は何ですか

1. 結婚 2. 出産 3. 子育て
 4. 自分の病気療養 5. 配偶者の転勤
 6. 家族の病気や介護 7. 進学, 留学
 8. その他 ()

Q10. で「勤務していない」と答えた方

Q33. 離職・休職している期間はどれくらいですか

1. 6ヵ月未満 2. 6ヵ月以上1年未満
 3. 1年以上2年未満
 4. 2年以上3年未満 5. 3年以上

Q10. で「勤務していない」と答えた方

Q34. 再就職・復職の意思はありますか

1. ある 2. ない

Q34. で「ある」と答えた方

Q35. 再就職・復職に対して不安なことはありますか(複数回答可)

1. 職場の人間関係 2. 仕事の質・量
 3. 労働条件(勤務時間, 日数, 給与, など)
 4. ブランクの影響 5. 年齢
 6. その他 ()

Q36. 希望する働き方を実現するために必要と思われる職場が行うべき取り組みは何ですか。(自由記述)

()

Q37. 視能訓練士となって職場は何回変えましたか

1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回
 5. それ以上 () 回

Q37. で「0回」以外を答えた方

Q38. 職場を変えた理由は何ですか(複数回答可)

1. 結婚や出産を機に
 2. 配偶者の転勤
 3. キャリアアップ
 4. 人間関係に不満
 5. 業務が多忙
 6. 残業が多い
 7. 給料が低い
 8. 通勤が不便
 9. 指導者が不在
 10. 福利厚生が不備
 11. 設備・備品が不十分
 12. ハラスメントを受けた
 13. 昇進の見込みがない
 14. 業務に興味をもてない
 15. 勤務形態に恵まれていない
 16. 患者に十分なサービスが提供できない
 17. 眼科の閉鎖(医師が不在)
 18. その他 ()

Ⅲ. 勤務状況についてお伺いします

Q39. 従事している業務概要について, あなたの主な業務はどれですか(複数回答可)

1. 眼科一般検査
 2. 視能矯正
 3. ロービジョンケア
 4. 健診/検診業務
 5. 手術関連業務
 6. 学生の教育
 7. 研究
 8. その他 ()

Q40. 従事している業務内容にチェックを付けてください（複数回答可）※この質問は視能訓練士が臨床で実際に行っている業務を協会が把握する目的で設けています。業務内容の適法・違法を問う目的ではありませんので、従事している業務全てにチェックを付けてください。

- i) 眼科一般検査：1～25
 - ii) 視能矯正：26, 27
 - iii) 斜視手術関連業務：28, 29
 - iv) 白内障手術関連業務：30～33
 - v) その他：34～48
- i) 眼科一般検査
 - 1. 問診
 - 2. 視力検査
 - 3. 自覚的・他覚的屈折検査（角膜曲率半径測定を含む）
 - 4. 調節検査
 - 5. 静的量的視野検査
 - 6. 動的量的視野検査
 - 7. 色覚検査
 - 8. 光覚検査
 - 9. 眼圧検査
 - 10. 涙液検査
 - 11. コンタクトレンズ検査・装着指導
 - 12. 超音波検査（Bモード法）
 - 13. 眼軸長計測検査（超音波Aモード法、光学式方法）
 - 14. 角膜内皮検査
 - 15. 電気生理検査（ERG、VEPなど）
 - 16. 写真撮影（前眼部、眼底など）
 - 17. 蛍光造影撮影（FAG、ICGなど）
 - 18. デジタル画像撮影（OCT、角膜トポグラフィ、など）
 - 19. 瞳孔機能検査（電子瞳孔計使用）
 - 20. 行動観察による視力検査（PL法、乳幼児視力測定）
 - 21. 斜視検査・眼球運動検査
 - 22. 眼鏡合わせ検査
 - 23. 散瞳薬の点眼
 - 24. 縮瞳薬の点眼
 - 25. 治療に関する諸検査
 - ii) 視能矯正
 - 26. 斜視視能矯正
 - 27. 弱視視能矯正
 - iii) 斜視手術関連業務
 - 28. 手術室間接業務（眼位検査や術式の記録）
 - 29. 手術室直接業務（手術器具の手渡し、など）
 - iv) 白内障手術関連業務
 - 30. 手術の説明
 - 31. IOL度数計算
 - 32. 手術室間接業務（術式の記録、IOL保管・管理、外回り、など）
 - 33. 手術室直接業務（手術器具の手渡し、術眼への水掛け、など）

- v) その他
 - 34. ロービジョンケアに関する諸検査・指導
 - 35. 3歳児（乳幼児）健診・就学時健診業務
 - 36. 成人検診・企業検診など業務
 - 37. 受付業務
 - 38. 医療請求事務
 - 39. 実験研究業務
 - 40. レーシック関連業務
 - 41. 洗眼
 - 42. 硝子体注射の介助
 - 43. 結膜等のウイルス検査
 - 44. 写真等資料整理
 - 45. 各種委員会業務（医療安全委員会、など）
 - 46. 視能訓練士の教育（学生実習指導を含む）
 - 47. バイタル測定
 - 48. その他（

Q41. 今まで業務においてアクシデント、インシデント（ヒヤリ・ハット）はありましたか

- 1. アクシデントがある
- 2. インシデント（ヒヤリ・ハット）がある
- 3. アクシデント、インシデント共にある
- 4. ない

Q41. で「アクシデントがある」「インシデント（ヒヤリ・ハット）がある」「アクシデント・インシデント共にある」と答えた方

Q42. それぞれ該当する番号を下記から選んでチェックしてください（複数回答可、またインシデントとアクシデントとで重複回答可）

- 1. 患者やカルテの取り違え
- 2. カルテの運搬に関するミス（別の医師に渡した、カルテを置きっぱなしにした、など）
- 3. 点眼する薬剤の選択ミス（ミドリンPとミドリンMの間違え、など）
- 4. 点眼する目（右眼、左眼、両眼）の選択ミス
- 5. 眼鏡またはコンタクトレンズの破損または紛失
- 6. 転倒・転落
- 7. 検査機器に顔や目をぶつける
- 8. 機器の消毒に関するミス
- 9. 感染症に罹患している患者の取扱ミス（感染症対策のレベル認識ミス、など）
- 10. 瞳孔間距離の測定・計算に関するミス
- 11. 検査時の装用レンズ度数ミス（付加度数を含めた計算ミスも含む）
- 12. 眼鏡処方箋の記入ミス
- 13. 矯正レンズの+と-の記入・入力ミス
- 14. 眼位の+と-の記入・入力ミス
- 15. プリズム基底の記入・入力ミス
- 16. その他の記入・入力ミス
- 17. コミュニケーションエラー（对患者）

- 18. コミュニケーションエラー (対 同職種)
- 19. コミュニケーションエラー (対 他職種)
- 20. 上記以外

Q42. で「その他の記入・入力ミス」と答えた方

Q42-1. 具体的内容について記載してください

Q42. で「上記以外」と答えた方

Q42-2. 具体的内容について記載してください

Q43. 今まで日常の仕事上、医療関連職種とのトラブルが起きたことがありましたか

- 1. ある
- 2. ない

Q43. で「ある」と答えた方

Q44. その職種は何ですか (複数回答可)

- 1. 視能訓練士
- 2. 医師
- 3. 看護師・准看護師
- 4. 看護助手
- 5. 他の医療職
- 6. 眼科コ・メディカル (旧OMA)
- 7. 事務職
- 8. その他 ()

Q45. 今まで業務においてハラスメントを受けたことはありますか

- 1. ある
- 2. ない

Q45. で「ある」と答えた方

Q46. その種類は何ですか (複数回答可)

- 1. パワーハラスメント
- 2. セクシャルハラスメント
- 3. アカデミックハラスメント
- 4. マタニティハラスメント
- 4. モラルハラスメント
- 5. ジェンダーハラスメント
- 6. その他 ()

IV. 視能訓練士の養成についてお伺いします (特別措置の方もご意見をお聞かせください)

Q47. 教育機関はどの機関が適していると思いますか (複数回答可)

- 1. 高校卒業後の専門学校 (3年) での教育
- 2. 短期大学 (2年) での教育
- 3. 大学 (4年) での教育
- 4. 大学 (6年) での教育
- 5. 大学卒業後の専門学校 (1年) での教育
- 6. 大学院 (修士・2年) での教育
- 7. 大学院 (博士・3年または4年) での教育

Q48. 教育期間は基礎および専門を含め何年が必要だと思いますか (高卒後に換算)

- 1. 1年
- 2. 2年
- 3. 3年
- 4. 4年
- 5. 5年
- 6. 6年
- 7. その他 ()

Q49. あなたが受けた教育内容についてどう考えていますか

- 1. 十分である
- 2. やや不足である
- 3. 不十分である
- 4. わからない

Q49. で「やや不足である」または「不十分である」と答えた方

Q50. 今後、充実が必要と思う科目や内容はどれですか (複数回答可)

- 1. 専門科目
- 2. 専門技術
- 3. 基礎医学
- 4. 視覚認知学 (発達障害, 高次脳機能障害, 認知症, 等)
- 5. 医療倫理
- 6. 客観的臨床能力試験 (OSCE) などの臨床技能評価
- 7. 医療安全
- 8. 数学, 統計学
- 9. 物理学, 生物学, 化学
- 10. 社会学, 社会福祉学
- 11. 教育学, 心理学
- 12. 経済学, 法律学
- 13. 英語など外国語
- 14. コミュニケーション
- 15. 多職種連携教育
- 16. わからない
- 17. その他 ()

Q51. あなたが学生時代に受けた臨床 (臨地) 実習の期間はいかがでしたか

- 1. 十分である
- 2. やや不足である
- 3. 不十分である
- 4. 分からない

Q51. で「やや不十分である」または「不十分である」と答えた方

Q52. 卒後に専門職として勤務するためにはどれくらいの臨床 (臨地) 実習期間が必要と考えますか

- 1. 6ヵ月
- 2. 1年
- 3. 1年以上

Q53. 現在、視能訓練士の教育に携わっていますか (複数回答可)

- 1. 養成施設の教員である
- 2. 養成施設の非常勤講師である
- 3. 臨床 (臨地) 実習病院の指導者である
- 4. 携わっていない

Q54. 臨床 (臨地) 実習を引き受けたことがありますか

- 1. ある
- 2. ない

Q55. 臨床 (臨地) 実習の依頼があった場合、どうされますか

- 1. 新規・継続ともに引き受ける
- 2. 継続のみ引き受け, 新規は引き受けられない
- 3. 新規・継続ともに引き受けられない

Q55. で「継続のみ引き受け、新規は引き受けられない」または「新規・継続ともに引き受けられない」と答えた方

Q56. 最も大きな理由を選んでください（複数回答可）

1. 現在の施設状態では不相当である
2. 現在の診療内容では不相当である
3. 忙しい
4. 経験不足である
5. わずらわしい
6. 実習受け入れ許容人数を超えている
7. 院内での理解が得られない
8. 常勤視能訓練士がいない
9. その他（ ）

Q54. で「ある」と答えた方

Q57. 臨床（臨地）実習での実習方法はどのように実施していますか

1. 見学のみ
2. 検査を実施している

Q57. で「見学のみ」と答えた方

Q58. その理由は何ですか（複数回答可）

1. 学生に実習させるための知識がない
2. 学生に実習させるための検査技術がない
3. 病院の許可がでない
4. 眼科医の許可がでない
5. 患者さんの承諾が得られない
6. 医療安全の面から

Q57. で「検査を実施している」と答えた方

Q59. 実施させている検査は何ですか（複数回答可）

1. オートレフラクトメータ・ケラトメータ
2. ノンコンタクトトノメータ
3. 静的量的視野検査
4. 動的量的視野検査
5. 自覚的屈折検査
6. 角膜内皮細胞検査
7. OCT
8. 眼鏡度数測定検査
9. 眼底写真撮影
10. 眼軸長検査
11. 両眼視機能検査
12. 眼位検査
13. 眼球運動検査
12. その他（ ）

Q60. 視能訓練士臨地実習指導者の講習会は受講されていますか

1. はい
2. いいえ

Q60で「はい」と答えた方

Q61. どちらを受講されましたか

1. 2022年までの医療研修推進財団（PMET）主催の講習会
2. 2023年以降の日本視能訓練士協会主催の講習会
3. 両方の講習会

Q60で「いいえ」と答えた方

Q62. 今後受講する予定はありますか

1. 受講する予定である
2. 受講する予定はない
3. その他（ ）

Q62で「受講する予定はない」と答えた方

Q63. その理由は何ですか

1. 受講する時間の余裕がない
2. 実習生を受ける予定がない
3. 院内での理解が得られない
4. 受講料が高い
5. その他（ ）

Q64. 将来的に養成校からの実習生を受け入れる場合、視能訓練士臨地実習指導者講習会を受講している必要があることはご存じですか

1. はい
2. いいえ

V. 卒後教育についてお伺いします

Q65. 現在、業務上の疑問点の解決はどのようにしていますか（複数回答可）

1. 相談する
2. 書籍・雑誌で調べる
3. 電子媒体で調べる
4. 解決法なし
5. 学会
6. 困っていない
7. その他（ ）

Q65. で「相談する」と答えた方

Q66. 相談先はどこですか（複数回答可）

1. 同じ施設の視能訓練士
2. 他の施設の視能訓練士
3. 医師
4. 出身校の教員
5. その他（ ）

Q67. よく利用される雑誌はどれですか（複数回答可）

1. 日本視能訓練士協会誌
2. 日本眼科学会誌
3. あたらしい眼科
4. 眼科
5. 臨床眼科
6. 眼科臨床紀要
7. 日本弱視斜視学会誌
8. 日本の眼科
9. 眼科ケア
10. 神経眼科
11. 日本ロービジョン学会誌
12. OCULISTA
13. Am J Ophthalmol
14. Invest Ophth Vis Sci
15. JAMA Ophthalmol (旧 Arch Ophthalmol)
16. J AAPOS
17. J Pediat Ophth Strab
18. Ophthalmology

- 19. Optometry
- 20. Prog Retin Eye Res
- 21. Strabismus
- 22. Surv Ophthalmol
- 23. 特になし
- 24. その他 ()

Q68. 職場内で視能訓練士が参加できる勉強会はありますか

- 1. 定期的にある
- 2. 不定期にある
- 3. ない

Q68. で「定期的にある」または「不定期にある」と答えた方

Q69. 職場内勉強会への参加者はどなたですか（複数回答可）

- 1. 視能訓練士のみ
- 2. 視能訓練士と医師
- 3. 視能訓練士と他スタッフ
- 4. 全職員
- 5. その他 ()

Q70. 職場外で視能訓練士が参加できる勉強会はありますか

- 1. 定期的にある
- 2. 不定期にある
- 3. ない

Q68. で「定期的にある」または「不定期にある」と答えた方

Q71. その勉強会に参加していますか

- 1. いつも参加している
- 2. 時々参加している
- 3. 参加していない

Q72. 卒後教育として協会に希望される項目の全ての○にチェックをしてください。

- 1. 講義
- 2. 技術研修
- 3. 情報提供
- 4. その他 ()
- 5. 特になし

Q72. で「講義と答えた方」

Q72-1. 卒後教育として特に希望される場合はチェックをしてください

- また具体的な内容についても記入してください
()
○ 特に希望する

Q72. で「技術研修と答えた方」

Q72-2. 卒後教育として特に希望される場合はチェックをしてください

- また具体的な内容についても記入してください
()
○ 特に希望する

Q72. で「情報提供と答えた方」

Q72-3. 卒後教育として特に希望される場合はチェックをしてください

- また具体的な内容についても記入してください
()
○ 特に希望する

VI. 将来展望についてお伺いします

Q73. 現在の職場の中で次の i ~ v について、あなたの考えに最も近いのはどれですか

- i) 仕事の中に自分の創意や工夫を活かすことができる
 - 1. そうである
 - 2. どちらかといえばそうである
 - 3. どちらともいえない
 - 4. どちらかといえばそうではない
 - 5. そうではない
- ii) 自分の責任で行える仕事が多い
 - 1. そうである
 - 2. どちらかといえばそうである
 - 3. どちらともいえない
 - 4. どちらかといえばそうではない
 - 5. そうではない
- iii) 単純でつまらない仕事は少ない
 - 1. そうである
 - 2. どちらかといえばそうである
 - 3. どちらともいえない
 - 4. どちらかといえばそうではない
 - 5. そうではない
- iv) 自分たちの仕事は尊重されている
 - 1. そうである
 - 2. どちらかといえばそうである
 - 3. どちらともいえない
 - 4. どちらかといえばそうではない
 - 5. そうではない
- v) 自分の仕事の範囲がはっきりしている
 - 1. そうである
 - 2. どちらかといえばそうである
 - 3. どちらともいえない
 - 4. どちらかといえばそうではない
 - 5. そうではない

Q74. 仕事でやりがいを感じるのはどんな時ですか。（自由記述）

()

Q75. 現在の職場での業務に満足されていますか

- 1. 満足している
- 2. 普通
- 3. 不満足である

資料2 アンケート集計結果

Q1. 性別

男性	女性	その他	合計
379	1,726	3	2,108
18.0	81.9	0.1	100.0

Q2. 年齢

20代	30代	40代	50代	60歳～65歳未満	65歳以上	その他	合計
306	538	715	417	91	41	0	2,108
14.5	25.5	33.9	19.8	4.3	1.9	0.0	100.0

Q3. 視能訓練士の免許を取得したのは、何年ですか

1970～1974年	1975～1979年	1980～1984年	1985～1989年	1990～1994年	1995～1999年	2000～2004年	2005～2009年	2010～2014年	2015～2020年	2021～2024年	合計
7	15	53	99	159	243	310	351	335	361	175	2,108
0.3	0.7	2.5	4.7	7.5	11.5	14.7	16.7	15.9	17.1	8.3	100.0

Q4. 視能訓練士としての勤務年数（通算）は、どれくらいですか

5年未満	5年以上10年未満	10年以上15年未満	15年以上20年未満	20年以上25年未満	25年以上30年未満	30年以上35年未満	35年以上40年未満	40年以上	合計
236	346	337	376	340	197	148	81	47	2,108
11.2	16.4	16.0	17.8	16.1	9.3	7.0	3.8	2.2	100.0

Q5. 現在、勤務している地域はどちらですか

北海道	東北	関東甲信越	東京	東海北陸	近畿	中国四国	九州沖縄	合計
64	118	581	261	289	392	201	202	2,108
3.0	5.6	27.6	12.4	13.7	18.6	9.5	9.6	100.0

Q6. 教育を受けた視能訓練士養成所はどこですか

1年課程（国立）の養成校	1年課程の専門学校	3年課程の専門学校	4年課程の専門学校	短期大学	大学	特別経過措置	その他	合計
358	241	797	86	7	601	7	11	2,108
17.0	11.4	37.8	4.1	0.3	28.5	0.3	0.5	100.0

Q7. 免許取得後の進学について

大学院（修士）	大学院（博士）	海外留学	その他	なし	合計
64	45	3	32	1,964	2,108
3.0	2.1	0.1	1.5	93.2	100.0

Q7-1. 海外留学は何年間していましたか

1	2	合計
2	1	3
66.7	33.3	100.0

Q8. 視能訓練士以外の資格はありますか

ある	ない	合計
437	1,671	2,108
20.7	79.3	100.0

Q9. Q8. で「1. ある」と答えた方に、下記の資格で持っているものを全て選んでください（複数回答可）

看護師・保健師	保育士	幼稚園教諭	教員（小・中・高等）	養護教諭	介護支援専門員（ケアマネージャー等）	社会福祉士	歩行訓練士	眼鏡作製技能士	同行援護従業者	その他	回答者数
43	48	40	117	20	36	18	8	23	72	124	437
9.8	11.0	9.2	26.8	4.6	8.2	4.1	1.8	5.3	16.5	28.4	-

■ 2025年度調査結果

Q10. 現在の勤務形態はどれですか

正規職員	契約（嘱託）職員	非常勤職員（パート）	事業主（経営者）	その他	勤務していない	合計
1,631	51	336	13	16	61	2,108
77.4	2.4	15.9	0.6	0.8	2.9	100.0

Q11. Q10. で正規職員または契約（嘱託）職員、非常勤職員（パート）と答えた方に、あなたの勤務形態をさらに詳しく教えてください

週40時間の雇用	週30時間の雇用	週2～3日程度の非常勤	不定期雇用	複数の施設を掛け持ち	その他	合計
1,548	194	126	11	83	56	2,018
76.7	9.6	6.2	0.5	4.1	2.8	100.0

Q12. Q10. で契約（嘱託）職員または非常勤職員（パート）と答えた方に、あなたの採用形態の理由は何ですか

本当は正規職員になりたいがポストがない	家庭の都合で正規職員は困難	扶養家族として勤務したい	その他	合計
66	179	54	88	387
17.1	46.3	14.0	22.7	100.0

Q13. 視能訓練士として得た昨年度の年間所得（税込み）はどれくらいですか。源泉徴収票などを参考に記入してください

100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700万円以上	合計
107	125	202	496	460	314	179	148	2,031
5.3	6.2	9.9	24.4	22.6	15.5	8.8	7.3	100.0

Q14. 年間所得（税込み）は一昨年度と比較していかがですか

上がった	下がった	変わらない	無回答	合計
1,055	196	780	77	2,108
50.0	9.3	37.0	3.7	100.0

Q15. 給与は時間給ですか

はい	いいえ	合計
329	1,702	2,031
16.2	83.8	100.0

Q15-1. 給与が時間給の人はその額も記入してください（複数力所ある場合は平均値）

1000円未満	1000～2000円未満	2000～3000円未満	3000～4000円未満	4000～5000円未満	5000円以上	該当しない	合計
3	187	117	13	4	5	1,702	2031
0.1	9.2	5.8	0.6	0.2	0.2	83.8	100.0

Q16. 認定視能訓練士を取得して給与に変化はありましたか

上がった	下がった	変わらない	該当しない	合計
87	6	545	1,393	2,031
4.3	0.3	26.8	68.6	100.0

Q17. 現在、主に勤務している施設はどこですか

国立高度専門医療センター（ナショナルセンター）	独立行政法人国立病院機構	国立大学法人	その他 国立系病院	公立医療機関（都道府県市町村立の病院および診療所）	公立大学病院
4	58	70	1	243	20
0.2	2.9	3.4	0.0	12.0	1.0
公立に準ずる病院および診療所（労災・日本赤十字・済生会・厚生連・社会事業協会・厚生年金・共済組合・社会保険関連団体、等）	私立大学病院	私立病院（他科もある病院の眼科）	私立眼科病院	眼科診療所（医療法人および個人）	眼科機器メーカー
221	132	267	75	820	1
10.9	6.5	13.1	3.7	40.4	0.0
視能訓練士の養成施設（大学、専門学校）	眼鏡店、コンタクトレンズ関連会社	保健所、保健センター	その他	特別支援学校（盲学校など）	合計
84	7	6	21	1	2,031
4.1	0.3	0.3	1.0	0.0	100.0

Q18. あなたはどのような身分で採用されていますか

病院採用 (医療技術 職)	病院採用 (事務職)	眼科医局採 用	団体採用	養成施設職 員採用	会社採用	視能訓練士 採用	その他	合計
236	2	2	6	50	7	1,694	34	2,031
11.6	0.1	0.1	0.3	2.5	0.3	83.4	1.7	100.0

Q19. 病院に勤務されている方に、所属はどこですか

眼科	医療技術部	看護部	事務部	眼科医局	リハビリ部 (科)	検査部 (科)	視能訓練科 (室)	その他	合計
597	143	66	10	19	38	68	108	42	1,091
54.7	13.1	6.0	0.9	1.7	3.5	6.2	9.9	3.8	100.0

Q20. 同じ職場に勤務する視能訓練士はあなたを含め何人いますか

	0名	1名	2名	3名	4名	5名以上 10名未満	10名以上 15名未満	15名以上	合計
正規職員	181	304	339	340	195	423	114	135	2,031
	8.9	15.0	16.7	16.7	9.6	20.8	5.6	6.6	100.0
契約職員	1,754	135	55	23	23	29	8	4	2,031
	86.4	6.6	2.7	1.1	1.1	1.4	0.4	0.2	100.0
非常勤職員	1,122	505	229	86	41	39	8	1	2,031
	55.2	24.9	11.3	4.2	2.0	1.9	0.4	0.0	100.0

Q21. 眼科医療機関に勤務されている方に、現在あなたの勤務している施設で、視能訓練士は

1診療（医師1名）に対して何人ですか

平日の通常外来の診療時

0～ 1未満	1～ 3未満	3～ 5未満	5～ 10未満	10～ 30未満	30～ 50未満	50～ 100未満	100以上	合計
129	1,215	352	85	51	37	28	14	1,911
6.8	63.6	18.4	4.4	2.7	1.9	1.5	0.7	100.0

Q22. 現在あなたの勤務している施設における視能訓練士の人数についてどのように思えますか

足りていない	ちょうどよい	多すぎる	合計
808	1,174	49	2,031
39.8	57.8	2.4	100.0

Q23. Q22. で「足りていない」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

本業（視能訓練士とし ての業務）が多い	本業以外の業務（雑 務）が多い	経験年数の短い視能訓 練士の割合が多い	非常勤職員（パート） の割合が多い	その他	回答者数
590	362	113	61	91	808
73.0	44.8	14.0	7.5	11.3	-

Q24. Q22. で「足りていない」と答えた方
に、現状にあと何人増員すれば適正な数にな
ると思いますか

1人	2人	3人以上	無回答	合計
443	244	121	0	808
54.8	30.2	15.0	0.0	100.0

Q25. 視能訓練士の増員や常勤化について、
病院や医師に相談したことはありますか

ある	ない	合計
910	1,121	2,031
44.8	55.2	100.0

Q26. Q25. で「ある」と答えた方に、相談した際の、回答や対応はどうですか

すぐに改善された	すぐではないが改善さ れた	改善に向けて検討中で ある	検討してくれたが、改 善にはいたらなかった	回答、対応してもらえ なかった	その他	合計
72	270	220	248	65	35	910
7.9	29.7	24.2	27.3	7.1	3.8	100.0

■ 2025年度調査結果

Q27. 1週間に平均何日勤務していますか

0.5日未満	0.5～1日未満	1～1.5日未満	1.5～2日未満	2～2.5日未満	2.5～3日未満	3～3.5日未満	3.5～4日未満	4～4.5日未満	4.5～5日未満	5～5.5日未満
6 0.3	7 0.3	21 1.0	26 1.3	46 2.3	32 1.6	51 2.5	25 1.2	65 3.2	192 9.5	1,256 61.8
5.5～6日未満	6～6.5日未満	6.5～7日未満	7日以上	合計						
224 11.0	58 2.9	4 0.2	18 0.9	2,031 100.0						

Q28. 1か月の残業時間（給与が出る）は平均何時間ですか

0時間	0.1～5時間未満	5～10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	合名
754 37.1	722 35.5	236 11.6	203 10.0	67 3.3	29 1.4	12 0.6	8 0.4	2,031 100.0

Q29. 年次有給休暇を利用していますか

はい	いいえ	わからない	合計
1,756 86.5	209 10.3	66 3.2	2,031 100.0

Q29-1. 1年間に平均何日、年次有給休暇を利用していますか

0日	1～4日	5～9日	10～19日	20～29日	30～39日	40日以上	合名
2 0.1	89 5.1	486 27.7	845 48.1	326 18.6	6 0.3	2 0.1	1,756 100.0

Q30. 現在、勤務している施設で、過去5年間に視能訓練士の育児休業制度利用の実績はありますか

男女ともある	女性のみある	ない	対象者がいない	合計
276 13.6	765 37.7	315 15.5	675 33.2	2,031 100.0

Q31. 現在、あなたの勤務している施設で、過去5年間に視能訓練士の介護休業制度利用の実績はありますか

ある	ない	対象者がいない	合計
148 7.3	710 35.0	1,173 57.8	2,031 100.0

Q32. Q10. にて「勤務していない」と答えた方に、離職・休職した理由は何ですか

結婚	出産	子育て	自分の病気療養	配偶者の転勤	家族の病気や介護	進学、留学	その他	合計
8 13.1	7 11.5	16 26.2	10 16.4	3 4.9	3 4.9	0 0.0	14 23.0	61 100.0

Q33. Q10にて「勤務していない」と答えた方に、離職・休職している期間はどれくらいですか

6ヵ月未満	6ヵ月以上	1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上	合計
13 21.3	4 6.6	4 6.6	10 16.4	8 13.1	22 36.1	61 100.0

Q34. Q10. にて「勤務していない」と答えた方に、再就職・復職の意思はありますか

ある	ない	合計
45 73.8	16 26.2	61 100.0

Q35. Q34. にて「ある」と答えた方に、再就職・復職に対して不安なことはありますか（複数回答可）

職場の人間関係	仕事の質・量	労働条件（勤務時間、日数、給与、など）	ブランクの影響	年齢	その他	回答者数
26 57.8	20 44.4	34 75.6	31 68.9	16 35.6	6 13.3	45 -

Q37. 視能訓練士となって職場は何回変えましたか

0回	1回	2回	3回	それ以上	合計
782 37.1	542 25.7	315 14.9	272 12.9	197 9.3	2,108 100.0

Q38. Q37. で「0回」以外に答えた方に、職場を変えた理由は何ですか（複数回答可）

結婚や出産を機に	配偶者の転勤	キャリアアップ	人間関係に不満	業務が多忙	残業が多い	給料が低い	通勤が不便	指導者が不在	福利厚生が不備	設備・備品が不十分	ハラスメントを受けた
517	131	419	363	159	69	237	162	80	87	19	195
39.0	9.9	31.6	27.4	12.0	5.2	17.9	12.2	6.0	6.6	1.4	14.7
昇進の見込みがない	業務に興味がない	勤務形態に恵まれていない	患者に十分なサービスが提供できない	眼科の閉鎖（医師が不在）	その他	回答者数					
105	63	131	44	99	216	1,326					
7.9	4.8	9.9	3.3	7.5	16.3	-					

Q39. 従事している業務概要について、あなたの主な業務はどれですか(複数回答可)

眼科一般検査	視能矯正	ロービジョンケア	健診/検診業務	手術関連業務	学生の教育	研究	その他	回答者数
1,988	1,247	536	711	572	518	218	116	2,108
94.3	59.2	25.4	33.7	27.1	24.6	10.3	5.5	-

Q40. 従事している業務内容に○印を付けてください(複数回答可)

1. 問診	2. 視力検査	3. 自覚的・他覚的屈折検査（角膜曲率半径測定を含む）	4. 調節検査	5. 静的量的視野検査	6. 動的量的視野検査	7. 色覚検査	8. 光覚検査	9. 眼圧検査	10. 涙液検査	11. コンタクトレンズ検査・装着指導	12. 超音波検査（Bモード法）
1,584	2,012	2,002	1,491	1,949	1,784	1,933	753	1,979	1,138	1,178	597
75.1	95.4	95.0	70.7	92.5	84.6	91.7	35.7	93.9	54.0	55.9	28.3
13. 眼軸長計測検査（超音波Aモード法、光学式方法）	14. 角膜内皮検査	15. 電気生理検査（ERG、VEPなど）	16. 写真撮影（前眼部、眼底など）	17. 蛍光造影撮影（FAG、ICGなど）	18. デジタル画像撮影（OCT、角膜トポグラフィ、など）	19. 瞳孔機能検査（電子瞳孔計使用）	20. 行動観察による視力検査（PL法、乳幼児視力測定）	21. 斜視検査・眼球運動検査	22. 眼鏡合わせ検査	23. 散瞳薬の点眼	24. 縮瞳薬の点眼
1,619	1,820	1,195	1,840	819	1,892	292	900	1,946	1,940	1,927	951
76.8	86.3	56.7	87.3	38.9	89.8	13.9	42.7	92.3	92.0	91.4	45.1
25. 治療に関する諸検査	26. 斜視視能矯正	27. 弱視視能矯正	28. 手術室間接業務（眼位検査や術式の記録）	29. 手術室直接業務（手術器具の手渡し、など）	30. 手術の説明	31. IOL度数計算	32. 手術室間接業務（術式の記録、IOL保管・管理、外回り、など）	33. 手術室直接業務（手術器具の手渡し、術眼への水掛け、など）	34. ロービジョンケアに関する諸検査・指導	35. 3歳児（乳幼児）健診・就学時健診業務	36. 成人検診・企業検診などの業務
663	1,328	1,537	331	107	340	1,126	475	99	686	479	581
31.5	63.0	72.9	15.7	5.1	16.1	53.4	22.5	4.7	32.5	22.7	27.6
37. 受付業務	38. 医療請求事務	39. 実験研究業務	40. レーシック関連業務	41. 洗眼	42. 硝子体注射の介助	43. 結膜等のウイルス検査	44. 写真等資料整理	45. 各種委員会業務（医療安全委員会、など）	46. 視能訓練士の教育（学生実習指導を含む）	47. バイタル測定	48. その他
519	101	110	51	509	116	135	366	409	832	216	92
24.6	4.8	5.2	2.4	24.1	5.5	6.4	17.4	19.4	39.5	10.2	4.4
回答者数											
2,108											
-											

■ 2025年度調査結果

Q41. 今まで業務においてアクシデント、インシデント（ヒヤリ・ハット）はありましたか

アクシデントがある	インシデント（ヒヤリ・ハット）がある	アクシデント、インシデント共にある	ない	合計
187 8.9	1,300 61.7	370 17.6	251 11.9	2,108 100.0

Q42. Q41. で「アクシデントがある」「インシデント（ヒヤリ・ハット）がある」「アクシデント、インシデント共にある」と答えた方に、インシデント、アクシデントそれぞれについて該当する番号を下記から選んで記入してください（複数回答可）

患者やカルテの取り違え	カルテの運搬に関するミス（別の医師に渡した、カルテを置きっぱなしにした、など）	点眼する薬剤の選択ミス（ミドリンPとミドリンMの間違え、など）	点眼する目（右眼、左眼、両眼）の選択ミス	眼鏡またはコンタクトレンズの破損または紛失	転倒・転落
870 46.8	443 23.9	853 45.9	1,083 58.3	150 8.1	814 43.8
検査機器に患者の顔や目をぶつける	機器の消毒に関するミス	感染症に罹患している患者の取扱ミス（感染症対策のレベル認識ミス、など）	瞳孔間距離の測定・計算に関するミス	検査時の装用レンズ度数ミス（付加度数を含めた計算ミスも含む）	眼鏡処方箋の記入ミス
285 15.3	31 1.7	52 2.8	75 4.0	347 18.7	811 43.7
矯正レンズの+と-の記入・入力ミス	眼位の+と-の記入・入力ミス	プリズム基底の記入・入力ミス	その他の記入・入力ミス	コミュニケーションエラー（对患者）	コミュニケーションエラー（対同職種）
583 31.4	111 6.0	217 11.7	76 4.1	410 22.1	222 12.0
コミュニケーションエラー（対他職種）	上記以外	回答者数			
210 11.3	43 2.3	1,857 -			

Q43. 今まで日常の仕事上、他の医療関連職種とのトラブルが起きたことがありましたか

ある	ない	合計
449 21.3	1,659 78.7	2,108 100.0

Q44. Q43. で「ある」と答えた方に、その職種は何ですか（複数回答可）

視能訓練士	医師	看護師・准看護師	看護助手	他の医療職	眼科コメディカル（旧OMA）	事務職	その他	回答者数
158 35.2	152 33.9	290 64.6	23 5.1	25 5.6	57 12.7	103 22.9	4 0.9	449 -

Q45. 今まで業務においてハラスメント Q46. Q45. で「ある」と答えた方に、その種類は何ですか（複数回答可）

ある	ない	合計	パワーハラスメント	セクシャルハラスメント	アカデミックハラスメント	マタニティハラスメント	モラルハラスメント	ジェンダーハラスメント	その他	回答者数
860 40.8	1,248 59.2	2,108 100.0	741 86.2	118 13.7	43 5.0	88 10.2	244 28.4	18 2.1	21 2.4	860 -

Q47. 教育機関はどの機関が適していると思いますか（複数回答可）

高校卒業後の専門学校（3年）での教育	短期大学（3年）での教育	大学（4年）での教育	大学（6年）での教育	大学卒業後の専門学校（1年）での教育	大学院（修士・2年）での教育
1,295 61.4	768 36.4	1,609 76.3	49 2.3	303 14.4	83 3.9
大学院（博士・3年または4年）での教育	回答者数				
52 2.5	2,108 -				

Q48. 教育期間は基礎および専門を含め何年が必要だと思いますか（高卒後に換算）

1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他	合計
23	183	1,175	687	23	10	7	2,108
1.1	8.7	55.7	32.6	1.1	0.5	0.3	100.0

Q49. あなたが受けた教育内容についてどう考えていますか

十分である	やや不足である	不十分である	わからない	合計
880	837	260	131	2,108
41.7	39.7	12.3	6.2	100.0

Q50. Q49で「やや不足である」または「不十分である」と答えた方に、今後、充実が必要と思う科目や内容はどれですか（複数回答可）

専門科目	専門技術	基礎医学	視覚認知学 (発達障害、 高次脳機能 障害、認知 症、等)	医療倫理	客観的臨床能力試験 (OSCE) などの臨床 技能評価	医療安全	数学、統計 学	物理学、生 物学、化学	社会学、社 会福祉学	教育学、心 理学
523	804	316	389	156	147	287	156	42	45	84
47.7	73.3	28.8	35.5	14.2	13.4	26.2	14.2	3.8	4.1	7.7
経済学、法 律学	英語など外 国語	コミュニ ケーション	多職種連携 教育	その他	わからない	回答者数				
30	176	236	274	33	6	1,097				
2.7	16.0	21.5	25.0	3.0	0.5	-				

Q51. あなたが学生時代に受けた臨床（臨地）実習の期間はいかがでしたか

十分である	やや不足である	不十分である	わからない	合計
1,532	362	101	113	2,108
72.7	17.2	4.8	5.4	100.0

Q52. Q51. で「やや不足である」または「不十分である」と答えた方に、卒後に専門職として勤務するためにはどれくらいの臨床（臨地）実習期間が必要と考えますか

6ヵ月	1年	1年以上	合計
320	102	41	463
69.1	22.0	8.9	100.0

Q53. 現在、視能訓練士の教育に携わっていますか（複数回答可）

養成施設の教員である	養成施設の非常勤講師 である	臨床（臨地）実習病院 の指導者である	携わっていない	回答者数
88	52	564	1,430	2,108
4.2	2.5	26.8	67.8	-

Q54. 臨床（臨地）実習を引き受けたことがありますか Q55. 臨床（臨地）実習の依頼があった場合、どうされますか

ある	ない	合計	新規・継続 ともに引き 受ける	継続のみ引 き受け、新 規は引き受 けられない	新規・継続 ともに引き 受けられな い	合計
1,251	857	2,108	775	318	1,015	2,108
59.3	40.7	100.0	36.8	15.1	48.1	100.0

■ 2025年度調査結果

Q56. Q55. で「継続のみ引き受け、新規は引き受けられない」または「新規・継続ともに引き受けられない」と答えた方に、最も大きな理由を選んでください（複数回答可）

現在の施設状態では不適当である	現在の診療内容では不適当である	忙しい	経験不足である	わずらわしい	実習受け入れ許容人数を超えている
565 42.4	253 19.0	639 47.9	255 19.1	56 4.2	131 9.8
院内での理解が得られない	常勤視能訓練士がいない	回答者数			
126 9.5	98 7.4	1,333 -			

Q57. Q54. で「ある」と答えた方に、臨床（臨地）実習での実習方法はどのように実施していますか

見学のみ	検査を実施している	合計
66 5.3	1,185 94.7	1,251 100.0

Q58. Q57. で「見学のみ」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

学生に実習させるための知識がない	学生に実習させるための検査技術がない	病院の許可がない	眼科医の許可がない	患者さんの承諾が得られない	医療安全の面から	実習させるための知識や検査技術が学生にない	回答者数
3 4.5	5 7.6	14 21.2	6 9.1	14 21.2	40 60.6	21 31.8	66 -

Q59. Q57. で「検査を実施している」と答えた方に、実施させている検査は何ですか（複数回答可）

オートレフラクメータ・ケラトメータ	ノンコンタクトトノメータ	静的量的視野検査	自覚的屈折検査	角膜内皮細胞検査	OCT	眼鏡度数測定検査	眼底写真撮影	眼位検査	動的量的視野検査	眼軸長検査
1,164 98.2	1,114 94.0	1,067 90.0	997 84.1	887 74.9	732 61.8	669 56.5	664 56.0	757 63.9	499 42.1	229 19.3
両眼視機能検査	眼球運動検査	その他	回答者数							
581 49.0	661 55.8	29 2.4	1,185 -							

Q60. 視能訓練士臨地実習指導者の講習会は受講されていますか

はい	いいえ	合計
618 29.3	1,490 70.7	2,108 100.0

Q61. どちらを受講されましたか

2022年までの医療研修推進財団（PMET）主催の講習会	2023年以降の日本視能訓練士協会主催の講習会	両方の講習会	回答者数
496 80.3	110 17.8	12 1.9	618 100.0

Q62. 今後受講する予定はありますか

受講する予定である	受講する予定はない	その他	回答者数
383 25.7	1,010 67.8	97 6.5	1,490 100.0

Q63. その理由は何ですか

院内での理解が得られない	実習生を受ける予定がない	受講する時間の余裕がない	受講料が高い	その他	回答者数
29 2.9	462 45.7	396 39.2	40 4.0	83 8.2	1,010 100.0

Q64. 将来的に養成校からの実習生を受け入れる場合、視能訓練士臨地実習指導者講習会を受講している必要があることはご存じですか

はい	いいえ	合計
1,786	322	2,108
84.7	15.3	100.0

Q65. 現在、業務上の疑問点の解決はどのようにしていますか（複数回答可）

相談する	書籍・雑誌で調べる	電子媒体で調べる	学会	解決法なし/困っていない	その他	回答者数
1,867	1,461	1,237	678	38	27	2,108
88.6	69.3	58.7	32.2	1.8	1.3	-

Q66. Q65. で「相談する」と答えた方に、相談先はどこですか（複数回答可）

同じ施設の視能訓練士	他の施設の視能訓練士	医師	出身校の教員	その他	回答者数
1,466	1,104	1,153	87	31	1,867
78.5	59.1	61.8	4.7	1.7	-

Q67. よく利用される雑誌はどれですか（複数回答可）

日本視能訓練士協会誌	日本眼科学会雑誌	あたらしい眼科	眼科	臨床眼科	眼科臨床紀要	日本弱視斜視学会雑誌	日本の眼科	眼科ケア	神経眼科	日本ロービジョン学会誌	OCULISTA	その他
1,206	313	796	150	387	210	330	170	1,026	139	115	231	46
57.2	14.8	37.8	7.1	18.4	10.0	15.7	8.1	48.7	6.6	5.5	11.0	2.2
Am J Ophthalmol	Invest Ophthalmol Vis Sci	JAMA Ophthalmol (旧Arch Ophthalmol)	J AAPOS	J Pediat Ophthalmol Strab	Ophthalmology	Optometry	Prog Retin Eye Res	Strabismus	Surv Ophthalmol	特になし	回答者数	
66	45	34	33	10	83	12	4	18	5	278	2,108	-
3.1	2.1	1.6	1.6	0.5	3.9	0.6	0.2	0.9	0.2	13.2	-	-

Q68. 職場内で視能訓練士が参加できる勉強会がありますか

定期的にある	不定期にある	ない	合計
579	607	922	2,108
27.5	28.8	43.7	100.0

Q69. Q68. で「定期的にある」または「不定期にある」と答えた方に、職場内勉強会への参加者はどなたですか（複数回答可）

視能訓練士のみ	視能訓練士と医師	視能訓練士と他スタッフ	全職員	その他	回答者数
317	467	315	545	11	1,186
26.7	39.4	26.6	46.0	0.9	-

Q70. 職場外で視能訓練士が参加できる勉強会がありますか

定期的にある	不定期にある	ない	合計
820	756	532	2,108
38.9	35.9	25.2	100.0

Q71. その勉強会に参加していますか

いつも参加している	時々参加している	参加していない	合計
331	986	259	1,576
21.0	62.6	16.4	100.0

Q72. 卒後教育として協会に希望される項目の全てに○をつけ付けてください（複数回答可）

講義	技術研修	情報提供	その他	特になし	回答者数
485	604	745	39	1,003	2,108
23.0	28.7	35.3	1.9	47.6	-

Q72-1~3. 卒後教育として協会に特に希望される項目の1つに◎を付けてください

講義	技術研修	情報提供	合計
193	273	273	739
0.4	0.5	0.4	-

■ 2025年度調査結果

Q73. 現在の職場の中で次の i ~ v について、あなたの考えに最も近いのはどれですか

そうである	どちらかといえばそうである	どちらともいえない	どちらかといえばそうではない	そうではない	合計
659	940	353	101	55	2,108
31.3	44.6	16.7	4.8	2.6	100.0

ii) 自分の責任で行える仕事が多い

そうである	どちらかといえばそうである	どちらともいえない	どちらかといえばそうではない	そうではない	合計
723	971	303	73	38	2,108
34.3	46.1	14.4	3.5	1.8	100.0

iii) 単純でつまらない仕事は少ない

そうである	どちらかといえばそうである	どちらともいえない	どちらかといえばそうではない	そうではない	合計
425	768	634	203	78	2,108
20.2	36.4	30.1	9.6	3.7	100.0

iv) 自分たちの仕事は尊重されている

そうである	どちらかといえばそうである	どちらともいえない	どちらかといえばそうではない	そうではない	合計
582	887	417	151	71	2,108
27.6	42.1	19.8	7.2	3.4	100.0

v) 自分の仕事の範囲がはっきりしている

そうである	どちらかといえばそうである	どちらともいえない	どちらかといえばそうではない	そうではない	合計
485	831	426	251	115	2,108
23.0	39.4	20.2	11.9	5.5	100.0

Q75. 現在の職場での業務に満足されていますか

満足している	普通	不満足である	合計
824	1,055	229	2,108
39.1	50.0	10.9	100.0

Q76. Q75. で「不満足である」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

給料が低い	福利厚生が不備	勤務形態に恵まれていない	通勤が不便である	人間関係に不満	設備・備品が不十分	業務に興味がない	指導者不在	昇進の見込みがない	患者に十分なサービスが提供できない	その他
116	42	63	37	107	54	37	37	70	53	61
50.7	18.3	27.5	16.2	46.7	23.6	16.2	16.2	30.6	23.1	26.6
回答者数										
229										
-										

Q77. 現在の職場で仕事を続けたいと思いますか（複数回答可）

現在の職場で仕事を続けたい	現在の職場より条件のよいところがあれば移りたい	現在の職場を辞めたい	キャリアアップしたい	他の職種に移りたい	その他	回答者数
1,169 55.5	660 31.3	77 3.7	77 3.7	41 1.9	84 4.0	2,108 -

Q78. 視能訓練士の将来についてどのように考えていますか

さらに発展していく	現状と変わらない	現在より後退する	わからない	合計
295 14.0	1,162 55.1	431 20.4	220 10.4	2,108 100.0

Q79. Q78. で「さらに発展していく」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

眼科での専門職として評価されている	検診やロービジョンケア等の業務が定着する	アイフレイルサポートの活躍が予想される	医師の働き方改革による職域の拡大が予想される	デジタルデバイスの普及による眼の不調が増えることが予想される	神経発達症に対する専門性を持った視能検査の需要が増える
239 81.0	126 42.7	87 29.5	78 26.4	126 42.7	35 11.9
教育や福祉の領域での活躍の場が広がること が予想される	在宅医療での視能検査 および訓練（ロービジョンケア含む）の需	その他	回答者数		
62 21.0	59 20.0	10 3.4	295 100.0		

Q80. Q78. で「現在より後退する」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

看護師など他の職種も 同じ業務に従事し専門 性が確立しない	免許取得者が少なすぎる	知名度が低い	職域が狭い	検査・訓練の保険点数 が低い	公的施設での定員化が 遅れている
224 52.0	43 10.0	229 53.1	197 45.7	153 35.5	87 20.2
研究環境が整っていない	養成施設が多すぎる	教育・養成制度が統一 されていない	視能訓練士のレベルの 低下（学力の低下）	AIの発展	検査機器の進化
28 6.5	44 10.2	68 15.8	183 42.5	207 48.0	223 51.7
その他	回答者数				
57 13.2	431 100.0				

Q81. 将来も視能訓練士として働くことを希望しますか

希望する	希望しない	わからない	合計
1,668 79.1	64 3.0	376 17.8	2,108 100.0

■ 2025年度調査結果

Q83. 今後の視能訓練士の業務にタスク・シフト/シェア（※）は必要ですか

タスクシェアは必要である	タスクシフトは必要である	両方必要である	両方必要ない	わからない	合計
252 12.0	366 17.4	671 31.8	111 5.3	708 33.6	2,108 3.7

Q84. 医師の負担軽減につなげるために、医療の安全と質を担保したうえで視能訓練士がタスク・シフト/シェアをするための新たな業務で望ましいのは何ですか（複数回答可）

タスクシェア

造影剤を使用した検査のための静脈路の確保および抜去	術前検査の採血	薬剤の点眼方法、軟膏の点入方法の指導	薬剤の点眼、軟膏の点入の行為	生理食塩水による洗眼行為	手術や造影剤を使用した検査に関する説明や同意書の受領
228 10.8	214 10.2	621 29.5	644 30.6	571 27.1	485 23.0
画像検査の撮影部位の確認・追加撮影オーダーの代行（※）	屈折異常、弱視や斜視に関連する検査オーダーの代行	眼科手術器具の準備・手渡し・術眼の水かけ、点眼行為	健診・検診業務での視機能検査の実施及び報告書の作成	コンタクトレンズのフィッティングのチェック	隅角検査（隅角鏡を用いた撮影）
367 17.4	366 17.4	467 22.2	440 20.9	367 17.4	215 10.2
眼鏡処方箋の代行作成	回答者数				
377 17.9	2,108 100.0				

タスクシフト

造影剤を使用した検査のための静脈路の確保および抜去	術前検査の採血	薬剤の点眼方法、軟膏の点入方法の指導	薬剤の点眼、軟膏の点入の行為	生理食塩水による洗眼行為	手術や造影剤を使用した検査に関する説明や同意書の受領
209 9.9	242 11.5	420 19.9	391 18.5	395 18.7	318 15.1
画像検査の撮影部位の確認・追加撮影オーダーの代行（※）	屈折異常、弱視や斜視に関連する検査オーダーの代行	眼科手術器具の準備・手渡し・術眼の水かけ、点眼行為	健診・検診業務での視機能検査の実施及び報告書の作成	コンタクトレンズのフィッティングのチェック	隅角検査（隅角鏡を用いた撮影）
520 24.7	769 36.5	261 12.4	524 24.9	557 26.4	252 12.0
眼鏡処方箋の代行作成	回答者数				
887 42.1	2,108 100.0				

両方

造影剤を使用した検査のための静脈路の確保および抜去	術前検査の採血	薬剤の点眼方法、軟膏の点入方法の指導	薬剤の点眼、軟膏の点入の行為	生理食塩水による洗眼行為	手術や造影剤を使用した検査に関する説明や同意書の受領
180 8.5	162 7.7	692 32.8	721 34.2	636 30.2	556 26.4
画像検査の撮影部位の確認・追加撮影オーダーの代行（※）	屈折異常、弱視や斜視に関連する検査オーダーの代行	眼科手術器具の準備・手渡し・術眼の水かけ、点眼行為	健診・検診業務での視機能検査の実施及び報告書の作成	コンタクトレンズのフィッティングのチェック	隅角検査（隅角鏡を用いた撮影）
465 22.1	508 24.1	401 19.0	559 26.5	438 20.8	222 10.5
隅角検査（隅角鏡を用いた撮影）	回答者数				
533 25.3	2,108 100.0				

該当なし

造影剤を使用した検査のための静脈路の確保および抜去	術前検査の採血	薬剤の点眼方法、軟膏の点入方法の指導	薬剤の点眼、軟膏の点入の行為	生理食塩水による洗眼行為	手術や造影剤を使用した検査に関する説明や同意書の受領
1,491 70.7	1,490 70.7	375 17.8	352 16.7	506 24.0	749 35.5
画像検査の撮影部位の確認・追加撮影オーダーの代行（※）	屈折異常、弱視や斜視に関連する検査オーダーの代行	眼科手術器具の準備・手渡し・術眼の水かけ、点眼行為	健診・検診業務での視機能検査の実施及び報告書の作成	コンタクトレンズのフィッティングのチェック	隅角検査（隅角鏡を用いた撮影）
756 35.9	465 22.1	979 46.4	585 27.8	746 35.4	1,419 67.3
眼鏡処方箋の代行作成	回答者数				
311 14.8	2,108 100.0				

Q85. このアンケートはどのデバイスで回答されましたか

スマートフォン	PC	PCとスマートフォン両方	その他	合計
1,722 81.7	345 16.4	7 16.4	34 1.6	2,108 100.0

あとがき

本報告書は、2024年に視能訓練士協会会員の皆様を対象に実施した実態調査の結果を取りまとめたものです。今回の調査は、単に現状を把握することを目的としたものではなく、視能訓練士を取り巻く環境の変化を踏まえ、これからの時代をどのように見据え、どの方向へ進んでいくのかを会員の皆様と共有し、考えていくための資料として位置づけてまいりました。

とくに今回は、臨地実習指導体制の将来を見据え、「視能訓練士臨地実習指導者講習会の受講の有無」に関する設問を新たに設けました。臨地実習は、学生にとって専門職としての基盤を築く極めて重要な学びの場であり、その質をいかに担保し、次の世代へ確実につないでいくかは、今後ますます重要な課題になっていくと感じています。本設問は、将来の養成体制や指導者育成の在り方を考えていくための出発点として加えたものです。

また、タスク・シェア/タスク・シフトに関する設問を通じて、視能訓練士の専門性を医療の中でどのように位置づけ、どのように発展させていくべきかを会員の皆様に問いかけたことも、今回の調査の大きな特徴であったと思います。医療を取り巻く環境が大きく変化する中で、視能訓練士に期待される役割は確実に広がっています。現場の声が丁寧にすくい上げられ、教育や制度、職域の在り方に反映されていくことで、視能訓練士の専門性がさらに社会の中で活かされていくことが望ましいと感じています。

さらに、本調査では初めて全面的にインターネット回答方式を採用し、調査手法の面でも大きな転換を図りました。前回調査に比べて回収率の低下という課題はありましたが、会員の皆様の回答方法の実態や今後の調査設計に向けた多くの示唆を得ることができました。次回以降の調査では、会員の皆様がより回答しやすく、より多くの声を反映できる仕組みづくりが求められると考えています。

本実態調査は、協会が一方向的に方向性を示すためのものではなく、会員一人ひとりが自らの立場や将来を見つめ直し、視能訓練士という職業の未来をともに考えていくためのものです。本報告書が、そのきっかけとなり、次の一步を踏み出すための基盤資料となれば幸いです。

最後に、ご多忙の中にもかかわらず本調査にご協力くださった会員の皆様に、心より感謝申し上げます。また、本白書の企画・構成・内容の検討にあたり、多くのご助言とご指導を賜りました南雲幹会長、丸林彩子副会長、池田陽介常務理事、関谷事務局長をはじめ、理事の皆様には深く御礼申し上げます。

白書委員長 米田 剛

視能訓練士実態調査報告書 2025年

発行 公益社団法人 日本視能訓練士協会
代表者 南雲 幹
編集 米田 剛、丸林彩子、池田陽介（白書委員会）
事務局 〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町 1-8-5
新神田ビル 2F
TEL 03-5209-5251
印刷 株式会社山菊
発行日 2026年2月19日



視能訓練士実態調査報告書 2025年

発行 公益社団法人 日本視能訓練士協会
代表者 南雲 幹
編集 米田剛、丸林彩子、池田陽介（白書委員会）
事務局 〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町 1-8-5
新神田ビル2F
TEL 03-5209-5251
印刷 株式会社山菊
発行日 2026年2月19日